

# 2023年度 授業概要【児童教育専攻】

科目コード:13000

科目ナンバリング:PE10A01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教教育論 a(Introduction to Christian Education a)

担当者: 畠山 祥正

## 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:

AL要素: 15課題レポートへの応答。16UNIPAを用いた振り返りと応答、授業への反映。

**授業の概要:** キリスト教教育とは、神様からいただいている賜物(いのち)を生かし、一人ひとりの自発性・創造性を重んじる教育です。そのためにまず、私たちの周りにある諸問題を知り関心を広げてみましょう。周りから「わたし」が見えてきます。遠回りのようですが、人を作るのは先を歩いている人です。

日本の教育は、伝統的に知的内容だけでなく、いかに生きるかという価値観の伝達を内包しています。その基底をキリスト教精神に置いた先人の歩みも学びます。

キリスト教精神については、聖書の人間観や教育学との関わりを概観します。社会と人を学ぶためには、ドキュメンタリー映像や新聞記事を多用します。知り考える「わたし」をめざします。

**キーワード:** キリスト教教育、人間観、いのちの教育、価値教育、平和教育

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** キリスト教教育の理念を理解し、教育の場に活かせる知識を自分なりに整え、技能につなげることができる。

**評価方法:** 毎回の課題提出とまとめのレポート

**評価割合:** 40%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業後に行うノート整理を通して、自発的に思考・判断し、気づいたことを的確に表現することができる。この観点は、「知識・技能」とあわせて評価する。

**評価方法:** 毎回の課題提出とまとめのレポート

**評価割合:** 60%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

発問・回答や振り返り用紙、ミニレポート等への取り組みによって「主体的に取り組む姿勢」を評価します。この観点は、上記2つの観点とあわせて評価します。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発言や記述内容に認められる場合は、上配の項目『思考力・判断力・表現力』の評価対象とすることがあります。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や提出物の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがあります。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特にありません。

**評価割合:** 特にありません。

- 授業計画：** 第1回 ガイダンス  
1 宗教はなぜ必要か  
1) 人はなぜ生きるのか？ なぜ死んではいけないのか？  
第2回 2)キリスト教とは？ ルイス『ライオンと魔女』から学ぶ  
第3回 3)イエスの人間理解 「善いサマリヤ人のたとえ」「放蕩息子のたとえ」
- 第4回 2「わたし」と私たちを取りまく社会を知る  
1)生まれる「いのち」  
第5回 2)日本人の子育ての習俗に見る死生観  
第6回 3)フレーベル 幼少年時代の心の軌跡  
第7回 4)フレーベル 子ども観とキリスト教信仰  
第8回 5)差別の実態に向き合う
- 第9回 3 平和を愛する心 日本と日本を取りまく世界を知る  
1)太平洋戦争とは何だったのか アジアと日本  
第10回 2)一兵士の従軍記録から  
第11回 3)沖縄 祖父の戦争  
第12回 4)原爆 日本とアメリカの見方のちがひ 和解  
第13回 5) アジアの国をどう支援するか？ 故中村哲さんの活動  
第14回 6) やなせたかし「アンパンマン」の秘密  
第15回 これまでの学びを振り返る  
まとめのレポートを提出

**使用テキスト：** プリントを配布します。授業に直接用いるものと参考のものがあります。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 配布された資料を事前に読んで、授業に臨んでください。  
授業後には、配布のプリントを生かし、気づいたことや考えたことも記入して「自分のノート」を作ってください。授業中に気づいたことや思いついたことをメモすることも有益です。  
そのままノートに書き入れる人もいればメモして後で記入する人もいます。関心をもって調べたことがあれば追記します。  
ノートを提出して評価に加えたい人は、授業日程の終盤に提出または写真添付等で提出することができます。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にメールアドレスをお知らせします。

**留意事項：** 受講者の疑問や質問を考慮し、授業計画を変更する場合があります。

---

**科目コード：**13000      **科目ナンバリング：**PE10A01K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**キリスト教教育論 b(Introduction to Christian Education b)

**担当者：** 畠山 祥正

**基本情報**

**年次：**カリキュラム

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**火曜2限

**履修可能学科・専攻：** E Pe C W F M

**関連資格：**

**AL要素：** 15課題レポートへの応答。16UNIPAを用いた振り返りと応答、授業への反映。

**授業の概要：** キリスト教教育とは、神様からいただいている賜物(いのち)を生かし、一人ひとりの自発性・創造性を重んじる教育です。そのためにまず、私たちの周りにある諸問題を知り関心を広げてみましょう。周りから「わたし」が見えてきます。遠回りのようですが、人を作るのは先を歩いている人です。

日本の教育は、伝統的に知的内容だけでなく、いかに生きるかという価値観の伝達を内包

しています。その基底をキリスト教精神に置いた先人の歩みも学びます。

キリスト教精神については、聖書の人間観や教育学との関わりを概観します。社会と人を学ぶためには、ドキュメンタリー映像や新聞記事を多用します。知り考える「わたし」をめざします。

**キーワード：**キリスト教教育、人間観、いのちの教育、価値教育、平和教育

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：**キリスト教教育の理念を理解し、教育の場に活かせる知識を自分なりに整え、技能につなげることができる。

**評価方法：**毎回の課題提出とまとめのレポート **評価割合：40%**

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**授業後に行うノート整理を通して、自発的に思考・判断し、気づいたことを的確に表現することができる。この観点は、「知識・技能」とあわせて評価する。

**評価方法：**毎回の課題提出とまとめのレポート **評価割合：60%**

### ▼学修に主体的に取り組む態度

発問・回答や振り返り用紙、ミニレポート等への取り組みによって「主体的に取り組む姿勢」を評価します。この観点は、上記2つの観点とあわせて評価します。

**評価割合：0%**

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発言や記述内容に認められる場合は、上配の項目『思考力・判断力・表現力』の評価対象とすることがあります。

**評価割合：0%**

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や提出物の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがあります。

**評価割合：0%**

### ▼その他

特にありません。

**評価割合：特にありません。**

**授業計画：** 第1回 ガイダンス

1 宗教はなぜ必要か

1) 人はなぜ生きるのか？ なぜ死んではいけないのか？

第2回 2)キリスト教とは？ ルイス『ライオンと魔女』から学ぶ

第3回 3)イエスの人間理解 「善いサマリヤ人のたとえ」「放蕩息子のたとえ」

第4回 2「わたし」と私たちを取りまく社会を知る

1)生まれる「いのち」

第5回 2)日本人の子育ての習俗に見る死生観

第6回 3)フレーベル 幼少年時代の心の軌跡

第7回 4)フレーベル 子ども観とキリスト教信仰

第8回 5)差別の実態に向き合う

第9回 3 平和を愛する心 日本と日本を取りまく世界を知る

1)太平洋戦争とは何だったのか アジアと日本

第10回 2)一兵士の従軍記録から

第11回 3)沖縄 祖父の戦争

第12回 4)原爆 日本とアメリカの見方のちがひ 和解

第13回 5)アジアの国をどう支援するか？ 故中村哲さんの活動

第14回 6) やなせたかし「アンパンマン」の秘密  
第15回 これまでの学びを振り返る  
まとめのレポートを提出

**使用テキスト:** プリントを配布します。授業に直接用いるものと参考のものがあります。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 配布された資料を事前に読んで、授業に臨んでください。  
授業後には、配布のプリントを生かし、気づいたことや考えたことも記入して「自分のノート」を作ってください。授業中に気づいたことや思いついたことをメモすることも有益です。  
そのままノートに書き入れる人もいればメモして後で記入する人もいます。関心をもって調べたことがあれば追記します。  
ノートを提出して評価に加えたい人は、授業日程の終盤に提出または写真添付等で提出することができます。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にメールアドレスをお知らせします。

**留意事項:** 受講者の疑問や質問を考慮し、授業計画を変更する場合があります。

---

---

科目コード:13002                      科目ナンバリング:PE10C02K                      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育原理 a(Principles of Education a)

担当者: 柳橋 晃

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職 社教 福祉主

AL要素: 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要:** この授業は、教育という営みとは何かという問いについて、様々な角度から問い直すものです。この授業では、教育の歴史、教育を可能/不可能にするメカニズム、教育の目的や理想(あるべき姿)について、太古の時代から現代まで幅広く取り上げ、教育という営みの奥深さと難しさ、そして、その重要性についてじっくり考えてもらいます。また、理論と実践の両方を取り上げ、それを通じて教師という実践者たりうるために必要な思考の技法を学ぶことを目的とします。

なお、この科目は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する科目です。

**キーワード:** 教育思想、教育史、学校、近代教育、公教育、子供中心主義、新教育

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で扱った教育の理念・歴史・思想についておおむね理解し、それに関する問いに中間試験と定期試験で80%解答することができる。

**評価方法:** ・中間試験

**評価割合:** 30%

・定期試験

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った教育の理念・歴史・思想について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、中間試験と定期試験で自らの所見を表現することができる。

評価方法：・中間試験

評価割合：60%

・定期試験

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容及び発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうか、を評価の基準とする。

また、各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容もまた授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

評価割合：10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が中間試験や定期試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やコメントシートの記述、中間試験・定期試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1週 オリエンテーション:これまで受けてきた教育体験を振り返る
  - 第2週 教育は必要か:狼に育てられた子どもの逸話やそれに関連する発達論の検討を通して教育の必要性や社会化の意義を考える(グループディスカッション)
  - 第3週 教育をめぐる思想(1)子どもの固有性の発見:ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの思想を概観し、保護の対象から教育の対象となったその歴史的経緯を学ぶ
  - 第4週 教育をめぐる思想(2)教科書の誕生から一斉授業の成立へ:コメニウス『世界図絵』、産業革命と授業スタイルの変遷
  - 第5週 教育をめぐる思想(3)学校教育の拡大と教育の合理化:ヘルバルトからデューイへ
  - 第6週 日本の学校教育(1)戦前の教育:学制の成立から大正新教育、そして大政翼賛下の教育へ
  - 第7週 日本の学校教育(2)戦後民主主義と教育の展開:教育基本法に見る教育観と人間観
  - 第8週 日本の学校教育(3)現代の教育問題:いじめ・不登校・子どもの権利条約
  - 第9週 学校教育の問い直し(1)不登校という現象とその思想:不登校概念の変遷と実態、オルタナティブスクールの現在
  - 第10週 学校教育の問い直し(2)保護者のクレーム対応:モンスターペアレント問題をどう乗り越えるか(事例検討のグループディスカッション)
  - 第11週 学校教育の問い直し(3)人権と教育:教師として人権問題について対処する際に踏まえる法律や規範
  - 第12週 現代教育の論点(1)SDGs時代の教育:子どもの貧困と教育に関するこれまでとこれから
  - 第13週 現代教育の論点(2)専門職としての教師:ILO・ユネスコ教師の地位勧告から家庭や地域に対する教師の役割について考える
  - 第14週 現代教育の論点(3)実践記録の役割とその注意点:実践記録(幼児教育におけるエピソード記述を含む)を書く際のポイントと個人情報保護等の注意点について考える(グループディスカッション)
  - 第15週 まとめ:理念としての教育の意義

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には、その回のテーマとなっている人名、事項について調べることが望ましい。授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。  
・沼野一男他著『教育の原理』（第四版）学文社、2010年。

参考資料として次の4点を推薦する。  
・汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2013年、3,080円。  
・勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年、1,980円。  
・北村友人ほか『SDGs時代の教育』学文社、2019年、3,300円。  
・田嶋一ほか『やさしい教育原理』（第三版）有斐閣、2016年、1,980円。  
※その他については、適宜紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

**留意事項：** デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード：13002      科目ナンバリング：PE10C02K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育原理 b(Principles of Education b)

担当者：柳橋 晃

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe C W F M

関連資格：教職 社教 福祉主

AL要素：08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要：** この授業は、教育という営みとは何かという問いについて、様々な角度から問い直すものです。この授業では、教育の歴史、教育を可能/不可能にするメカニズム、教育の目的や理想(あるべき姿)について、太古の時代から現代まで幅広く取り上げ、教育という営みの奥深さと難しさ、そして、その重要性についてじっくり考えてもらいます。また、理論と実践の両方を取り上げ、それを通じて教師という実践者たりうるために必要な思考の技法を学ぶことを目的とします。

なお、この科目は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する科目です。

**キーワード：** 教育思想、教育史、学校、近代教育、公教育、子供中心主義、新教育

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で扱った教育の理念・歴史・思想についておおむね理解し、それに関する問いに中間試験と定期試験で80%解答することができる。

**評価方法：** ・中間試験

**評価割合：** 30%

・定期試験

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った教育の理念・歴史・思想について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、中

間試験と定期試験で自らの所見を表現することができる。

**評価方法:**・中間試験

**評価割合:** 60%

・定期試験

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容及び発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうか、を評価の基準とする。

また、各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容もまた授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が中間試験や定期試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やコメントシートの記述、中間試験・定期試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 第1週 オリエンテーション:これまで受けてきた教育体験を振り返る
  - 第2週 教育は必要か:狼に育てられた子どもの逸話やそれに関連する発達論の検討を通して教育の必要性や社会化の意義を考える(グループディスカッション)
  - 第3週 教育をめぐる思想(1)子どもの固有性の発見:ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの思想を概観し、保護の対象から教育の対象となったその歴史的経緯を学ぶ
  - 第4週 教育をめぐる思想(2)教科書の誕生から一斉授業の成立へ:コメニウス『世界図絵』、産業革命と授業スタイルの変遷
  - 第5週 教育をめぐる思想(3)学校教育の拡大と教育の合理化:ヘルバルトからデューイへ
  - 第6週 日本の学校教育(1)戦前の教育:学制の成立から大正新教育、そして大政翼賛下の教育へ
  - 第7週 日本の学校教育(2)戦後民主主義と教育の展開:教育基本法に見る教育観と人間観
  - 第8週 日本の学校教育(3)現代の教育問題:いじめ・不登校・子どもの権利条約
  - 第9週 学校教育の問い直し(1)不登校という現象とその思想:不登校概念の変遷と実態、オルタナティブスクールの現在
  - 第10週 学校教育の問い直し(2)保護者のクレーム対応:モンスターペアレント問題をどう乗り越えるか(事例検討のグループディスカッション)
  - 第11週 学校教育の問い直し(3)人権と教育:教師として人権問題について対処する際に踏まえる法律や規範
  - 第12週 現代教育の論点(1)SDGs時代の教育:子どもの貧困と教育に関するこれまでとこれから
  - 第13週 現代教育の論点(2)専門職としての教師:ILO・ユネスコ教師の地位勧告から家庭や地域に対する教師の役割について考える
  - 第14週 現代教育の論点(3)実践記録の役割とその注意点:実践記録(幼児教育におけるエピソード記述を含む)を書く際のポイントと個人情報保護等の注意点について考える(グループディスカッション)
  - 第15週 まとめ:理念としての教育の意義

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマとなっている人名、事項について調べることが望ましい。  
授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。  
・沼野一男他著『教育の原理』(第四版)学文社、2010年。

参考資料として次の4点を推薦する。  
・汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2013年、3,080円。  
・勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年、1,980円。  
・北村友人ほか『SDGs時代の教育』学文社、2019年、3,300円。  
・田嶋一ほか『やさしい教育原理』(第三版)有斐閣、2016年、1,980円。  
※その他については、適宜紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

**留意事項:** デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード:13004      科目ナンバリング:PE11C01K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育心理学 a(Educational Psychology a)

担当者: 藤原 善美

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

**授業の概要:** 教育心理学の分野は(1)原理・方法、(2)発達、(3)教授・学習、(4)人格、(5)社会、(6)測定・評価、(7)特別支援、(8)思考・認知、(9)臨床、(10)学校心理学のように分類できるが、本講義では主に、原理・方法、発達、教授・学習、社会、測定・評価、思考・認知の領域について、体系的に学習します。なかでも、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、生徒の学習と発達の過程を考慮した指導のための基礎的知見を習得することを目指します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことです。発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えます。

**キーワード:** 発達、教授・学習、社会、測定・評価、思考・認知

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、解答することができる。

**評価方法:** 学期末 筆記試験

**評価割合:** 90%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** 学期末 筆記試験

**評価割合:** 10%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度



直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、倫理的な観点を重視して、学び、応用を考えていくことを常に意識することとする。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)  
第2回：学習(古典的条件づけ)  
第3回：学習(道具的条件づけ)  
第4回：学習(観察学習)  
第5回：学習(自己効力感、自己決定理論)  
第6回：動機づけ(動機づけとは、統制感、原因帰属、学習性無力感)  
第7回：動機づけ(内発的動機づけ、外発的動機づけ)  
第8回：認知・思考・教授(教授法、学習スタイル、メタ認知、主体的な学習)  
第9回：評価測定(絶対評価・相対評価・信頼性と妥当性)  
第10回：学級(教師と生徒の人間関係、生徒同士の人間関係)  
第11回：発達(発達理論、運動と言語の発達)  
第12回：発達(認知の発達)  
第13回：発達(社会性の発達、道徳性の発達)  
第14回：発達(愛着)  
第15回：総括と今後の課題  
定期試験

**使用テキスト：** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
鎌原雅彦、竹綱 誠一郎(著)「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード：13004

科目ナンバリング：PE11C01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育心理学 b(Educational Psychology b)

担当者：藤原 善美

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似

**授業の概要：** 教育心理学の分野は(1)原理・方法、(2)発達、(3)教授・学習、(4)人格、(5)社会、(6)測定・評価、(7)特別支援、(8)思考・認知、(9)臨床、(10)学校心理学のように分類できるが、本講義では主に、原理・方法、発達、教授・学習、社会、測定・評価、思考・認知の領域について、体系的に学習します。なかでも、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、生徒の学習と発達の過程を考慮した指導のための基礎的知見を習得することを目指します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことです。発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えます。

**キーワード：** 発達、教授・学習、社会、測定・評価、思考・認知

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた内容について、解答することができる。

**評価方法：** 学期末 筆記試験

**評価割合：** 90%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法：** 学期末 筆記試験

**評価割合：** 10%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、倫理的な観点を重視して、学び、応用を考えていくことを常に意識することとする。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

- 第1回:オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)
- 第2回:学習(古典的条件づけ)
- 第3回:学習(道具的条件づけ)
- 第4回:学習(観察学習)
- 第5回:学習(自己効力感、自己決定理論)
- 第6回:動機づけ(動機づけとは、統制感、原因帰属、学習性無力感)
- 第7回:動機づけ(内発的動機づけ、外発的動機づけ)
- 第8回:認知・思考・教授(教授法、学習スタイル、メタ認知、主体的な学習)
- 第9回:評価測定(絶対評価・相対評価・信頼性と妥当性)
- 第10回:学級(教師と生徒の人間関係、生徒同士の人間関係)
- 第11回:発達(発達理論、運動と言語の発達)
- 第12回:発達(認知の発達)
- 第13回:発達(社会性の発達、道徳性の発達)
- 第14回:発達(愛着)
- 第15回:総括と今後の課題

## 定期試験

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
鎌原雅彦、竹綱 誠一郎(著)「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード:13009      科目ナンバリング:PE20A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育基礎演習A a(Education Basic Seminar A a)

担当者: 稲野邊 親

### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07 発表

08 協同学修

10 資料調査課題

11 討論

17 発問と回答

**授業の概要:** 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

**キーワード:** 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** (1)今の自分はどんな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

**評価割合:** 20%

#### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象と

することがある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の  
人権侵害、その他いちじるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(こ  
の授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

**評価割合：0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第01回:ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)

第02回:教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)

第03回:今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)

第04回:知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)

第05回:知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけ出す術)

第06回:どのように考えはじめるか ～ マインドマップ ～  
(概要説明を聞いて、各自でやってみる)

第07回:いろんな考えをどうまとめるか ～ KJ法 ～  
(概要説明を聞いて、みんなでやってみる)

第08回:学びの成果をどう伝えるか ～ 学術成果物 ～  
(レポートとは? 論文とは? プレゼンとは? 実践につながる成果とは?)

第09回:すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)

第10回:パクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理 ～  
(著作権法違反、研究不正行為、推敲の不十分さが招く悲劇、故意と過失)

第11回:学びの成果をどのように他者に伝えるか  
(PowerPoint、Keynote、Prezi、紙のフリップや模造紙、その他の方法)

第12回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第13回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第14回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表 ～  
(4クラス選抜チーム)

第15回: 大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト:** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じて知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13009      **科目ナンバリング:** PE20A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育基礎演習A b(Education Basic Seminar A b)

**担当者:** 齋藤 遼太郎

**基本情報**

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜1限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 07 発表  
08 協同学修  
10 資料調査課題  
11 討論  
17 発問と回答

**授業の概要:** 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

**キーワード:** 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** (1)今の自分はどうな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験      **評価割合:** 40%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** (1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験      **評価割合:** 40%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いちじるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(この授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回:ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)

第02回:教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)

第03回:知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけ出す術)

第04回:知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)

第05回:今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)

第06回:どのように考えはじめるか

第07回:いろんな考えをどうまとめるか

第08回:学びの成果をどう伝えるか ～ アカデミック・ライティング～  
(レポートとは? 論文とは? 実践につながる成果とは?)

第09回:すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)

第10回:パクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理～  
(公正な研究と被験者の保護)

第11回:学びの成果をどのように他者に伝えるか ～ プレゼンテーション～

第12回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第13回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第14回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表～  
(4クラス選抜チーム)

第15回: 大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト:** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じて知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** 特になし。

---

---

**科目コード:** 13009      **科目ナンバリング:** PE20A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育基礎演習A c(Education Basic Seminar A c)

**担当者:** 高橋 和将

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜1限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 07 発表  
08 協同学修  
10 資料調査課題  
11 討論  
17 発問と回答

**授業の概要:** 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

**キーワード:** 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** (1)今の自分はどうな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いちじるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(この授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回：ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)

第02回：教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)

第03回：知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけ出す術)

第04回：知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)

第05回：今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)

第06回：どのように考えはじめるか

第07回：いろんな考えをどうまとめるか

第08回：学びの成果をどう伝えるか ～ アカデミック・ライティング～  
(レポートとは？ 論文とは？ 実践につながる成果とは？)

第09回：すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)

第10回：パクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理～  
(公正な研究と被験者の保護)

第11回：学びの成果をどのように他者に伝えるか ～ プレゼンテーション～

第12回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第13回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第14回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表～  
(4クラス選抜チーム)



第15回: 大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト:** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じて知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13009      **科目ナンバリング:** PE20A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育基礎演習A d(Education Basic Seminar A d)

**担当者:** 鈴木 範子

**基本情報**

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜1限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 07.発表  
08.協同学修  
09.実地調査  
10.資料調査課題  
11.討論  
17.発問と回答

**授業の概要:**

児童教育専攻の学生を対象としたキャリア形成のための授業です。主に2つの柱によって授業が構成されています。

1つめの柱は、「キャリアを知り、考える活動」です。本学卒業生の現役社会人のインタビュー録画映像を視聴し、職業や「働くこと」について学びます。また、自身がその職業に就くことを想定し、自身が向いている点や鍛えるべき点などを個人やグループで検討します。

2つめの柱は、「キャリアについて調べ、発表する活動」です。グループで現役社会人を取材する計画を立案し、実際に取材します。その内容は、グループ内で協力し分かりやすく丁寧を旨とする発表を行います。

全体として、自身がどの様にキャリアを形成するのか、機会を得、様々な活動を通してキャリア形成に必要とされる「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の実現を図ります。

**キーワード:** 働く、職業、職場環境、人間関係、社会、自己理解、自己管理能力、課題対応能力、ワークライフ バランス、やりがい・生きがい、キャリア

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** 「本学卒業生の社会人へのインタビュー」について、インタビュー内容の詳細に亘る事柄を概ね80%聞き取り・項目毎に整理し書き取り、解答することができる。

評価方法： 単元毎の課題提出

評価割合： 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**「授業で取り扱うインタビュー内容」の書き取りや意見交換及び調査・準備そして自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らとグループでの所見を表現・発表することができる。

評価方法： グループ毎の調査・発表

評価割合： 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、グループでの取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や書き取り等の記述・板書及びグループでの取材の調査・発表において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

#### ▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 第1回： オリエンテーション
  - 第2回： 「本学卒業生の社会人へのインタビュー」視聴①(公立小学校教諭)
  - 第3回： インタビュー①(公立小学校教諭)に関する検討・意見交換
  - 第4回： 「本学卒業生の社会人へのインタビュー」視聴②(一般企業)
  - 第5回： インタビュー②(一般企業)に関する検討・意見交換
  - 第6回： キャリアに関する調査準備①： 調査対象選定
  - 第7回： キャリアに関する調査準備②： 調査計画立案
  - 第8回： 「本学卒業生の社会人へのインタビュー」視聴③(公務員)
  - 第9回： インタビュー③(公務員)に関する検討・意見交換
  - 第10回： 取材・キャリアに関する調査の発表準備①： 構想
  - 第11回： 取材・キャリアに関する調査の発表準備②： 作成
  - 第12回： 取材・キャリアに関する調査の発表準備③： リハーサル
  - 第13回： 取材・キャリアに関する調査・発表①： 前半
  - 第14回： 取材・キャリアに関する調査・発表②： 後半
  - 第15回： ふり返りとまとめ

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は、掲示・配付します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 「本学卒業生の社会人へのインタビュー」視聴及び取材という現実の現場を通し「働く」ことの意味を深め、さらに統計資料、統計解析の集大成である白書で自主学修を通じ多面的な知見を深めることが望ましい。参考資料として次の白書を推薦します。

『厚生労働白書』 厚生労働省 日経印刷 3402円(毎年10月頃に最新版発行)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項：** 一連の流れによる授業展開故に、全ての回の出席を旨とします。DVDでの「本学卒業生の社会人へのインタビュー」の視聴をやむを得ず欠席の際は、担当者と協議の上、別途視聴の時間を確保して下さい。  
取材等の学外内容も含みます。グループ内及び取材対象との日程調整、敬意を持った取材姿勢、行き帰りの際の安全を心掛けて、課題を完遂して下さい。

---

科目コード：13009      科目ナンバリング：PE20A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育基礎演習A e(Education Basic Seminar A e)

担当者：藤原 善美

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07 発表

08 協同学修

10 資料調査課題

11 討論

17 発問と回答

**授業の概要：** 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

**キーワード：** 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** (1)今の自分はどんな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

**評価方法：** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合：** 40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** (1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

**評価方法：** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合：** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

**評価割合：** 20%

##### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いじわるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(この授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

**評価割合：** 0%

## ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第01回：ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)

第02回：教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)

第03回：知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけ出す術)

第04回：知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)

第05回：今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)

第06回：どのように考えはじめるか

第07回：いろいろな考えをどうまとめるか

第08回：学びの成果をどう伝えるか ～ アカデミック・ライティング～  
(レポートとは？ 論文とは？ 実践につながる成果とは？)

第09回：すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)

第10回：パクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理～  
(公正な研究と被験者の保護)

第11回：学びの成果をどのように他者に伝えるか ～ プレゼンテーション～

第12回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第13回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第14回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表～  
(4クラス選抜チーム)

第15回：大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト：** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい

さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** 特になし。

---

科目コード:13009      科目ナンバリング:PE20A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育基礎演習A f(Education Basic Seminar A f)

担当者: 三橋 翔太

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07 発表

08 協同学修

10 資料調査課題

11 討論

17 発問と回答

**授業の概要:** 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

**キーワード:** 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** (1)今の自分はどんな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

**評価方法:** 毎時課題および学期末レポート試験

**評価割合:** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

**評価割合:** 20%

##### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いじわるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(この授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：**特になし

- 授業計画：** 第01回:ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)
- 第02回:教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)
- 第03回:知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけだす術)
- 第04回:知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)
- 第05回:今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)
- 第06回:どのように考えはじめるか
- 第07回:いろんな考えをどうまとめるか
- 第08回:学びの成果をどう伝えるか ～ アカデミック・ライティング～  
(レポートとは? 論文とは? 実践につながる成果とは?)
- 第09回:すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)
- 第10回:バクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理 ～  
(公正な研究と被験者の保護)
- 第11回:学びの成果をどのように他者に伝えるか ～ プレゼンテーション～
- 第12回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)
- 第13回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)
- 第14回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表 ～  
(4クラス選抜チーム)
- 第15回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト：** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

---

---

科目コード：13009      科目ナンバリング：PE20A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育基礎演習A g(Education Basic Seminar A g)

担当者：柳橋 晃

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07 発表

08 協同学修

10 資料調査課題

11 討論

17 発問と回答

授業の概要： 児童教育専攻の学生が本学で学修を進めてゆくための基礎となる事項を演習形式で身につけます。

キーワード： 学びの動機や目的、自己理解、調査・分析・思考・発表のあり方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：(1)今の自分とはどんな力をもっているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(2)教員の卵に何が期待されているかについて客観的な知識を有し、説明することができる。  
(3)課題解決に向けて未知の事柄を自分で調査し、新たな知識を獲得してゆく技能を有する。

評価方法： 毎時課題および学期末レポート試験

評価割合：40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：(1)調査によって得られた新たな知識について、客観的に分析したり思考したりできる。  
(2)上記の分析や思考の結果に基づき、自身の主張を決する判断ができる。  
(3)上記の思考・判断を、他者に対してわかりやすく表現し、伝えることができる。

評価方法： 毎時課題および学期末レポート試験

評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

事前・事後学修に基づく質疑応答や意見表明等を通じて、学修に主体的に取り組む態度を示すことができる。(履修者相互の評価、担当教員による評価の2点を実施します)

評価割合：20%

##### ▼実践的ボランティア

この授業の履修と並行し、さまざまなボランティア活動に従事することが望ましいが、直接的な評価対象とはしない。ただしそれらの活動により他項目に示す能力の向上が認められる場合は、当該項目の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の人権侵害、その他いじわるしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(この授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第01回:ここに集ったのはどんな人々か  
(オリエンテーション、アイスブレイク)

第02回:教員の卵に何が期待されてきたか  
(学びの目的論、大学における教養と専門、総合大学における教員養成開放性原則)

第03回:知識をどう得るか ～ 紙資料、ICT、フィールドワーク、質問紙調査等 ～  
(情報の荒波から良質の資料を見つけ出す術)

第04回:知識をどう得るか ～ 図書館の使い方 ～  
(図書館ガイダンス)

第05回:今の自分はどんな力をもっているか  
(キャリア支援ガイダンス・EQテスト)

第06回:どのように考えはじめるか

第07回:いろんな考えをどうまとめるか

第08回:学びの成果をどう伝えるか ～ アカデミック・ライティング～  
(レポートとは? 論文とは? 実践につながる成果とは?)

第09回:すぐれた学術成果とはどんなものか  
(事例にみる論理的思考、型、構成(序論・本論・結論)、貢献性)

第10回:バクっていいか、でっち上げていいか、間違ってもいいか ～ 研究倫理 ～  
(公正な研究と被験者の保護)

第11回:学びの成果をどのように他者に伝えるか ～ プレゼンテーション～

第12回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか① ～ 準備 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第13回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか② ～ クラス内発表・選抜 ～  
(1クラス3チーム編成、テーマ自由、リレー方式)

第14回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか③ ～ 全体発表 ～  
(4クラス選抜チーム)

第15回:大学生が、大学生に、大学らしい授業を提供できるか④ ～ 全体発表の続きとまとめ ～  
(3クラス選抜チーム)

**使用テキスト:** 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。



留意事項： デバイスの持参を推奨します。

---

---

科目コード：13012      科目ナンバリング：PE20G20K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育史(History of Education)

担当者：柳橋 晃

#### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：08 協同学修  
10 資料調査課題  
11 討論  
16 振り返り用紙と応答  
17 発問と回答

**授業の概要：** 本講義は、現代の教育がどのような歴史的変遷の中で成立してきたのかを考察するものです。教育に関する主要トピックの歴史的変遷を追うことによって、自らの教育観に反省を加え、より善い教育を創造するための材料を手に入れます。とりわけ、子どもや教育にまつわる文化の変容に注目してみます。なお、受講生の関心も取り入れたいと思います。

**キーワード：** 教育史、教育思想、教育という眼差し、遊び、絵本、祭り、私学、哲学館事件、子どもの権利、子どもの尊厳、教育基本法、校則、教職倫理、専門職

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業内で扱った教育の歴史に関する内容を概ね80%理解し、それを授業内で課すレポートにまとめることができる。

**評価方法：** ・授業内小課題レポート

**評価割合：** 30%

・学期末レポート

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業内で扱った内容について、論理的に、かつ、オリジナリティのある形で、自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 授業内小課題レポート

**評価割合：** 50%

・学期末レポート

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容、及び、発言回数をもとに授業への参加点を評価する。

授業内容に基づいて発言できているか、また、自分なりに考察を深めた上での発言であるか、を評価基準とする。

また、各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容も授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕き、自分自身の言葉で理解できているかを評価の基準とする。

**評価割合：** 20%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が小課題のレポートや学期末レポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1週	オリエンテーション
	第2週	教育という眼差しの発生と展開
	第3週	教育と身体文化
	第4週	主体性に纏わる歴史的考察
	第5週	子どもの遊びと遊び文化(1)
	第6週	子どもの遊びと遊び文化(2)
	第7週	絵本の歴史-まんが、教科書を含む-(1)
	第8週	絵本の歴史-まんが、教科書を含む-(2)
	第9週	教具の歴史
	第10週	学歴社会の発生と展開
	第11週	日本における私学の意義-学校経営の歴史、及び、国公立学校との相違-(1)
	第12週	日本における私学の意義-学校経営の歴史、及び、国公立学校との相違-(2)
	第13週	子どもの権利と尊厳-校則や学校にまつわる法と規則を意識しながら-
	第14週	名づけることに纏わる歴史的考察
	第15週	教職倫理と教職の専門職化-保育士を含む-

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマとなっている人名・事項について調べることが望ましい。授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。参考資料として以下の5点を推薦する。また、絵本関連の著作は、授業内で紹介する。

- ・金森修『科学の危機』集英社、2015年。
- ・村井実『教育思想』(上巻・下巻)東洋館出版社、1993年。
- ・住田正樹、鈴木晶子編著『教育文化論—人間の発達・変容と文化環境』放送大学教育振興会、2005年。
- ・荘司雅子『フレール研究』玉川大学出版部、1984年。
- ・ヤマザキマリ他『別冊NHK100分de名著 果てしなき石ノ森章太郎』NHK出版、2021年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード：13015      科目ナンバリング：PE20C01K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育行政学(Public Administration in Education)

担当者：池内 耕作

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職 社教

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造、その法的・制度的仕組みに関する基

礎的知識、そこに内在する課題について解説します。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について取り組み事例を踏まえて紹介し、あわせて学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて学校安全の目的と具体的な取組について解説していきます。

**キーワード：** 教育諸条件の整備、公教育制度、文部科学省、教育委員会、教育行財政

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた教育行政に関わる社会的・制度的事項等について、概ね 80%の事項を暗記し、解答することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります) **評価割合：** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った教育行政に関わる課題について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります) **評価割合：** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回:教育行政学とはどんな学問か(授業概要説明含む)  
第2回:公教育の原理及び理念  
第3回:公教育制度を構成する教育関係法規:教育基本法と学校教育法  
第4回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み1:中央教育行政組織(各国と日本)  
第5回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み2:地方教育行政組織(各国と日本)  
第6回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み3:教育行政のあり方(日本)  
第7回:公教育制度をめぐる諸課題  
第8回:諸外国の教育行政改革(英・米)  
第9回:諸外国の教育行政改革(仏・独)  
第10回:諸外国の教育行政改革(中・韓)  
第11回:地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法  
第12回:地域との連携に基づく開かれた学校作り  
第13回:学校の危機管理と学校安全の必要性  
第14回:新たな安全上の課題と安全管理  
第15回:安全教育

## 定期試験

**使用テキスト:** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。参考資料として次の2点を推薦する。

『教育学基礎資料 第6版』新井郁男ほか編著、樹村房、1,512円  
『文部科学白書』文部科学省、日経印刷、2,100円(毎年7月頃に最新版が発行されることに留意すること)  
また、関係省庁等から公表される最新の教育関係法令、中央教育審議会の答申などに可能な限り目を通すこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 教育行政学は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。(特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育行政学を受講しても要件を満たさないので注意すること)

---

科目コード:13017      科目ナンバリング:PE10C07K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育統計学(Educational Statistics)

担当者:稲野邊 親

### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素:

16. 振り返りと応答

**授業の概要:** 学校現場において児童生徒の実態を各種調査やアンケート等から把握していくことは重要である。また、教育論文等においては、統計的に処理されたデータをもとに分析がなされ結論づけられることが多い。そのような場合に統計に関する資質・能力が欠如していると、児童生徒のもつ課題を解決していくことや、教育論文においては、提示された結論に対する的確な判断ができない。

そこで、本授業では統計的結論の解釈を中心に、教育統計における基礎・基本を学ぶ。そのための基礎として、小学校から高校で学んだ統計の内容が必要であるが、前半の授業において、これらの知識を初歩の初歩から解説する。なお、使用テキストは10回目の講義まで使用するので履修登録後に準備しておくこと。必要に応じて各自のノートパソコンを使用する場合がある。使用する場合は事前に連絡をする。

**キーワード:** 教育学、統計学

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 教育統計における用語や概念について説明することができ(知識)、与えられたデータから基本統計量を求めたり、  
グラフを作成することができる(技能)

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

ワークシート

発表

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**基本統計量やグラフなどを分析して結論を出すことができる。また、統計的な処理及び分析により得られた結論を教育活動(学習活動)に生かしていくことができる。

**評価方法：**レポート

**評価割合：40%**

ワークシート

発表

### ▼学修に主体的に取り組む態度

統計学は問題解決に用いられる。学修内容を現実の世界の問題解決に積極的に用いようとする態度がレポート及び授業中の発言等から認められる場合は、評価対象とする。

**評価割合：10%**

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別的発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象となる。

**評価割合：0%**

### ▼その他

特記事項なし

**評価割合：特記事項なし**

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーション、代表値、ヒストグラムを読む
  - 第2回：四分位数と箱ひげ図
  - 第3回：分散と標準偏差、散布図と相関係数
  - 第4回：2種類のデータ間の関係を読む
  - 第5回：Excelを使つての分散・標準偏差等
  - 第6回：Excelを使つての散布図や相関係数
  - 第7回：Excelを使つて児童生徒の学力と生活状況の相関等を調べる
  - 第8回：推定と検定・順列
  - 第9回：順列・組み合わせ
  - 第10回：確率・確率分布・期待値
  - 第11回：全国学力・学習状況調査の問題を解き、県の子どもたちの学力の傾向を読む
  - 第12回：学習指導要領における「データの活用」を調べる(小学校低学年)
  - 第13回：学習指導要領における「データの活用」を調べる(小学校低学年)
  - 第14回：学習指導要領における「データの活用」を調べる(中学校)
  - 第15回：学習指導要領における「データの活用」の系統性を調べる(小学校～中学校)

**使用テキスト：**『データ分析と統計的な推測が1冊でしっかりわかる本』(佐々木隆宏, かんき出版)

**予習・復習のポイントと** 教科書の該当する場所をよく読み、実際に操作してみること。

**参考文献・資料等：**

**障がいのある** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。  
**履修者への対応：**

**授業時間外の連絡手段：** 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** この授業では算数や数学に苦手意識を持っている人でも受講可能です。簡単な四則演算以外の計算は少ないです。

---

科目コード：13019

科目ナンバリング：PE20G21K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：学習心理学(Psychology of Learning)

---

担当者：藤原 善美

## 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：日本語

AL要素：実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

**授業の概要：** 学習心理学とは、学習(経験を通して行動を変容させていく過程)を研究する心理学の領域のひとつであり、学習心理学の基礎的な内容について体系的に学習します。心理学でいう「学習」とは、勉強ということだけではなく、ピアノを弾く、パソコンのスキルを覚える、非行にはしる、など善悪の価値観に関わらず、行動の変容のことを示しています。担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、生徒の「学習」の過程を考慮した指導のための基礎的知見を習得することを目指します。経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えます。

**キーワード：** 学習、条件づけ、思考・認知

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた内容について、解答することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 60%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、倫理的な観点を重視して、学び、応用を考えていくことを常に意識することとする。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)  
第2回：学習(古典的条件づけ)  
第3回：古典的条件づけの応用  
第4回：学習(道具的条件づけ)  
第5回：道具的条件づけの応用  
第6回：学習(観察学習)  
第7回：観察学習の応用  
第8回：学習(自己効力感、自己決定理論)  
第9回：動機づけ(動機づけとは、統制感、原因帰属、学習性無力感)

- 第10回:動機づけ(内発的動機づけ、外発的動機づけ)
- 第11回:認知・思考(学習スタイル、メタ認知)
- 第12回:記憶・言語
- 第13回:問題解決
- 第14回:脳と学習
- 第15回:総括と今後の課題

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
鎌原雅彦、竹綱 誠一郎(著)「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

**科目コード:** 13027      **科目ナンバリング:** PE40C01K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育相談実践(School Counseling Practice)

**担当者:** 藤原 善美

#### 基本情報

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜2限

**履修可能学科・専攻:** Pe Pc

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

**授業の概要:** 学校カウンセリング(教育相談)はかなり難しく奥の深いものですが、それによって児童・生徒は救われ、大きく成長することがあります。この授業では、学校カウンセリング(教育相談)に関して、具体的な実践方法や事例を取り上げます。児童・生徒の不応答や問題行動の背景にある心理的要因を、主要なカウンセリング理論で理解する機会を提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、教師によるカウンセリングマインドをもった効果的な対応のあり方を学んでいきます。授業では、グループによる実習として、アセスメントや基本的なカウンセリングの技法を実践し、教育現場で応用できることを目指します。

**キーワード:** カウンセリング・マインド、連携、チーム学校、心理療法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 60%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合：0%

#### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合：10%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)、教師によるカウンセリングマインド  
第2回：校内での協力体制と専門機関との連携：校内での役割の違い、各専門機関の特徴など  
第3回：学校カウンセリングにおける心理療法(1)来談者中心療法、短期療法  
第4回：学校カウンセリングにおける心理療法(2)精神分析、交流分析  
第5回：学校カウンセリングにおける心理療法(3)行動療法、認知行動療法、マインドフルネス  
第6回：学校カウンセリングにおける心理療法(4)森田療法  
第7回：子どもの状態把握、心理アセスメントの方法と実践  
第8回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(1)児童虐待  
第9回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(2)危機介入とPTSD  
第10回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(3)学業困難  
第11回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(4)精神障害  
第12回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(5)いじめ、不登校  
第13回：子どもたち同士の理解を深める方法(1)構成的グループエンカウンター  
第14回：子どもたち同士の理解を深める方法(2)アサーティブ・コミュニケーション  
第15回：保護者との相談(保護者との相談の基本、家族発達など)  
レポート提出

**使用テキスト：** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード：13028

科目ナンバリング：PE11C02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童文化I(Elementary Student Culture I)

担当者：宮崎 麻子

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：社教

AL要素：17.発問と回答

**授業の概要：**「児童文化」とは何か、そのことばの概念や歴史、児童文化がもたらす意義などを学ぶ。また



絵本・児童文学などの作品を具体的に考察して、子ども文化に親しみ、その特性とは何かについて学ぶ。  
その上で、子どもをとりまく社会・文化の状況や内包する問題を検討して、子どもがすこやかに主体的に育つことへの知見を深めてゆく。

**キーワード：** 児童文学、絵本、昔話、わらべうた、童謡、唱歌、あそびうた、アニメーション、子ども観

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1) 子どもが会う児童文化財(絵本・童謡・遊び・児童文学)を鑑賞・再体験することができる。  
2) 児童文化のゆたかな世界への理解を深めると共に、保育者としての感性を磨き、想像力を養うことができる。

**評価方法：** 授業態度とリアクションペーパー

**評価割合：** 60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**

「文化」の視点から子どもと社会(世界)とのかかわりを探り、時代が子どもにどのようなまなざしを向けているか理解して、説明できるようになる。

**評価方法：** 学期末の課題執筆

**評価割合：** 40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

講義形式ではあるが、小課題の執筆と発表、製作なども行う。  
絵本の読み聞かせや遊び歌などでは、実技を行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められる。上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題執筆等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：**

1. オリエンテーション／「児童文化」とは何か
2. 絵本\_1)／ブックスタートと赤ちゃん絵本
3. 絵本\_2)／物語と読書・レオ・レオニの作品
4. 絵本\_3)／表現の広がり・老いや死をテーマにした絵本
5. 絵本\_4)／バリアフリー絵本
6. 昔話と子どもの成長
7. 子どもの歌／わらべうた・日本の童謡史
8. 児童文学／児童文学入門・物語の魅力
9. 児童文学／英米の作品\_1)ピーターラビットとポター『ミスポター』鑑賞
10. 児童文学／英米の作品\_2)ポター振り返りとイギリス児童文学
11. 児童文学／英米の作品\_3)くまのプーさんとミルン
12. 児童文学／日本の作品\_1)『ぼくのお姉さん』を読む
13. 児童文学／日本の作品\_2)つながる世界と児童文学の特質

14. 子どもと現代／ショーン・タン・ヨシタケシンスケ
15. まとめ／「児童文化」のあした

**使用テキスト：** 授業内で適宜プリントを配布

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には、絵本や昔話、児童文学の作品をなるべくたくさん読むことが望ましい。  
授業後は、授業資料等を復習して知識の定着をはかるとともに、関連作品を通読・鑑賞して所見メモ等を作成することが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回の授業にてお知らせする。

**留意事項：** 【2023年度入学生】【2022年度以前の入学生】  
・可能ならデバイスを持参すること(必携ではない)  
→初回にデバイスの扱いについて、説明する予定。

---

科目コード：13029      科目ナンバリング：PE12C02K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童文化II(Elementary Student Culture II)

担当者：塩谷 亮

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：社教

AL要素：07. 発表

08. 協同学修

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

18. その他

**授業の概要：** この授業では朗読や簡単な演技を体験しながら、リラックスした「遊び」感覚で、人前でしゃべることなどの自己表現や、共同作業のコミュニケーションの技術を習得します(後半、絵本をもとに小さなパフォーマンスをグループで創作、表現感覚を磨きます)。

発声トレーニング、身体コントロール、声の表現も行います。

過去の履修者からは「アルバイトに応用できた」「就活面接の役に立った」「人前で話すことに少し抵抗がなくなった」「協力して成し遂げることを学んだ」などの感想がありました。

なお、演劇や演技について全く知らなくても、自己表現が苦手でも、大丈夫です。各人に合わせて丁寧に指導いたします。

(私は、茨城県水戸市の公共施設である『水戸芸術館』の専属俳優です。1992年に入団以来、舞台出演をメインに、教育・普及活動[訪問公演やワークショップなど]にも力を入れています。30年以上の舞台経験をもとに、演劇の手法を使い、日常生活や教育現場などで役に立つ表現方法を伝えたいと思っています。

プロフィール→ <https://www.arttowermito.or.jp/theatre/acm/>)

**キーワード：** 伝える、ボイストレーニング、表現、プレゼンテーション、演劇、朗読劇、パフォーマンス

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で学んだ内容を、実生活で活用し、その見解と発展について、期末に提出の最終レポートに、指定された書式・マナー(引用など)を踏まえ記述することができる(独自性があることを期待します)。

**評価方法:** 期末のレポート提出

**評価割合:** 40%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 毎回の振り返りのレポートに当日の授業内容・自身の実感を記入し、次回への連想・発想をすることができる。

**評価方法:** 毎回、授業の終わりに振り返りのレポートを記入し、提出していただきます。

**評価割合:** 40%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

表現力をアップさせるための授業なので、積極的な態度を高評価する。

**評価割合:** 20%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:オリエンテーション／自己紹介  
第2回:朗読をやってみよう～表現の基本(1)  
第3回:発声のトレーニング～表現の基本(2)  
第4回:音声表現の基本テクニック～表現の基本(3)  
第5回:なんでもプレゼンテーション～一人で表現する強さを持つ  
第6回:パフォーマンスの実際  
第7回:「前説(まえせつ)」をしてみよう～観客との交流  
第8回:絵本を持ち寄り寄る&作品の決定～上手な話し合いとは(1)  
第9回:キャストイングと方向性の確認～上手な話し合いとは(2)  
第10回:小作品づくり(1)  
第11回:小作品づくり(2)  
第12回:小作品づくり(3)  
第13回:小作品づくり(4)  
第14回:作品発表  
第15回:ふりかえり、表現教育について

※履修者の人数次第で多少の変更があります。

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと** 予習:授業の前日までに、当日の内容についてリサーチする(1時間程度)。

**参考文献・資料等:** 復習:授業内容を当日中に振り返る(1時間程度)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 履修登録者に私のメールアドレスを通知いたします。

**留意事項:** 動きやすい服装(ジャージなどでなくてもよい)、上靴、飲み物(喉を潤すため)、ハンカチ等(汗拭き)をご用意ください。

---

**科目コード:** 13030

**科目ナンバリング:** PE11C03K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 言語教育I(Language Education I)

**担当者:** 渡邊 洋子

---

## 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 日本語

AL要素：02模擬実践

07発表

08共同学修

10資料調査課題

11討論

**授業の概要：** ○授業は実践的な内容で進められます。  
○義務教育課程で必要な「発表」、「話すこと・聞くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。  
○「言語教育Ⅰ」は、特に口頭での発表を取り上げます。  
なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力のついていく模擬実践、発表練習のあり方、共同学修、討論の仕方をともに探究していく授業となります。

**キーワード：** 発表、群読、韻文、散文、グループディスカッション、仲間から学ぶ。

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 聴き手に伝わる「発表」、「話すこと」、「聞くこと」、「群読」をするために必要な要素を理解している。

例 声の抑揚、内容の取り出し方、まとめ方、その時の思いを伝えることの重要性等。  
また、発表内容(韻文や散文)の的確な理解と解釈がなされること。

**評価方法：** ○授業・発表準備の姿勢

**評価割合：** 30%

○授業・発表時の態度

○発表内容

○発表へのコメント

○リアクションペーパー

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ○師範発表や、アドバイスの、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り比較することにより、自分の発表の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。

○師範発表や、アドバイスの、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り、比較することにより、聴き手に伝わる発表をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の発表の変化を適切に評価することができ、自分の発表の質の変化を言葉で表現することができる。

**評価方法：** ○授業・発表準備の姿勢

**評価割合：** 70%

○授業・発表時の態度

○発表内容

○発表へのコメント

○リアクションペーパー

### ▼学修に主体的に取り組む態度

○より良い発表のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に発表が上達している。

○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちがより良い発表の仕方を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、上達の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。

**評価割合：** 授業・発表の準備や練習、発表の状況などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力

### ▼実践的ボランティア

○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。

○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び

合っている。

**評価割合：**授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・

▼公正性

義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。

**評価割合：**授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・

▼その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

- 授業計画：**
- 第01回 ガイダンス・好きな言葉を紹介しよう①準備・発表練習
  - 第02回好きな言葉を紹介しよう②グループ内で発表 発表内容を磨こう。
  - 第03回好きな言葉を紹介しよう③発表しよう。群読に挑戦しよう①グループ決め・練習しよう。
  - 第04回 群読に挑戦しよう②発表しよう。
  - 第05回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界①～ 概要説明・資料づくり・発表練習
  - 第06回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界②～ 発表1番～5番
  - 第07回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界③～ 発表6番～10番
  - 第08回 韻文を紹介しよう～詩①～ 概要説明・資料づくり・発表練習
  - 第09回 韻文を紹介しよう～詩②～ 発表1番～5番
  - 第10回 韻文を紹介しよう～詩③～ 発表6番～10番
  - 第11回 散文を紹介しよう① 概要説明・資料づくり・発表練習
  - 第12回 散文を紹介しよう② 発表1番～5番
  - 第13回 散文を紹介しよう③ 発表6番～10番
  - 第14回 グループディスカッションをしよう① 概要説明・準備
  - 第15回 グループディスカッションをしよう② 振り返り 全体のまとめ

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- 授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。作品選び、資料の準備、発表の練習、グループでの打ち合わせ、振り返り等を行ってください。
  - 中学校・高等学校で使用した『国語便覧』等がありましたら、第5回～第13回までご持参ください。
  - 『群読をつくる』 家本芳郎 高文研

**障がいのある履修者への対応：** 履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。

- 留意事項：**
- 教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっていきます。「前に立って発表するのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。
  - 受講人数や学年、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。

---

科目コード：13031

科目ナンバリング：PE12C03K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：言語教育II(Language Education II)

担当者：渡邊 洋子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 日本語

AL要素：02模擬実践  
07発表  
08共同学修  
10資料調査課題  
18文章表現

**授業の概要：** ○【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業(同時双方向型)  
○【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業  
で行います。  
○授業は実践的な内容で進められます。  
○義務教育課程で必要な「文章表現」、「書くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。  
○「言語教育Ⅱ」は、特に文章での表現活動を取り上げます。  
なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力がついていく模擬実践、文章表現指導のあり方、共同学修の方法を探究していきます。また、書くことを厭わない学び手を育てるためにはどうしたらよいかをともに検討していく授業を行います。

**キーワード：** 文章表現指導、描写表現指導、登場人物の性格を考える、「会話」、シナリオ制作、仲間から学ぶ。

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 読み手に伝わる「文章」、「シナリオ」、「絵本」を作成するために必要な要素を理解している。  
例 「は」と「が」の違い、「自然描写」「情景描写」「心情描写」「心理描写」等の違い、「会話」の役割、「登場人物の性格づけ」等の知識理解。  
また、「シナリオ」作成のための知識理解。

**評価方法：** ○講義内容の理解度 **評価割合：30%**  
○授業や文章表現への準備の姿勢  
○書いた文章の内容  
○仲間の文章へのコメント  
○リアクションペーパー

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、自分の文章の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。  
○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、読み手に伝わる文章表現をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の文章の変化を適切に評価することができ、自分の文章の質の変化を言葉で表現することができる。  
○書くことを厭わない文章表現指導の方法を検討することができる。

**評価方法：** ○書いた文章に講義内容がどれだけ反映 **評価割合：70%**  
されているか。  
○視点・観点に基づいた文章表現の練習  
が効果的に進められているか。  
○書かれた文章内容  
○仲間の文章へのコメント  
○リアクションペーパー

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

○より良い文章表現のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に書いた文章の質が向上している。  
○サンプルや仲間の文章から積極的に学び取り、自分の作品に効果的に反映させている。  
○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちが書くことを厭わず、しかも書く力を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、質の向上の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。

評価割合：授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

#### ▼実践的ボランティア

○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。

○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び合っている。

評価割合：授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

#### ▼公正性

義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。

評価割合：授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第01回 ガイダンス・「は」と「が」の違いを考えよう。
  - 第02回 一枚の絵からストーリーを創ろう① サンプルを読みながら書き方を学び、絵を選ぶ。
  - 第03回 一枚の絵からストーリーを創ろう② 実際に書いてみよう。
  - 第04回 一枚の絵からストーリーを創ろう③ 仲間の作品から学び合おう。
  - 第05回 シナリオを書こう① サンプルを読みながら書き方を学び、書きたいテーマや内容を考えよう。
  - 第06回 シナリオを書こう② 構想を練ろう。
  - 第07回 シナリオを書こう③ あらすじ・下書き・意見交換をしよう。
  - 第08回 シナリオを書こう④ 照明・音・背景等も書き込もう。
  - 第09回 シナリオを書こう⑤ 仕上げをしよう。
  - 第10回 シナリオを書こう⑥ 仲間の作品から学び合おう。
  - 第11回 絵本を創ろう① サンプルから学び、世界に一冊の本としてテーマや内容を考えよう。
  - 第12回 絵本を創ろう② 構想を練ろう。
  - 第13回 絵本を創ろう③ 「説明と描写」・「オノマトペ」・「会話」・「人物の性格」などを工夫しながら一冊の絵本にまとめよう。
  - 第14回 絵本を創ろう④ 仕上げをしよう。
  - 第15回 絵本を創ろう⑤ 仲間の作品から学び合おう。全体のまとめ

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ○授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。テーマ選び、内容の精選、書き進め、振り返り等を行ってください。

**障がいのある履修者への対応：** 履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。

**留意事項：** ○教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっていきます。「書くのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。  
○受講人数や学年など、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。

---

科目コード：13035

科目ナンバリング：PE10C09K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学教育(Natural Science Education)

担当者：飯田 利明

## 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職

AL要素：オンライン授業に慣れる

**授業の概要：** 小学校の「理科」の時間では、植物を育てて観察し、さらにその植物をめぐる他の生き物の相互関係を観察するというのが、当たり前に行なわれている。水辺の「ビオトープ」さえも、学内に普通にある時代だ。

だが、子供達を含めて、自然に親しむ機会を持っていないのも事実だ。

そのために主に三つに焦点を絞りたい。

まずは各自が育てやすい生き物を自分で育てながら、その観察を行う。理科の時間の「小学生と先生」になったつもりで、実際にやってみたい。理科=自然科学では、まずは現場で自分でやってみることが最初に大切なことだ。たとえ失敗したとしても良い、この栽培と観察に取組めば、後々「理科」を担当する時に役立つと考える。

全体の広がりを持った観点から、茨城の自然の特性とそここの生き物の生活も説明したい。自然と向き合うのには、安全性や生物の特徴やその名前の決め方などの最低限の知識も必要なので、後で役立つように、わかりやすく説明したい。

「自然体験型教育」である「森のようちえん」などのやり方を事例に基づいて紹介したい。幼児期から自然に親しむことが自然科学の第一歩であり、それ無くして理科=自然科学は成り立たない。また「自然体験型教育」は、現代で少なくなってきた人と人との関係性の成長をも促すと考えます。

**キーワード：** 自然観察、栽培、自然体験型教育、茨城の自然、安全性

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 教員となって理科を担当する時に、最低限必要とされる基本的な知識だけでなく、その知識を得る「方法」を知る。

**評価方法：** 期末レポート

**評価割合：** 30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 自然科学的な観察、判断等を行い、それを子ども達に教えられるようになる。

**評価方法：** 期末レポートを含む

**評価割合：** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

自分で蒔いた植物を、積極的に育てて観察する。昆虫などを含めた身の回りの自然を観察する。

**評価割合：** 30%

### ▼実践的ボランティア

具体的な評価対象とはしない。

ただし授業に関連する内容のボランティア活動や観察会等に参加しているのならば、その経緯、成果をレポートにまとめることは大歓迎します。高く評価の対象としたい。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

自他に対する公正性の確保は当然のことであり、通常の評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特に無し。



評価割合：特に無し。

授業計画： [第01回] はじめに  
[第02回] 実際に自分で植物を育てて+観察してみたい / 予定では、ミニトマト、野菜、草花などから選ぶ  
[第03回] ここ茨城の自然の特徴について  
[第04回] 野外での自然観察のやり方を具体的に / 実例としてタンポポの生態と分布  
[第05回] 危険な生き物への対応について  
[第06回] 身近な昆虫や野鳥などの小動物の観察  
[第07回] 水辺の生き物(両生類や魚類)の観察/実例としてカエルの生態  
[第08回] 「森のようちえん」などの自然体験型教育について  
[第09回] ホタルの生態と分布 / 実例としてヘイケボタルとゲンジボタル  
[第10回] 夏によく見かけるトンボの生態と観察 / 秋の風物の赤とんぼは  
[第11回] 食うものと食われるもの / 天敵は敵か味方か  
[第12回] 草や樹木の観察と夏に目立つ花  
[第13回] 外来生物を知る/身近な生き物の大半は外来生物  
[第14回] 歴史的变化を新旧航空(空中)写真と地形図の利用で知る  
[第15回] まとめ / 合わせてレポートの取りまとめについての相談、指導  
[第16回] 可能ならば教室でのレポート提出、ICUNIPAでの提出も両立させます

使用テキスト： 参考資料を、紙とICUNIPAで配布します。  
必要な本やWebは、授業時に紹介します。

予習・復習のポイントと 配布された資料に眼を通し、わからないことは自分で調べることによって、深く理解することが可能です。  
参考文献・資料等： が可能です。  
また自分なりに、身の回りの自然観察に取り組んでいただきたい。

障がいのある 多様性の一つと考えますので、積極的に対応させていただきます。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメール ida\_toshiaki@icc.ac.jp へどうぞ

留意事項： 成績評価の中心は、期末に提出されたレポートで行います。レポートのテーマ及び、内容、まとめ方については、随時相談する時間をもちます。  
季節の進み具合に応じて、内容の順番が変更される可能性があります。

---

科目コード：13041 科目ナンバリング：PE31C03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校英語教育A a(Elementary School English Education A a)

担当者：高島 英幸

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc

関連資格：教職

AL要素：07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答

授業の概要： 英語及び第二言語習得に関する基本的な事項を理解し、授業実践に必要な聞く力・話す力・読む力・書く力と指導力を身に付けることを目指す。小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的知識を身に付ける。

キーワード： 小学校学習指導要領, 外国語活動・外国語科の目標と内容, 課題解決型の授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標： 小学校英語の経緯や目標、内容を知り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型の授業がどのようなものであるかわかる。

評価方法： 課題

評価割合：30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 小学校の授業で行なう活動を体験することを通して、各活動の目標や効果などを考えることができる。

**評価方法:** 授業での活動の観察

**評価割合:** 40%

振り返りカード

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する。

**評価割合:** 30%

### ▼実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

オンラインの授業の場合、締め切り日までに「授業の振り返り・課題」の提出がない場合には、欠席扱いとなります。

**評価割合:** オンラインの授業の場合、締め切り

- 授業計画:**
- 第1回:オリエンテーション(授業の目的, 趣旨, 方法), 小学校英語の経緯①
  - 第2回:小学校英語の経緯②「総合的学習の時間における英語活動」, 小学校英語の経緯③「高学年の必修化, 外国語活動」
  - 第3回:小学校英語の経緯④「学習指導要領(平成29年告示), 早期化, 教科化」4つのステージのまとめ
  - 第4回:学習指導要領における文字の扱いと小学校における文字学習①(教材研究), チャレンジ
  - 第5回:小学校における文字学習②(教材研究)
  - 第6回:「主体的・対話的で深い学び」と課題解決型の単元
  - 第7回:課題解決型の単元, 学習指導要領における絵本の扱い, 絵本型の単元, 歌, クイズ
  - 第8回:絵本分析と絵本型の単元, 絵本の効果, 選択基準
  - 第9回:発表・発信型の単元(「話すこと[発表]」, 聞くことを重視して)
  - 第10回:相互交流型の単元(「話すこと[やりとり]」, 聞くことを重視して)
  - 第11回:指導者, 学級担任ALTの役割, 有効なティーム・ティーチング, 教科担任制
  - 第12回:連携(校内の連携, 小小の連携, 小中高の連携)
  - 第13回:評価の在り方(評価の観点, 評価規準, 判断基準, 評価方法など)
  - 第14回:学習意欲を高め, 自尊感情を育てる自己評価, 相互評価
  - 第15回:まとめ

### 使用テキスト:

高島英幸 編著(2014).『児童が創る 課題解決型の外国語活動と英語教育の実践 - プロジェクト型言語活動のすべて』高陵社書店. <教室で販売>

文部科学省(2018).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』開隆堂.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各時間, 振り返りシートを書き自己評価をすることを通して, その時間に自分が何を学び, 次の時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

<参考文献>

東野裕子・高島英幸(2011)プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決

型授業と評価』高陵社書店。  
東野裕子・高島英幸(2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** hinomine@nifty.com まで、メールで連絡してください。

**留意事項:** 各時間、授業前に何をやるのかを把握し、授業に意欲的に参加する。  
日頃より、記事やニュースを読んだり、聞いたりして、小学校英語や教育事情に関心をもつ。

---

**科目コード:13041**      **科目ナンバリング:PE31C03E**      **主な使用言語:日本語**

**授業名(英文): 小学校英語教育A b(Elementary School English Education A b)**

**担当者: 高島 英幸**

#### 基本情報

**年次:カリキュラム**

**単位数:2**

**授業形式:演習**

**曜時:木曜4限**

**履修可能学科・専攻: Pe Pc**

**関連資格:教職**

**AL要素: 07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答**

**授業の概要:** 英語及び第二言語習得に関する基本的な事項を理解し、授業実践に必要な聞く力・話す力・読む力・書く力と指導力を身に付けることを目指す。小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的知識を身に付ける。

**キーワード:** 小学校学習指導要領, 外国語活動・外国語科の目標と内容, 課題解決型の授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 小学校英語の経緯や目標、内容を知り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型の授業がどのようなものであるかわかる。

**評価方法:** 課題

**評価割合:30%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 小学校の授業で行なう活動を体験することを通して、各活動の目標や効果などを考えることができる。

**評価方法:** 授業での活動の観察

**評価割合:40%**

振り返りカード

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する。

**評価割合:30%**

##### ▼実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

**評価割合:0%**

##### ▼公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

**評価割合:0%**

##### ▼その他

オンラインの授業の場合、締め切り日までに「授業の振り返り・課題」の提出がない場合には、欠席扱いとなります。

#### 評価割合：オンラインの授業の場合、締め切り

- 授業計画：**
- 第1回:オリエンテーション(授業の目的, 趣旨, 方法), 小学校英語の経緯①
  - 第2回:小学校英語の経緯②「総合的学習の時間における英語活動」, 小学校英語の経緯③「高学年の必修化, 外国語活動」
  - 第3回:小学校英語の経緯④「学習指導要領(平成29年告示), 早期化, 教科化」4つのステージのまとめ
  - 第4回:学習指導要領における文字の扱いと小学校における文字学習①(教材研究), チャレンジ
  - 第5回:小学校における文字学習②(教材研究)
  - 第6回:「主体的・対話的で深い学び」と課題解決型の単元
  - 第7回:課題解決型の単元, 学習指導要領における絵本の扱い, 絵本型の単元, 歌, クイズ
  - 第8回:絵本分析と絵本型の単元, 絵本の効果, 選択基準
  - 第9回:発表・発信型の単元(「話すこと[発表]」, 聞くことを重視して)
  - 第10回:相互交流型の単元(「話すこと[やりとり]」, 聞くことを重視して)
  - 第11回:指導者, 学級担任ALTの役割, 有効なチーム・ティーチング, 教科担任制
  - 第12回:連携(校内の連携, 小中の連携, 小中高の連携)
  - 第13回:評価の在り方(評価の観点, 評価規準, 判断基準, 評価方法など)
  - 第14回:学習意欲を高め, 自尊感情を育てる自己評価, 相互評価
  - 第15回:まとめ

#### 使用テキスト：

高島英幸 編著(2014).『児童が創る 課題解決型の外国語活動と英語教育の実践－プロジェクト型言語活動のすべて』高陵社書店. <教室で販売>

文部科学省(2018).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』開隆堂.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 各時間、振り返りシートを書き自己評価をすることを通して、その時間に自分が何を学び、次の時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

#### <参考文献>

東野裕子・高島英幸(2011)プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決型授業と評価』高陵社書店.

東野裕子・高島英幸(2007)小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店.

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** hinomine@nifty.com まで、メールで連絡してください。

**留意事項：** 各時間、授業前に何をやるのかを把握し、授業に意欲的に参加する。  
日頃より、記事やニュースを読んだり、聞いたりして、小学校英語や教育事情に関心をもつ。

---

科目コード：13042

科目ナンバリング：PE32C03E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校英語教育B a(Elementary School English Education B a)

担当者：高島 英幸

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc

関連資格：教職

AL要素：07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答

**授業の概要:** 外国語活動・外国語科において、明確な視点を持って授業観察をすることを通して、効果的な指導法や教材の効果などについて考えます。その理解を基に、自分が選定した題材を単元化し、その単元の学習指導案を作成し、一部を模擬授業し相互に評価し合います。

**キーワード:** 課題解決型の授業、授業観察、学習指導案、模擬授業

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** ①明確な視点を持って授業を観察できる。②授業を観察することを通して効果的な指導法や教材の効果がわかる。

**評価方法:** 課題

**評価割合:** 30%

振り返りカード

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ①単元を構想し、単元内の各時間の授業の計画と評価計画が立案できる。②自分構想した単元の学習指導案が書ける。③各時に必要な教材が準備できる。④模擬授業ができ、相互評価ができる。

**評価方法:** 学修指導案

**評価割合:** 50%

模擬授業

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する。

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:** 第1回:オリエンテーション(授業の目的,趣旨,方法)  
第2回:学習指導要領の復習(外国語活動・外国語の目標,内容)  
第3回:文部科学省配布教材(外国語活動用 Let's Try! 1, 2)の概要と活動  
第4回:文部科学省配布教材(外国語用 We Can 1, 2)の概要と活動  
第5回:教科書7社の概要と単元について  
第6回:外国語活動・外国語の授業の視聴・授業観察,グループ討議  
第7回:題材の選定と教材開発の方法,1単元の組み立て方,評価計画と方法  
第8回:学習指導案の書き方と留意点  
第9回:模擬授業の題材の選定,単元構想,教材開発,評価計画の立案  
第10回:学習指導案の作成,授業教材準備  
第11回:模擬授業1(第3学年),授業観察とグループ討議  
第12回:模擬授業2(第4学年),授業観察とグループ討議  
第13回:模擬授業3(第5学年),授業観察とグループ討議  
第14回:模擬授業4(第6学年),授業観察  
第15回:まとめ

**使用テキスト:** 文部科学省検定教科書 New Horizon Elementary English Course, 5, 6. 東京書籍.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各時間, 振り返りシートを書き自己評価をすることを通して, その時間に自分が何を学び, 次の時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

<参考文献>

東野裕子・高島英幸 (2011)『プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決型授業と評価』高陵社書店.

東野裕子・高島英幸 (2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店.

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** メールで連絡してください。

**留意事項:** 各時間, 授業前に何をやるのかを把握し, 授業に意欲的に参加する。  
日頃より, 記事やニュースを読んだり, 聞いたりして, 小学校英語や教育事情に関心をもつ。

---

---

**科目コード:** 13042      **科目ナンバリング:** PE32C03E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 小学校英語教育B b (Elementary School English Education B b)

**担当者:** 高島 英幸

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜4限

**履修可能学科・専攻:** Pe Pc

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答

**授業の概要:** 外国語活動・外国語科において, 明確な視点を持って授業観察をすることを通して, 効果的な指導法や教材の効果などについて考えます。その理解を基に, 自分が選定した題材を単元化し, その単元の学習指導案を作成し, 一部を模擬授業し相互に評価し合います。

**キーワード:** 課題解決型の授業, 授業観察, 学習指導案, 模擬授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** ①明確な視点を持って授業を観察できる。②授業を観察することを通して効果的な指導法や教材の効果がわかる。

**評価方法:** 課題

**評価割合:** 30%

振り返りカード

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ①単元を構想し, 単元内の各時間の授業の計画と評価計画が立案できる。②自分構想した単元の学習指導案が書ける。③各時に必要な教材が準備できる。④模擬授業ができ, 相互評価ができる。

**評価方法:** 学修指導案

**評価割合:** 50%

模擬授業

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから, 学修に対する意欲を評価する。

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

評価割合：0%

### ▼公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション(授業の目的, 趣旨, 方法)  
第2回：学習指導要領の復習(外国語活動・外国語の目標, 内容)  
第3回：文部科学省配布教材(外国語活動用 Let's Try! 1, 2)の概要と活動  
第4回：文部科学省配布教材(外国語用 We Can 1, 2)の概要と活動  
第5回：教科書7社の概要と単元について  
第6回：外国語活動・外国語の授業の視聴・授業観察, グループ討議  
第7回：題材の選定と教材開発の方法, 1単元の組み立て方, 評価計画と方法  
第8回：学習指導案の書き方と留意点  
第9回：模擬授業の題材の選定, 単元構想, 教材開発, 評価計画の立案  
第10回：学習指導案の作成, 授業教材準備  
第11回：模擬授業1(第3学年), 授業観察とグループ討議  
第12回：模擬授業2(第4学年), 授業観察とグループ討議  
第13回：模擬授業3(第5学年), 授業観察とグループ討議  
第14回：模擬授業4(第6学年), 授業観察  
第15回：まとめ

**使用テキスト：** 文部科学省検定教科書 New Horizon Elementary English Course, 5, 6. 東京書籍。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 各時間, 振り返りシートを書き自己評価をすることを通して, その時間に自分が何を学び, 次の時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

<参考文献>

東野裕子・高島英幸(2011)『プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決型授業と評価』高陵社書店。

東野裕子・高島英幸(2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** メールで連絡してください。

**留意事項：** 各時間, 授業前に何をするのかを把握し, 授業に意欲的に参加する。  
日頃より, 記事やニュースを読んだり, 聞いたりして, 小学校英語や教育事情に関心をもつ。

---

科目コード：13046      科目ナンバリング：PE40C05S      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

**関連資格：**

**AL要素：** 03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

**授業の概要：** 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**キーワード：** 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

**評価方法：** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合：** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 適切な論文構成や表現にすることができる。

**評価方法：** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合：** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**使用テキスト：** 初回の授業で説明する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 初回の授業で説明する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：** 13046

**科目ナンバリング：** PE40C05S

**主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 卒業研究(Graduation Thesis)

**担当者：** 池内 耕作

#### 基本情報

**年次：** 4

**単位数：** 4

**授業形式：** 一



曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 初回の授業で説明する。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回到知らせる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13046

科目ナンバリング：PE40C05S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：江尻 桂子

基本情報

---

年次：4

単位数：4

授業形式：一

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
09. 実地調査  
15. レポート指導  
16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 研究課題(心理学に関連するテーマ)について、研究計画を立てて実施し、その成果をもとに卒業論文を執筆する。研究の進捗状況について、毎授業ごとに発表を行い、それをもとに指導を行う。具体的な進め方や研究課題については学生と話し合っで決める。なお、履修要覧『卒業研究規程』該当ページも参照すること。

**キーワード：** 卒業研究 研究論文 心理学 保育 教育 乳幼児 児童 生徒 子ども 家族 親 母親 父親 家庭支援 発達心理学 家族心理学 教育学 社会福祉 障害

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 自分自身の研究テーマに沿って、研究計画を立案し、調査や実験、観察、文献研究などを通して、新たな研究知見を得る。また、これらの研究知見をもとに、論文を作成、発表することができる。

**評価方法：** 実践レポートおよびその発表

**評価割合：** 70%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 上記の研究活動のなかで、論理的な思考・判断・表現能力を身につけることができる。また、自身の研究を通して得た先行研究の知見や、データ、そこから導いた結果や考察について、論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。また、これらを論理的かつ簡潔に口頭で発表することができる。

**評価方法：**

**評価割合：** 20%

実践レポートおよびその発表

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身で設定した研究テーマに基づき、積極的に資料を収集し、それについて知識や考察を深めていくことを求めます。また、研究活動を通して得た知識やデータ、そこから導かれた結果、考察したことについて簡潔かつ論理的にレポートにまとめ、発表を行うことを求めます。また、自分自身の発表に対する質問やコメントに対して適切に回答を行うことを期待します。

**評価割合：** 10%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回. この授業の到達目標と概略  
第2回. 卒業論文の作成方法(1)構成  
第3回. 卒業論文の作成方法(2)執筆の手順  
第4回. 卒業論文の作成方法(3)研究方法  
第5回. 卒業論文の作成方法(4)執筆の具体的な方法  
第6回. 研究手法の解説(1)調査研究  
第7回. 研究手法の解説(2)事例研究  
第8回. 研究手法の解説(3)文献研究  
第9回. 研究手法の解説(4)研究倫理  
第10回. 卒業論文構成発表(1)  
第11回. 卒業論文構成発表(2)  
第12回. 卒業論文構成発表(3)  
第13回. 卒業論文構成発表(4)  
第14回. 卒業論文構成発表(5)  
第15回. 卒業論文作成方法と研究手法の総まとめ  
その他は、履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照してください。

**使用テキスト：** 授業に関連する資料は、全て配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- 1) 第一回目の前に、研究課題や研究手法について指導教員と相談しておいてください。
- 2) 論文執筆に必要な資料を適宜、読んでおいてください。
- 3) 発達心理学、教育心理学を含め、心理学についての基礎的な知識を得ておいてください。
- 4) 単に指導を受けるだけの立場ではなく、この授業に積極的にに関わり、貢献することが期待されます。
- 5) 指導の中で課せられる、全ての期日(締切)を厳守することを求めます。
- 6) 研究のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。  
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年  
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

**留意事項：** この授業の受講は、担当者の研究指導を受けている学生を、対象とします。  
受講を希望する者は3年次のうちに、指導教員に相談を行っておいてください。

---

科目コード : 13046      科目ナンバリング : PE40C05S      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者 : 小幡 幸和

基本情報

年次 : 4

単位数 : 4

授業形式 : 一

曜時 : 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻 :

関連資格 :

AL要素 : 03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

**授業の概要：** 初回の授業で説明する。

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 初回の授業で説明する。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13046

科目ナンバリング：PE40C05S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：小林 信悟

#### 基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：

03. 実験・実技・体験
04. 課題解決
07. 発表
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論

**授業の概要:**

初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**キーワード:** 卒業研究、研究論文、卒業制作

**学位授与方針との関係****▼知識・技能****到達目標:**

研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業制作としてまとめることができる。

**評価方法:**

**評価割合: 60%**

研究論文や卒業制作の内容

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 適切な論文構成や表現にすることができる。

**評価方法:**

**評価割合: 40%**

研究論文や卒業制作の内容

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合: 0%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合: 0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合: 0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合:** <br>特になし

**授業計画:**

初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**使用テキスト:**

初回の授業で説明する。

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:** 初回の授業で説明する。

**障がいのある  
履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

**留意事項:** 登録する前に、必ず担当者と事前相談すること。

**科目コード:** 13046

**科目ナンバリング:** PE40C05S

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 卒業研究(Graduation Thesis)

**担当者:** 齋藤 遼太郎

**基本情報**

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

授業の概要： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： 卒業研究、研究論文

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標： 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文としてまとめることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法： 研究論文の内容

評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 初回の授業で説明する。

障がいのある  
履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13046

科目ナンバリング：PE40C05S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：佐々木 隆宏

---

## 基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：8. 協働学習

**授業の概要：** この授業では、大学における学びのまとめとして、数学的コミュニケーション論における研究課題に取り組み、その研究成果を卒業研究論文にまとめる。

**キーワード：** 数学教育、情報機器の操作

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 自らの課題を理解し、それを到達するための知識と技術を身につけている。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 自らの課題を解決するための方法を考え、試行錯誤するだけでなく、自らの考えを他人に説明することができる。

**評価方法：** レポート  
発表

**評価割合：** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容を評価する。また、課題内容に数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合：** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて評価することがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、レポート課題における不正行為や授業中における人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特記事項なし

**評価割合：** 特記事項なし

**授業計画：** 履修者に対する個別の論文執筆指導を行う。

**使用テキスト：** 必要な資料を授業中に配布します。また、参考図書については授業中に適宜紹介します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業中に指示します

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください

**授業時間外の連絡手段：** 研究室に置いて対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** 特記事項なし

---

科目コード：13046

科目ナンバリング：PE40C05S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：佐藤 希久雄

---

## 基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

**授業の概要：**【特例期間中の授業形態】課題研究型  
初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**キーワード：** 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

**評価方法：** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合：** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 適切な論文構成や表現にすることができる。

**評価方法：** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容 **評価割合：** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**使用テキスト：** 初回の授業で説明する。

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：** 初回の授業で説明する。

**障がいのある  
履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

**留意事項：** 特になし

---

科目コード：13046

科目ナンバリング：PE40C05S

主な使用言語：日本語

---



授業名(英文): 卒業研究(Graduation Thesis)

担当者: 高橋 和将

#### 基本情報

年次: 4

単位数: 4

授業形式: 一

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)

初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: 卒業研究、研究論文

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標: 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文としてまとめることができる。

評価方法: 研究論文の内容

評価割合: 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法: 研究論文の内容

評価割合: 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト: 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等: 初回の授業で説明する。

障がいのある  
履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13046      科目ナンバリング：PE40C05S      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Thesis)

担当者：藤原 善美

#### 基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：—

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード：卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

評価方法：研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：適切な論文構成や表現にすることができる。

評価方法：研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

使用テキスト： 特になし。適宜紹介します。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 初回の授業で説明する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13046      科目ナンバリング:PE40C05S      主な使用言語:日本語

授業名(英文):卒業研究(Graduation Thesis)

担当者:穂積 訓

#### 基本情報

年次:4      単位数:4      授業形式:—

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義)      履修可能学科・専攻:

関連資格:      AL要素: 03. 実験・実技・体験  
04. 課題解決  
07. 発表  
09. 実地調査  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
15. レポート指導

**授業の概要:** 初回の授業で説明します。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**キーワード:** 卒業研究、研究論文、卒業演奏、卒業制作

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 研究テーマに沿って考察を深め、研究論文や卒業演奏、卒業制作としてまとめることができる。

**評価方法:** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      **評価割合:** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 適切な論文構成や表現にすることができる。

**評価方法:** 研究論文や卒業演奏、卒業制作の内容      **評価割合:** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 初回の授業で説明する。  
履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

**使用テキスト:** 初回の授業で説明する。

予習・復習のポイントと 初回の授業で説明する。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部等に連絡すること。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13047      科目ナンバリング：PE10C01K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教職論 a(Teaching Profession Theory a)

担当者：小幡 幸和

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：07発表

08協同学修

11討論

16振り返り課題と応答

**授業の概要：** 各自が理想とする教師像を念頭に入れつつ、それを深め発展させるために教職の意義、教員の役割、教員の職務内容や服務規程について講義で解説する。また、今日的課題(新学習指導要領・チーム学校運営への対応・いじめ防止・外国にルーツを持つ子どもの支援・働き方改革等)にも目を向け、現代日本における教師の実際の姿や課題を整理し、議論を通して理解を深めていく。さらに、教育史における様々な教職観を概観するとともに、歴史的な背景に立って策定されてきた現在の法令や政策関連文書を概観する。各授業後の振り返り課題を通して理解を深める。

**キーワード：** 教育基本法、教師像、教職の意義、職務・服務、教育法規、小学校学習指導要領、生徒指導提要、チーム学校、いじめの未然防止、コミュニティスクール、社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 教師に求められる資質能力を形成する上で、その基礎となる「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務内容」「今日的課題」等の学修事項について理解し、説明できる。

**評価方法：** 定期試験、振り返り課題

**評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で取り上げた内容について、自主学修で得た知見や経験を踏まえて考察し、理論的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 定期試験、振り返り課題

**評価割合：** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の活動の様子や、発表等で顕著な成果が認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な対象とはしない。ただし学校ボランティア等の実践により深められた知見等が毎回のレポート及び学期末筆記試験の記述の内容に認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

## ▼公正性

直接的な対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートや記述試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

## ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：**

- 第01回 オリエンテーション・教職課程の学びとは
- 第02回 理想の教師像と教職の意義
- 第03回 公教育を担う教師の役割
- 第04回 進路選択に向けての教職の特徴理解、働き方改革
- 第05回 教育史にみる教職観の変遷
- 第06回 学習指導と教育課程、カリキュラム・マネジメント
- 第07回 政策関連文書からみるこれからの教師像
- 第08回 学級経営の目指すべき方向性
- 第09回 教師の専門性と学校(チーム学校について)
- 第10回 学校・地域・保護者の連携(コミュニティ・スクールについて)
- 第11回 学び続ける教師(教員研修について)
- 第12回 教師の職務と服務・身分(授業の一部に外部講師の話を聞く時間を含む)
- 第13回 現代における教師の課題(1):いじめ、不登校、SDGsの理念
- 第14回 現代における教師の課題(2):外国にルーツを持つ子どもの支援、在外教育施設(授業の一部に外部講師の話を聞く時間を含む)
- 第15回 教師レジリエンス、理想の教師像を考える  
定期試験

**使用テキスト：**

- ・【テキスト】齋藤義雄編著『教職概論：理想の教師像を求めて』大学図書出版、2020年。
- ・この他に授業で使うレジュメやその他の資料はオンライン(PDF)、または紙媒体で配布します。
- ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・授業前には、教員が指示するテキスト該当箇所を読み、その回のテーマの分からない用語等を調べる(90分)。
- ・授業後、授業で解説した事項や配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。

### 【参考資料・文献】

- ・小学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)
- ・生徒指導提要(平成22年3月発行、文部科学省)
- ・いじめの防止等のための基本的な方針(平成25年10月11日文部科学大臣決定)
- ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(平成27年12月21日、中央教育審議会答申)
- ・教職生活の全体を通じた教職員の資質能力の総合的な向上方策(平成24年8月28日、中央教育審議会答申)
- ・今後の教員養成・免許制度の在り方について(平成18年7月11日、中央教育審議会答申)
- ・国立教育政策研究所「生徒指導リーフ増刊号いじめのない学校づくり」(平成25年11月)
- ・これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について(第7~11次提言)(教育再生実行会議、平成27-31年)
- ・岩本泰、小玉敏也、降旗信一編著『教職概論：「包容的で質の高い教育」のために』(SDGsと学校教育)学文社、2019年。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・履修条件として、小学校教員免許を取得したい人。
- ・課題については、翌授業回で教員がコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
- ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード:13047

科目ナンバリング:PE10C01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):教職論 b( Teaching Profession Theory b)

担当者:小幡 幸和

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜1限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 07発表

08協同学修

11討論

16振り返り課題と応答

**授業の概要:** 各自が理想とする教師像を念頭に入れつつ、それを深め発展させるために教職の意義、教員の役割、教員の職務内容や服務規程について講義で解説する。また、今日的課題(新学習指導要領・チーム学校運営への対応・いじめ防止・外国にルーツを持つ子どもの支援・働き方改革等)にも目を向け、現代日本における教師の実際の姿や課題を整理し、議論を通して理解を深めていく。さらに、教育史における様々な教職観を概観するとともに、歴史的な背景に立って策定されてきた現在の法令や政策関連文書を概観する。各授業後の振り返り課題を通して理解を深める。

**キーワード:** 教育基本法、教師像、教職の意義、職務・服務、教育法規、小学校学習指導要領、生徒指導提要、チーム学校、いじめの未然防止、コミュニティースクール、社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 教師に求められる資質能力を形成する上で、その基礎となる「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務内容」「今日的課題」等の学修事項について理解し、説明できる。

**評価方法:** 定期試験、振り返り課題

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で取り上げた内容について、自主学修で得た知見や経験を踏まえて考察し、理論的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 定期試験、振り返り課題

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の活動の様子や、発表等で顕著な成果が認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な対象とはしない。ただし学校ボランティア等の実践により深められた知見等が毎回のレポート及び学期末筆記試験の記述の内容に認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートや記述試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第01回 オリエンテーション・教職課程の学びとは
  - 第02回 理想の教師像と教職の意義
  - 第03回 公教育を担う教師の役割
  - 第04回 進路選択に向けての教職の特徴理解、働き方改革
  - 第05回 教育史にみる教職観の変遷
  - 第06回 学習指導と教育課程、カリキュラム・マネジメント
  - 第07回 政策関連文書からみるこれからの教師像
  - 第08回 学級経営の目指すべき方向性
  - 第09回 教師の専門性と学校(チーム学校について)
  - 第10回 学校・地域・保護者の連携(コミュニティ・スクールについて)
  - 第11回 学び続ける教師(教員研修について)
  - 第12回 教師の職務とサービス・身分(授業の一部に外部講師の話聞く時間を含む)
  - 第13回 現代における教師の課題(1):いじめ、不登校、SDGsの理念
  - 第14回 現代における教師の課題(2):外国にルーツを持つ子どもの支援、在外教育施設(授業の一部に外部講師の話聞く時間を含む)
  - 第15回 教師レジリエンス、理想の教師像を考える  
定期試験

**使用テキスト：**

- ・【テキスト】齋藤義雄編著『教職概論：理想の教師像を求めて』大学図書出版、2020年。
- ・この他に授業で使うレジュメやその他の資料はオンライン(PDF)、または紙媒体で配布します。
- ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・授業前には、教員が指示するテキスト該当箇所を読み、その回のテーマの分からない用語等を調べる(90分)。
- ・授業後、授業で解説した事項や配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。

**【参考資料・文献】**

- ・小学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)
- ・生徒指導提要(平成22年3月発行、文部科学省)
- ・いじめの防止等のための基本的な方針(平成25年10月11日文部科学大臣決定)
- ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(平成27年12月21日、中央教育審議会答申)
- ・教職生活の全体を通じた教職員の資質能力の総合的な向上方策(平成24年8月28日、中央教育審議会答申)
- ・今後の教員養成・免許制度の在り方について(平成18年7月11日、中央教育審議会答申)
- ・国立教育政策研究所「生徒指導リーフ増刊号いじめのない学校づくり」(平成25年11月)
- ・これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について(第7～11次提言)(教育再生実行会議、平成27-31年)
- ・岩本泰、小玉敏也、降旗信一編著『教職概論：「包容的で質の高い教育」のために』(SDGsと学校教育)学文社、2019年。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・履修条件として、小学校教員免許を取得したい人。
- ・課題については、翌授業回で教員がコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
- ・デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード：13049

科目ナンバリング：PE10C04K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：道徳教育の理論と方法 a(Moral Education Theory and Methods a)

担当者：石崎 成人

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：08:協同学修

17:発問と回答

**授業の概要：** 道德教育の意義と特質、歴史、目標、内容について講義します。また、道德教育の現状や授業改善の取組について考察します。小学校教員としての実務経験を生かして、道德科の授業に向けた資料分析や発問の工夫、多様な指導方法を紹介し、実践的な指導案が作成できるよう指導します。

【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード：** 道德性、道德的価値、道德教育の目標・内容、内容項目、補充・深化・統合、価値の内面化、道德の評価

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 道德教育の意義や特質を踏まえ、目標、内容及び内容項目、歴史と今日的課題について理解する。そのうえで、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育や道德科の指導方法について理解する。これらについて、概ね80%の内容を論述したり、指導案作成に生かしたりすることができる。

**評価方法：** 筆記試験【遠隔授業の場合には、レポート】  
指導案

**評価割合：** 筆記試験(30%) 指導案(20%)

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 読み物資料の分析や発問の工夫、多様な指導方法を生かして指導案作成ができる。これらについて、概ね80%の内容を論じたり、指導案作成に生かしたりすることができる。

**評価方法：** 筆記試験  
【遠隔授業の場合にはレポート】  
指導案

**評価割合：** 筆記試験(20%) 指導案(30%)

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に積極的に参加して児童との触れ合いを体験し、授業を参観するなどして自己の課題を見つけることが望ましい。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、厳重注意又は減点とします。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回:ガイダンス、道德教育の意義について  
第2回:道德性の発達と道德教育について  
第3回:学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方について  
第4回:道德教育の歴史と今日的課題「いじめ・情報モラル」について



- 第5回:道徳科の内容と内容項目について
  - 第6回:読み物資料の特性と読み方について
  - 第7回:読み物資料の分析と発問について
  - 第8回:道徳の授業の実際について(1)授業の進め方
  - 第9回:道徳の授業の実際について(2)授業展開の考察
  - 第10回:道徳の授業の実際について(3)主な発問と予想される児童の反応
  - 第11回:道徳の授業の実際について(4)指導上の留意点
  - 第12回:道徳の授業の実際について(5)評価
  - 第13回:道徳の授業の実際について(6)指導案の仕上げ
  - 第14回:道徳科の年間指導計画と評価方法について
  - 第15回:道徳教育における教師の意識の在り方について
- 定期試験

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説道徳編(平成29年3月文部科学省)  
必要に応じて印刷資料を使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 学習指導要領解説道徳編を熟読し、重要な個所に朱線を引き、インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は、作成マニュアルを活用して計画的に進めることが大切です。疑問点等について積極的に質問するなど自主的な取組が望まれます。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで、又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項:** 指導案の提出期日を厳守してください。  
欠席届は、事前に提出してください。公欠届は、事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻は、遅延証明を提示してください。

**科目コード:** 13049      **科目ナンバリング:** PE10C04K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 道徳教育の理論と方法 b(Moral Education Theory and Methods b)

**担当者:** 石崎 成人

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム      **単位数:** 2      **授業形式:** 講義  
**曜時:** 火曜5限      **履修可能学科・専攻:** E Pe  
**関連資格:** 教職      **AL要素:** 08:協同学修  
17:発問と回答

**授業の概要:** 道徳教育の意義と特質、歴史、目標、内容について講義します。また、道徳教育の現状や授業改善の取組について考察します。小学校教員の実務経験を生かして、道徳科の授業に向けた資料分析や発問の工夫、多様な指導方法を紹介し、実践的な指導案の作成ができるよう指導します。  
【コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 道徳性、道徳的価値、道徳教育の目標・内容、内容項目、補充・深化・統合、価値の内面化、道徳の評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 道徳教育の意義や特質を踏まえ、目標、内容及び内容項目、歴史と今日的課題について理解する。そのうえで、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳科の指導方法について理解する。これらについて、概ね80%の内容を論述したり、指導案作成に生かしたりすることができる。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 筆記試験(30%)指導案(20%)

【遠隔授業の場合には、レポート】  
指導案

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 読み物資料の分析や発問の工夫，多様な指導方法を生かして指導案作成ができる。これらについて，概ね80%の内容を論じたり，指導案作成に生かしたりすることができる。

**評価方法：** 筆記試験

**評価割合：** 筆記試験(20%) 指導案(30%)

【遠隔授業の場合には、レポート】  
指導案

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし，授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は，上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に積極的に参加して児童との触れ合いを体験し，授業を参観するなどして自己の課題を見つけることが望ましい。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし，履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為，人権侵害，差別的発言があった場合には，嚴重注意又は減点とします。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回:ガイダンス，道徳教育の意義について  
第2回:道徳性の発達と道徳教育について  
第3回:学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方について  
第4回:道徳教育の歴史と今日的課題「いじめ・情報モラル」について  
第5回:道徳科の内容と内容項目について  
第6回:読み物資料の特性と読み方について  
第7回:読み物資料の分析と発問について  
第8回:道徳の授業の実際について(1)授業の進め方  
第9回:道徳の授業の実際について(2)授業展開の考察  
第10回:道徳の授業の実際について(3)主な発問と予想される児童の反応  
第11回:道徳の授業の実際について(4)指導上の留意点  
第12回:道徳の授業の実際について(5)評価  
第13回:道徳の授業の実際について(6)指導案の仕上げ  
第14回:道徳科の年間指導計画と評価方法について  
第15回:道徳教育における教師の意識の在り方について  
定期試験

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説道徳編(平成29年3月文部科学省)  
必要に応じて印刷資料を使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 学習指導要領解説道徳編を熟読し，重要な個所に朱線を引き，インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は，作成マニュアルを活用して計画的に進めることが大切です。疑問点等について積極的に質問するなど自主的な取組が望まれます。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日に講師控室まで，又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項：** 指導案の提出期日を厳守してください。

欠席届は、事前に申し出てください。公欠届は、事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻は、遅延証明を提示してください。

科目コード:13050      科目ナンバリング:PE10C05K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 特別活動の理論と方法 a (Special Activities Theory and Methods a)

担当者: 石崎 成人

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素: 08:協同学修

15:レポート指導

17:発問と回答

**授業の概要:** 小学校特別活動の原理を踏まえ、教育課程における特別活動の位置づけと「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った授業の在り方について講義します。さらに、小学校教員の実務経験を生かし、実践的な学習指導案の作成を指導します。  
【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」、特別活動の領域、キャリア形成、「主体的、対話的で深い学び」、自治的な集団活動、特別活動における評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 特別活動の意義や特質、指導目標や内容、多様な指導方法を理解する。これらについて概ね80%論述することができる。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 50%

【遠隔授業の場合には、指導案】

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学習指導上の課題や多様な指導方法、人格形成に関わる特別活動の役割等について考察する。これらについて、概ね80%の内容を論述できる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は、上記の「知識・技能」の評価に加算します。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に積極的に参加して、児童との触れ合いを体験することが望ましい。さらに、授業を参観して自己の課題を見つけ、指導案作成に生かすことが望ましい。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、嚴重注意又は減点とします。

**評価割合:** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:ガイダンス、特別活動の意義について

- 第2回:小学校学習指導要領解説特別活動編について  
 第3回:教育課程における特別活動の位置づけについて  
 第4回:特別活動の全体目標について(1)概要  
 第5回:特別活動の全体目標について(2)「行動の仕方を身に付ける」「合意形成と意思決定」  
 第6回:特別活動の全体目標について(3)「自己実現」  
 第7回:特別活動の内容と3つの視点について  
 第8回:学級活動について(1)学級や学校の生活づくり  
 第9回:学級活動について(2)日常生活や学級への適応及び健康安全  
 第10回:児童会活動,クラブ活動,学校行事について  
 第11回:課題研究について(レポート作成の手順と方法),指導案作成について(1)概要  
 第12回:指導案作成について(2)課題選択  
 第13回:指導案作成について(3)授業展開  
 第14回:指導案作成について(4)資料作成  
 第15回:これからの特別活動と教師の在り方について  
 定期試験

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年3月文部科学省)  
 必要に応じて印刷資料を使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 学習指導要領解説特別活動編を熟読し,重要な個所に朱線を引き,インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は,作成マニュアルを参考に自主的に進めるよう心掛けてください。疑問点等について積極的に質問するなど主体的な取組が大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで,又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項:** レポートや指導案の提出期日を厳守してください。  
 欠席届は,事前に提出してください。公欠届は,事後になります。  
 公共交通機関の遅延による遅刻は,遅延証明を提示してください。

科目コード:13050      科目ナンバリング:PE10C05K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):特別活動の理論と方法 b(Special Activities Theory and Methods b)

担当者:石崎 成人

#### 基本情報

年次:カリキュラム      単位数:2      授業形式:講義

曜時:水曜5限      履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職      AL要素: 08:協同学修  
 15:レポート指導  
 17:発問と回答

**授業の概要:** 小学校特別活動の原理を踏まえ,教育課程における特別活動の位置づけと「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った授業の在り方について講義します。さらに,小学校教員の実務経験を生かし,実践的な学習指導案の作成を指導します。  
 【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は,同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」,特別活動の領域,キャリア形成,「主体的,対話的で深い学び」,自治的な集団活動,特別活動における評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 特別活動の意義や特質,指導目標や内容,多様な指導方法を理解する,これらについて概ね

80%論述することができる。

**評価方法:** 筆記試験 **評価割合:** 50%  
【遠隔授業の場合には、指導案】

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 学習指導上の課題や多様な指導方法、人格形成に関わる特別活動の役割等について考察する。これらについて、概ね80%の内容を論述できる。

**評価方法:** レポート **評価割合:** 50%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は、上記の「知識・技能」の評価に加算します。

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に積極的に参加して、児童との触れ合いを体験することが望ましい。さらに、授業を参観して自己の課題を見つけ、指導案作成に生かすことが望ましい。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、嚴重注意又は減点とします。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:ガイダンス、特別活動の意義について  
第2回:小学校学習指導要領解説特別活動編について  
第3回:教育課程における特別活動の位置づけについて  
第4回:特別活動の全体目標について(1)概要  
第5回:特別活動の全体目標について(2)「行動の仕方を身に付ける」「合意形成と意思決定」  
第6回:特別活動の全体目標について(3)「自己実現」  
第7回:特別活動の内容と3つの視点について  
第8回:学級活動について(1)学級や学校の生活づくり  
第9回:学級活動について(2)日常生活や学級への適応及び健康安全  
第10回:児童会活動、クラブ活動、学校行事について  
第11回:課題研究について(レポート作成の手順と方法)、指導案作成について(1)概要  
第12回:指導案作成について(2)課題選択  
第13回:指導案作成について(3)授業展開  
第14回:指導案作成について(4)資料作成  
第15回:これからの特別活動と教師の在り方について  
定期試験

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年3月文部科学省)  
必要に応じて印刷資料を使用します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 学習指導要領解説特別活動編を熟読し、重要な個所に朱線を引き、インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は、作成マニュアルを参考に自主的に進めるよう心掛けてください。疑問点等について積極的に質問するなど主体的な取組が大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで、又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項：** レポートや指導案の提出期日を厳守してください。  
欠席届は、事前に提出してください。公欠届は、事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻は、遅延証明を提示してください。

---

科目コード：13051      科目ナンバリング：PE10C06K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育方法論 a (Introduction to Teaching Methods a)

担当者：池内 耕作、小林 祐紀

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(水曜2限)

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02.模擬実践

17.発問と回答

**授業の概要：** これまでの教育において培われてきた教育方法を概観し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を詳述します。またこのことをふまえ、必要となる指導技術や情報機器の活用等について、基礎的な知識・技能を身につけるための訓練を行います。

**キーワード：** 教育実践、資質・能力、教育財、評価、指導技術、学習指導案・指導計画、情報機器活用、ICT

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた教育方法の諸論について、概ね80%の事項を理解・暗記し、解答することができる。

**評価方法：** 【前半】レポート  
【後半】筆記試験

**評価割合：**50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 【前半】レポート  
【後半】筆記試験

**評価割合：**50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：**0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：**0%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【前半担当者：小林祐紀】

- 第1回：オリエンテーション、現代社会におけるICTの役割と導入
- 第2回：教師のICT活用指導力と先端技術及びデジタルコンテンツの活用
- 第3回：特別支援・幼児教育におけるICT活用
- 第4回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
- 第5回：児童生徒によるICT活用
- 第6回：児童生徒の情報活用能力の育成
- 第7回：プログラミングを取り入れた授業
- 第8回：校務の情報化とデータの活用

【後半担当者：池内耕作】

- 第9回：教育方法の基礎理論、類型、実践形態
- 第10回：これからの子供たちに求められる資質・能力と、その教育方法の基本理念
- 第11回：教育方法の成立要件－人（生徒と教員）と教育財（教室と教材）
- 第12回：学習指導案（目標・内容、教材・教具、展開、形態、評価等）の基礎的理解
- 第13回：学習指導案の作成
- 第14回：学習指導案に基づく模擬授業1
- 第15回：学習指導案に基づく模擬授業2および講評筆記試験

使用テキスト：特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月 文部科学省)  
「StuDX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)  
「小学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省)  
「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年7月 文部科学省)

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 教育方法論は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育方法論を受講しても要件を満たさないので注意すること。  
尚、この授業では担当教員による講義だけでなく、受講者自身の体験的な操作や調査活動、報告などの演習的な作業があります。詳細については授業のなかで指示します。  
また、前半部分についてはノートPCまたはタブレット等の持参を求めます。これについても詳しくは初回授業等でお話しますが、持参が難しい場合は別途、指示に従って下さい。

---

科目コード：13051                      科目ナンバリング：PE10C06K                      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育方法論 b(Introduction to Teaching Methods b)

担当者：池内 耕作、小林 祐紀

基本情報

年次：カリキュラム                      単位数：2                      授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(水曜2限)                      履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職                      AL要素：02.模擬実践  
17.発問と回答

授業の概要：これまでの教育において培われてきた教育方法を概観し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を詳述します。またこのことをふま

え、必要となる指導技術や情報機器の活用等について、基礎的な知識・技能を身につけるための訓練を行います。

**キーワード：** 教育実践、資質・能力、教育財、評価、指導技術、学習指導案・指導計画、情報機器活用、ICT

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた教育方法の諸論について、概ね80%の事項を理解・暗記し、解答することができる。

**評価方法：** 【前半】レポート **評価割合：50%**  
【後半】筆記試験

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 【前半】レポート **評価割合：50%**  
【後半】筆記試験

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

## 授業計画： 【前半担当者：小林祐紀】

- 第1回：オリエンテーション、現代社会におけるICTの役割と導入
- 第2回：教師のICT活用指導力と先端技術及びデジタルコンテンツの活用
- 第3回：特別支援・幼児教育におけるICT活用
- 第4回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
- 第5回：児童生徒によるICT活用
- 第6回：児童生徒の情報活用能力の育成
- 第7回：プログラミングを取り入れた授業
- 第8回：校務の情報化とデータの活用

## 【後半担当者：池内耕作】

- 第9回：教育方法の基礎理論、類型、実践形態
- 第10回：これからの子供たちに求められる資質・能力と、その教育方法の基本理念
- 第11回：教育方法の成立要件 一人(生徒と教員)と教育財(教室と教材)
- 第12回：学習指導案(目標・内容、教材・教具、展開、形態、評価等)の基礎的理解
- 第13回：学習指導案の作成



第14回:学習指導案に基づく模擬授業1  
第15回:学習指導案に基づく模擬授業2および講評  
筆記試験

**使用テキスト:** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月 文部科学省)  
「StuDX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)  
「小学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省)  
「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年7月 文部科学省)

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 教育方法論は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育方法論を受講しても要件を満たさないので注意すること。  
尚、この授業では担当教員による講義だけでなく、受講者自身の体験的な操作や調査活動、報告などの演習的な作業があります。詳細については授業のなかで指示します。  
また、前半部分についてはノートPCまたはタブレット等の持参を求めます。これについても詳しくは初回授業等でお話しますが、持参が難しい場合は別途、指示に従って下さい。

---

科目コード:13052      科目ナンバリング:PE20C18J      主な使用言語:日本語  
授業名(英文):介護等体験(事前事後指導含む)(Caregiving Practicum (Including Guidance and Follo  
担当者:椎木 久夫、呉 恩恵

#### 基本情報

年次:カリキュラム      単位数:2      授業形式:講義・実習  
曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義)      履修可能学科・専攻: Pe  
関連資格:教職      AL要素: 02模擬実践  
16振り返り用紙と応答

#### 授業の概要:【特例期間中の授業形態】課題研究型

介護等体験特例法により、小中学校の教員免許状を取得する者は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験が義務づけられた。その特例法の趣旨を理解し達成するために、現在の福祉対策の動向と課題を学び、体験学習に、より課題意識をもって積極的に取り組めるようにする。なおこの講座は、介護等体験の実施と一体化しているため、社会人としての厳しさを学びます。時間の厳守、服装、身だしなみ等についても考慮し授業を実施していきます。

**キーワード:** 介護等体験特例法・教員免許状・社会福祉施設・特別支援学校

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 介護等体験の必要性を理解し、社会福祉施設、特別支援学校についての理解を深めることができる。

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 50%  
体験後レポート

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 社会福祉施設利用者や障害のある児童生徒の実態について理解し、基本的支援方法について

て理解を深める。

評価方法：提出物  
体験後レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】(担当:椎木)オリエンテーション 介護等体験学習の意義と目標  
【第2回】(担当:呉)社会福祉の理念  
【第3回】(担当:呉)社会福祉のしくみ  
【第4回】(担当:椎木)社会福祉のサービスと施設(1)高齢者福祉施設と児童福祉施設  
【第5回】(担当:椎木)社会福祉のサービスと施設(2)障害者福祉と障害者施設  
【第6回】(担当:椎木)特別支援学校について  
【第7回】(担当:椎木)介護等体験の心構えと事前準備

使用テキスト：・初回授業前に販売します。

(1)「介護等体験マニュアルノート」(茨城県社会福祉協議会)

(2)「介護等体験のためのケアリング論」(チャイルドセンター)

・授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メール及び研究室において対応します。

留意事項： 講義は全出席のこと、遅刻は厳禁

---

科目コード：13053

科目ナンバリング：PE31C01J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：初等教育実習I(事前事後指導1単位を含む)(Elementary Education Practicum I (Incl

担当者：稲野邊 親

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：01実地訓練

09実地調査

授業の概要： 教員養成課程における教育実習の占める割合は、極めて重要である。特に、真剣に教職を目指す者にとっては、何事にも代えがたいものである。そこにおいては、大学で学んだ教育に関する諸理論を具体的に実践したり、教師として必要な知識と技能を習得したりする。ま

た、生の学校教育や児童生徒の姿に触れることにより、教職への意識をさらに高め、自己の意識や行動の変革を図り、その後の具体的な行動へと繋げるものである。

なお、小学校1種免許状を取得するものは、事前指導(7回)、教育実習(4週間)、事後指導(1回)を全て履修すること。

**キーワード：** 教育実習の意義、学習指導要領、教育基本法、学習指導、生徒指導、教員の職務内容、服務、働き方

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 各実習校において児童や教職員との関わりを通して、教育に関する理解を深めるとともに、教師として必要な最低限の実践的指導力を身に付けることができる。

具体的には、教育実習履修簿P3【教育実習の目標】に記述された項目の実現化に向けて努力すること。

**評価方法：** 実習校の評価、提出物、レポート **評価割合：** 80%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 各実習校において児童や教職員との関わりを通して、自己の研究課題を見出し、課題解決に向かって努力すること。

具体的には、教育実習履修簿P3【教育実習の目標】に記述された項目の実現化に向けて努力すること。

**評価方法：** 実習校の評価、提出物、レポート **評価割合：** 20%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

教育実習や事前事後指導の様子等で顕著な成果が認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な対象とはしない。ただし学校ボランティア等の実践により深められた知見等が教育実習での実践やレポートの内容に認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な対象とはしない。ただし教育実習中の発言やレポート等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** (事前指導・第1回)教育実習の意義と心得、一日観察実習のポイントについて  
(事前指導・第2回)一日観察実習(各協力校)  
(事前指導・第3回)観察・参加・実習について、学習指導、生徒指導の課題設定について  
(事前指導・第4回)教育実習の日程、概観について  
(事前指導・第5回)学校経営、学級経営、教科領域等の指導について  
講師：日立市教育委員会に依頼  
(事前指導・第6回)最近の児童生徒の状況とその理解  
講師：日立市公立小学校に依頼  
(事前指導・第7回)学習指導案の作成・児童理解について  
(教育実習)日立市内の協力校や県内市町村における公立小学校で4週間の実習  
(事後指導・第8回)報告・反省会(各協力校ごとに学校を担当する先生と行う)

**使用テキスト:** 特例期間中はIC-UNIPAに資料をアップする。それ以降は必要資料を適宜配付する。教育実習履修簿を用いる。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 教育実習の履修については様々な要件があるので、各自にて随時確認のこと。  
小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省 定価201円+税 東洋館出版を購入しておく。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 初等教育実習Ⅱとセットで履修すること。

---

**科目コード:** 13054      **科目ナンバリング:** PE32C01J      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 初等教育実習Ⅱ(Elementary Education Practicum Ⅱ)

**担当者:** 稲野邊 親

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム      **単位数:** 2      **授業形式:** 実習

**曜時:** 前期(実習)、後期(実習)      **履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職      **AL要素:** 01実地訓練  
09実地調査

**授業の概要:** 教員養成課程における教育実習の占める割合は、極めて重要である。特に、真剣に教職を目指す者にとっては、何事にも代えがたいものである。そこにおいては、大学で学んだ教育に関する諸理論を具体的に実践したり、教師として必要な知識と技能を習得したりする。また、生の学校教育や児童生徒の姿に触れることにより、教職への意識をさらに高め、自己の意識や行動の変革を図り、その後の具体的な行動へと繋げるものである。  
なお、小学校1種免許状を取得するものは、事前指導(6回)、教育実習(4週間)、事後指導(1回)を全て履修すること。

**キーワード:** 教育実習の意義、学習指導要領、教育基本法、学習指導、生徒指導、教員の職務内容、服務、働き方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 各実習校において児童や教職員との関わりを通して、教育に関する理解を深めるとともに、教師として必要な最低限の実践的指導力を身に付けることができる。  
具体的には、教育実習履修簿P3【教育実習の目標】に記述された項目の実現化に向けて努力すること。

**評価方法:** 実習校の評価, 提出物, レポート      **評価割合:** 80%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 各実習校において児童や教職員との関わりを通して、自己の研究課題を見出し、課題解決に向かって努力すること。  
具体的には、教育実習履修簿P3【教育実習の目標】に記述された項目の実現化に向けて努力すること。

**評価方法:** 実習校の評価, 提出物, レポート      **評価割合:** 20%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

教育実習や事前事後指導の様子等で顕著な成果が認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な対象とはしない。ただし学校ボランティア等の実践により深められた知見等が教育実習での実践やレポートの内容に認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な対象とはしない。ただし教育実習中の発言やレポート等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** (事前指導・第1回)教育実習の意義と心得, 服務等について  
(事前指導・第2回)一日観察実習(各協力校)  
(事前指導・第3回)観察・参加・実習について, 学習指導, 生徒指導の課題設定について  
(事前指導・第4回)教育実習の日程, 概観について  
(事前指導・第5回)学校経営, 学級経営, 教科領域等の指導について  
講師: 日立市教育委員会へ依頼予定  
(事前指導・第6回)最近の児童生徒の状況とその理解  
講師: 日立市公立小学校校長・教務主任へ依頼予定  
(事前指導・第7回)学習指導案の作成・児童理解について  
(教育実習)日立市内の協力校や県内市町村における公立小学校で4週間の実習  
(事後指導・第8回)報告・反省会(各協力校ごとに学校を担当する先生と行う)

**使用テキスト：** 特例期間中はIC-UNIPAに資料をアップする。それ以降は必要資料を適宜配付する。教育実習履修簿を用いる。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 教育実習の履修については様々な要件があるので、各自にて随時確認のこと。  
小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省 定価201円+税 東洋館出版を購入しておく。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** 初等教育実習Ⅱとセットで履修すること。

---

科目コード：13057      科目ナンバリング：PE20C06K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校国語科研究 a(Studies in Elementary Japanese a)

担当者：鈴木 範子

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：07発表

08協同学修

16振り返り用紙と応答

#### 授業の概要：

学習指導要領に基づいた小学校国語科の指導内容や指導法について、教科書教材を用いて理論的かつ実践的に学ぶ。

**キーワード：** 国語科教育の意義と目標、言葉による見方・考え方、言語活動、言語の特質、文学的文章、説明的文章、情報の扱い方、語彙と読解力

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 小学校国語科教育の意義や指導要領の内容について、理論的・実践的に理解することができる。

**評価方法:** グループ活動およびレポート

**評価割合:** 40%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で取り扱う小学校国語科の教科書教材について分析し、教材の特色を生かした指導計画を立案することができる。

**評価方法:** グループ活動およびレポート

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主学習および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

**評価割合:** 30%

### ▼実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし<br>

**授業計画:**

- 【第01回】シラバスと授業展開について
- 【第02回】小学校国語科の意義と目標
- 【第03回】国語科の教材の扱い方の変遷
- 【第04回】語彙力と読解力
- 【第05回】読むことの指導①—文学的文章の学習目標と内容—
- 【第06回】読むことの指導②—文学的文章の教材研究—
- 【第07回】話すこと・聞くことの指導①—話すこと・聞くことと言語活動—
- 【第08回】話すこと・聞くことの指導②—話し合うことの指導過程—
- 【第09回】読むことの指導③—説明的文章の学習目標と内容—
- 【第10回】読むことの指導④—説明的文章の教材研究—
- 【第11回】書くことの指導①—書くことと言語活動—
- 【第12回】書くことの指導②—書くことのジャンルと指導—
- 【第13回】文学的文章および説明的文章の指導計画
- 【第14回】国語科教育の課題と展望①(アクティブラーニング)
- 【第15回】国語科教育の課題と展望②(アクティブラーニング)

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 平成29年7月 文部科学省

**予習・復習のポイント** 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。

**参考文献・資料等:** 参考資料: 小学校学習指導要領国語編(平成29年告示)

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

**留意事項:** なし

---

科目コード:13057      科目ナンバリング:PE20C06K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校国語科研究 b(Studies in Elementary Japanese b)

担当者: 鈴木 範子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素:07発表

08協同学修

16振り返り用紙と応答

#### 授業の概要:

学習指導要領に基づいた小学校国語科の指導内容や指導法について、教科書教材を用いて理論的かつ実践的に学ぶ。

**キーワード:** 国語科教育の意義と目標、言葉による見方・考え方、言語活動、言語の特質、文学的文章、説明的文章、情報の扱い方、語彙と読解力

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 小学校国語科教育の意義や指導要領の内容について、理論的・実践的に理解することができる。

**評価方法:** グループ活動およびレポート

**評価割合:** 40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で取り扱う小学校国語科の教科書教材について分析し、教材の特色を生かした指導計画を立案することができる。

**評価方法:** グループ活動およびレポート

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主学習および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

**評価割合:** 30%

##### ▼実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし<br>

授業計画：【第01回】シラバスと授業展開について  
【第02回】小学校国語科の意義と目標  
【第03回】国語科の教材の扱い方の変遷  
【第04回】語彙力と読解力  
【第05回】読むことの指導①—文学的文章の学習目標と内容—  
【第06回】読むことの指導②—文学的文章の教材研究—  
【第07回】話すこと・聞くことの指導①—話すこと・聞くことと言語活動—  
【第08回】話すこと・聞くことの指導②—話し合うことの指導過程—  
【第09回】読むことの指導③—説明的文章の学習目標と内容—  
【第10回】読むことの指導④—説明的文章の教材研究—  
【第11回】書くことの指導①—書くことと言語活動—  
【第12回】書くことの指導②—書くことのジャンルと指導—  
【第13回】文学的文章および説明的文章の指導計画  
【第14回】国語科教育の課題と展望①(アクティブラーニング)  
【第15回】国語科教育の課題と展望②(アクティブラーニング)

使用テキスト：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 平成29年7月 文部科学省

予習・復習のポイントと 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。  
参考文献・資料等： 参考資料：小学校学習指導要領国語編(平成29年告示)

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： なし

---

科目コード：13058 科目ナンバリング：PE20C07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校国語科教育法 a(Elementary Japanese Teaching Methods a)

担当者：鈴木 範子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践

07発表

08協同学習

016振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型  
小学校国語科における教育目標及び学習指導要領に基づいた国語科授業の指導法と内容について理解するとともに、児童の国語学習の実態に応じた「授業づくり」を身につける。

キーワード：話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、書写、教材研究、授業設計、模擬授業、授業観察、学習評価

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：小学校国語科教育の目標や内容をふまえ、実践的な指導法を理解することができる。



評価方法：グループ活動およびレポート

評価割合：50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**小学校国語科教材の特色を生かした目標を設定し、児童の発達段階を想定した指導案を作成することができる。①ICTを適切に活用する力、②児童の発達や学習状況に応じた適切な言語活動を支援する力を身につける。

評価方法：グループ活動およびレポート

評価割合：50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主学习および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

評価割合：0%

#### ▼公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：**【第1回】オリエンテーションー授業計画・講義方法・成績評価の方法の説明ー  
次回以降の課題提示

【第2回】児童の実態と教材分析

【第3回】学習指導案の意義と構想

【第4回】学習指導案の検討ー単元の指導計画ー

【第5回】学習指導案の検討ー語彙指導の位置づけー

【第6回】学習指導案の検討ー学習課題と発問ー

【第7回】学習指導案の検討ー言語活動ー

【第8回】模擬授業の展開と指導①（※以下第12回まで2グループずつ模擬授業を行う。）

【第9回】模擬授業の展開と指導②

【第10回】模擬授業の展開と指導③

【第11回】模擬授業の展開と指導④

【第12回】模擬授業の展開と指導⑤

【第13回】「書くこと」の授業の構想

【第14回】書写授業の構想

【第15回】「話すこと・聞くこと」の授業の構想

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説編 国語

**予習・復習のポイントと** 【予習・復習のポイント】

**参考文献・資料等：** 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。

参考資料：小学校学習指導要領国語編（平成29年告示）

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部や担当教員まで申し出ること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室等で対応する。曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項：** 特になし

科目コード：13058      科目ナンバリング：PE20C07K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校国語科教育法 b(Elementary Japanese Teaching Methods b)

担当者：鈴木 範子

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践

07発表

08協同学習

016振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 小学校国語科における教育目標及び学習指導要領に基づいた国語科授業の指導法と内容について理解するとともに、児童の国語学習の実態に応じた「授業づくり」を身につける。

**キーワード：** 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、書写、教材研究、授業設計、模擬授業、授業観察、学習評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 小学校国語科教育の目標や内容をふまえ、実践的な指導法を理解することができる。

**評価方法：** グループ活動およびレポート

**評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 小学校国語科教材の特色を生かした目標を設定し、児童の発達段階を想定した指導案を作成することができる。①ICTを適切に活用する力、②児童の発達や学習状況に応じた適切な言語活動を支援する力を身につける。

**評価方法：** グループ活動およびレポート

**評価割合：** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主学習および課題に対する積極的な取り組み、グループ活動への主体的な取り組みを評価の対象とする。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

特別な支援を必要とする学生に対する手助け、欠席者等に対する授業内容の情報提供およびグループ活動における発表資料の準備や連絡調整を率先して行う。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

他者の発言を傾聴し尊重する態度をとること。差別的言動をとらないこと。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第1回】オリエンテーション-授業計画・講義方法・成績評価の方法の説明-  
次回以降の課題提示  
【第2回】児童の実態と教材分析

- 【第3回】学習指導案の意義と構想
- 【第4回】学習指導案の検討ー単元の指導計画ー
- 【第5回】学習指導案の検討ー語彙指導の位置づけー
- 【第6回】学習指導案の検討ー学習課題と発問ー
- 【第7回】学習指導案の検討ー言語活動ー
- 【第8回】模擬授業の展開と指導①(※以下第12回まで2グループずつ模擬授業を行う。)
- 【第9回】模擬授業の展開と指導②
- 【第10回】模擬授業の展開と指導③
- 【第11回】模擬授業の展開と指導④
- 【第12回】模擬授業の展開と指導⑤
- 【第13回】「書くこと」の授業の構想
- 【第14回】書写授業の構想
- 【第15回】「話すこと・聞くこと」の授業の構想

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説編 国語

**予習・復習のポイントと** 【予習・復習のポイント】

**参考文献・資料等：** 授業で配布した資料を使って、次授業の課題について考えを文章にまとめる。  
参考資料：小学校学習指導要領国語編(平成29年告示)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部や担当教員まで申し出ること。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室等に対応する。曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項：** 特になし

**科目コード：**13059

**科目ナンバリング：**PE20C08K

**主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**小学校社会科研究 a(Studies in Elementary Social Studies a)

**担当者：**溜池 善裕

#### 基本情報

**年次：**2

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**月曜4限

**履修可能学科・専攻：**E Pe

**関連資格：**教職

**AL要素：**02模擬実践, 07発表, 08協働学習

**授業の概要：**【特例期間中の授業形態】課題研究型

- ・小学校社会科について、学習指導要領・教科書等と関連させながら、内容の概要を知る。
- ・内容の背景にある専門領域に関連することがらを知り、内容の理解を深める。

**キーワード：**小学校社会科、学習指導要領

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：**講義で説明した内容について理解し、それを説明することができる。

**評価方法：**調査レポート

**評価割合：**40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**実際の授業展開(発問や資料提示)に必要な教養を身につける、社会科の教材研究について考えることができる。

**評価方法：**最終レポート

**評価割合：**40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

学習することを通して理解することができることを知らなければ、教育を理解することにはなりません。そのためには、必然的に主体的に取り組むことになります。

評価割合：20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な対象とはしませんが、公正であろうとすることは、教師であるための要件でもあることから考えると、講義における様々な場面での公正さは、前提として求めます。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション  
第2回：小学校社会科の内容構造：学習指導要領と教科書  
第3回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と学習(1)  
第4回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と学習(2)  
第5回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と教材(1)  
第6回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と教材(2)  
第7回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と教材研究(1)  
第8回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と教材研究(2)  
第9回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と単元計画(1)  
第10回：小学校社会科の内容と学習：「～を通して」と単元計画(2)  
第11回：小学校社会科の内容と学習：中学年の指導内容  
第12回：小学校社会科の内容と学習：第5学年の指導内容  
第13回：小学校社会科の内容と学習：第6学年の指導内容  
第14回：小学校社会科の目標と内容の関係  
第15回：まとめ

**使用テキスト：** 文部科学省「小学校学習指導要(平成29年告示)領解説 社会編」  
※必要なものは適宜、印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業のテーマをもとに論述し、もしわからないところ等については、辞典等で調べることが望ましい。  
日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』(ぎょうせい)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。学務部にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** 欠席等の連絡は、欠席後の授業時に直接申し出てください。急な連絡は気づかないことが多いので、あらかじめ授業時に直接相談をしてください。

**留意事項：** なし

---

科目コード：13059      科目ナンバリング：PE20C08K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校社会科研究 b(Studies in Elementary Social Studies b)

担当者：溜池 善裕

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践, 07発表, 08協働学習

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

- ・小学校社会科について、学習指導要領・教科書等と関連させながら、内容の概要を知る。
- ・内容の背景にある専門領域に関連することがらを知り、内容の理解を深める。

キーワード： 小学校社会科、学習指導要領

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：講義で説明した内容について理解し、それを説明することができる。

評価方法：調査レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：実際の授業展開(発問や資料提示)に必要な教養を身につける、社会科の教材研究について考えることができる。

評価方法：最終レポート

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

学習することを通して理解することができることを知らなければ、教育を理解することにはなりません。そのためには、必然的に主体的に取り組むこととなります。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な対象とはしませんが、公正であろうとすることは、教師であるための要件でもあることから考えると、講義における様々な場面での公正さは、前提として求めます。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回:オリエンテーション  
第2回:小学校社会科の内容構造:学習指導要領と教科書  
第3回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と学習(1)  
第4回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と学習(2)  
第5回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と教材(1)  
第6回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と教材(2)  
第7回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と教材研究(1)  
第8回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と教材研究(2)  
第9回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と単元計画(1)  
第10回:小学校社会科の内容と学習:「～を通して」と単元計画(2)  
第11回:小学校社会科の内容と学習:中学年の指導内容  
第12回:小学校社会科の内容と学習:第5学年の指導内容  
第13回:小学校社会科の内容と学習:第6学年の指導内容  
第14回:小学校社会科の目標と内容の関係  
第15回:まとめ

使用テキスト： 文部科学省「小学校学習指導要(平成29年告示)領解説 社会編」

※必要なものは適宜、印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業のテーマをもとに論述し、もしわからないところ等については、辞典等で調べることが望ましい。  
日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』(ぎょうせい)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。学務部にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** 欠席等の連絡は、欠席後の授業時に直接申し出てください。急な連絡は気づかないことが多いので、あらかじめ授業時に直接相談をしてください。

**留意事項：** なし

---

**科目コード：**13060      **科目ナンバリング：**PE20C09K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**小学校社会科教育法 a(Elementary Social Studies Teaching Methods a)

**担当者：**溜池 善裕

#### 基本情報

**年次：**2

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**月曜4限

**履修可能学科・専攻：**E Pe

**関連資格：**教職

**AL要素：**02模擬実践, 11討論

**授業の概要：**・子ども達が自ら調べたり、その調べをもとに発表したりすることを通して、社会科で求められる資質・能力を獲得する中で、社会科の内容についても理解する方法について考究し、実際に模擬授業等でそれを実施する方法について、具体的な授業動画や、授業記録、子ども達のノートや作文等の具体的なものを手がかりに考え、それを模擬的に実施する。

**キーワード：**小学校社会科、学習指導要領

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：**子ども達が教科書に頼らず、またそこに書かれてある内容を鵜呑みにせず、自分で調べたり考えたりするように仕向ける具体的な技能や、それに伴う知識を身に付ける。

**評価方法：**レポート

**評価割合：**70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**子ども達の学習を通して、指導不足の資質・能力は何かを考え、それをどのような指導によって身につけさせるかについて、その場でリアルに判断し、それを具体的な指導という形で表現することができる。

**評価方法：**模擬授業

**評価割合：**30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

学習することを通して理解することができることを知らなければ、教育を理解することにはなりません。そのためには、必然的に主体的に取り組むこととなります。したがって、直接的な評価対象とはなりませんが、結果的には上記評価を通して、このことが評価されることとなります。

**評価割合：**0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

直接的な対象とはしませんが、公正であろうとすることは、教師であるための要件でもあることから考えると、講義における様々な場面での公正さは、前提として求めます。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回：教える
  - 第2回：子どもを伸ばす 社会科と子どもの成長
  - 第3回：子どもの学習を鍛える 社会科と学習指導
  - 第4回：教科をつなげる 社会科とカリキュラム・マネジメント
  - 第5回：子ども達をつなげる 社会科と学級経営
  - 第6回：子どもの集団性 公民的資質の基礎と学級集団
  - 第7回：子どもを評価する 授業と授業記録
  - 第8回：子どもを評価する 授業と発問
  - 第9回：子どもを評価する 授業とノート指導
  - 第10回：書くことと社会科 書く指導
  - 第11回：話すことと社会科 話す指導
  - 第12回：社会科と道徳指導 仲間の学習を強くする自分の学習
  - 第13回：社会科の授業研究 ICTを使う・教科書を使う
  - 第14回：教師の成長と授業 子どもに学ぶ
  - 第15回：整理と振り返り

使用テキスト： 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)領解説 社会編」  
※必要なものは適宜、印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業のテーマをもとに論述し、もしわからないところ等については、辞典等で調べることが望ましい。  
日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』(ぎょうせい)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。学務部にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： 欠席についてはメール連絡は不要です。欠席については後日、授業時に申し出てください。出欠の誤りについても同じように直接授業時に申し出るようにお願いします。急な対応はできませんので、あらかじめ授業時に直接相談をしてください。

留意事項： なし

---

科目コード：13060      科目ナンバリング：PE20C09K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 小学校社会科教育法 b(Elementary Social Studies Teaching Methods b)

担当者： 溜池 善裕

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践, 11討論

授業の概要： ・子ども達が自ら調べたり、その調べをもとに発表したりすることを通して、社会科で求められる資質・能力を獲得する中で、社会科の内容についても理解する方法について考究し、実際に模擬授業等でそれを実施する方法について、具体的な授業動画や、授業記録、子ども達のノートや作文等の具体的なものを手がかりに考え、それを模擬的に実施する。

キーワード： 小学校社会科、学習指導要領

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 子ども達が教科書に頼らず、またそこに書かれてある内容を鵜呑みにせず、自分で調べたり考えたりするように仕向ける具体的な技能や、それに伴う知識を身に付ける。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 70%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子ども達の学習を通して、指導不足の資質・能力は何かを考え、それをどのような指導によって身につけさせるかについて、その場でリアルに判断し、それを具体的な指導という形で表現することができる。

**評価方法:** 模擬授業

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

学習することを通して理解することができることを知らなければ、教育を理解することにはなりません。そのためには、必然的に主体的に取り組むこととなります。したがって、直接的な評価対象とはなりませんが、結果的には上記評価を通して、このことが評価されることとなります。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な対象とはしませんが、公正であろうとすることは、教師であるための要件でもあることから考えると、講義における様々な場面での公正さは、前提として求めます。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回: 教える
  - 第2回: 子どもを伸ばす 社会科と子どもの成長
  - 第3回: 子どもの学習を鍛える 社会科と学習指導
  - 第4回: 教科をつなげる 社会科とカリキュラム・マネジメント
  - 第5回: 子ども達をつなげる 社会科と学級経営
  - 第6回: 子どもの集団性 公民的資質の基礎と学級集団
  - 第7回: 子どもを評価する 授業と授業記録
  - 第8回: 子どもを評価する 授業と発問
  - 第9回: 子どもを評価する 授業とノート指導
  - 第10回: 書くことと社会科 書く指導
  - 第11回: 話すことと社会科 話す指導
  - 第12回: 社会科と道徳指導 仲間の学習を強くする自分の学習
  - 第13回: 社会科の授業研究 ICTを使う・教科書を使う
  - 第14回: 教師の成長と授業 子どもに学ぶ
  - 第15回: 整理と振り返り

**使用テキスト:** 文部科学省「小学校学習指導要(平成29年告示)領解説 社会編」  
※必要なものは適宜、印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業のテーマをもとに論述し、もしわからないところ等については、辞典等で調べることが望ましい。  
日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』(ぎょうせい)



**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。学務部にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** 欠席についてはメール連絡は不要です。欠席については後日、授業時に申し出てください。出欠の誤りについても同じように直接授業時に申し出るようにお願いします。急な対応はできませんので、あらかじめ授業時に直接相談をしてください。

**留意事項：** なし

---

科目コード：13061      科目ナンバリング：PE20C10K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校算数科研究 a(Studies in Elementary Math a)

担当者：佐々木 隆宏

### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：8. 協同学修

**授業の概要：** 小学校算数科の目標を踏まえ、4領域「数と計算」、「図形」、「測定/変化と関係」、「データの活用」、および数学的活動の意味を理解して、指導に活用するための資質・能力の育成を目的とする。そのためには、受講生自らが数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動を行うことが必要である。そこで、この授業では、教師にとって必要な算数に関する資質・能力を数学的活動を通して育成するような題材を各領域から選び、領域ごとに知識・技能だけではなく、その領域の考え方や学ぶことの意義について考えてもらう。したがって、単に算数や数学の問題を解く授業ではない。なお、授業は算数・数学に対して苦手意識を持つ学生にも配慮しながら行うつもりである。子供達に算数を教えるためには、まずは、教師の卵である諸君が算数を楽しむことである。この授業では、そのことを重視する。

**キーワード：** 算数、数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用、数学的活動

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 小学校算数科における4領域の内容を理解して、説明することができる。また、算数における用語や考え方を理解するとともに、計算や作図などを行うだけの技能がある。

**評価方法：** ・レポート

**評価割合：** 60%

- ・授業中の課題
- ・試験

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 現実の世界や数学の世界の問題を数学的な問題として捉え(数学化)、数学的な見方・考え方を働かせながら問題が解決できる。

**評価方法：** ・レポート

**評価割合：** 30%

- ・授業中の課題
- ・試験

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数を評価する。また、課題やレポート内容に算数・数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合：** 10%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすること

がある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特記事項なし

**評価割合：特記事項なし**

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーション
  - 第2回：算数科の目的・目標の変遷
  - 第3回：数学的な見方・考え方と数学的活動
  - 第4回：学力調査・PISA・TIMSSなどの話題
  - 第5回：「数と計算」領域 ～ 数・四則演算
  - 第6回：「数と計算」領域 ～ 小数と分数 ～
  - 第7回：「図形」領域 ～ 平面図形と空間図形 ～
  - 第8回：「図形」領域 ～ 面積と体積 ～
  - 第9回：「測定」領域
  - 第10回：「変化と関係」領域 ～ 割合・百分率・単位量あたりの大きさ～
  - 第11回：「データの活用」領域 ～ 統計量～
  - 第12回：「データの活用」領域 ～ 表やグラフ ～
  - 第13回：数学教育における今日的话题
  - 第14回：小学校プログラミング教育と算数
  - 第15回：まとめ

試験

**使用テキスト：** 『算数教育の基礎がわかる本』, 土屋修 佐々木隆宏 編著(2019), 学術図書出版.  
『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』, 文部科学省(2018), 日本文教出版.  
上記2冊は必ず使用する.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習のポイント：教科書の対応する箇所を読み、用語の意味を調べておく。  
復習のポイント：授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。  
参考資料：必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

**授業時間外の連絡手段：** 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** 特記事項なし

---

**科目コード：13061**      **科目ナンバリング：PE20C10K**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：小学校算数科研究 b(Studies in Elementary Math b)**

**担当者：佐々木 隆宏**

**基本情報**

**年次：カリキュラム**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：水曜2限**

**履修可能学科・専攻：E Pe**

**関連資格：教職**

**AL要素：8. 協同学修**

**授業の概要：** 小学校算数科の目標を踏まえ、4領域「数と計算」、「図形」、「測定/変化と関係」、「データの活用」、および数学的活動の意味を理解して、指導に活用するための資質・能力の育成を目的とする。そのためには、受講生自らが数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動を行うことが必要である。そこで、この授業では、教師にとって必要な算数に関する資質・能力を数学的活動を通して育成するような題材を各領域から選び、領域ごとに知識・技能だけでなく、その領域の考え方や学ぶことの意義について考えてもらう。したがって、単に算数や数学の問題を解く授業ではない。なお、授業は算数・数学に対して苦手意識を持つ学生にも配慮しながら行うつもりである。子供達に算数を教えるためには、まずは、教師の卵である諸君が算数を楽しむことである。この授業では、そのことを重視する。

**キーワード：** 算数、数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用、数学的活動

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 小学校算数科における4領域の内容を理解して、説明することができる。また、算数における用語や考え方を理解するとともに、計算や作図などを行うだけの技能がある。

**評価方法：** ・レポート  
・授業中の課題  
・試験

**評価割合：** 60 %

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 現実の世界や数学の世界の問題を数学的な問題として捉え(数学化)、数学的な見方・考え方を働かせながら問題が解決できる。

**評価方法：** ・レポート  
・授業中の課題  
・試験

**評価割合：** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数を評価する。また、課題やレポート内容に算数・数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合：** 10 %

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0 %

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：** 0 %

### ▼ その他

特記事項なし

**評価割合：** 特記事項なし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション  
第2回：算数科の目的・目標の変遷  
第3回：数学的な見方・考え方と数学的活動  
第4回：学力調査・PISA・TIMSSなどの話題  
第5回：「数と計算」領域 ～ 数・四則演算  
第6回：「数と計算」領域 ～ 小数と分数 ～  
第7回：「図形」領域 ～ 平面図形と空間図形 ～

- 第8回:「図形」領域 ～ 面積と体積 ～
- 第9回:「測定」領域
- 第10回:「変化と関係」領域 ～割合・百分率・単位量あたりの大きさ～
- 第11回:「データの活用」領域 ～ 統計量～
- 第12回:「データの活用」領域 ～ 表やグラフ ～
- 第13回: 数学教育における今日的话题
- 第14回: 小学校プログラミング教育と算数
- 第15回: まとめ

試験

**使用テキスト:** 『算数教育の基礎がわかる本』, 土屋修 佐々木隆宏 編著(2019), 学術図書出版.  
『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』, 文部科学省(2018), 日本文教出版.  
上記2冊は必ず使用する.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習のポイント: 教科書の対応する箇所を読み、用語の意味を調べておく。  
復習のポイント: 授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。  
参考資料 : 必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

**授業時間外の連絡手段:** 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項:** 特記事項なし

科目コード:13062      科目ナンバリング:PE20C11K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校算数科教育法 a(Elementary Math Teaching Methods a)

担当者: 佐々木 隆宏

#### 基本情報

年次:カリキュラム      単位数:2      授業形式:講義

曜時:水曜5限      履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職      AL要素: 7. 発表

**授業の概要:** 小学校算数科の目標を踏まえ、算数科の指導内容を概観し、算数の授業づくりのための具体的な方法等を学び、学習指導案を作成する。さらに作成した学習指導案を活用して模擬授業を行い、指導の実際を体験し、さらに良い授業づくりのために討論したり、あるいは授業改善のための方法を学ぶとともに、授業を観る視点、学習指導の技術、授業の改善点を明らかにして問題解決する手法などを学ぶ。

**キーワード:** 算数の授業づくり、学習指導案、模擬授業、ICT

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 算数科の目標、算数科の指導内容を理解し、説明することができる。さらに算数の授業づくりの方法等を理解し、学習指導案を作成することができる。

**評価方法:** ・ 学期末の筆記試験      **評価割合:** 40 %  
・ レポート  
・ 模擬授業

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業を観る視点や模擬授業を通して学習指導案や授業の改善点を批判的に検討し、他人の考えを理解することができるとともに、自らの考えを表現することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

学修により得た知見を模擬授業に活用することができる。また、授業をより良いものにするために調べたり、他人と話し合ったことなどをもとに自らの算数指導に活かそうとする。授業中の発言の回数と内容や、レポート、模擬授業、及びその準備段階の様子などをもとに総合的に判断する。

**評価割合:** 20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特記事項なし

**評価割合:** 特記事項なし

**授業計画:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ, レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)  
チームコードはIC-UNIPAを参照のこと。

第1回: オリエンテーション

第2回: 算数科授業の全体像(構成, 学習指導案(略案), 板書, 発問, 評価)

第3回: 模擬授業内容(算数)の理解, マイクロティーチング指導案の作成, 掲示物の作成

第4回: マイクロティーチング(1巡目)+研究協議, 授業を観る視点

第5回: マイクロティーチング(1巡目)+研究協議, 板書について

第6回: マイクロティーチングの事後研究協議, 発問について

第7回: 模擬授業内容(算数)の理解, マイクロティーチング指導案の作成, 掲示物の作成

第8回: マイクロティーチング(2巡目)+研究協議, 観点別評価について

第9回: マイクロティーチング(2巡目)+研究協議, 算数科の系統性

第10回: 指導案細案の各部の意味・意義, およびパソコンを用いた指導案作成【課題提示】

第11回: 模擬授業内容(算数)の理解, マイクロティーチング指導案の作成, 掲示物の作成

第12回: マイクロティーチング(3巡目)+研究協議, 算数科におけるユニバーサルデザイン

第13回: マイクロティーチング(3巡目)+研究協議, 発展的な考え方を誘う

第14回: 電子黒板やタブレットを用いた授業, 遠隔授業の可能性

第15回: 算数・数学教育の今日的課題と授業のまとめ

試験

**使用テキスト:** 『算数教育の基礎がわかる本』, 土屋修 佐々木隆宏 編著(2019), 学術図書出版。  
『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』, 文部科学省(2018), 日本文教出版。  
上記2冊は授業で必ず使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習のポイント: 教科書の対応する箇所を読み、用語の意味を調べておく。  
復習のポイント: 授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。  
参考資料: 必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

**授業時間外の連絡手段：** 研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** 特記事項なし

---

**科目コード：**13062      **科目ナンバリング：**PE20C11K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：** 小学校算数科教育法 b (Elementary Math Teaching Methods b)

**担当者：** 佐々木 隆宏

#### 基本情報

**年次：**カリキュラム

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**水曜1限

**履修可能学科・専攻：** E Pe

**関連資格：**教職

**AL要素：**7. 発表

**授業の概要：** 小学校算数科の目標を踏まえ、算数科の指導内容を概観し、算数の授業づくりのための具体的な方法等を学び、学習指導案を作成する。さらに作成した学習指導案を活用して模擬授業を行い、指導の実際を体験し、さらに良い授業づくりのために議論したり、あるいは授業改善のための方法を学ぶとともに、授業を観る視点、学習指導の技術、授業の改善点を明らかにして問題解決する手法などを学ぶ。

**キーワード：** 算数の授業づくり、学習指導案、模擬授業、ICT

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 算数科の目標、算数科の指導内容を理解し、説明することができる。さらに算数の授業づくりの方法等を理解し、学習指導案を作成することができる。

**評価方法：** ・ 学期末の  
筆記試験  
・ レポート  
・ 模擬授業

**評価割合：**40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業を観る視点や模擬授業を通して学習指導案や授業の改善点を批判的に検討し、他人の考えを理解することができるとともに、自らの考えを表現することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：**40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学修により得た知見を模擬授業に活用することができる。また、授業をより良いものにするために調べたり、他人と話し合ったことなどをもとに自らの算数指導に活かそうとする。授業中の発言の回数と内容や、レポート、模擬授業、及びその準備段階の様子などをもとに総合的に判断する。

**評価割合：**20%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：**0%

##### ▼ その他

特記事項なし

評価割合：特記事項なし

授業計画：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ，レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)  
チームコードはIC-UNIPAを参照のこと。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：算数科授業の全体像(構成，学習指導案(略案)，板書，発問，評価)
- 第3回：模擬授業内容(算数)の理解，マイクロティーチング指導案の作成，掲示物の作成
- 第4回：マイクロティーチング(1巡目)＋研究協議，授業を観る視点
- 第5回：マイクロティーチング(1巡目)＋研究協議，板書について
- 第6回：マイクロティーチングの事後研究協議，発問について
- 第7回：模擬授業内容(算数)の理解，マイクロティーチング指導案の作成，掲示物の作成
- 第8回：マイクロティーチング(2巡目)＋研究協議，観点別評価について
- 第9回：マイクロティーチング(2巡目)＋研究協議，算数科の系統性
- 第10回：指導案細案の各部の意味・意義，およびパソコンを用いた指導案作成【課題提示】
- 第11回：模擬授業内容(算数)の理解，マイクロティーチング指導案の作成，掲示物の作成
- 第12回：マイクロティーチング(3巡目)＋研究協議，算数科におけるユニバーサルデザイン
- 第13回：マイクロティーチング(3巡目)＋研究協議，発展的な考え方を誘う
- 第14回：電子黒板やタブレットを用いた授業，遠隔授業の可能性
- 第15回：算数・数学教育の今日的課題と授業のまとめ

試験

使用テキスト：『算数教育の基礎がわかる本』，土屋修 佐々木隆宏 編著(2019)，学術図書出版。  
『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』，文部科学省(2018)，日本文教出版。  
上記2冊は授業で必ず使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：予習のポイント：教科書の対応する箇所を読み、用語の意味を調べておく。  
復習のポイント：授業で扱った用語や考え方を説明できるようにする。  
参考資料：必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。

授業時間外の連絡手段：研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

留意事項：特記事項なし

---

科目コード：13063      科目ナンバリング：PE20C12K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校理科研究 a(Studies in Elementary Science a)

担当者：上栗 伸一、宮本 直樹

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：08.協同学修11.討論  
17.発問と回答

授業の概要：小学校学習指導要領理科の内容を踏まえて、小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識を獲得することを目的とします。具体的には、小学校学習指導要領理科の内容区分(物質・エネルギー・生命・地球)ごとに、自然科学の基礎的知識を獲得します。さらに、小学校理科授業の見方・考え方や、安全指導に関する観察、実験の基礎的知識の獲得も目的とします。なお、小学校教員としての実務経験を活かし、必要に応じて理科授業の実際を

紹介しながら理解を深めていきます。

**キーワード：** 小学校理科、基礎的知識、物質、エネルギー、生命、地球、理科の見方・考え方、安全指導

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 講義で説明を受けた小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識について記述することができる。

**評価方法：** 毎回のレポート

**評価割合：** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義で説明を受けた小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識や自主学習によって得られた知見を記述することができる。

**評価方法：** 毎回のレポート

**評価割合：** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価対象としない。小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識の構築のためには、自ずと主体的に取り組む態度が必要となる。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的には評価対象としない。ただし、ボランティア活動等によって深められた知見や実践力は、教員として勤務する際に大いに役立つものである。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的には、評価対象としない。講義においては、互いの意見の共通点や相違点について交換し、公正性をもって取り組むことが重要である。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

- 第1回:物質Ⅰ-物質の構造、物質の三態(授業概要説明含む)(宮本)
- 第2回:物質Ⅱ-溶解と溶液、水溶液の性質(宮本)
- 第3回:物質Ⅲ-燃焼と酸化、化学変化の法則(宮本)
- 第4回:エネルギーⅠ-風とゴムの働き(宮本)
- 第5回:エネルギーⅡ-光と音の性質、磁石の性質(宮本)
- 第6回:エネルギーⅢ-槌子の原理、単振り子の動き(宮本)
- 第7回:エネルギーⅣ-電気の働き、電気によるエネルギー変換(宮本)
- 第8回:生命Ⅰ-生物の構造と機能(上栗)
- 第9回:生命Ⅱ-生命の連続性(上栗)
- 第10回:生命Ⅲ-生物と環境の関わり(上栗)
- 第11回:地球Ⅰ-地球の内部と地表面の変動(上栗)
- 第12回:地球Ⅱ-地球の大気と水の循環(上栗)
- 第13回:地球Ⅲ-地球と天体の運動(上栗)
- 第14回:理科の見方と考え方(上栗)
- 第15回:理科における安全教育(まとめ含む)(上栗)

**使用テキスト：** 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編」、文部科学省、2018、東洋館出版社。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業の性質上、授業時間外の主体的な学習(レポート作成)が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと(90分)。



**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 必要な際には学務部へ問い合わせてください。

**留意事項:** 開始時刻に遅刻しないでください。

---

科目コード:13063      科目ナンバリング:PE20C12K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校理科研究 b(Studies in Elementary Science b)

担当者: 上栗 伸一、宮本 直樹

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:集中講義

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素: 08.協同学修11.討論  
17.発問と回答

**授業の概要:** 小学校学習指導要領理科の内容を踏まえて、小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識を獲得することを目的とします。具体的には、小学校学習指導要領理科の内容区分(物質・エネルギー・生命・地球)ごとに、自然科学の基礎的知識を獲得します。さらに、小学校理科授業の見方・考え方や、安全指導に関する観察、実験の基礎的知識の獲得も目的とします。なお、小学校教員としての実務経験を活かし、必要に応じて理科授業の実際を紹介しながら理解を深めていきます。

**キーワード:** 小学校理科、基礎的知識、物質、エネルギー、生命、地球、理科の見方・考え方、安全指導

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 講義で説明を受けた小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識について記述することができる。

**評価方法:** 毎回のレポート

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 講義で説明を受けた小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識や自主学習によって得られた知見を記述することができる。

**評価方法:** 毎回のレポート

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価対象としない。小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識の構築のためには、自ずと主体的に取り組む態度が必要となる。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的には評価対象としない。ただし、ボランティア活動等によって深められた知見や実践力は、教員として勤務する際に大いに役立つものである。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的には、評価対象としない。講義においては、互いの意見の共通点や相違点について交換し、公正性をもって取り組むことが重要である。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：物質Ⅰ-物質の構造、物質の三態(授業概要説明含む)(宮本)  
第2回：物質Ⅱ-溶解と溶液、水溶液の性質(宮本)  
第3回：物質Ⅲ-燃焼と酸化、化学変化の法則(宮本)  
第4回：エネルギーⅠ-風とゴムの働き(宮本)  
第5回：エネルギーⅡ-光と音の性質、磁石の性質(宮本)  
第6回：エネルギーⅢ-槌子の原理、単振り子の動き(宮本)  
第7回：エネルギーⅣ-電気の働き、電気によるエネルギー変換(宮本)  
第8回：生命Ⅰ-生物の構造と機能(上栗)  
第9回：生命Ⅱ-生命の連続性(上栗)  
第10回：生命Ⅲ-生物と環境の関わり(上栗)  
第11回：地球Ⅰ-地球の内部と地表面の変動(上栗)  
第12回：地球Ⅱ-地球の大気と水の循環(上栗)  
第13回：地球Ⅲ-地球と天体の運動(上栗)  
第14回：理科の見方と考え方(上栗)  
第15回：理科における安全教育(まとめ含む)(上栗)

使用テキスト：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編」、文部科学省、2018、東洋館出版社。

予習・復習のポイントと 授業の性質上、授業時間外の主体的な学習(レポート作成)が必要となるので積極的に予  
参考文献・資料等： 習・復習に取り組むこと(90分)。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 必要な際には学務部へ問い合わせてください。

留意事項： 開始時刻に遅刻しないでください。

---

科目コード：13064      科目ナンバリング：PE20C13K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校理科教育法 a(Elementary Science Teaching Methods a)

担当者：宮本 直樹

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02.模擬実践08.協同学修11.討論  
17.発問と回答

授業の概要： 小学校理科教育の基礎について理解を図ります。具体的には、小学校学習指導要領理科編の歴史的変遷や現行の小学校学習指導要領理科編の目的・目標、科学的リテラシー及び小学校理科の指導法、評価法について理解を図ります。さらに、児童の理科学力の現状と課題、特に課題となっている理科を学ぶ意義や理科学習の有用性の実感について説明し、自然体験・科学体験を促す教材研究と活用について検討します。そして、各学年の「見方・考え方」の育成法やA区分(エネルギー・粒子)、B区分(生命・地球)の指導法について説明をします。加えて、評価法やICTの活用の仕方の説明を行います。また、観察や実験、観測の安全指導(試薬の保管・管理、実験器具の基本操作等)についても触れます。なお、小学校教員としての実務経験を活かし、必要に応じて理科授業の実際を紹介しながら理解を深めていきます。

キーワード： 小学校理科の指導法、理科学力の現状、科学的リテラシー、学ぶ意義、ICT、安全指導、評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標： 講義で説明を受けた理科教育の基本的な事項について記述することができる。

評価方法：毎回のレポート

評価割合：50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：講義で説明を受けた小学校理科教育の基本的な事項や自主学習によって得られた知見を踏まえて、小学校の理科授業の指導法について考察し、記述することができる。

評価方法：毎回のレポート

評価割合：50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価対象としない。小学校理科の授業づくりは、自らが工夫して創造的に作り上げていくものであり、自ずと主体的に取り組む態度が必要となる。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的には評価対象としない。ただし、ボランティア活動等によって深められた知見や実践力は、教員として勤務する際に大いに役立つものである。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的には、評価対象としない。講義においては、互いの意見の共通点や相違点について交換し、公正性をもって取り組むことが重要である。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回:小学校学習指導要領理科編の歴史の変遷(授業概要説明含む)
  - 第2回:小学校理科の目的・目標と科学リテラシー
  - 第3回:児童の理科学力の現状と課題
  - 第4回:理科を学ぶ意義と理科学習の有用性
  - 第5回:児童の自然体験・科学体験を促す教材研究と活用
  - 第6回:小学校学習指導要領理科編A区分(物質・エネルギー)の指導法
  - 第7回:小学校学習指導要領理科編B区分(生命・地球)の指導法
  - 第8回:小学校理科の「見方・考え方」を育成する指導法
  - 第9回:ICTを利用した授業体験
  - 第10回:小学校理科における観察や実験、観測の安全指導
  - 第11回:小学校理科の評価法
  - 第12回:小学校理科授業の視聴と検討
  - 第13回:小学校理科学習指導案の作成
  - 第14回:小学校理科学習指導案の検討
  - 第15回:小学校理科の模擬授業

使用テキスト： ・「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編」、文部科学省、2018、東洋館出版社。  
・「初等理科教育」、大高泉編著、2018、ミネルヴァ書房。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の性質上、授業時間外の主体的な学習(レポート作成、指導案作成)が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと(90分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 必要な際には学務部へ問い合わせてください。

留意事項： 開始時刻に遅刻しないでください。

---

科目コード：13064

科目ナンバリング：PE20C13K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校理科教育法 b(Elementary Science Teaching Methods b)

---

**担当者：** 宮本 直樹

## 基本情報

**年次：**カリキュラム

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**前期(集中講義)、後期(集中講義)

**履修可能学科・専攻：** E Pe

**関連資格：**教職

**AL要素：** 02.模擬実践08.協同学修11.討論  
17.発問と回答

**授業の概要：** 小学校理科教育の基礎について理解を図ります。具体的には、小学校学習指導要領理科編の歴史的変遷や現行の小学校学習指導要領理科編の目的・目標、科学的リテラシー及び小学校理科の指導法、評価法について理解を図ります。さらに、児童の理科学力の現状と課題、特に課題となっている理科を学ぶ意義や理科学習の有用性の実感について説明し、自然体験・科学体験を促す教材研究と活用について検討します。そして、各学年の「見方・考え方」の育成法やA区分(エネルギー・粒子)、B区分(生命・地球)の指導法について説明をします。加えて、評価法やICTの活用の仕方の説明を行います。また、観察や実験、観測の安全指導(試薬の保管・管理、実験器具の基本操作等)についても触れます。なお、小学校教員としての実務経験を活かし、必要に応じて理科授業の実際を紹介しながら理解を深めていきます。

**キーワード：** 小学校理科の指導法、理科学力の現状、科学的リテラシー、学ぶ意義、ICT、安全指導、評価

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 講義で説明を受けた理科教育の基本的な事項について記述することができる。

**評価方法：** 毎回のレポート

**評価割合：** 50%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義で説明を受けた小学校理科教育の基本的な事項や自主学習によって得られた知見を踏まえて、小学校の理科授業の指導法について考察し、記述することができる。

**評価方法：** 毎回のレポート

**評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的には評価対象としない。小学校理科の授業づくりは、自らが工夫して創造的に作り上げていくものであり、自ずと主体的に取り組む態度が必要となる。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的には評価対象としない。ただし、ボランティア活動等によって深められた知見や実践力は、教員として勤務する際に大いに役立つものである。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的には、評価対象としない。講義においては、互いの意見の共通点や相違点について交換し、公正性をもって取り組むことが重要である。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回:小学校学習指導要領理科編の歴史的変遷(授業概要説明含む)

第2回:小学校理科の目的・目標と科学リテラシー

第3回:児童の理科学力の現状と課題

- 第4回:理科を学ぶ意義と理科学習の有用性
- 第5回:児童の自然体験・科学体験を促す教材研究と活用
- 第6回:小学校学習指導要領理科編A区分(物質・エネルギー)の指導法
- 第7回:小学校学習指導要領理科編B区分(生命・地球)の指導法
- 第8回:小学校理科の「見方・考え方」を育成する指導法
- 第9回:ICTを利用した授業体験
- 第10回:小学校理科における観察や実験、観測の安全指導
- 第11回:小学校理科の評価法
- 第12回:小学校理科授業の視聴と検討
- 第13回:小学校理科学習指導案の作成
- 第14回:小学校理科学習指導案の検討
- 第15回:小学校理科の模擬授業

**使用テキスト:** ・「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編」、文部科学省、2018、東洋館出版社。  
 ・「初等理科教育」、大高泉編著、2018、ミネルヴァ書房。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業の性質上、授業時間外の主体的な学習(レポート作成、指導案作成)が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと(90分)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 必要な際には学務部へ問い合わせてください。

**留意事項:** 開始時刻に遅刻しないでください。

**科目コード:** 13065      **科目ナンバリング:** PE20C14K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 小学校生活科研究 a (Studies in Elementary Life Studies a)

**担当者:** 久松 正樹

**基本情報**

<b>年次:</b> カリキュラム	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 月曜1限		<b>履修可能学科・専攻:</b> Pe
<b>関連資格:</b> 教職		<b>AL要素:</b> 03
		07
		08
		10
		11
		16
		17

**授業の概要:** 学習指導要領生活科の目標は「具体的な活動や体験」を通して、「身近な人々、社会及び自然とのかかわり」に関心をもち「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことを目指しています。そこで本講義では、「身近な人々、社会及び自然とのかかわる活動に関する内容」において、“自然の見方”“社会とのかかわり”“物づくり”について、生物学的、社会学的視点から見方・考え方を深めていきます。併せて授業を組み立てる際に必要な教材・素材に実際に触れ、その特徴を抑えていきます。

**キーワード:** 見方・考え方 自然の見方 社会とのかかわり 物づくり 体験活動

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 生活科の授業に必要な基礎知識を理解し、授業展開に必要な教材・素材を選択することができる。

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 70%  
 定期試験

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で履修したことや自学自修で学んだことを基に、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自分の考えを様々な方法で表現し伝えることができる。

**評価方法:** 提出物  
定期試験

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能について履修した内容以外にも興味関心を広げようとする態度が見られる場合は加点する。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などに積極的にに関わり、提出物や定期試験の記述内容に認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」に加点する。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動がとれるようにする。不適切な行動が見られた場合は、減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 01 生活科とは(生活科の目標、理科、社会との違い、学習指導要領)
  - 02 教科書を見てみよう(教科書の内容分析)  
学校の1日、自己紹介、学校ルール(小一プロブレム、保幼小連携プログラム)
  - 03 分類とは(分類の基礎、動物と植物)
  - 04 春の植物・動物、生きものあそび(春の生きものの種類や生態)
  - 05 花や野菜となかよし(野菜の種類、野菜の育て方、畑について、里山について)
  - 06 学校探検、町探検(学校の施設、交通安全の基礎、地図の基礎知識)
  - 07 昆虫の見分け方(昆虫の分類、検索表の使い方)
  - 08 昆虫の一生、不思議な生態(ハチ、セミ、カブトムシ、モンシロチョウほか)
  - 09 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.1 紙コップ ストロー
  - 10 雨の日発見(天気について、水の行方、池や川の生きもの)
  - 11 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.2 割りばし 空き缶
  - 12 身近な生きもの(カタツムリ、ダンゴムシ、ザリガニ)の飼い方(危険な生きもの)
  - 13 おもちゃづくり(身近なものを利用して)No.3 新聞紙 ペットボトル その他
  - 14 夏、秋、冬の学習(季節による生き物、四季の変化、雪や氷の話、冬の生き物)
  - 15 いろいろなあそび(折り紙、むかしあそび)
- 定期試験

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は、印刷・配布する。タブレット、携帯電話の検索機能やカメラを利用し、授業の提出物を作成してもらう。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 大学設置基準により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。内容については授業の進行に合わせて提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 担当者と直接相談してください。

**授業時間外の連絡手段:** 学務課にお問い合わせください。

**留意事項:** なし

科目コード:13065      科目ナンバリング:PE20C14K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校生活科研究 b(Studies in Elementary Life Studies b)

担当者: 久松 正樹

#### 基本情報

年次:カリキュラム      単位数:2      授業形式:講義

曜時:月曜2限      履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職      AL要素: 03

07

08

10

11

16

17

**授業の概要:** 学習指導要領生活科の目標は「具体的な活動や体験」を通して、「身近な人々、社会及び自然とのかかわり」に関心をもち「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことを目指しています。そこで本講義では、「身近な人々、社会及び自然とのかかわる活動に関する内容」において、“自然の見方”“社会とのかかわり”“物づくり”について、生物学的、社会学的視点から見方・考え方を深めていきます。併せて授業を組み立てる際に必要な教材・素材に実際に触れ、その特徴を抑えていきます。

**キーワード:** 見方・考え方 自然の見方 社会とのかかわり 物づくり 体験活動

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 生活科の授業に必要な基礎知識を理解し、授業展開に必要な教材・素材を選択することができる。

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 70%  
定期試験

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で履修したことや自学自修で学んだことを基に、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自分の考えを様々な方法で表現し伝えることができる。

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 30%  
定期試験

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能について履修した内容以外にも興味関心を広げようとする態度が見られる場合は加点する。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などに積極的に関わり、提出物や定期試験の記述内容に認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」に加点する。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動がとれるようにする。不適切な行動が見られた場合は、減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 01 生活科とは(生活科の目標、理科、社会との違い、学習指導要領)  
02 教科書を見てみよう(教科書の内容分析)  
学校の1日、自己紹介、学校ルール(小一プロブレム、保幼小連携プログラム)  
03 分類とは(分類の基礎、動物と植物)  
04 春の植物・動物、生きものあそび(春の生きものの種類や生態)  
05 花や野菜となかよし(野菜の種類、野菜の育て方、畑について、里山について)  
06 学校探検、町探検(学校の施設、交通安全の基礎、地図の基礎知識)  
07 昆虫の見分け方(昆虫の分類、検索表の使い方)  
08 昆虫の一生、不思議な生態(ハチ、セミ、カブトムシ、モンシロチョウほか)  
09 おもちやづくり(身近なものを利用して)No.1 紙コップ ストロー  
10 雨の日発見(天気について、水の行方、池や川の生きもの)  
11 おもちやづくり(身近なものを利用して)No.2 割りばし 空き缶  
12 身近な生きもの(カタツムリ、ダンゴムシ、ザリガニ)の飼い方(危険な生きもの)  
13 おもちやづくり(身近なものを利用して)No.3 新聞紙 ペットボトル その他  
14 夏、秋、冬の学習(季節による生き物、四季の変化、雪や氷の話、冬の生き物)  
15 いろいろなあそび(折り紙、むかしあそび)  
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は、印刷・配布する。タブレット、携帯電話の検索機能やカメラを利用し、授業の提出物を作成してもらう。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。内容については授業の進行に合わせて提示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務課に問い合わせてください。

留意事項： なし

---

科目コード：13066      科目ナンバリング：PE20C15K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 小学校生活科教育法 a(Elementary Life Studies Teaching Methods a)

担当者： 鈴木 克彦

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：教職

AL要素： 02

07

08

10

11

16

17

授業の概要： 生活科の目標は、単に低学年の児童だけの問題ではなく、学校教育全般や日常生活にわたる問題でもある。「楽しく学ぶ生活科」の授業づくりを目指して、様々な教材、教具、情報機器などを紹介し、授業の在り方について検討する。また、よりよい指導案の作成の仕方について知り、模擬授業も展開していく。



**キーワード：** 授業構想 指導案の作成 効果的な資料の利用 生活科における見方・考え方

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 生活科の意義や目標、教育課程における役割について理解する。

**評価方法：** 定期試験  
提出物  
感想カードなど

**評価割合：** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業内容をもとに、さらに自分自身の興味関心を深めることができる。

**評価方法：** 定期試験  
提出物  
感想カードなど

**評価割合：** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

毎時間の感想表の提出、授業に対する意欲的・探究的な内容や活動等については、授業に対する主体的態度を評価に加味する。

**評価割合：** 10%

### ▼実践的ボランティア

毎時間の感想表の提出、授業に対する意欲的・探究的な内容や活動等については、授業に対する主体的態度を評価に加味する。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

授業中や筆記試験、提出物中における人権にかかわること及び不正行為は減点、嚴重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. はじめに
  2. 学習指導要領—指導計画の作成と内容の取扱い(情報機器を含む)を中心に—
  3. 内容(1)「学校」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  4. 内容(2)「家庭」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  5. 内容(3)「地域」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  6. 内容(4)「公共」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  7. 内容(5)「季節」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  8. 内容(6)「物づくり」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  9. 内容(7)「生き物」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  10. 内容(8)「交流」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  11. 内容(9)「成長」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  12. 指導案作成と模擬授業、第1～3グループ(グループワーク)
  13. 指導案作成と模擬授業、第4～6グループ(グループワーク)
  14. 指導案作成と模擬授業、第7～9グループ(グループワーク)
  15. まとめ  
定期試験

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領  
小学校学習指導要領解説生活編

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習では、わかる範囲で疑問を明らかにしておき、復習では、授業の内容の振り返りとともに、課題がある場合は遅滞なく提出できるようにする。また、自学自習し、より理解を深めるようにしたい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせる。

留意事項: 特になし

---

科目コード:13066      科目ナンバリング:PE20C15K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校生活科教育法 b(Elementary Life Studies Teaching Methods b)

担当者: 鈴木 克彦

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 02

07

08

10

11

16

17

**授業の概要:** 生活科の目標は、単に低学年の児童だけの問題ではなく、学校教育全般や日常生活にわたる問題でもある。「楽しく学ぶ生活科」の授業づくりを目指して、様々な教材、教具、情報機器などを紹介し、授業の在り方について検討する。また、よりよい指導案の作成の仕方について知り、模擬授業も展開していく。

**キーワード:** 授業構想 指導案の作成 効果的な資料の利用 生活科における見方・考え方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 生活科の目標を理解し、「楽しく学ぶ生活科」を目指して、授業づくりができる。

**評価方法:** 定期試験

**評価割合:** 60%

提出物

感想カードなど

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業内容をもとに、さらに自分自身の興味関心を深めることができる。

**評価方法:** 定期試験

**評価割合:** 80%

提出物

感想カードなど

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

毎時間の感想表の提出、授業に対する意欲的・探究的な内容や活動等については、授業に対する主体的態度を評価に加味する。

**評価割合:** 10%

##### ▼実践的ボランティア

毎時間の感想表の提出、授業に対する意欲的・探究的な内容や活動等については、授業に対する主体的態度を評価に加味する。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

授業中や筆記試験、提出物中における人権にかかわること及び不正行為は減点、嚴重注意の対象とな

る。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. はじめに
  2. 学習指導要領—指導計画の作成と内容の取扱い(情報機器を含む)を中心に—
  3. 内容(1)「学校」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  4. 内容(2)「家庭」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  5. 内容(3)「地域」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  6. 内容(4)「公共」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  7. 内容(5)「季節」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  8. 内容(6)「物づくり」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  9. 内容(7)「生き物」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  10. 内容(8)「交流」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  11. 内容(9)「成長」の単元構成、指導案、授業記録、児童の活動
  12. 指導案作成と模擬授業、第1～3グループ(グループワーク)
  13. 指導案作成と模擬授業、第4～6グループ(グループワーク)
  14. 指導案作成と模擬授業、第7～9グループ(グループワーク)
  15. まとめ  
定期試験

使用テキスト： 小学校学習指導要領  
小学校学習指導要領解説生活編

予習・復習のポイントと 予習では、わかる範囲で疑問を明らかにしておき、復習では、授業の内容の振り返りとともに  
参考文献・資料等： に、課題がある場合は遅滞なく提出できるようにする。また、自学自習し、より理解を深めるようにしたい。

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせる。

留意事項：  
特になし

---

科目コード：13067      科目ナンバリング：PE20C02K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 小学校音楽科教育法(Elementary Music Teaching Methods)

担当者： 鈴木 範之

基本情報

年次：カリキュラム      単位数：2      授業形式：講義

曜時：月曜2限      履修可能学科・専攻： E Pe

関連資格：教職      AL要素：02. 模擬実践

授業の概要： 小学校音楽科の目標、内容、教材、指導法、評価についての理解を深め、学習指導案の作成を行い、模擬授業を実施します。また、音楽科授業を実践するために必要な音楽の基礎的な知識と技能を習得していきます。小学校音楽科の内容である表現、鑑賞、共通事項などを扱い、児童の発達段階に即した具体的な指導のあり方について理解を深めていきます。

キーワード： 小学校音楽科 学習指導要領 学習指導案 模擬授業

学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説した小学校音楽科の目標、指導内容、指導法等について、概ね80%理解している。  
リコーダーの基礎技能を習得している。

**評価方法:** 確認テスト  
実技試験  
小論文

**評価割合:** 70%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った学習内容をもとに、自主学修によって得た内容を踏まえて、思考・判断し、創意工夫を加えて学習指導案を作成することができる。  
作成した学習指導案をもとに、模擬授業に協調して意欲的に取り組むことができる。

**評価方法:** 学習指導案  
模擬授業

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、授業中や前後に学修に主体的に取り組む態度が、学習指導案の記述に成果等として認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業中の言動等に成果として認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

授業中等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られた場合は、減点の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
1. ガイダンス／授業の概説
  2. 小学校音楽科の意義および指導内容
  3. 小学校音楽科の学習指導計画／学習指導案の作成
  4. 小学校音楽科の評価
  5. 歌唱の学習と指導(1) 歌唱の意義と留意点
  6. 歌唱の学習と指導(2) 歌唱教材研究
  7. 器楽の学習と指導(1) 器楽の意義と留意点 ※ソプラノ・リコーダー準備
  8. 器楽の学習と指導(2) 器楽教材研究 ※ソプラノ・リコーダー準備
  9. 音楽づくりの学習と指導(1) 音楽づくりの意義と留意点
  10. 音楽づくりの学習と指導(2) 指導法
  11. 鑑賞の学習と指導
  12. 模擬授業(1) 歌唱を中心とした音楽授業づくり
  13. 模擬授業(2) 器楽を中心とした音楽授業づくり
  14. 模擬授業(3) 音楽づくり・鑑賞を中心とした音楽授業づくり
  15. 授業のまとめー音楽科教育の今日的課題について

**使用テキスト:** 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編 一平成29年7月』(東洋館出版社、2018)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**  
・授業後に配付資料について学習内容の要点をまとめるとともに、次回の学習内容について指示されたテキストのページを読んでおくこと。(90分)  
・取り扱った教材曲等について、歌や器楽、ピアノ伴奏の実技面も練習を重ね復習しておくこと。(90分)

・参考資料等は、随時配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** あらかじめソプラノ・リコーダーを準備し、運指や奏法について復習しておくこと。  
初回からテキストを使用するので、必ず持参すること。

---

科目コード：13068      科目ナンバリング：PE20C03K      主な使用言語：||日本語

授業名(英文)：小学校図工科教育法 a(Elementary Arts and Crafts Teaching Methods a)

担当者：小林 信悟

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：02.模擬実践

03.実験・実技・体験

07.発表

08.協同学修

10.資料調査課題

15.レポート指導

17.発問と回答

#### 授業の概要：

学習指導要領を概説し、次に具体的な事例及び展開をはかっています。  
図画工作の「表現」は、材料を探す、身近にあるものを使う、自分で考えいつく、それらの行為全てに目配りがなされています。作品のみならず、その制作過程に目を向け意味を探ることが、育むこと「つくりだす喜び」への支援へ繋がると考えます。そして「鑑賞」は、作品を通しての他者理解です。互いに感想を述べ合い、好感や理解を深めます。作品を理解しようとする眼差しは、児童期の絵に固有性と子どもの心情の発露を発見します。育みの中の容認性と美的規範の関係も意図したいと思います。素材は、皆さんが実践済み・実践する作品です。リアリテイーと臨場感に誘導されながら、班単位での発表を交え『小学校学習指導要領 図画工作編』の理解と具現化をめざします。

#### キーワード：

表現、鑑賞、創造、発想、構想、感性、情操

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説・展開した内容について、概ね80%各自の記述や課題に反映することができる。

**評価方法：** 単元毎の課題

**評価割合：80%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・取組、各自の記述や課題を一層深化・表現することができる。

**評価方法：** 単元毎の課題

**評価割合：20%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や課題の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、各自の記述や課題の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、課題において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回：①「作品を見る各自の視点と共有化」美術Ⅰ・Ⅱ 自分たちの作品を第一印象で選択（考察に向けてのデータ集積）  
②情報機器による「自然物を使った総合学習を含む発表」・「小石活動の計画表作成、事故防止、地域を知る」
  - 第2回：『学習指導要領・図画工作編』の概説及び把握方法
  - 第3回：情報機器及び教材の効果的な活用法と理解
  - 第4回：学習指導案の作成『学習指導要領・図画工作編』
  - 第5回：模擬授業（小石の再現：制作 情報機器による）
  - 第6回：模擬授業の振り返り（自然と再現：真贋判定 情報機器による）
  - 第7回：見立て：①自然性と写実性の関係 ②無機物質と有機物質の反転関係 発表
  - 第8回：自分たちの作品の仕組み：構成美8要素
  - 第9回：第一印象なる視点の位置付け及び一般的美的価値観と子ども
  - 第10回：対極的解釈：否定的解釈と肯定的解釈
  - 第11回：白紙の解釈：①形容詞相当と名詞相当 ②悪しき様から善き様への転生 発表
  - 第12回：創造（はじめてつくる）とは：椅子の新解釈 発表
  - 第13回：コメント力を鍛える：①単独作品 ②複数作品 発表
  - 第14回：児童画の発達段階・各段階の特徴的図法の意味：『子どもの絵』ローエンフェルド 白揚社
  - 第15回：①児童画への理解と擁護 ②心情「をかし・あはれ」  
定期試験は実施せず、「内容毎の提出物」及び「最終レポート」

**使用テキスト：**

- ・関連プリント配布
- ・関連映像上映

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 配付資料について課題の際、利用するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。下記の参考資料を推薦する。  
『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成29年3月告示 文部科学省）日本文教出版  
『子どもの絵』ローエンフェルド 1988 白揚社（関係部分、プリント配付）  
『森の標本箱1. 2. 3』矢野正 1996 小学館（関係部分、プリント配付）

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項：**

- ・単元毎の課題とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・班単位での活動立案、制作台・道具の使用、材料の配分、発表があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性がります。

---

科目コード：13068

科目ナンバリング：PE20C03K

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 小学校図工科教育法 b(Elementary Arts and Crafts Teaching Methods b)

担当者: 小林 信悟

### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素:

- 02.模擬実践
- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導
- 17.発問と回答

### 授業の概要:

学習指導要領を概説し、次に具体的な事例及び展開をはかっていきます。  
図画工作の「表現」は、材料を探す、身近にあるものを使う、自分で考え思いつく、それらの行為全てに目配りがなされています。作品のみならず、その制作過程に目を向け意味を探ることが、育むこと「つくりだす喜び」への支援へ繋がると考えます。そして「鑑賞」は、作品を通しての他者理解です。互いに感想を述べ合い、好感や理解を深めます。作品を理解しようとする眼差しは、児童期の絵に固有性と子どもの心情の発露を発見します。育みの中の容認性と美的規範の関係も意図としたいと思います。素材は、皆さんが実践済み・実践する作品です。リアリティーと臨場感に誘導されながら、班単位での発表を交え『小学校学習指導要領 図画工作編』の理解と具現化をめざします。

キーワード: 表現、鑑賞、創造、発想、構想、感性、情操

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

##### 到達目標:

授業で解説・展開した内容について、概ね80%各自の記述や課題に反映することができる。

##### 評価方法:

評価割合:80%

単元毎の課題

#### ▼思考力・判断力・表現力

##### 到達目標:

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・取組、各自の記述や課題を一層深化・表現することができる。

##### 評価方法:

評価割合:20%

単元毎の課題

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や課題の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、各自の記述

や課題の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、課題において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

#### 授業計画：

- 第1回：①「作品を見る各自の視点と共有化」美術Ⅰ・Ⅱ自分たちの作品を第一印象で選択（考察に向けてのデータ集積）  
②情報機器による「自然物を使った総合学習を含む発表」・「小石活動の計画表作成、事故防止、地域を知る」
- 第2回：『学習指導要領・図画工作編』の概説及び把握方法
- 第3回：情報機器及び教材の効果的な活用法と理解
- 第4回：学習指導案の作成『学習指導要領・図画工作編』
- 第5回：模擬授業（小石の再現：制作 情報機器による）
- 第6回：模擬授業の振り返り（自然と再現：真贋判定 情報機器による）
- 第7回：見立て：①自然性と写実性の関係 ②無機物質と有機物質の反転関係 発表
- 第8回：自分たちの作品の仕組み：構成美8要素
- 第9回：第一印象なる視点の位置付け及び一般的美的価値観と子ども
- 第10回：対極的解釈：否定的解釈と肯定的解釈
- 第11回：白紙の解釈：①形容詞相当と名詞相当 ②悪しき様から善き様への転生 発表
- 第12回：創造（はじめてつくる）とは：椅子の新解釈 発表
- 第13回：コメント力を鍛える：①単独作品 ②複数作品 発表
- 第14回：児童画の発達段階・各段階の特徴的図法の意味：『子どもの絵』ローエンフェルト 白揚社
- 第15回：①児童画への理解と擁護 ②心情「をかし・あはれ」  
定期試験は実施せず、「内容毎の提出物」及び「最終レポート」

#### 使用テキスト：

- ・関連プリント配布
- ・関連映像上映

#### 予習・復習のポイントと

#### 参考文献・資料等：

配付資料について課題の際、利用するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。下記の参考資料を推薦する。  
『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成29年3月告示 文部科学省）日本文教出版  
『子どもの絵』ローエンフェルト 1988 白揚社（関係部分、プリント配付）  
『森の標本箱1. 2. 3』矢野正 1996 小学館（関係部分、プリント配付）

#### 障がいのある

#### 履修者への対応：

可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい

#### 授業時間外の連絡手段：

オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

#### 留意事項：

- ・単元毎の課題とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・班単位での活動立案、制作台・道具の使用、材料の配分、発表があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。



・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

科目コード:13068 科目ナンバリング:PE20C03K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校図工科教育法 c(Elementary Arts and Crafts Teaching Methods c)

担当者: 小林 信悟

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素:

- 02.模擬実践
- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導
- 17.発問と回答

#### 授業の概要:

学習指導要領を概説し、次に具体的な事例及び展開をはかっていきます。  
図画工作の「表現」は、材料を探す、身近にあるものを使う、自分で考え思いつく、それらの行為全てに目配りがなされています。作品のみならず、その制作過程に目を向け意味を探ることが、育むこと「つくりだす喜び」への支援へ繋がると考えます。そして「鑑賞」は、作品を通しての他者理解です。互いに感想を述べ合い、好感や理解を深めます。作品を理解しようとする眼差しは、児童期の絵に固有性と子どもの心情の発露を発見します。育みの中の容認性と美的規範の関係も意図したいと思います。素材は、皆さんが実践済み・実践する作品です。リアリティーと臨場感に誘導されながら、班単位での発表を交え『小学校学習指導要領 図画工作編』の理解と具現化をめざします。

キーワード: 表現、鑑賞、創造、発想、構想、感性、情操

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

###### 到達目標:

授業で解説・展開した内容について、概ね80%各自の記述や課題に反映することができる。

###### 評価方法:

評価割合:80%

単元毎の課題

##### ▼思考力・判断力・表現力

###### 到達目標:

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・取組、各自の記述や課題を一層深化・表現することができる。

###### 評価方法:単元毎の課題

評価割合:20%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や課題の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合:0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、各自の記述や課題の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、課題において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：0%

#### 授業計画：

- 第1回：①「作品を見る各自の視点と共有化」美術Ⅰ・Ⅱ 自分たちの作品を第一印象で選択（考察に向けてのデータ集積）  
②情報機器による「自然物を使った総合学習を含む発表」・「小石活動の計画表作成、事故防止、地域を知る」
- 第2回：『学習指導要領・図画工作編』の概説及び把握方法
- 第3回：情報機器及び教材の効果的な活用法と理解
- 第4回：学習指導案の作成『学習指導要領・図画工作編』
- 第5回：模擬授業（小石の再現：制作 情報機器による）
- 第6回：模擬授業の振り返り（自然と再現：真贋判定 情報機器による）
- 第7回：見立て：①自然性と写実性の関係 ②無機物質と有機物質の反転関係 発表
- 第8回：自分たちの作品の仕組み：構成美8要素
- 第9回：第一印象なる視点の位置付け及び一般的美的価値観と子ども
- 第10回：対極的解釈：否定的解釈と肯定的解釈
- 第11回：白紙の解釈：①形容詞相当と名詞相当 ②悪しき様から善き様への転生 発表
- 第12回：創造（はじめてつくる）とは：椅子の新解釈 発表
- 第13回：コメント力を鍛える：①単独作品 ②複数作品 発表
- 第14回：児童画の発達段階・各段階の特徴的図法の意味：『子どもの絵』ローエンフェルド 白揚社
- 第15回：①児童画への理解と擁護 ②心情「をかし・あはれ」  
定期試験は実施せず、「内容毎の提出物」及び「最終レポート」

使用テキスト： ・関連プリント配布  
・関連映像上映

#### 予習・復習のポイントと

#### 参考文献・資料等：

配付資料について課題の際、利用するとともに、自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。下記の参考資料を推薦する。

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成29年3月告示 文部科学省）日本文教出版

『子どもの絵』ローエンフェルド 1988 白揚社（関係部分、プリント配付）

『森の標本箱1. 2. 3』矢野正 1996 小学館（関係部分、プリント配付）

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします

#### 留意事項：

・単元毎の課題とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。

- ・班単位での活動立案、制作台・道具の使用、材料の配分、発表があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

---

科目コード : 13069      科目ナンバリング : PE20C04K      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 小学校体育科研究 a (Studies in Elementary Physical Education a)

担当者 : 高橋 和将

#### 基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 月曜2限

履修可能学科・専攻 : Pe

関連資格 : 教職

AL要素 : 08 協同学習

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要 :** 子どもの発育発達や運動の発達について理解し、小学校における体育科のあり方を考える。また、小学校体育科の運動領域についての知識・技能を身に付け、それを体育科の授業に還元できる思考力を身に付ける。

**キーワード :** 運動遊び, 運動学習, 小学校学習指導要領

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 授業で取り上げた内容について、おおむね80%を理解している

**評価方法 :** 期末試験

**評価割合 :** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 体育、スポーツについての自分の考えを簡潔にまとめ、文章で表現することができる

**評価方法 :** 小レポート

**評価割合 :** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が期末試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が期末試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や期末試験・レポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合 :** 特になし

**授業計画 :**

1. オリエンテーション
2. 学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領の特徴
3. 子どもの発育発達と運動能力の発達

4. 体育科の目標と内容
5. 運動領域の内容理解: 体づくり運動(知識)
6. 運動領域の内容理解: 体づくり運動(技能)
7. 運動領域の内容理解: 器械運動(知識)
8. 運動領域の内容理解: 器械運動(技能)
9. 運動領域の内容理解: 陸上運動(知識)
10. 運動領域の内容理解: 陸上運動(技能)
11. 運動領域の内容理解: 水泳運動(知識)
12. 運動領域の内容理解: ボール運動(知識)
13. 運動領域の内容理解: ボール運動(技能)
14. 運動領域の内容理解: 表現運動(知識)
15. 運動領域の内容理解: 表現運動(技能)

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説 体育編, 文部科学省, 東洋館出版社

**予習・復習のポイントと【参考資料】**

**参考文献・資料等:** 新版 体育科教育学入門, 高橋健夫ほか編著, 大修館書店  
 小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本, 白旗和也, 東洋館出版社  
 初等体育授業づくり入門, 岩田靖ほか編著, 大修館書店

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。時間・場所は初回授業時に連絡します。

**留意事項:** 授業内容に応じて実施場所が変更になることがありますので、UNIPAの掲示に注意すること

**科目コード:** 13069      **科目ナンバリング:** PE20C04K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 小学校体育科研究 b(Studies in Elementary Physical Education b)

**担当者:** 高橋 和将

#### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜4限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 08 協同学習

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 子どもの発育発達や運動の発達について理解し、小学校における体育科のあり方を考える。また、小学校体育科の運動領域についての知識・技能を身に付け、それを体育科の授業に還元できる思考力を身に付ける。

**キーワード:** 運動遊び, 運動学習, 小学校学習指導要領

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で取り上げた内容について、おおむね80%を理解している

**評価方法:** 期末試験

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 体育・スポーツについての自分の考えを簡潔にまとめ、文章で表現することができる

**評価方法:** 小レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が期末試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が期末試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や期末試験・レポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

- 授業計画：**
1. オリエンテーション
  2. 学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領の特徴
  3. 子どもの発育発達と運動能力の発達
  4. 体育科の目標と内容
  5. 運動領域の内容理解：体づくり運動(知識)
  6. 運動領域の内容理解：体づくり運動(技能)
  7. 運動領域の内容理解：器械運動(知識)
  8. 運動領域の内容理解：器械運動(技能)
  9. 運動領域の内容理解：陸上運動(知識)
  10. 運動領域の内容理解：陸上運動(技能)
  11. 運動領域の内容理解：水泳運動(知識)
  12. 運動領域の内容理解：ボール運動(知識)
  13. 運動領域の内容理解：ボール運動(技能)
  14. 運動領域の内容理解：表現運動(知識)
  15. 運動領域の内容理解：表現運動(技能)

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

**予習・復習のポイントと【参考資料】**

**参考文献・資料等：** 新版 体育科教育学入門，高橋健夫ほか編著，大修館書店  
小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します。時間・場所は初回授業時に連絡します。

**留意事項：** 授業内容に応じて実施場所が変更になることがありますので、UNIPAの掲示に注意すること

---

科目コード：13070

科目ナンバリング：PE20C05K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小学校体育科教育法(Elementary Physical Education Teaching Methods)

担当者：高橋 和将

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：08 協同学習

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 小学校体育科で扱う各種運動教材について、模擬授業を通して効果的な指導のあり方を考える。また、教材への理解を深めることで、新たな指導法の模索や教具の開発を考える。

**キーワード：** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 小学校体育科の学習目標と評価観点の関係を理解している。
  2. 体育科の学習指導案が作成できる。
  3. 模擬授業の実施と振り返りを通して、授業を省察することができる。
  4. 体育科における効果的な情報機器の使用法を理解している。

**評価方法：** 模擬授業指導案

**評価割合：**100%

リフレクションシート期末レポート

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法：**「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合：**「知識・技能」とあわせて評価する

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合：**0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：**特になし

**授業計画：**

- 第1回 :よい体育授業の条件
- 第2回 :指導計画と評価の在り方
- 第3回 :効果的な情報機器の使用法
- 第4回 :学習指導案の作成法(1)基本的な場面展開
- 第5回 :学習指導案の作成法(2)評価規準と評価方法
- 第6回 :模擬授業(1)体づくり運動
- 第7回 :模擬授業(2)器械運動～鉄棒運動
- 第8回 :模擬授業(3)器械運動～マット運動
- 第9回 :模擬授業(4)器械運動～跳び箱運動
- 第10回:模擬授業(5)陸上運動～短距離・リレー
- 第11回:模擬授業(6)陸上運動～ハードル
- 第12回:模擬授業(7)陸上運動～走り幅跳び・走り高跳び
- 第13回:模擬授業(8)ボール運動～ゲームと戦術

第14回:模擬授業(9)ボール運動～ネット型ゲーム

第15回:模擬授業(10)表現運動

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説 体育編, 文部科学省, 東洋館出版社

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 配布資料・実践に加え, インターネットなどで資料を収集し, 教材の工夫の仕方を検討すること。

模擬授業の準備を入念に行うこと

模擬授業実施後は観察者・学習者・教員からのリフレクションを真摯に受け止め, より良い授業とするにはどうすればよいか検討し, レポートを作成すること

**【参考資料】**

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本, 白旗和也, 東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門, 岩田靖ほか編著, 大修館書店

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 特になし

---

**科目コード:** 13071      **科目ナンバリング:** PE20C16K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 小学校家庭科研究 a (Studies in Elementary Home Economics a)

**担当者:** 佐藤 加代子

**基本情報**

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 金曜3限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 03.実技

07発表

08協同学修

11討論

15役割演技

16.振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 少子高齢化や家族の多様化が進む中, 家庭や地域社会の在り方も変化し, 衣食住の安心・安全についても食育や消費生活・環境等課題の多い今日です。家庭生活の中で生涯に渡って自立した生活者を育てると共にSDGsの実現や持続可能な社会の構築にも関わる家庭科教育は, 学習指導要領でねらう「生きる力」の育成に最も近い教科と言えます。特に小中高で学ぶ家庭科の基礎・基盤となる「小学校家庭科」は大変重要です。

そこで, 本講座では担当者の小中学校や教育行政等での実務経験を生かし以下のように授業を行います。家庭科教育の歴史と社会的背景, 小中高との関連性を図りながら小学校家庭科の目標や内容についての講義とともに体験的・実践的な学び(実習・演習)やグループによる協議や協同学習を展開。受講生が家庭科教育への関心・理解を深め, 将来指導者として児童のために創造的な家庭科の授業づくりができる教員養成を目指します。コロナ等で対面授業が不可能な時は, オンライン授業(課題研究型)を実施。パワーポイント・動画を活用した授業と課題に対する学生の課題研究・実習(写真入り含む)や課題提出後の振り返りや特色あるレポート記述、実習作品、調理実習の紹介、ジグソー学習等受講生の主体的な学びを大切にしながら展開していきます。

**キーワード:** 生きる力, 学習指導要領, 家庭科教育、家族と家庭生活, 衣食住, 消費生活と環境, 生活の

自立と共生, 生活文化の継承と創造, 健康・快適・安全, 持続可能な社会の構築, SDGsの実現, 少子高齢化, 明るく温かい社会づくり

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** (1) 授業で扱った小学校家庭科教育の意義と歴史, 学習指導要領に示された目標や内容の取扱い(衣食住, 消費・環境)についての基礎・基本について概ね80%理解することができる。

(2) 授業で扱った児童の意欲的な家庭科の授業を支援するため必要な衣生活・食生活に関する基礎的技能について, 指導者として概ね80%習得することができる。

**評価方法:** 授業内課題ワークシート

**評価割合:** 60%

家庭科基礎力テスト

学期末レポート

作品

調理実習

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1)毎回の家庭科授業後に出された課題について調査研究、実習成果等を自分なりの考察・感想等創意工夫して報告している。

(2) 家庭科指導における課題について, 授業で扱った内容・体験や自主学修で得た知見・経験を踏まえ, 学習指導要領で示すねらいや指導上の留意点について論説することができる。その際, 児童が授業や家庭実践等で使うワークシートを作成し, 指導の実際として活用方法についても具体的に記述できる。

**評価方法:** 授業内課題ワークシート

**評価割合:** 30%

学期末提出レポート

作品・調理実習

製作後の考察ワークシート

調理実習後の考察ワークシート

### ▼学修に主体的に取り組む態度

(1) 与えられた課題にとどまらず, 授業・実習前の下調べ, 授業後に興味をもった内容についてさらに自主的・積極的に調べ研究したり, 実習・実践した成果を, 課題レポート報告(課題ワークシート)や学期末レポート等の記述内容により認められた場合は, 新学習指導要領で示された目標「学びに向かう力, 人間性等」(学びを人生や社会にどう生かすか)として評価する。

**評価割合:** 10%

### ▼実践的ボランティア



(1) 直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容に認められた場合は上記項目「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」として評価する。

評価割合：0%

#### ▼公正性

(1) 直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や学期末レポート等記述について人権侵害、差別的発言等著しく公正性を欠いた言動、カンニング等の不正行為及び安全を無視した危険な行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回：家庭科の意義と基本理念 授業概要ガイダンス
  - 第2回：家庭科教育の歴史と教科書に見る教材の変遷 家庭科と女子教育 ミシンの歴史
  - 第3回：家庭科教育の現状と課題ー4視点から考えるー ●手縫いによる基礎縫い演習(1)
  - 第4回：家庭科の目標と内容構成(小中高の関連)と指導計画  
生活の営みに係る見方・考え方の4視点とは ●手縫いによる基礎縫い演習(2)
  - 第5回：小学校家庭科の内容A「家族・家庭生活」自分の成長と家族 家庭の仕事 地域との  
と関わり 多様化する家族と課題 ●手縫いによる基礎縫い演習(3)
  - 第6回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」被服指導の実際ーミシンの正しい使い方ー
  - 第7回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」被服指導の実際ーミシンを使った袋物の製作ー
  - 第8回：小学校家庭科の内容C「消費生活・環境」持続可能な社会の構築に向けて 環境  
に配慮した消費生活と課題 生活に関わる情報・各表示の意味 売買契約
  - 第9回：SDGs(持続可能な開発目標)と家庭科教育 調理実習の事前指導
  - 第10回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」調理実習ー調理の基礎ー(ゆでる調理)
  - 第11回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」調理実習ー食分の食事ー(米飯、みそ汁他)
  - 第12回：家庭科の学習指導と評価、「家庭科の基礎力テスト」(知識・理解)実施
  - 第13回：アクティブラーニングの手法を取り入れた課題解決学習ージグソー学習を通してー
  - 第14回：家庭科の指導案作成ー題材「消費生活・環境」の内容を通してー
  - 第15回：諸外国の家庭科 家庭科室の管理 講座の振り返り
- ※ 被服室・調理室の使用状況やオンライン授業になった場合、一部変更することもあります。その際は事前にお知らせします。

- 使用テキスト：**
- ①小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編 文部科学省 東洋館出版社
  - ②小学校家庭科教科書2冊(開隆堂出版及び東京書籍 各1冊)
- なお、授業で使用する資料やワークシートは、印刷・配布します。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・家庭科は地域や社会と関わりが多い教科であり、日常的に新聞記事等から、家庭生活関わる現状や課題に関心をもつように努める。食育、環境・消費生活、持続可能な社会の構築等家族・家庭を取り巻く課題を収集しスクラップするなど指導者としての意識を高めたい。レポート作成や授業づくりにも役立ちます。(日常的に実践)
  - ・授業後、配付資料を基に関連する内容や疑問をもった言語・内容等を調べる等リサーチを通して視野を広め知見を深める。(家庭科で使う言語は歴史的・伝統的な意味・価値をもつ場合が多い。「躰をする」「手前味噌」「味噌作りを奨励した戦国武将は誰か」等々)(随時調査研究)
  - ・調理実習に際しては事前に作り方を調べ、予備実験的に調理したり、事後も自宅で実践し

て指導者としての実習技能を身に付けたい。又、小中高の家庭科の関連事項を把握しておくことも望ましい。指導案作成時も役に立ちます。(随時実践)

<参考資料>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和2年3月 東洋館出版 1,000円  
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 文部科学省 開隆堂  
高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説 家庭編 文部科学省 教育図書  
家庭科教育実践講座 Asset アセット第1巻～第13巻, 学習資料集付(本学図書館蔵)

**障がいのある履修者への対応:** できる限り対応しますので学務等に連絡して下さい。また、授業(実習含む)では座席やグループを配慮したり、大学とも連携を図りながらその都度一緒に考えて参ります。

**授業時間外の連絡手段:** 基本的には学務部等に連絡してください。必要に応じて授業内でもお知らせします。

**留意事項:**

- ・調理実習(材料)費, 被服教材(布)費についての費用は原則各自負担となります。
- ・授業の準備物は事前に連絡しますが, 手縫いの基礎縫い演習やミシン教材製作では裁縫用具を使うので各自必ず準備しておきましょう。調理実習の際の身支度(エプロン、三角巾、布巾等)も同様です。急な変更のときはIC-UNIPAや学生掲示板で連絡しますので確認ください。
- ・演習や実習では家庭科の指導者としての視点での取組やプロセスを大切にしています。
- ・課題についてはワークシート・作品・基礎力テスト等の提出物は評価して直接返却します。期末レポートについてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して確認後コメントを付与します。

---

---

科目コード:13071      科目ナンバリング:PE20C16K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校家庭科研究 b(Studies in Elementary Home Economics b)

担当者: 佐藤 加代子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 03.実技

07発表

08協同学修

11討論

15役割演技

16.振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 少子高齢化や家族の多様化が進む中、家庭や地域社会の在り方も変化し、衣食住の安心・安全についても食育や消費生活・環境等課題の多い今日です。家庭生活の中で生涯に渡って自立した生活者を育てると共にSDGsの実現や持続可能な社会の構築にも関わる家庭科教育は、学習指導要領でねらう「生きる力」の育成に最も近い教科と言えます。特に小中高で学ぶ家庭科の基礎・基盤となる「小学校家庭科」は大変重要です。

そこで、本講座では担当者の小中学校や教育行政等での実務経験を生かし以下のように授業を行います。家庭科教育の歴史と社会的背景、小中高との関連性を図りながら小学校家庭科の目標や内容についての講義とともに体験的・実践的な学び(実習・演習)やグループによる協議や協同学習を展開。受講生が家庭科教育への関心・理解を深め、将来指導者として児童のために創造的な家庭科の授業づくりができる教員養成を目指します。コロナ等で対面授業が不可能な時は、オンライン授業(課題研究型)を実施。パワーポイント・動画を活用した授業と課題に対する学生の課題研究・実習(写真入り含む)や課題提出後の振り返

りや特色あるレポート記述、実習作品、調理実習の紹介、ジグソー学習等受講生の主体的な学びを大切にしながら展開していきます。

**キーワード：** 生きる力、学習指導要領、家庭科教育、家族と家庭生活、衣食住、消費生活と環境、生活の自立と共生、生活文化の継承と創造、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築、SDGsの実現、少子高齢化、明るく温かい社会づくり

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** (1) 授業で扱った小学校家庭科教育の意義と歴史、学習指導要領に示された目標や内容の取扱い(衣食住、消費・環境)についての基礎・基本について概ね80%理解することができる。

(2) 授業で扱った児童の意欲的な家庭科の授業を支援するため必要な衣生活・食生活に関する基礎的スキルについて、指導者として概ね80%習得することができる。

**評価方法：** 授業内課題ワークシート

**評価割合：** 60%

家庭科基礎力テスト

学期末レポート

作品

調理実習

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** (1) 毎回の家庭科授業後に出された課題について調査研究、実習成果等を自分なりの考察・感想等創意工夫して報告している。

(2) 家庭科指導における課題について、授業で扱った内容・体験や自主学修で得た知見・経験を踏まえ、学習指導要領で示すねらいや指導上の留意点について論説することができる。その際、児童が授業や家庭実践等で使うワークシートを作成し、指導の実際として活用方法についても具体的に記述できる。

**評価方法：** 授業内課題ワークシート

**評価割合：** 30%

学期末提出レポート

作品・調理実習

製作後の考察ワークシート

調理実習後の考察ワークシート

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

(1) 与えられた課題にとどまらず、授業・実習前の下調べ、授業後に関心をもった内容についてさらに自主的・積極的に調べ研究したり、実習・実践した成果を、課題レポート報告(課題ワークシート)や学期末レポート等の記述内容により認められた場合は、新学習指導要領で示された目標「学びに向かう力、人間性等」(学びを人生や社会にどう生かすか)として評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

(1) 直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容に認められた場合は上記項目「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」として評価する。

評価割合：0%

▼公正性

(1) 直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や学期末レポート等記述について人権侵害、差別的発言等著しく公正性を欠いた言動、カンニング等の不正行為及び安全を無視した危険な行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回：家庭科の意義と基本理念 授業概要ガイダンス
  - 第2回：家庭科教育の歴史と教科書に見る教材の変遷 家庭科と女子教育 ミシンの歴史
  - 第3回：家庭科教育の現状と課題ー4視点から考えるー ●手縫いによる基礎縫い演習(1)
  - 第4回：家庭科の目標と内容構成(小中高の関連)と指導計画  
生活の営みに係る見方・考え方の4視点とは ●手縫いによる基礎縫い演習(2)
  - 第5回：小学校家庭科の内容A「家族・家庭生活」自分の成長と家族 家庭の仕事 地域との  
関わり 多様化する家族と課題 ●手縫いによる基礎縫い演習(3)
  - 第6回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」被服指導の実際ーミシンの正しい使い方ー
  - 第7回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」被服指導の実際ーミシンを使った袋物の製作ー
  - 第8回：小学校家庭科の内容C「消費生活・環境」持続可能な社会の構築に向けて 環境  
に配慮した消費生活と課題 生活に関わる情報・各表示の意味 売買契約
  - 第9回：SDGs(持続可能な開発目標)と家庭科教育 調理実習の事前指導
  - 第10回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」調理実習ー調理の基礎ー(ゆでる調理)
  - 第11回：小学校家庭科の内容B「衣食住の生活」調理実習ー食分の食事ー(米飯、みそ汁他)
  - 第12回：家庭科の学習指導と評価、「家庭科の基礎力テスト」(知識・理解)実施
  - 第13回：アクティブラーニングの手法を取り入れた課題解決学習ージグソー学習を通してー
  - 第14回：家庭科の指導案作成 ー題材「消費生活・環境」の内容を通してー
  - 第15回：諸外国の家庭科 家庭科室の管理 講座の振り返り
- ※ 被服室・調理室の使用状況やオンライン授業になった場合、一部変更することもあります。その際は事前にお知らせします。

- 使用テキスト：**
- ①小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編 文部科学省 東洋館出版社
  - ②小学校家庭科教科書2冊(開隆堂出版及び東京書籍 各1冊)
- なお、授業で使用する資料やワークシートは、印刷・配布します。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・家庭科は地域や社会と関わりが多い教科であり、日常的に新聞記事等から、家庭生活関わる現状や課題に関心をもつように努める。食育、環境・消費生活、持続可能な社会の構築等家族・家庭を取り巻く課題を収集しスクラップするなど指導者としての意識を高めた。レポート作成や授業づくりにも役立ちます。(日常的に実践)
  - ・授業後、配付資料を基に関連する内容や疑問をもった言語・内容等を調べる等リサーチを通して視野を広め知見を深める。(家庭科で使う言語は歴史的・伝統的な意味・価値をもつ

場合が多い。「巯をする」「手前味噌」「味噌作りを奨励した戦国武将は誰か」等々)(随時調査研究)

・調理実習に際しては事前に作り方を調べ、予備実験的に調理したり、事後も自宅で実践して指導者としての実習技能を身に付けたい。又、小中高の家庭科の関連事項を把握しておくことも望ましい。指導案作成時も役に立ちます。(随時実践)

<参考資料>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 令和2年3月 東洋館出版 1,000円  
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 文部科学省 開隆堂  
高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説 家庭編 文部科学省 教育図書  
家庭科教育実践講座 Asset アセット第1巻～第13巻, 学習資料集付(本学図書館蔵)

**障がいのある履修者への対応:** できる限り対応しますので学務等に連絡して下さい。また、授業(実習含む)では座席やグループを配慮したり、大学とも連携を図りながらその都度一緒に考えて参ります。

**授業時間外の連絡手段:** 基本的には学務部等に連絡してください。必要に応じて授業内でもお知らせします。

**留意事項:**

- ・調理実習(材料)費, 被服教材(布)費についての費用は原則各自負担となります。
- ・授業の準備物は事前に連絡しますが、手縫いの基礎縫い演習やミシン教材製作では裁縫用具を使うので各自必ず準備しておきましょう。調理実習の際の身支度(エプロン、三角巾、布巾等)も同様です。急な変更のときはIC-UNIPAや学生掲示板で連絡しますので確認ください。
- ・演習や実習では家庭科の指導者としての視点での取組やプロセスを大切にしています。
- ・課題についてはワークシート・作品・基礎力テスト等の提出物は評価して直接返却します。期末レポートについてはIC-UNIPAの課題管理機能を利用して確認後コメントを付与します。

---

科目コード:13072      科目ナンバリング:PE20C17K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 小学校家庭科教育法 a(Elementary Home Economics Teaching Methods a)

担当者: 紺谷 けい子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 02模擬実践

10資料調査課題

16振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 現代は、グローバル化・少子高齢化・家族の多様化・持続可能な社会の構築など、課題は多く、日々変化にも富んでいます。したがって、家庭科教育は、身近な生活の衣食住、家族・や家庭、地域との連携、消費生活や環境に配慮した生活、SDGsの実現など、生涯にわたって自立した生活者を育て、社会状況とともに変化する課題を適切に解決する資質・能力の育成、「生きる力」をはぐくむ教科として大変重要かつ意義のある教科と考えられます。

そこで、本講座では、担当者の小中学校の教員としての実務経験を生かし、必要に応じて教育現場の事例を紹介しながら以下のように授業を行います。家庭科教育の意義を考え、児童の実態を踏まえ、小中高との関連を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」を目指し体験的・実践的な学びに導くような授業が構築できるようにします。指導計画や学習形態・学習方法・学習状況の3観点を考えながらの評価、関心・意欲を高める教材などを研究し、模擬授業を重視した授業の展開を図ります。

受講生が家庭科教育への関心と理解を深め、将来指導者として児童のために創造的な家庭科の授業づくりができる教員育成を目指します。

**キーワード:** 生きる力 学習指導要領 家族と家庭生活 衣食住 消費生活と環境 生活の自立と共生

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** (1)授業で扱った小学校家庭科教育の、学習指導要領に示された目標や内容の取扱い、指導計画や評価などについての基礎・基本について概ね80%理解することができる。  
(2)授業で扱った、目標に準じた学習指導案作成、模擬授業展開など基礎的スキルについて指導者として概ね80%習得することができる。

**評価方法:** 課題提出レポート

**評価割合:** 60%

学期末レポート

模擬授業の実践

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1)毎回の家庭科授業後に出された課題について調査研究、実習成果などを自分なりの考察・感想など創意工夫して報告している。  
(2)家庭科指導の授業の構築について、授業で扱った内容・体験や自主学修で得た知見・経験を踏まえ、学習指導要領で示すねらいや指導上の留意点について論説することができる。発問や板書、教材、児童が使うワークシートなど工夫し、活用方法についても具体的に記述できる。

**評価方法:** 課題提出用紙

**評価割合:** 30%

学期末提出レポート

模擬授業の実践

模擬授業後の考察・報告用紙

### ▼学修に主体的に取り組む態度

(1)与えられた課題にとどまらず、授業・模擬授業の実践の前の下調べ、授業後に関心をもった内容についてさらに自主的・積極的に調べ研究したり、実践した成果を、課題レポート報告(課題提出用紙)や学期末レポートなどの記述内容により認められた場合は、新学習指導要領で示された「学びに向かう力、人間性等」(学びを人生や社会にどう生かすか)として評価する。

**評価割合:** 10%

### ▼実践的ボランティア

(1)直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容に認められた場合は上記項目「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」として評価する。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

(1)直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や学期末レポート等記述について人権侵害、差別的発言等著しく公正性を欠いた言動、カンニング等の不正行為及び安全を無視した危険行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 小学校家庭科教育を学ぶにあたって 教科目標 授業概要ガイダンス  
第2回 小学校家庭科において目指す資質・能力

- 第3回 小学校家庭科の内容構成
- 第4回 家庭科の指導計画作成(年間指導計画・題材)
- 第5回 家庭科における学習指導と評価
- 第6回 小学校家庭科の授業の実際の指導例① 板書について
- 第7回 小学校家庭科の授業の実際の指導例② 実習の指導について
- 第8回 小学校家庭科の授業の実際の指導例③ 学習形態, 学び合い
- 第9回 小学校家庭科の授業の実際の指導例④ ICT活用法, コミュニケーション技法
- 第10回 教材研究① ワークシート 発表
- 第11回 教材研究② 手縫いの基本 発表
- 第12回 学習指導案の作成の仕方
- 第13回 模擬授業の考案 学習指導案作成
- 第14回 模擬授業発表 ふり返り
- 第15回 中学校につながる小学校家庭科 指導者としての心構え

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領 解説家庭科編 文部科学省 東洋出版社  
 小学校家庭科教科書2冊(開隆堂出版及び東京書籍 各1冊)  
 授業で使う資料やワークシートは、印刷・配付します。IC-UNIPA「授業資料」でも配信します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・家庭科は地域や社会との関わりが多く、家庭生活を取り巻く現状や課題も変化していく中、日常的に関心をもって正しい情報を得られるように努める。食育、環境、消費生活、持続可能な社会の構築等、家族・家庭を取り巻く課題を収集するなど指導者としての意識を高めたい。  
 ・模擬授業に際しては、十分な指導計画、評価計画、実際の発問、見取りなどを事前研究し、事後も反省・考察を生かして、指導者としての技能を身に付けさせたい。小中高の内容の系統性、空間軸と時間軸、学習過程を踏まえた改善など、家庭科教育での学びを常に意識してほしい。  
 <参考資料>中学校学習指導要領(平成29年告示)技術・家庭科編 文部科学省 教育図書

**障がいのある履修者への対応:** できる限り対応しますので学務などに連絡してください。また、授業では、座席やグループを配慮するなど、大学とも連携を図りながらその都度一緒に考えていきます。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部などに連絡してください。

**留意事項:** ・模擬授業などにかかる教材研究や準備物などの費用は各自負担になります。IC-UNIPA掲示板でもお知らせしますのでチェックしてください。  
 ・提出物については、次回の授業でコメントをお返します。

**科目コード:** 13072      **科目ナンバリング:** PE20C17K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 小学校家庭科教育法 b(Elementary Home Economics Teaching Methods b)

**担当者:** 紺谷 けい子

**基本情報**

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 木曜1限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 02模擬実践

10資料調査課題

16振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 現代は、グローバル化・少子高齢化・家族の多様化・持続可能な社会の構築など、課題は多く、日々変化にも富んでいます。したがって、家庭科教育は、身近な生活の衣食住、家族・や家庭、地域との連携、消費生活や環境に配慮した生活、SDGsの実現など、生涯にわたって自立した生活者を育て、社会状況とともに変化する課題を適切に解決する資質・能力の育成、「生きる力」をはぐくむ教科として大変重要かつ意義のある教科と考えられます。

そこで、本講座では、担当者の小中学校の教員としての実務経験を生かし、必要に応じて教育現場の事例を紹介しながら以下のように授業を行います。家庭科教育の意義を考え、児童の実態を踏まえ、小中高との関連を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」を目指し体験的・実践的な学びに導くような授業が構築できるようにします。指導計画や学習形態・学習方法・学習状況の3観点を考えながらの評価、関心・意欲を高める教材などを研究し、模擬授業を重視した授業の展開を図ります。

受講生が家庭科教育への関心と理解を深め、将来指導者として児童のために創造的な家庭科の授業づくりができる教員育成を目指します。

**キーワード：** 生きる力 学習指導要領 家族と家庭生活 衣食住 消費生活と環境 生活の自立と共生  
協力・協働 生活文化の継承・創造 健康・快適・安全 持続可能な社会の構築 少子高齢化 指導と評価の一体化

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** (1)授業で扱った小学校家庭科教育の、学習指導要領に示された目標や内容の取扱い、指導計画や評価などについての基礎・基本について概ね80%理解することができる。  
(2)授業で扱った、目標に準じた学習指導案作成、模擬授業展開など基礎的技能について指導者として概ね80%習得することができる。

**評価方法：** 課題提出レポート

**評価割合：** 60%

学期末レポート

模擬授業の実践

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** (1)毎回の家庭科授業後に出された課題について調査研究、実習成果などを自分なりの考察・感想など創意工夫して報告している。  
(2)家庭科指導の授業の構築について、授業で扱った内容・体験や自主学修で得た知見・経験を踏まえ、学習指導要領で示すねらいや指導上の留意点について論説することができる。発問や板書、教材、児童が使うワークシートなど工夫し、活用方法についても具体的に記述できる。

**評価方法：** 課題提出用紙

**評価割合：** 30%

学期末提出レポート

模擬授業の実践

模擬授業の考察・報告用紙

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

1)与えられた課題にとどまらず、授業・模擬授業の実践の前の下調べ、授業後に関心をもった内容についてさらに自主的・積極的に調べ研究したり、実践した成果を、課題レポート報告(課題提出用紙)や学期末レポートなどの記述内容により認められた場合は、新学習指導要領で示された「学びに向かう力、人間性等」(学びを人生や社会にどう生かすか)として評価する。

**評価割合：** 10%

### ▼ 実践的ボランティア

(1)直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末レポートの記述内容に認められた場合は上記項目「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」として評価する。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

(1)直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や学期末レポート等記述について人権侵害、差別的発言等著しく公正性を欠いた言動、カンニング等の不正行為及び安全を無視した危険行為があった場合は、



減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回 小学校家庭科教育を学ぶにあたって 教科目標 授業概要ガイダンス
  - 第2回 小学校家庭科において目指す資質・能力
  - 第3回 小学校家庭科の内容構成
  - 第4回 家庭科の指導計画作成(年間指導計画・題材)
  - 第5回 家庭科における学習指導と評価
  - 第6回 小学校家庭科の授業の実際の指導例① 板書について
  - 第7回 小学校家庭科の授業の実際の指導例② 実習の指導について
  - 第8回 小学校家庭科の授業の実際の指導例③ 学習形態, 学び合い
  - 第9回 小学校家庭科の授業の実際の指導例④ ICT活用法, コミュニケーション技法
  - 第10回 教材研究① ワークシート 発表
  - 第11回 教材研究② 手縫いの基本 発表
  - 第12回 学習指導案の作成の仕方
  - 第13回 模擬授業の考案 学習指導案作成
  - 第14回 模擬授業発表 ふり返り
  - 第15回 中学校につながる小学校家庭科 指導者としての心構え

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領 解説家庭科編 文部科学省 東洋出版社  
小学校家庭科教科書2冊(開隆堂出版及び東京書籍 各1冊)  
授業で使う資料やワークシートは、印刷・配付します。IC-UNIPA「授業資料」でも配信します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・家庭科は地域や社会との関わりが多く、家庭生活を取り巻く現状や課題も変化していく中、日常的に関心をもって正しい情報を得られるように努める。食育、環境、消費生活、持続可能な社会の構築等、家族・家庭を取り巻く課題を収集するなど指導者としての意識を高めたい。
- ・模擬授業に際しては、十分な指導計画、評価計画、実際の発問、見取りなどを事前研究し、事後も反省・考察を生かして、指導者としての技能を身に付けさせたい。小中高の内容の系統性、空間軸と時間軸、学習過程を踏まえた改善など、家庭科教育での学びを常に意識してほしい。

<参考資料> 中学校学習指導要領(平成29年度告示) 技術・家庭科編 文部科学省 開隆堂

**障がいのある履修者への対応：** できるかぎり対応しますので学務などに連絡してください。また、授業では、座席やグループを配慮するなど、大学とも連携を図りながらその都度一緒に考えていきます。

**授業時間外の連絡手段：** 学務部などに連絡してください。

**留意事項：**

- ・模擬授業などにかかる教材研究や準備物などの費用は各自負担になります。IC-UNIPA掲示板でもお知らせしますのでチェックしてください。
- ・提出物については、次回の授業でコメントをお返します。

---

科目コード：13089      科目ナンバリング：PE40C02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教職実践演習(小学校・幼稚園)(Teaching Practice Seminar)

担当者：齋藤 遼太郎、鈴木 範子、紺谷 けい子、稲野邊 親

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限 金曜3限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：教職

AL要素：資料調査課題  
及び  
模擬実践

**授業の概要：** オリエンテーション、講義・グループ討論・作業、模擬授業・口頭試問、筆記試験・集団討論試験の4つのパートに大別して構成し、下記の計画に従い演習を実施する。

**キーワード：** 教育愛、教員の使命と責任、教員の社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営、模擬授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 課題テーマに関するリサーチを各種文献に基づいて幅広く行い、グループでの検討を行うこと。また、模擬授業において、指導言に留意し板書を適切に行うことができること。

**評価方法：** (1) 課題テーマに関するグループ討論と発表 **評価割合：** (1) 25% (2) 25%

(2) 模擬授業における教材研究と指導の実際

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** グループ討論・作業で収集した内容をレポートに論理的かつ簡潔にまとめたり、模擬授業の後の検討会において観察した事柄を適切に発言すること。

**評価方法：** (1) レポート **評価割合：** (1) 25% (2) 25%

(2) 授業検討会

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

グループでの追求課題については図書館における各種文献およびインターネットなどを通じて幅広くリサーチ活動を行う。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

グループ討論における司会や書記の役割を率先して引き受ける。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

グループでの討論や模擬授業での指導者としての発言には社会的倫理にもとる偏見や差別的用語の使用に十分留意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第01回】オリエンテーション

【第02回】講義(発題)：「教育愛とは何か」→グループ・レポート作成会議

【第03回】グループ・レポート「教育愛とは何か」の確認→提出

【第04回】講義(発題)：「教員の使命と責任」→グループ・レポート作成会議

【第05回】グループ・レポート「教員の使命と責任」の確認→提出

【第06回】講義(発題)：「教員に求められる社会性と対人関係能力」→グループ・レポート作成会議

【第07回】グループ・レポート「教員に求められる社会性と対人関係能力」の確認→提出

【第08回】講義(発題)：「幼児・児童理解と学級経営」→グループ・レポート作成会議

【第09回】グループ・レポート「幼児・児童理解と学級経営」の確認→提出

- 【第10回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園:遊戯、読み聞かせ指導等、以下同じ)
- 【第11回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園)
- 【第12回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園)
- 【第13回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園)
- 【第14回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園)
- 【第15回】模擬授業(小学校)または模擬指導(幼稚園)
- 【第16回】筆記試験、集団討論試験

**使用テキスト:** 文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、配布プリント

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 特に自分が未達成と考えている課題について、1年次からの教職課程における総復習する中で明確にしておくこと。また、「履修カルテ」とともに、「教育実習中に参考にしたり作成したりした資料(実習校からの配布資料や作成した指導案、実習履修簿等)」を様々な場面で活用することになるので、これらの資料を予め整理しておくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部や担当教員まで申し出ること。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室等で対応する。曜日・時限等については初回に連絡する。

**留意事項:** クラス分けは予め掲示板およびIC=UNIPA上で知らせる。実施計画書は、初回の際に配布する。

科目コード:13091      科目ナンバリング:PE10C03K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育課程論 a(Curriculum Theory a)

担当者: 高野 暁子

#### 基本情報

年次:1	単位数:2	授業形式:講義
曜時:火曜3限	履修可能学科・専攻: Pe	
関連資格:教職	AL要素: 07 発表 08 協同学修 16 振り返り用紙と応答	

**授業の概要:** 教育を進めていくにあたって、基本的なより所となるのが「教育課程」です。この授業では、受講生の皆さんが学んでいく内容を、以下の三つにわけています。

- (1)「教育課程」の概念や法的位置づけを明確にし、各学校の学習指導要領の性格、変遷の内容的な特徴およびその社会的背景について取り扱う
- (2)教育課程編成の原理と方法・内容、地域と子どもの関わりについての理解、教育課程の社会的な役割、教育課程の種類と具体例を取り上げる
- (3)学校教育課程の評価と「カリキュラム・マネジメント」の考え方およびその具体的な「カリキュラムの新展開」を取り上げる

教育課程そのものの知識はもちろんですが、学校・地域・教師といった教育課程にとって不可欠な場所や専門家についても見ていきます。

**キーワード:** 学校教育の基本、学習指導要領、教育課程編成の原理と方法、子どもの発達、学力形成、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で取り上げた教育課程の基本的な知識について、明確に理解することができる。

**評価方法:** 学期末のレポート

**評価割合:** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で取り上げた内容を踏まえて、教育課程の編成について具体的に考え、表現することができる。

**評価方法:** 編成に向けての取り組みと発表

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組み、発表の工夫が求められます。評価の対象とはしません。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、嚴重注意のうえ減点の対象となることがあります。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特にありません。

**評価割合:** 特にありません。

- 授業計画:**
- 第1回 学校の役割と教育課程の概念:各学校の役割と教育課程の概念・領域について
  - 第2回 学習指導要領と教育課程:各学校の学習指導要領における教育課程の位置づけ、教育課程の意義・目的について
  - 第3回 学習指導要領の変遷と内容:各学校学習指導要領の変遷と改訂内容の特徴およびその社会的背景について
  - 第4回 教育課程の機能:教育課程の「潜在的な役割」と「顕在的な役割」、教育課程の人間形成的機能について
  - 第5回:教育課程の類型と内容:「系統的カリキュラム」と「子ども中心のカリキュラム」の基本的類型および「教科・領域横断のカリキュラム」について
  - 第6回 教育課程編成の原理と方法:学校の目標設定の具体的な手順、目標達成のための教育課程編成の原理と具体的な手順・計画について
  - 第7回 子どもの発達と教育課程の編成:「子ども理解」と子どもを取り巻く家庭的・地域的な環境について
  - 第8回 「学力形成」と教育課程の評価:「学力形成」と教育課程のPDCAサイクルについて
  - 第9回 教科外教育活動と教育課程のあり方:「教科外教育活動」の原理と子どもに必要な「資質・能力」の育成について
  - 第10回 教育課程への社会的要請:現代社会の特徴と教育課程の社会的役割・機能について
  - 第11回 カリキュラムの新展開(1):「幼小連携」、「道德教育の教科化」、「小学校英語の導入」の意義と内容について
  - 第12回 カリキュラムの新展開(2):年齢・教科・領域を横断する「防災教育」や「国際理解教育」のカリキュラムについて
  - 第13回 地域の協力体制と学校経営:「社会に開かれた教育課程」と幼児・児童に対する保護者や地域人材の支援体制の組織化について
  - 第14回 学校経営評価と「カリキュラム・マネジメント」:学校教育課程のPDCAサイクルと「カリキュラム・マネジメント」について
  - 第15回 教育課程と「アクティブ・ラーニング」:「カリキュラム・マネジメント」の一環としての「アクティブ・ラーニング」

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はTeams等に掲示します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修を深めるとともに、教育の時事的な問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。  
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。  
その他、「幼稚園教育要領解説」(平成29年告示 文部科学省)、「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年告示 文部科学省)、「中学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年告示 文部科学省)を参照することが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 公開されているメール等で連絡してください。

**留意事項：** デバイス必携とします。

---

科目コード：13091      科目ナンバリング：PE10C03K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育課程論 b(Curriculum Theory b)

担当者：高野 暁子

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：07 発表

08 協同学修

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 教育を進めていくにあたって、基本的なより所となるのが「教育課程」です。この授業では、受講生の皆さんが学んでいく内容を、以下の三つにわかれています。

(1)「教育課程」の概念や法的位置づけを明確にし、各学校の学習指導要領の性格、変遷の内容的な特徴およびその社会的背景について取り扱う

(2)教育課程編成の原理と方法・内容、地域と子どもの関わりについての理解、教育課程の社会的な役割、教育課程の類型と具体例を取り上げる

(3)学校教育課程の評価と「カリキュラム・マネジメント」の考え方およびその具体的な「カリキュラムの新展開」を取り上げる

教育課程そのものの知識はもちろんですが、学校・地域・教師といった教育課程にとって不可欠な場所や専門家についても見ていきます。

**キーワード：** 学校教育の基本、学習指導要領、教育課程編成の原理と方法、子どもの発達、学力形成、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で取り上げた教育課程の基本的な知識について、明確に理解することができる。

**評価方法：** 学期末のレポート

**評価割合：** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で取り上げた内容を踏まえて、教育課程の編成について具体的に考え、表現することができる。

**評価方法：** 編成に向けての取り組みと発表

**評価割合：** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組み、発表の工夫が求められません。評価の対象とはしません。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、嚴重注意のうえ減点の対象となることがあります。

評価割合：0%

### ▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画：**
- 第1回 学校の役割と教育課程の概念：各学校の役割と教育課程の概念・領域について
  - 第2回 学習指導要領と教育課程：各学校の学習指導要領における教育課程の位置づけ、教育課程の意義・目的について
  - 第3回 学習指導要領の変遷と内容：各学校学習指導要領の変遷と改訂内容の特徴およびその社会的背景について
  - 第4回 教育課程の機能：教育課程の「潜在的な役割」と「顕在的な役割」、教育課程の人間形成的機能について
  - 第5回：教育課程の類型と内容：「系統的カリキュラム」と「子ども中心のカリキュラム」の基本的類型および「教科・領域横断的カリキュラム」について
  - 第6回 教育課程編成の原理と方法：学校の目標設定の具体的な手順、目標達成のための教育課程編成の原理と具体的な手順・計画について
  - 第7回 子どもの発達と教育課程の編成：「子ども理解」と子どもを取り巻く家庭的・地域的な環境について
  - 第8回 「学力形成」と教育課程の評価：「学力形成」と教育課程のPDCAサイクルについて
  - 第9回 教科外教育活動と教育課程のあり方：「教科外教育活動」の原理と子どもに必要な「資質・能力」の育成について
  - 第10回 教育課程への社会的要請：現代社会の特徴と教育課程の社会的役割・機能について
  - 第11回 カリキュラムの新展開(1)：「幼小連携」、「道德教育の教科化」、「小学校英語の導入」の意義と内容について
  - 第12回 カリキュラムの新展開(2)：年齢・教科・領域を横断する「防災教育」や「国際理解教育」のカリキュラムについて
  - 第13回 地域の協力体制と学校経営：「社会に開かれた教育課程」と幼児・児童に対する保護者や地域人材の支援体制の組織化について
  - 第14回 学校経営評価と「カリキュラム・マネジメント」：学校教育課程のPDCAサイクルと「カリキュラム・マネジメント」について
  - 第15回 教育課程と「アクティブ・ラーニング」：「カリキュラム・マネジメント」の一環としての「アクティブ・ラーニング」

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はTeams等に掲示します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修を深めるとともに、教育の時事的な問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。  
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。  
その他、「幼稚園教育要領解説」（平成29年告示 文部科学省）、「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年告示 文部科学省）、「中学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年告示 文部科学省）を参照することが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 公開されているメール等で連絡してください。

留意事項： デバイス必携とします。

---

---

科目コード：13502      科目ナンバリング：PE30C04E      主な使用言語：日本語  
授業名(英文)： 保育内容教育法・健康(Educational Methods for Nursery School Materials: Health)  
担当者： 吉野 聡

#### 基本情報

年次：3      単位数：2      授業形式：演習  
曜時：火曜2限      履修可能学科・専攻：Pe  
関連資格：教職      AL要素：発問と回答

**授業の概要：** 課題研究型  
幼稚園教育要領に示されている健康領域の内容を理論的に理解したり、指導計画を立てたりするとともに運動遊びを中心とする模擬保育を通して保育構想の方法を実践的に理解する。

**キーワード：** 模擬指導 運動領域 生活習慣 指導案 安全

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説した健康領域の基本的な考えや幼稚園教育要領の内容を概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

**評価方法：** 小テスト      **評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、模擬指導等によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 小論文      **評価割合：** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

模擬指導における取り組みの積極性、仲間と協力する態度、合意形成に貢献する態度、健康・安全に留意する態度等を評価する。

**評価割合：** 20%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回：子どもの健康の捉え方と現状  
第2回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における「健康」領域のねらい





**評価方法:** レポート、発表、授業態度。

**評価割合:** 50%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価とはしないが、教育、保育、子どもに関係することについて本、雑誌、新聞等を読んでおくことが望ましい。

子どもの発達について学んでおく。

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価とはしない、興味・関心に応じて行うこと。子どもの関わり方を学ぶのにボランティアは適していることを理解する。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

評価対象にしないが、差別的な発言等著しく公平性を欠く言動があった場合には反省を促す。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:** 授業計画

- 第1回: 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造について
- 第2回: 保育所保育指針における人間関係のねらい及び内容について
- 第3回: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらい及び内容について
- 第4回: 乳幼児の発達について、人との関わりを中心に理解を深める
- 第5回: 幼児の発達について、人との関わりを中心に理解を深める
- 第6回: 0歳児の人との関わりについて
- 第7回: 1歳児の人との関わりについて
- 第8回: 2歳児の人間関係について理解を深める
- 第9回: 3歳児以上の指導案構成の理解①、教材の考え方、情報機器及び教材の活用法を学び保育の構想に活用する
- 第10回: 環境構成の考え方、環境が子ども同士の関係に与える影響について
- 第11回: 指導案構成の理解②、幼稚園教育の中で子どもの仲間関係の広がりトラブルの考え方について理解を深める
- 第12回: 指導案構成の理解③、幼稚園教育の中で配慮が必要な子どもの関係づくりについて幼稚園教育要領を参考とし、指導案等を作成して理解を深める
- 第13回: 指導案構成の理解④、幼稚園教育の中での異年齢の人間関係について理解を深める
- 第14回: 模擬保育の実施および振り返り(保護者支援についても理解し幼稚園に求められる役割・評価についても理解を深める)
- 第15回: 模擬保育の実施および振り返り(幼稚園教育と小学校教育の連携についても理解を深め、事例についても検討する)

**使用テキスト:** 必要に応じて用意する。

**予習・復習のポイントと** 子どもに関連する文献、資料等は適宜こちらで用意する。

**参考文献・資料等:** 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段:** 必要に応じて研究室で対応する。

**留意事項:** 特になし。

科目コード : 13505

科目ナンバリング : PE30C07E

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 保育内容教育法・言葉(Educational Methods for Nursery School Materials: Language)

担当者 : 綿引 喜恵子

#### 基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜2限

履修可能学科・専攻 : Pe

関連資格 : 教職

AL要素 : 02模擬実践

07発表

08協同学修

11討論

13役割演技と疑似体験

15レポート指導

**授業の概要 :** 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。また、実務経験を生かし、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。

**キーワード :** 子ども理解、指導計画、模擬保育

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 40%

発表

実技

テスト

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 言葉遊びなど言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付け、幼児の発達における児童文化財(絵本、紙芝居等)について理解し説明することができる。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 40%

発表

実技

テスト

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

レポートなどの記述内容において、課題についての探求心や気付きが記載されているかどうか評価の対象とする。

**評価割合 :** 20%

##### ▼ 実践的ボランティア

評価対象としない。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回 幼児教育の基本  
第2回 乳幼児期の言葉の発達  
第3回 領域「言葉」について(DVD視聴後、ディスカッションする)  
第4回 領域をのねらいと内容  
第5回 子どもの発達過程と言葉の獲得  
第6回 言葉によるコミュニケーション(ロールプレイ)  
第7回 幼児の言葉遊び・文字遊び(映像を基に指導計画を検討、教材研究する)  
第8回 幼児の言葉遊び・文字遊び(指導案を作成、模擬保育、振り返り)  
第9回 幼児と紙芝居(創作紙芝居を作成、模擬保育、振り返り)  
第10回 幼児と絵本①(情報機器の活用法を理解し、保育の構想に活用)  
第11回 幼児と絵本②(読み聞かせの模擬保育、振り返り)  
第12回 生活や遊びを通しての言葉の育み(3, 4, 5歳児の育ちから)  
第13回 言葉への興味や関心を育てる環境  
第14回 協同的経験をするととは(言葉に遅れのある子への関わり)  
第15回 まとめ(小学校への接続に向けて アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム)  
定期試験

**使用テキスト：** 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説  
授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前にはその回のテーマの分からない用語等調べる。  
授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項については自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。特に演習については2時間程度の学習時間を必要とする。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段：** メールアドレスを開示していますので、メールでの対応となります。

**留意事項：** なし

---

科目コード：13508      科目ナンバリング：PE30C08E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：保育方法の研究 a(Studies in Nursery School Methodology a)

担当者：諏訪 健一郎、富田 浩子、増井 紀子

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：発問と回答

**授業の概要：** 各担当者が、それぞれの保育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている保育的課題を、具体的に指摘します。また、課題に応えるために必要な様々な保育方法を研究していきます。

**キーワード：** 幼児教育 家庭と子ども

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 様々な保育実践の研究を通して、多様な保育方法を知り、更に、多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直すことができる。

**評価方法：** 授業の中で課題が示されます。

**評価割合：** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について得た知見、自主学習によって得た経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 授業の中で示されます。

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象となしない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象となしない。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 第01回 (諏訪) 入園期の幼児の姿と対応
  - 第02回 (諏訪) 保育者の一日(ミニ製作①)
  - 第03回 (諏訪) 保護者・幼児との信頼関係作り(ミニ製作②)
  - 第04回 (諏訪) 保育の中での製作遊び(折り紙の色使い)
  - 第05回 (諏訪) 保育の中での製作遊び②
  - 第06回 (富田) 事例から学ぶ災害時における対応と健康で安全な環境
  - 第07回 (富田) 事例から学ぶ保育者の資質・大切な考え方(ミニ製作①)
  - 第08回 (富田) 事例から学ぶ児童虐待(ミニ製作②)
  - 第09回 (富田) 事例から学ぶ保育現場における食物アレルギー対応(ミニ製作③)
  - 第10回 (富田) 事例から学ぶ保護者対応の考え方・まとめ(ミニ製作④)
  - 第11回 (増井) 園生活の中での保育者の役割
  - 第12回 (増井) 子どもの遊びと保育者の援助(ミニ製作①)
  - 第13回 (増井) 絵本に親しむための保育方法(絵本の読み聞かせ)
  - 第14回 (増井) 子どもの心を育てる園行事のあり方(ミニ製作②)
  - 第15回 (増井) 子どもも保育者も共に楽しむ保育実践(ミニ製作③)

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しましたので、まずは学務部等へ連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部を通して連絡してください。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード: 13508

科目ナンバリング: PE30C08E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保育方法の研究 b(Studies in Nursery School Methodology b)

担当者: 諏訪 健一郎、富田 浩子、増井 紀子

#### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜6限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 発問と回答

**授業の概要：** 各担当者が、それぞれの保育実践を紹介しながら、現代日本の保育者に求められている保育的課題を、具体的に指摘します。また、課題に応えるために必要な様々な保育方法を研究していきます。

**キーワード：** 幼児教育 家庭と子ども

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 様々な保育実践の研究を通して、多様な保育方法を知り、更に、多様な保育観・子ども観に触れて、自らの保育者観を問い直すことができる。

**評価方法：** 授業の中で課題が示されます。 **評価割合：50%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について得た知見、自主学習によって得た経験を踏まえて考察し、自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 授業の中で示されます。 **評価割合：50%**

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とならない。

**評価割合：0%**

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とならない。

**評価割合：0%**

##### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第01回（増井） 園生活の中での保育者の役割  
第02回（増井） 子どもの遊びと保育者の援助(ミニ製作①)  
第03回（増井） 絵本に親しむための保育方法(絵本の読み聞かせ)  
第04回（増井） 子どもの心を育てる園行事のあり方(ミニ製作②)  
第05回（増井） 子どもも保育者も共に楽しむ保育実践(ミニ製作③)  
第06回（諏訪） 入園期の幼児の姿と対応  
第07回（諏訪） 保育者の一日(ミニ製作①)  
第08回（諏訪） 保護者・幼児との信頼関係作り(ミニ製作②)  
第09回（諏訪） 保育の中での製作遊び(折り紙の色使い)  
第10回（諏訪） 保育の中での製作遊び(木工)  
第11回（富田） 事例から学ぶ災害時における対応と健康で安全な環境  
第12回（富田） 事例から学ぶ保育者の資質・大切な考え方(ミニ製作①)  
第13回（富田） 事例から学ぶ児童虐待(ミニ製作②)  
第14回（富田） 事例から学ぶ保育現場における食物アレルギー対応(ミニ製作③)  
第15回（富田） 事例から学ぶ保護者対応の考え方・まとめ(ミニ製作④)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部を通して連絡してください。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13510      科目ナンバリング:PE40C06J      主な使用言語:日本語  
授業名(英文):初等教育実習Ⅲ(事前事後指導1単位を含む)(Elementary Education Practicum III (In  
担当者:清水悦子

#### 基本情報

年次:4      単位数:3      授業形式:実習  
曜時:前期(実習)、後期(実習)      履修可能学科・専攻:Pe  
関連資格:教職      AL要素:01. 実地訓練  
03. 実験・実技・体験

**授業の概要:** 幼稚園教諭になるためには、教育という活動が行われる幼稚園の場で、実践を通して学ぶことが重要です。大学において学んだ幼児教育の理論や技術を総合的に実践し、自己のものの見方や考え方を振り返り、自己の課題を明らかにし、具体的に目指す教師像に向かって努力し続けることが大切です。そして、よい実習を行うためには、しっかりとした理念を持つこと、保育の技術を豊富に持つこと、子どもの状態に応じて多様な方法を考え出す柔軟性を持つことが必要です。

小学校への実習とは内容が大きく異なるため、幼稚園教諭として就職を考えている児童教育専攻の学生は、幼稚園実習を経験することを強く勧めます。

1日観察実習を行ったあと、9月頃に本実習。  
事前指導の一部は幼児保育専攻(2年次生)と合同で実施します。

**キーワード:** 初等教育実習、幼稚園、子ども理解、体験、実践

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 観察実習を通して、幼稚園教育についての理解を深める。  
保育を振り返るために重要となる実習日誌の書き方を習得する。

**評価方法:** 実習日誌、レポート、実習園からの評価表      **評価割合:40%**  
等

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 幼児教育の理論や技術を、実際の子どもの姿に結び付けて考えることができる。  
よりよい幼稚園教諭になるための自己課題を説明できる。

**評価方法:** 実習日誌、レポート、実習園からの評価表      **評価割合:40%**  
等

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

実習園からの情報をもとに評価する。

**評価割合:10%**

##### ▼実践的ボランティア

実習園からの情報をもとに評価する。

**評価割合:10%**

##### ▼公正性

評価対象にしないが、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には厳重注意する。

**評価割合:0%**

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：《事前指導内容》

1. 教育実習の意義・目的と心得（Ⅰ）
  - (1) 事前説明
  - (2) 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の意義・目的と心得（Ⅱ）
  - (1) 実習生の心得 実習生・社会人・職業人としての態度
3. 教育実習の内容
  - (1) 見学・観察実習の目標と要点
  - (2) 参加実習の指導実習の目標と要点
  - (3) 教育実習日誌の目的と書き方
4. 教育実習の具体的方法（Ⅰ）
  - (1) 幼児理解の要点
  - (2) 保育指導案の書き方
5. 教育実習の具体的方法（Ⅱ）
  - (1) 教材研究の仕方
  - (2) 実技の具体的方法
  - (3) 具体的保育の展開
6. 教育実習の具体的方法（Ⅲ）
  - (1) 教材研究の仕方
  - (2) 実技の具体的方法
  - (3) 具体的保育の展開
7. 模擬保育と保育観察

《実習》

- ・観察実習(内諾を得た園で1日)
- ・本実習(9月頃に2週間)

※ 実習後、10日以内にレポート提出

《事後指導》

8. 観察実習の事後指導
  - (1) 反省報告会
  - (2) 今後の研究課題の発見

使用テキスト： 初等教育実習Ⅲで使用する実習日誌

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 実習日誌の書き方については事前指導でも説明するが、保育実習指導室や図書館にも実習日誌の書き方に関する図書があるため、わからない部分は調べてきた実習の臨むこと。

実習中は、観察した子どもたちの姿と大学での学びを結び付けて考えるように努めること。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、まずは授業担当者あるいは保育実習指導室助手に相談すること。事前の相談も受け付ける。

**授業時間外の連絡手段：** 事前事後講座のやむおえない欠席は、保育実習指導室まで連絡すること。その他の相談事項等については、保育実習指導室の開室時に来訪のこと。  
実習中の遅刻および欠席については、①実習園②保育実習指導室に連絡すること。

**留意事項：** 実習関連の連絡は学務部が窓口となるため、担当職員と密に連絡を取りながら実習に向けての書類等の準備を行うこと。

---

科目コード：13511

科目ナンバリング：PE10C10K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：特別支援教育総論(Fundamentals of Special Needs Education)

---

担当者：椎木 久夫

## 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：10資料調査

16振り返り用紙と応答

## 授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

障害のある子どもたちは、特別支援学校のみならず、保育所や幼稚園、小中学校や高校の通常の学級でも多く学んでいる。そのため、特別支援学校の教員だけでなく、一般の幼保小中高の教員も障害のある幼児児童生徒についての基礎的な理解をしておくことが大切になってきている。

この講座では、いろいろな障害のある子どもの実態と課題について、これまでの実務経験から得た学びを活かし、特別支援教育を必要とする児童生徒の基礎的な理解と支援方法についての理解を深める。

キーワード：特別支援教育 特別支援学級 多様な障害 障害児教育 授業づくり

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

到達目標：多様な障害のある子どもたちの実態及び課題について基礎的な理解を深める。

評価方法：筆記試験

評価割合：50%

レポート

### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：多様な障害のある子どもたちの支援方法について基礎的な理解を深める。

評価方法：筆記試験

評価割合：50%

レポート

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】本講座の達成目標と授業概要、特別支援教育の最近の動向と課題

【第2回】知的障害の理解と教育支援

【第3回】視覚障害の理解と教育支援

【第4回】聴覚障害の理解と教育支援

【第5回】肢体不自由児の理解と教育支援

【第6回】発達障害の児童生徒の理解と教育支援

【第7回】言語障害の児童生徒の理解と教育支援

【第8回】情緒障害の児童生徒の理解と教育支援

【第9回】病弱児童生徒の理解と教育支援



- 【第10回】重度重複障害児童生徒の理解と教育支援
- 【第11回】特別支援教育の今後の可能性
- 【第12回】特別支援学校，特別支援学級の「授業づくり」
- 【第13回】障害のある児童生徒の進路と卒業後の支援
- 【第14回】障害児教育と人権
- 【第15回】まとめ  
定期試験

使用テキスト： 自作資料印刷配布

予習・復習のポイントと 次回授業の課題についての事前調査レポート  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応する。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 研究室及びメールで対応する。

留意事項： なし

---

科目コード：13512      科目ナンバリング：PE10C11K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 特別支援教育原論(Principles of Special Needs Education)

担当者： 齋藤 遼太郎

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：教職

AL要素： 03. 実験・実技・体験  
08. 協同学修  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 全ての学校教師にとって必要となる特別支援教育の制度・システムについて、基本的事項をきちんと理解する入門的な授業である。毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

**キーワード：** 障害児、特別支援教育、インクルージョン、多様な学びの場、支援システム

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 特別支援教育の定義と理念、教育の場の特徴、法制度、教育制度システム等に関する基礎的・基本的な事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 特別支援教育の定義と理念、多様なシステム等についての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法:** グループワークシート

**評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

- 第1回: ガイダンス 特別支援教育を学ぶ意義を考える
- 第2回: 特別支援教育の歴史: 特殊教育から特別支援教育への転換と発展
- 第3回: 特別支援学校の対象、目的、学部、設置義務
- 第4回: 特別支援学校における地域のセンター的機能
- 第5回: 特別支援学校の教育課程と自立活動
- 第6回: 特別支援学級の制度と教育内容
- 第7回: 通級による指導の制度と教育内容
- 第8回: 訪問教育と院内学級
- 第9回: 就学前における特別支援保育・教育・療育システムと就学支援
- 第10回: 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用
- 第11回: 小学校等の支援システム(1) 特別支援教育コーディネーターと校内委員会
- 第12回: 小学校等の支援システム(2) 巡回相談と特別支援教育支援員
- 第13回: 小学校等の支援システム(3) 交流及び共同学習と障害理解教育
- 第14回: 国際生活機能分類(ICF)と国連・障害者権利条約
- 第15回: 講義のまとめにかえて  
インクルーシブ教育システムへの発展と共生社会の実現  
定期試験

**使用テキスト:** 授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。加えて、特別支援学校学習指導要領、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育小六法を使用する(紙媒体の購入は自由)。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

**科目コード:** 13513

**科目ナンバリング:** PE20G22K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 発達障害児教育論(Lectures on Education for Children with Developmental Disabilities)

**担当者:** 三橋 翔太

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 金曜1限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 03.実験・実技・体験

04. 課題解決

16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 特別支援教育において、通常学校に在籍する発達障害のある児童・生徒への教育的支援は重要な課題の1つである。本講義では、こうした発達障害児の基礎的事柄について、特に各障害の心理特性を中心として述べていくと共に、発達障害児への支援・指導の実際について、教育課程と関連づけながら学習を行う。

**キーワード:** 特別支援教育, 発達障害児, 自閉症スペクトラム, 学習障害, 注意欠陥多動性障害, 発達性協調運動障害

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** いわゆる発達障害児の基礎的事柄について、定義や心理特性を理解することができる。

**評価方法:** 期末試験

**評価割合:** 85%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 理解した知識をどのように教育実践に応用していくのか考えると共に、教育課程と関連付けることができる。

**評価方法:** コメントペーパー, 期末試験

**評価割合:** 15%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業終了時に回収するコメントペーパーにおいて、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に発達障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のコメントペーパーや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

##### ▼ その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画：**
- 1 はじめに
  - 2 特別支援教育と発達障害
  - 3 知的発達・認知発達の基礎的事柄
  - 4 学習障害(1)基礎的事項
  - 5 学習障害(2)支援・指導
  - 6 注意欠陥多動性障害(1)基礎的事項
  - 7 注意欠陥多動性障害(2)支援・指導
  - 8 自閉症スペクトラム障害(1)基礎的事項
  - 9 自閉症スペクトラム障害(2)支援・指導
  - 10 言語障害(1)基礎的事項
  - 11 言語障害(2)支援・指導
  - 12 発達性協調運動障害:基礎的事項と支援・指導
  - 13 発達障害児への教育課程(1)校内体制
  - 14 発達障害児への教育課程(2)個別の指導計画
  - 15 発達障害児への教育課程(2)個別の教育支援計画
  - 16 試験

**使用テキスト：** 文部科学省(平成29年4月公示)特別支援学校小学部・中学部学習指導要領  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2019/02/04/1399950\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2019/02/04/1399950_2.pdf)。特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2019/02/04/1399950\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2019/02/04/1399950_5.pdf)また適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。また適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習については、初回に紹介する発達障害児・者に関する文献に目を通しておくことが望ましい。また使用テキストで示したものに関しては、必ず読むこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

**留意事項：** 特になし。

**科目コード：**13514      **科目ナンバリング：**PE31C05K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**知的障害児の教育I(Education for Children with Intellectual Disability I)

**担当者：** 椎木 久夫

**基本情報**

**年次：**3      **単位数：**2      **授業形式：**講義

**曜時：**火曜2限      **履修可能学科・専攻：**Pe

**関連資格：**教職      **AL要素：**発表、発問、回答

**授業の概要：** 特別支援教育に携わる教員として必ず出会う知的障害児の教育の基礎的内容として、知的障害児の理解、教育制度と機関、教育課程の仕組み、具体的な授業の作り方等について学ぶ。なお実務経験を活かし、実際の授業実践の写真や現場の教師の支援の戸惑いや葛藤等について具体的に伝えながら授業を展開する。

**キーワード：** 特別支援教育、知的障害、特別支援学校学習指導要領、知的障害児教育の教育課程、授業づくり

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：** 知的障害児の実態、知的障害児の教育の基本的知識(教育制度、授業の作り方等)について、

概ね70%の事項を暗記し、回答することができる

**評価方法:** 学期末  
筆記試験

**評価割合:** 50%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業後に関連課題を出し、その課題について考察し、自分なりの問題意識をもち、文章にまとめて表記できる

**評価方法:** 授業後振り返りレポート

**評価割合:** 20%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

次回の授業テーマについての事前調査課題(宿題)について各学生が主体的に調べ、まとめ、授業当日発表する。それに対する他学生の質問に答える。事前調査レポートを提出する。

**評価割合:** 30%

**▼実践的ボランティア**

授業の中で、特別支援教育に関するボランティア活動を紹介し、参加を奨励する。直接的な評価の対象としない。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

特別支援教育に関しては、教師は人権問題や差別表現に敏感になる必要があり、授業を通して伝えていく。直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 【第01】オリエンテーション、最近の特別支援教育の動向
  - 【第02】知的障害児教育の現状と課題
  - 【第03】知的障害児の理解(1)ダウン症候群
  - 【第04】 〃 (2)知的に遅れのある自閉症スペクトラム
  - 【第05】 〃 (3)自閉症スペクトラムの教育とTEACCHプログラム
  - 【第06】 〃 (4)重度・重複障害児
  - 【第07】知的障害児教育の教育制度と教育機関
  - 【第08】知的障害児教育の学習指導要領と教育課程
  - 【第09】知的障害児の授業づくり(1)発達段階と発達課題
  - 【第10】 〃 (2)「日常生活の指導」
  - 【第11】 〃 (3)「遊びの指導」
  - 【第12】 〃 (4)「生活単元学習」
  - 【第13】 〃 (5)「作業学習」
  - 【第14】 〃 (6)「自立活動」
  - 【第15】 まとめ
- 定期試験

**使用テキスト:** 自作資料、参考資料はすべて印刷して配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ①次回のテーマについて事前調査し、レポートにまとめ、授業当日に発表する  
②授業後に授業に関する提案課題について自分の意見をまとめる

**障がいのある履修者への対応:** 申し出があれば可能な限り配慮します。

**授業時間外の連絡手段:** 大学の個人メールアドレスで対応します。(アドレスは授業でお知らせします)

留意事項：なし

---

---

科目コード：13515      科目ナンバリング：PE32C05K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：知的障害児の教育II(Education for Children with Intellectual Disability II)

担当者：椎木 久夫

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：16振り返り用紙と応答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型

「知的障害児の教育Ⅰ」において学習した教育体制、領域・教科を合わせた指導等の内容に引き続き、教科指導とその他付随する関係領域に焦点を当てて、これまでの実務経験を活かして知的障害の授業作りに必要な指導内容(理論、根拠、効果等)について理解を深める。

キーワード：知的障害・発達課題・教科指導・特別支援学級・交流及び共同学習・キャリア教育・就労と福祉

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：知的障害児の「授業作り」に必要となる基礎的知識(実態の把握・達成目標の理解・個別の指導計画の作成等)について理解を深める。

評価方法：筆記試験

評価割合：60%

提出レポート

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：知的障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じた多様な支援・指導が考えられるようにする。

評価方法：筆記試験

評価割合：40%

提出レポート

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】オリエンテーション 講座目標 授業計画 特別支援教育について

【第2回】教科指導①「国語～ことば～」

【第3回】教科指導②「算数～かず～」

【第4回】教科指導③「体育～うんどう～」

【第5回】教科指導④「図画工作～描く～」

- 【第6回】授業作りと教材の工夫
  - 【第7回】知的障害児教育と評価
  - 【第8回】特別支援学級の教育と実践
  - 【第9回】交流及び共同学習
  - 【第10回】知的障害児と気になる行動
  - 【第11回】知的障害児の思春期
  - 【第12回】就学前の特別支援教育(乳幼児期)
  - 【第13回】特別支援教育におけるキャリア教育
  - 【第14回】卒業後の支援～就労と福祉～
  - 【第15回】特別支援教育と人権 まとめ
- 定期試験

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 次回授業課題の事前調査レポート

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段:** メール及び研究室において対応します。

**留意事項:** なし

**科目コード:** 13518      **科目ナンバリング:** PE30C11K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 肢体不自由児の教育(Education for Children with Physical Disabilities)

**担当者:** 安藤 隆男

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 集中講義

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07 発表

11 討議

17 発問と回答

**授業の概要:** 肢体不自由教育の歴史・制度、教育課程の原理と編成及び今日的な課題に関わる基礎的理解を深め、肢体不自由教育のあり方について整理、考究することができる。

具体的には、①肢体不自由教育の歴史・制度、②肢体不自由教育(特別支援学校及び小学校特別支援学級等)における児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応した教育課程の考え方と編成の実際、③肢体不自由教育における今日的課題と展望、の3部から構成する。

各部の最後に講義に係るレポートを作成し、発表・討議による理解、思考の深化を図る。

**キーワード:** 肢体不自由教育の歴史・制度、教育課程の原理と編成、協働性に基づく教師の専門性、自立活動と個別の指導計画、障害特性に応じた教科指導、インクルーシブ教育システム

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 肢体不自由教育に関わる教育学の基礎的知識を習得する。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 講義で習得した知識を活用して、肢体不自由教育の今日的課題について論理的に整理、考究する。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

主体的にレポートの発表を行うこと、又は発表に対して積極的に自らの意見を述べる。

評価割合：10%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、肢体不自由教育に関わるボランティア経験等を踏まえ、習得した知識・技能を活用した論究が得られれば思考力・判断力・表現力の評価に加えることがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、将来教職を目指す者として、肢体不自由がある子どもやその教育に関して偏りなく、公正・公平で、科学的な視点から学ぶことができる。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** <第1部「肢体不自由教育の歴史・制度・理念」>

第1回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅰ（欧米等における肢体不自由教育の歴史と制度）

第2回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅱ（わが国における戦前の肢体不自由教育の萌芽）

第3回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅲ（わが国における戦後の肢体不自由教育の成立）

第4回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅳ（戦後の養護学校の整備と義務化）

第5回：第Ⅰ部「肢体不自由教育の歴史・制度・理念」に係る課題整理（レポート作成）と討議

<第2部「肢体不自由教育における教育課程の原理と編成」>

第6回：特別支援学校における教育課程の原理と編成Ⅰ（教育課程の定義と関係法令及び学習指導要領の解説と理解）

第7回：特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の原理と編成Ⅱ（障害の重度化・重複化、多様化に対応した教育課程の編成）

第8回：特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の原理と編成Ⅲ（教育課程の編成に関する事例的研究）

第9回：小・中学校における肢体不自由教育の現状と教育課程の編成

第10回：第2部「肢体不自由教育における教育課程の原理と編成」に係る課題整理（レポート作成）と討議

<第3部「肢体不自由教育における今日的課題と展望<パースペクティブ>」>

第11回：教育の独自性と専門性（医療的ケアの実施等にとまなう外部専門家の導入の教育的意義）

第12回：自立活動の指導における個別の指導計画の作成と課題～とくに教育評価（診断的評価）の手続き等について事例をもって具体的に学ぶ～

第13回：脳性まひ（脳性疾患）の特性に応じた教科指導と教師支援

第14回：インクルーシブ教育システムと肢体不自由特別支援学校の使命～映像を通じた国際的動向（東南アジア諸国）の理解～

第15回：第3部「肢体不自由教育の今日的課題と展望<パースペクティブ>」に係る課題整理と討議

**使用テキスト：** よくわかる肢体不自由教育 安藤隆男・藤田継道 ミネルヴァ書房 2015年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** シラバスを参考に予め講義で取り上げる内容について、講義資料、関連の書籍（テキストを含む）を講読すること。授業終了後は、関心をもった講義内容等について積極的に関連の文献等を収集、講読すること。

参考文献・資料は次の通りである。

特別支援教育を創造するための教育学 安藤隆男・中村満紀男 明石書店 2009年  
特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（2017年）及び関係の解説 文部科学省  
小学校学習指導要領（2017年）及びその解説 文部科学省



**障がいのある履修者への対応:** 学習上の困難さに応じた合理的配慮を行うために予め大学を通じて申し出を行うこと。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時間内に随時質問を受けるほか、休憩時間等の時間外の質問にも対応を行う。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 13519

**科目ナンバリング:** PE30C12K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 肢体不自由児の心理・生理・病理(Psychology, Physiology and Pathology in Children)

**担当者:** 勝二 博亮

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 金曜2限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 11.討論

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

**授業の概要:** 肢体不自由の特別支援学校に通う子どもたちの原因疾患を知る前に、運動機能に関わる生理学的知見について論じていく。その後、各原因疾患について生理・病理的知見を述べるとともに、原因疾患の多くを占める脳性まひについて学校生活で生じる問題に関する基本的対応に関して述べていく。

**キーワード:** 脳性まひ, 二分脊椎, 筋ジストロフィ, 反射・反応, 運動, 姿勢

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 肢体不自由の特別支援学校に在籍する子どもたちの主な原因疾患に関する心理・生理・病理学的知識について理解できる。

**評価方法:** 各回実施するコメントペーパーの内容

**評価割合:** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 心理・生理・病理学的視点から学校生活上で生じる様々な問題に関して、基本的な対応方法を考えることができる。

**評価方法:** 各回実施するコメントペーパーの内容

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしないが、コメントペーパーの内容に含まれると考える。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし、コメントペーパーの内容に含まれる場合は評価する。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、遅刻などが頻発したり、授業中の私語が多い場合などは、評価の減点となる場合がある。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:** (1)オリエンテーション

(2)運動のしくみ(一次運動野・高次運動野)

(3)運動のしくみ(大脳基底核・小脳)

- (4) 運動の発達(反射)
- (5) 運動の発達(反応)
- (6) 肢体不自由の主な原因疾患
- (7) 脳性疾患(脳性まひの定義・原因)
- (8) 脳性疾患(脳性まひのタイプなど)
- (9) 脳性まひにおける姿勢と運動制御への支援
- (10) 発達と運動のアセスメント
- (11) 脳性まひにおける認知特性とその支援(PVLの心理的特性と学習支援)
- (12) 脊椎・脊髄疾患
- (13) 筋・神経疾患
- (14) 骨・関節疾患, その他
- (15) まとめ

**使用テキスト:** 以下のテキストを使用するので用意すること(生協にて指示済み)。

書名: 知的障害児の心理・生理・病理.

著者名: 勝二博亮(編)

出版社: 北大路書房

ISBN: 978-4-7628-3188-1

価格: 2700円+税

出版年月日: 2022年3月22日

上記に加え、授業で使用する資料を配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 次回分のプリントが事前に配布された場合には、目を通しておき、理解が不安な箇所は予習しておくといよい。また、教科書の指示された範囲を事前に読むことを要求することもある。授業後は、配付資料について復習し、疑問に思った点は自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まず学務部等に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** メールアドレスを公開していますので、電子メールを通じて連絡してください。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 13520      **科目ナンバリング:** PE30C13K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 病弱児の教育(Education for Children with Chronically ill)

**担当者:** 田中 亮

**基本情報**

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 集中講義

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 小児医療の進歩の中で、これからの特別支援教育・病弱・身体虚弱教育に求められている役割や実践的課題について学びます。入院の短期化・頻回化により、病弱特別支援学校や病院内学級に加え、近年では小・中学校にも多くの病気の子どもたちが学んでいます。そこで、全て教職員にとって、病弱・身体虚弱教育についての知識や理解をもつことが重要になっていると言えます。その点について念頭におきながら、小児がん・腎疾患等による長期療養の子どもや慢性疾患・晩期合併症等による生活や運動等に配慮が必要な子ども、精神疾患や心身症の配慮が必要な子どもなどのための教育課程・指導法などの基本的な知識の解説を中心に、事例の検討、合理的配慮、ICT、キャリア教育、多職種協働などの最近の注目すべきトピックなどを

取り上げます。

**キーワード：** 病弱・身体虚弱教育・教育課程・指導法・病院内学級・学校保健・小児慢性特定疾患・健康教育・医療と教育の連携

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で解説した病弱・身体虚弱児に関する教育の教育課程・指導法についての知識や技能を理解した上で獲得することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った病弱・身体虚弱児に関する教育課程や指導法の現状や課題について理解した上で、自らの考察を深め、論理的に表現したり、討論に参加することができる。

**評価方法：** 学期末レポート

**評価割合：** 30%

授業中の討論・振り返り用紙

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回授業で予習のテーマと復習のポイントを提示するので、それに基づいて自ら進んで調べたり、思考を深めたりすることができる。

また、授業と並行して、病気の子どもたちや院内学級に関する書籍を読み、学習内容への意欲を高めていくことができる。

**評価割合：** 10%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価とはしないが、学校や病院でのボランティア等に参加し、病気の子どもたちとかかわる機会があれば積極的に参加してください。参加の報告があった場合、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価に対象とすることがあります。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や定期試験の記述等の人権侵害・差別的な発言、公平性を著しく欠く不正行為があった場合は、単位の取得に至らないこととするので十分気をつけてください。

特に、コピーアンドペーストやSNS等による不正・拡散などには厳しく対応することがあります。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 集中講義(4日間)を予定しています。

日程等の詳細は、後日お伝えしますので、掲示板等の連絡をよく確認してください。

第1回:病弱・身体虚弱教育の制度と歴史的経緯

第2回:病弱・身体虚弱教育の教育課程・学習指導要領との関連

第3回:病弱・身体虚弱教育の対象疾患と指導法

第4回:病弱・身体虚弱特別支援学級(院内学級)の実践①(教育目標と支援方針)

第5回:病弱・身体虚弱特別支援学級(院内学級)の実践②(入院～復学までの事例の検討)

第6回:病弱・身体虚弱特別支援学級(健康学園・訪問教育・ベッドサイドの学習)の実践

第7回:病弱特別支援学校の実践(自立活動・教科指導・センター的機能)

第8回:小学校等における病弱・身体虚弱児教育①(合理的配慮・学校保健)

第9回:小学校等における病弱・身体虚弱児教育②(健康教育)

- 第10回:病弱・身体虚弱教育とICT・キャリア教育・教員研修
  - 第11回:医療・福祉・教育の多職種協働で取り組む校内体制・医療的ケア児への支援体制
  - 第12回:慢性疾患児の家族への支援
  - 第13回:終末期(ターミナルケア)の子どもたちへの教育とその意義
  - 第14回:精神疾患と心身症の子どもたちへの指導法と教育的配慮
  - 第15回:病弱・身体虚弱児教育のこれから
- 筆記試験

これらの内容に加えて、試験を除く、毎回、事例の小検討をグループ学習として行う予定です。

**使用テキスト:** 日本育療学会(2019)「標準 病弱児の教育」ジアース教育新社。ISBNコード: SBN978-4-86371-493-9

濱田豊彦監修・東京学芸大学特別支援科学講座編(2022)「特別支援教育のための障害理解」金子書房。ISBNコード:978-4-7608-2853-1

※2冊の指定で恐れ入りますが、両方のテキストともに使いますので、必ず購入をお願いします。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ①毎回の授業において、予習のテーマと復習のポイントを示すので、それをもとにして意欲的に予習・復習に取り組むようにしてください。

②病弱・身体虚弱教育の入門として、以下の書籍を読むことで、病気の子どもたちや院内学級に関するイメージをもつことができます。これらの書籍は病弱・身体虚弱教育を理解する上で、非常に、現実的でなおかつわかりやすく、読みやすくまとまっています。

- ・副島賢和(2015)「ぼくが院内学級の教師として学んだこと あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ」学研教育みらい。ISBNコード:9784054062962
- ・副島賢和(2016)「院内学級の子供たちが綴った命のメッセージ 心が元気になる学校」プレジデント社。ISBNコード:9784833451031
- ・宮本雅史(2006)「電池が切れるまで」の仲間たち 子ども病院物語」角川文庫。ISBNコード:9784048537704
- ・山本純士(2007)「15メートルの通学路」角川文庫。ISBNコード:9784043861019
- ・副島賢和(2022)「あのね、ほんとうはね」へるす出版。ISBNコード:9784867190234
- ・副島賢和(2020)「はなれていても、だいじょうぶだよ」学研。ISBNコード:9784058011980

③授業の参考書としては、以下の書籍等を参考にしてください。

- ・文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2017)「病気の子どもの教育支援ガイド」ジアース教育新社。ISBNコード:9784863714069
- ・全国特別支援学校病弱教育校長会(2012)「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた 病気の子どものガイドブック」ジアース教育新社。ISBNコード:9784863711808
- ・全国特別支援学校病弱教育校長会(2020)「特別支援学校学習指導要領等を踏まえた 病気の子どものための教育必携ガイドブック」ジアース教育新社。ISBNコード:9784863715202

**障がいのある履修者への対応:** できうる限りの配慮をしますので、学務部等に問い合わせてください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回講義で、お伝えしますが、授業期間前は、学務部に問い合わせてください。

**留意事項:** ・授業担当者は現職の小学校教員です。実際の病弱児への教育、子どもたちの姿をイメージしやすいように、授業担当者が学校現場等でこれまで得てきた病弱児への教育に関する実務経験と最新の研究動向等を織り交ぜながら、授業を進めていきます。

・病気の子どもたちに、いつ・どこで会おうかはわかりません。なかなか学ぶ機会の少ない分野だと思いますので、予習や復習にしっかりと時間をかけるとともに、積極的な授業への参加を期待しています。

・連絡のない欠席や遅刻・早退、授業中の居眠り、内職があった場合は、筆記試験やレポートの成績を



- (4) 小児がんとその配慮—白血病を中心に—2
- (5) 喘息とその配慮1
- (6) 喘息とその配慮2
- (7) 糖尿病とその配慮1
- (8) 糖尿病とその配慮2
- (9) 心疾患とその配慮1
- (10) 心疾患とその配慮2
- (11) 腎疾患とその配慮1
- (12) 腎疾患とその配慮2
- (13) 膠原病とその配慮
- (14) 心身症とその配慮
- (15) まとめ

**使用テキスト:** テキストはなし。授業で使用する資料は全て配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 次回分のプリントが事前に配布された場合には、ひと通り目を通し、理解が不安な箇所は予習し、ておくおよび。授業後は、配付資料について復習し、疑問に思った点は自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

参考資料は以下の通り。

特別な支援を必要とする子どもの理解と教育, かもがわ出版, 1800円+税

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まず学務部等に相談して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** メールアドレスを公開していますので、電子メールを通じて連絡してください。

**留意事項:** 特になし。

科目コード:13522

科目ナンバリング:PE30C15K

主な使用言語: Japanese

授業名(英文): 重度重複障害児教育論(Lectures on Education for Children with Severe and Multiple

担当者: 宮地 弘一郎

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:集中講義

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 02

07

08

11

**授業の概要:** 重度重複障害教育には、特別なニーズを持つ全てのこどもの教育の原点となる要素が集約されている。この

授業では、最初に重複障害と重度重複障害の概念について解説した上で、主に次の3つの内容について講義と演習を行う。

- ①初期発達の生理・心理学的メカニズム
- ②重度重複障害児の発達援助の視点
- ③重度重複障害教育の実際

**キーワード:** 重複障害  
重症心身障害  
発達科学

#### 学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標:** (1) 重複障害の概念に関する基本的な知識を習得する。  
(2) 重複障害児, 重度重複障害児の教育及び社会生活上の制約要因を理解する。  
(3) 発達援助の視点となる基礎知識を得るとともに, 重度重複障害児の援助視点について理解する。

**評価方法:** 筆記試験およびレポート

**評価割合:** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** (1) こどもの姿から, 障害の特性や援助をイメージできる。  
(2) 医療, 教育, 福祉の関連領域の専門家と, 重度重複障害に関する基本的な事柄について支障なくコミュニケーションがとれる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

(1) 重度重複障害教育に関する医学的知識と発達科学についての関心と学習態度を形成する。  
(2) 重度重複障害者の自己実現を常にイメージする態度を形成する。

**評価割合:** 5%

#### ▼実践的ボランティア

自らの意志に基づき, 重度重複障害児の発達と生活の質保障において, 奉仕実践社会貢献を信条としてゆく姿勢・態度。

**評価割合:** 5%

#### ▼公正性

(重度) 重複障害児をはじめとする, 各々の特別なニーズのある子どもたちに関するスティグマを解放し, 全ての人々の幸福と自己実現を考え続けるマインドを形成する。

**評価割合:** 5%

#### ▼その他

(1) 重度重複障害児教育の関連領域や, 現代の社会状況、あるいは地域生活に関心を持ち自ら情報を収集する態度を形成する。  
(2) 様々な知識と経験を活かして, 教育の意義を“論じる”ことができる。

**評価割合:** (1) 重度重複障害児教育の関連領域

**授業計画:** 第1回 重複障害とは  
第2回 重複障害の制約要因  
第3回 様々な重複障害の理解と支援  
第4回 重度重複障害～重症心身障害児(者)の課題  
第5回 定型発達から考える重度重複障害(1)脳障害と脳発達  
第6回 定型発達から考える重度重複障害(2)定位反射系活動の発達  
第7回 定型発達から考える重度重複障害(3)認知発達と運動発達  
第8回 定型発達から考える重度重複障害(4)言語発達と思考・判断・表現  
第9回 重症心身障害児の教育(1)実態把握と教育内容

- 第10回 重症心身障害児の教育(2)環境設定-ICFモデルからの援助視点-
- 第11回 重度重複障害児の教育(3)自立活動と教科
- 第12回 重度重複障害児の教育(4)AACの理論と方法
- 第13回 重度重複障害児の教育(5)AACの実際
- 第14回 重度重複障害教育の関連事項(1)生理心理学的アプローチ
- 第15回 重度重複障害教育の関連事項(2)自己実現と教育保障

**使用テキスト:** 教科書は指定しない。授業時に配布する。

**予習・復習のポイントと** 【予習・復習のポイント】

**参考文献・資料等:** 重複障害は様々な障害が想定されます。各障害領域の心理・生理・病理等を履修済みもしくは履修中の場合には、それらの講義内容を再確認し、各障害の要因や概要を理解しておきましょう。本講義がより深く理解できます。

**【参考書】**

鈴木康之・舟橋満寿子監修, 八代博子編著, 写真で分かる重症心身障害児(者)のケア人としての尊厳を守る療育の実践のために-. 2015, インターメディカ.

坂口しおり著, 障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定. 2006, ジアース教育新社

片桐和雄, 北島 善夫, 小池 敏英, 重症心身障害児の認知発達とその援助-生理心理学的アプローチ

一歩の展開. 1999, 北大路書房.

**障がいのある履修者への対応:** 相談しながら必要な対応を行います。ただし、相談内容によっては支援員や障害対応の資料を準備する必要がありますので、必ず受講登録の前に事前相談を行ってください。非常勤講師による集中講義のため、直前の相談では対応できない場合があります。

**授業時間外の連絡手段:** メールにより対応します。メールアドレスは授業の時に案内します。

**留意事項:** 受講者の主体的な学習が求められるため、そのことをよく留意しておくこと。筆記試験は、集中講義期間中に小テストとして複数回に分けて実施します。

**科目コード:** 13524      **科目ナンバリング:** PE30C17K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 言語の発達と障害(Language Acquisition and Communication Disorders)

**担当者:** 平田 正吾

**基本情報**

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 集中講義

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 模擬実践  
討論

**授業の概要:** 言語やそれをを用いたコミュニケーションの問題は、言語障害児のみならず知的障害児や自閉症スペクトラム障害児などで広く認められる。本講義では、こうした様々な障害児における言語の障害を理解するため、まず言語発達に関わる基礎的事柄を概観した後に、様々な発達障害における言語面の特徴を見ていく。

**キーワード:** 言語、言語障害、自閉症スペクトラム、言語評価

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 1) 言語発達の基礎的事柄を説明できる



2)障害児における言語面の特徴を説明できる

**評価方法:** 最終課題の成績によって評価する

**評価割合:** 80

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 学習した知識・技能に基づき、自らの考えを論理的かつ的確に表現できる

**評価方法:** 適宜、記入を求めるコメントペーパーによって評価する

**評価割合:** 20

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価の対象とはしない。ただし、他の学生の学修に支障をきたすような行為が認められた場合には、厳重に注意する。

**評価割合:** 0

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0

**▼公正性**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 1 はじめに
  - 2 言語発達の基礎的事柄(1)言語の分類
  - 3 言語発達の基礎的事柄(2)言語と社会
  - 4 言語発達の基礎的事柄(3)脳の発達と可塑性
  - 5 言語発達の基礎的事柄(4)言語と社会的行動
  - 6 言語発達の基礎的事柄(5)言語機能の評価
  - 7 言語発達の基礎的事柄(6)言語の発達の变化
  - 8 障害児における言語(1)吃音・構音障害
  - 9 障害児における言語(2)緘黙
  - 10 障害児における言語(3)知的障害
  - 11 障害児における言語(4)脳性マヒ・肢体不自由
  - 12 障害児における言語(5)自閉症スペクトラム障害
  - 13 その他の言語障害(1)日本語の習得に困難のある児
  - 14 その他の言語障害(2)学習障害
  - 15 まとめ

**使用テキスト:** 特になし。適宜、使用する資料を配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 復習のポイントとしては、講義で使用した資料を見返すことが挙げられる。予習のポイントとしては、講義内で取り上げた書籍や映像に目を通しておくことが挙げられる。

**障がいのある履修者への対応:** 可能なかぎり対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** shirata@u-gakugei.ac.jpに連絡してください。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13526

科目ナンバリング:PE30C18K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 発達障害児の心理検査法(Psychological Assessments of Children with Development)

担当者: 三橋 翔太

### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 02. 模擬実践  
03. 実験・実技・体験  
08. 協同学習  
16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 現在発達障害児への教育・支援は、特別支援教育の重要な課題の1つである。発達障害児に対して適切かつ効率的な教育及び支援を行うためには、心理機能を総合的に評価・把握することが必要不可欠である。こうした背景を踏まえ、本講義では特別支援教育における代表的な心理検査の概要と、その実際について、演習を行いつつ理解することを目的とする。また、心理検査の結果に基づき、個別の指導計画の作成についても取り扱う。

**キーワード:** 特別支援教育, 発達障害, 心理検査

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 特別支援教育において使用される代表的な心理検査法の特徴について理解することができる。

**評価方法:** コメントペーパー, レポート

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 心理検査の結果に基づき、個別の指導計画を作成することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に発達障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収する作成した個別指導計画やコメントペーパーなどに記載された場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:**

- 1 はじめに
- 2 心理検査の基礎的事柄(1)検査法の種類
- 3 心理検査の基礎的事柄(2)評価の基礎的事柄
- 4 ビネー式知能検査(1)概要と検査の実施
- 5 ビネー式知能検査(2)分析と解釈

- 6 ウェクスラー式知能検査(1) 概要と検査の実施
- 7 ウェクスラー式知能検査(2) 分析と解釈
- 8 DN-CAS(1) 概要と検査の実施
- 9 DN-CAS(2) 分析と解釈
- 10 K-ABC2(1) 概要と検査の実施
- 11 K-ABC2(2) 分析と解釈
- 12 質問紙法による評価
- 13 面接法による評価
- 14 個別の指導計画の作成(1)
- 15 個別の指導計画の作成(2)

**使用テキスト:** 文部科学省(平成29年4月公示)特別支援学校小学部・中学部学習指導要領  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_2.pdf)。特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf)また適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習については、使用テキストで示したものに関しては、必ず読むこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 13527      **科目ナンバリング:** PE30C19K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 障害児福祉論(Lectures on Welfare of Children with Disabilities)

**担当者:** 齋藤 遼太郎

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜2限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要:** 障害児・者が生活を送る上で、様々な法律でその支援が講じられている。本授業では、各種法律を基に、障害児・者を支える福祉制度について概観していく。毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

**キーワード:** 障害児、福祉制度、児童福祉法、障害児の余暇

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 障害児・者福祉の定義と理念、障害児・者の生活を支える法制度等に関する基礎的・基本的な

事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法:** 最終レポート

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 障害児・者福祉の定義と理念、障害児・者の生活を支える法制度等についての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法:** グループワークシート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が最終レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや最終レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

- 第1回: ガイダンス 障害児・者を取り巻く福祉制度とは
- 第2回: 今日の障害児・者福祉の現状
- 第3回: 障害者基本法
- 第4回: 障害者総合支援法
- 第5回: 障害者差別解消法と合理的配慮
- 第6回: 児童福祉法と子ども支援
- 第7回: 子ども・子育て支援法
- 第8回: 発達障害者支援法と発達障害の定義
- 第9回: 発達障害者支援法と発達障害者支援センター
- 第10回: 児童発達支援における障害児福祉
- 第11回: 放課後児童クラブ及び放課後等デイサービスにおける障害児福祉
- 第12回: 障害者入所施設における障害児福祉
- 第13回: 就労移行支援と就労継続支援
- 第14回: 教育と福祉の関係
- 第15回: 講義のまとめにかえて 今後の必要な障害児福祉とは  
最終レポート

**使用テキスト:** 授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13528      科目ナンバリング:PE30C20K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):世界の障害児教育(Education for Children with Disabilities in the World)

担当者: 齋藤 遼太郎

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要:** 国際的な障害の定義は国際連合やアメリカ精神医学会等、様々な機関において定められている。本授業では、そうした国際的な障害の定義や理念について、DSM-5、ICD-10、AAIDDを取り上げ、整理していく。また、そもそもとしての障害の考え方を、同じく国際的な条約であるICFや障害者の権利に関する条約から学習していく。毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

**キーワード:** 障害児、特別支援教育、インクルージョン、各国の障害観、各国の障害基準

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 国際的な障害の定義と理念や障害を定義する診断マニュアル・法律といった基礎的・基本的な事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法:** 最終レポート

**評価割合:** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 国際的な障害の定義と理念、障害を定義する法律等についての到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法:** グループワークシート

**評価割合:** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が最終レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや最終レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回: ガイダンス 世界における障害児教育とは  
第2回: DSM-5による障害の診断-LD、DCD-  
第3回: DSM-5による障害の診断-ADHD-  
第4回: DSM-5による障害の診断-ASD-  
第5回: ICD-10による障害の診断-LD、DCD-  
第6回: ICD-10による障害の診断-ADHD-  
第7回: ICD-10による障害の診断-ASD-  
第8回: 世界における知的障害の捉え方-DSM-5から-  
第9回: 世界における知的障害の捉え方-ICD-10から-  
第10回: 世界における知的障害の捉え方-AAIDDから-  
第11回: ICFによる障害の考え方(1)-ICIDHとの比較から-  
第12回: ICFによる障害の考え方(2)-ICFを用いたアセスメント-  
第13回: 障害者の権利に関する条約(1)-インクルーシブ教育システム-  
第14回: 障害者の権利に関する条約(2)-合理的配慮の考え方-  
第15回: 講義のまとめにかえて 今後の日本が目指す特別支援教育の方向性  
最終レポート

**使用テキスト：** 授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

科目コード：13529      科目ナンバリング：PE40C07E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：特別支援教育実地演習(Special Needs Education Practical Seminar)

担当者：椎木 久夫

#### 基本情報

年次：4

単位数：4

授業形式：演習

曜時：金曜1限 金曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：12模擬実践

7発表

11討論

13役割演技と疑似体験

**授業の概要：**【特例期間中の授業形態】課題研究型

障害児の特性、授業展開に必要な事柄についての理論的講義と実際の授業観察をと

て授業づくりのイメージを作り、さらに授業づくりに必要な個別の指導計画、学習指導案の作成、そして模擬授業を組み合わせ「教育現場ですぐ役立つ」実践的指導力を身につける。  
また、特別支援教育は、複数指導体制での活動が多いので、実践演習はグループで進める。また、実習・演習が多くなるため、2時間連続の授業体制で進める。

**キーワード：** 特別支援教育、障害児の特性、授業研究、模擬授業、実践的指導力、複数指導体制

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 特別支援教育の教育現場で役立つ実践的指導力について理解を深める。

**評価方法：** 模擬授業・研究授業の授業態度  
レポート

**評価割合：** 70%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** これまでに身につけてきた障害児教育の手立てや指導方法を授業に生かすことができる。

**評価方法：** 指導案の作成及びレポート

**評価割合：** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象としない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 【第 1・2回】オリエンテーション(目標・授業計画) 講義:特別支援学校の授業及び生活  
【第 3・4回】特別支援学校の授業実践①②  
【第 5・6回】指導案の構造と作成の手順・考え方①題材の設定と目標  
【第 7・8回】指導案の構造と作成の手順・考え方②授業展開と評価  
【第 9・10回】模擬授業の進め方 模擬授業の実際①②(グループの編成)  
【第11・12回】模擬授業内容の検討①②  
【第13・14回】模擬授業の指導案作成①②  
【第15・16回】特別支援学校授業参観(教育実習予定校)  
【第17・18回】模擬授業の授業準備・教材作り①②  
【第19・20回】模擬授業①研究授業①  
【第21・22回】模擬授業②研究授業②  
【第23・24回】模擬授業③研究授業③  
【第25・26回】模擬授業④研究授業④  
【第27・28回】模擬授業⑤研究授業⑤  
【第29・30回】まとめ:特別支援学校の授業及び生活

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 毎授業終了後の課題レポート及び次回授業内容についての調査レポートの提出。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。

**授業時間外の連絡手段:** 研究室及びメールにて対応します。

**留意事項:** なし

---

**科目コード:** 13530      **科目ナンバリング:** PE40C08J      **主な使用言語:** 日本語  
**授業名(英文):** 特別支援教育実習(事前事後指導1単位を含む)(Special Needs Education Practicum)  
**担当者:** 椎木 久夫

#### 基本情報

**年次:** 4      **単位数:** 3      **授業形式:** 実習  
**曜時:** 前期(実習)、後期(実習)      **履修可能学科・専攻:** Pe  
**関連資格:** 教職      **AL要素:** 01実地訓練

**授業の概要:** 【特例期間中の授業形態】課題研究型

教育実習における目的意識を自覚し、教育実習の全体的見通しを持つため、学校の組織、学校・学級経営の視点について理解を深める。また、特別支援教育のこども観、教育観、指導観、及び人権について理解を深め安心して教育実習ができるようにする。

**キーワード:** 特別支援教育・特別支援学校・教育実習・学級経営

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 実習において児童生徒や教職員との具体的関わりをとおして、特別支援教育についての理解を深めることができる。

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 50%  
レポート  
実習校評価

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 実習をとおして、教員として必要な基本的な実践的指導力を身につけることができる

**評価方法:** 提出物      **評価割合:** 50%  
レポート  
実習校評価

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし



- 授業計画：**【第1回】オリエンテーション 教育実習の意義と目的 教育実習の心構え  
【第2回】特別支援学校の位置づけ, 組織と服務  
【第3回】特別支援学校の位置づけ, 在籍児童の実態  
【第4回】特別支援学校の授業の実際  
【第5回】特別支援教育と人権, こども観, 教育観  
【第6回】教育実習の心構えと事前準備  
【第7回】事後指導 実習の報告と反省

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・実習校についての教育目標等の事前調査  
・参考資料:特別支援学校学習指導要領(文科省)  
特別支援学校学習指導要領解説(文科省)

**障がいのある履修者への対応：** ・可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段：** ・メール及び研究室において対応します。

**留意事項：** ・なし

---

科目コード:13531      科目ナンバリング:PE30C21K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 学校経営と学校図書館 a (School Library Management a)

担当者: 勝山 万里子

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格: 司書教

**AL要素:** 01 図書館見学  
03 体験  
04 資料紹介実習  
11 討論  
16 振り返り用紙と応答  
17 発問と回答

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、総論として位置づけられ学校図書館の基本を学ぶ。学校図書館の役割と理念を教育の動向とともに捉える。学校経営の中での学校図書館の位置づけを理解し、活用出来る司書教諭としての知識と資質を育成する。

なお、実務経験を生かし、下記のように授業を行う。

- 1 学校図書館のあるべき姿は、体験から学ぶことが必要となるという経験から、附属高校の図書館を見学する(予定)
- 2 各講義における知識が、実際の活動に結びつくように、各学校での活用及び実践事例を示す。
- 3 理想とする学校図書館のあり方と、学生の活用経験の差を埋めるために、現状や問題点に関する討論、発問と回答を積極的に行う

**キーワード:** 学校図書館の理念 学校図書館の成立と改正 学校図書館法 学習指導要領 校務分掌 司書教諭 学校司書 協同 学校図書館の経営 学校図書館の環境 学校図書館メディア 学校図書館活動

**学位授与方針との関係**

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校図書館の基礎的な事項(理念、役割、施策等)を理解出来る。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 25

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館の基本的な知識を、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察出来る

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 25

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 50

#### ▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

#### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。

- 第1回 オリエンテーション、学校教育の変遷と学校図書館
- 第2回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館法の制定)
- 第3回 学校教育の変遷と学校図書館(キリスト中高図書館見学)
- 第4回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館の現代化とその課題)
- 第5回 学校図書館の法と行政
- 第6回 学校の教育課程と学校図書館
- 第7回 学校図書館の経営(学校図書館経営について)
- 第8回 学校図書館の経営(担当者の役割と任務)
- 第9回 学校図書館の経営の実際
- 第10回 学校図書館の学習活動への支援(小・中事例)
- 第11回 学校図書館の学習活動への支援(高校・特別支援学校)
- 第12回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第13回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第14回 学校図書館の連携・協力と将来像
- 第15回 まとめ

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第1巻 学校経営と学校図書館』 悠光堂 2019年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料について復習すると共に、資料にない関連項目について自学学修を通じ知見を広めることが望ましい。新聞や雑誌等で学校図書館・読書・情報活用能力の育成に関する記事に興味を持ち、熟読すること。

参考資料として次の4点を推薦する。

・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』  
悠光堂 2021

- ・神代浩、中山美由紀編著『学校図書館の挑戦と可能性 困った時には図書館へ2』悠光堂 2015
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関する情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

**科目コード：**13531      **科目ナンバリング：**PE30C21K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**学校経営と学校図書館 b(School Library Management b)

**担当者：**勝山 万里子

#### 基本情報

**年次：**3

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**木曜3限

**履修可能学科・専攻：**Pe

**関連資格：**司書教

**AL要素：**01 図書館見学

03 体験

04 資料紹介実習

11 討論

16 振り返り用紙と応答

17 発問と回答

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、総論として位置づけられ学校図書館の基本を学ぶ。学校図書館の役割と理念を教育の動向とともに捉える。学校経営の中での学校図書館の位置づけを理解し、活用出来る司書教諭としての知識と資質を育成する。

なお、実務経験を生かし、下記のように授業を行う。

- 1 学校図書館のあるべき姿は、体験から学ぶことが必要となるという経験から、附属高校の図書館を見学する(予定)
- 2 各講義における知識が、実際の活動に結びつくように、各学校での活用及び実践事例を示す。
- 3 理想とする学校図書館のあり方と、学生の活用経験の差を埋めるために、現状や問題点に関する討論、発問と回答を積極的に行う

**キーワード：** 学校図書館の理念 学校図書館の成立と改正 学校図書館法 学習指導要領 校務分掌 司書教諭 学校司書 協同 学校図書館の経営 学校図書館の環境 学校図書館メディア 学校図書館活動

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 学校図書館の基礎的な事項(理念、役割、施策等)を理解出来る。

評価方法：レポート

評価割合：25

#### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：学校図書館の基本的な知識を、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察出来る

評価方法：レポート

評価割合：25

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

評価割合：50

#### ▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 授業計画：基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。

- 第1回 オリエンテーション、学校教育の変遷と学校図書館
- 第2回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館法の制定)
- 第3回 学校教育の変遷と学校図書館(キリスト中高図書館見学)
- 第4回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館の現代化とその課題)
- 第5回 学校図書館の法と行政
- 第6回 学校の教育課程と学校図書館
- 第7回 学校図書館の経営(学校図書館経営について)
- 第8回 学校図書館の経営(担当者の役割と任務)
- 第9回 学校図書館の経営の実際
- 第10回 学校図書館の学習活動への支援(小・中事例)
- 第11回 学校図書館の学習活動への支援(高校・特別支援学校)
- 第12回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第13回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第14回 学校図書館の連携・協力と将来像
- 第15回 まとめ

**使用テキスト：** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第1巻 学校経営と学校図書館』 悠光堂 2019年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 参考資配付資料について復習すると共に、資料にない関連項目について自学学修を通じ知見を広めることが望ましい。新聞や雑誌等で学校図書館・読書・情報活用能力の育成に関する記事に興味を持ち、熟読すること。

参考資料として次の4点を推薦する。

- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』悠光堂 2021
- ・神代浩、中山美由紀編著『学校図書館の挑戦と可能性 困った時には図書館へ2』悠光堂 2015
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード：13532      科目ナンバリング：PE30G22K      主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：学校図書館メディアの構成 a (School Library Media Development a)**

**担当者：村野井 均**

**基本情報**

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：月曜5限**

**履修可能学科・専攻：Pe**

**関連資格：司書教**

**AL要素：**

01:図書館見学,02:司書模擬実践,03:資料検索実習,04:資料紹介実習,08:共同学修

**授業の概要：** 学校図書館メディアおよび専門職としての司書教諭を理解し、学校図書館メディアを用いた学校教育活動の支援に関する認識を深め、多様なメディアを扱い、レファレンスの実践的な知識と技術を学ぶ。  
講義だけではなく、図書館見学、検索実習や司書の役割演技、調べ学習と発表を組み合わせたアクティブラーニングを行う。

**キーワード：** 学校図書館、読書の役割、レファレンス、ロールプレイ、これからの学校図書館

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** 学校図書館の教育上の意義と新しい役割について理解し、回答することができる。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：50%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 学校図書館司書として、読書への関心を高める環境を考え、依頼者へていねいで迅速な対応ができるようにする。

本を読んで、内容を紹介したり、紹介するPOPを描くことができるようにする。

学校図書館の未来について考え、表現できるようにする。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：50%**

**▼学修に主体的に取り組む態度**

図書館見学では、読書への関心を高める工夫、配置に気づくこと。また、一般閲覧者に迷惑をかけることなく行動すること。

司書の模擬実習において、資料検索依頼への対応や資料検索は、グループで行う。役割分担をし、スムーズに資料を探し、依頼人へていねいな対応をすること。

コンピュータを使った資料検索では、操作方法や資料アドレスを互いに教えあい、検索技術を向上させること。

上記は、直接的評価対象にできないが、学年末試験の記述に反映されている場合は、評価の対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

本に関心を持ち、図書館で借りて読むこと。特に、絵本や児童書のコーナーに行き、本に目を通しておいてほしい。

図書館は新しい役割に挑戦している。各地の図書館を見学してほしい。

上記は、直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

授業は図書館やコンピューター室でも行うので、場所の連絡に注意すること。

**評価割合：授業は図書館やコンピューター室で**

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス 子どもと学校図書館
  - 第2回 子どもの発達と読書
  - 第3回 教育改革と学校図書館
  - 第4回 学校図書館メディアの種類と特性
  - 第5回 検索の種類とアクセス支援
  - 第6回 検索の種類とアクセス支援実習
  - 第7回 目録 意義・機能、種別 日本目録規則(NCR)
  - 第8回 目録規則
  - 第9回 分類と件名 日本十進分類法(NDC)
  - 第10回 分類と件名
  - 第11回 図書館見学
  - 第12回 収集計画
  - 第13回 装備・排架
  - 第14回 特別支援と学校図書館
  - 第15回 教員支援と学校図書館
- 定期試験(小テスト2回、30点、本試験70点)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 業前に見学、実習部分を振り返り、修正する部分について考察すること。授業後は、配布資料について復習し、わからない部分は調べておくこと。

参考資料：

「学校図書館メディアの構成」, シリーズ学校図書館学, 第2巻, 2011, 「シリーズ学校図書館学」編集委員会(編集), 全国学校図書館協議会。

「学校図書館メディアの構成第2版」, 緑川信之, 学文社, 2008。

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」, 福井県立図書館, 2021。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

---

---

科目コード：13532      科目ナンバリング：PE30C22K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 学校図書館メディアの構成 b (School Library Media Development b)

担当者： 村野井 均

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：司書教

AL要素：

01:図書館見学,02:司書模擬実践,03:資料検索実習,04:資料紹介実習,08:共同学修

**授業の概要：** 学校図書館メディアおよび専門職としての司書教諭を理解し、学校図書館メディアを用いた学校教育活動の支援に関する認識を深め、多様なメディアを扱い、レファレンスの実際的な知識と技術を学ぶ。  
講義だけではなく、図書館見学、検索実習や司書の役割演技、調べ学習と発表を組み合わせたアクティブラーニングを行う。

**キーワード：** 学校図書館、読書の役割、レファレンス、ロールプレイ、これからの学校図書館

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 学校図書館の教育上の意義と新しい役割について理解し、回答することができる。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 学校図書館司書として、読書への関心を高める環境を考え、依頼者へていねいで迅速な対応ができるようにする。  
本を読んで、内容を紹介したり、紹介するPOPを描くことができるようにする。  
学校図書館の未来について考え、表現できるようにする。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

図書館見学では、読書への関心を高める工夫、配置に気づくこと。また、一般閲覧者に迷惑をかけることなく行動すること。

司書の模擬実習において、資料検索依頼への対応や資料検索は、グループで行う。役割分担をし、スムーズに資料を探し、依頼人へていねいな対応をすること。

コンピュータを使った資料検索では、操作方法や資料アドレスを互いに教えあい、検索技術を向上させること。

上記は、直接的評価対象にできないが、学年末試験の記述に反映されている場合は、評価の対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

本に関心を持ち、図書館で借りて読むこと。特に、絵本や児童書のコーナーに行き、本に目を通しておいてほしい。

図書館は新しい役割に挑戦している。各地の図書館を見学してほしい。

上記は、直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

**▼その他**

授業は図書館やコンピューター室でも行うので、場所の連絡に注意すること。

**評価割合：授業は図書館やコンピューター室で**

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス 子どもと学校図書館
  - 第2回 子どもの発達と読書
  - 第3回 教育改革と学校図書館
  - 第4回 学校図書館メディアの種類と特性
  - 第5回 検索の種類とアクセス支援
  - 第6回 検索の種類とアクセス支援実習
  - 第7回 目録 意義・機能、種別 日本目録規則(NCR)
  - 第8回 目録規則
  - 第9回 分類と件名 日本十進分類法(NDC)
  - 第10回 分類と件名
  - 第11回 図書館見学
  - 第12回 収集計画
  - 第13回 装備・排架
  - 第14回 特別支援と学校図書館
  - 第15回 教員支援と学校図書館
- 定期試験(小テスト2回、30点、本試験70点)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 業前に見学、実習部分を振り返り、修正する部分について考察すること。授業後は、配布資料について復習し、わからない部分は調べておくこと。

参考資料：

「学校図書館メディアの構成」, シリーズ学校図書館学, 第2巻, 2011, 「シリーズ学校図書館学」編集委員会(編集), 全国学校図書館協議会。

「学校図書館メディアの構成第2版」, 緑川信之, 学文社, 2008。

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」, 福井県立図書館, 2021。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：13533**      **科目ナンバリング：PE30C23K**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：学習指導と学校図書館 a (School Library Learning Guidance a)**

**担当者：勝山 万里子**

**基本情報**

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：木曜2限**

**履修可能学科・専攻：Pe**



関連資格：司書教

AL要素：

03 実技 体験

07 発表

10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本科目は、司書教諭科目の一つであり、学校図書館の3つの機能である「読書センター」「学習センター」「情報センター」のうちの「学習センター」「情報センター」としての機能の活用について学ぶ科目である。学校図書館は、「学習センター」として児童生徒に必要な情報や資料を提供し児童生徒の学びを広げ深め、「情報センター」として児童生徒の情報活用能力を育むことが求められている。新学習指導要領が全面実施され、校種を超えて探究的な学習に取り組むようになった。学校図書館が探究的な学習を支え、教育課程の展開に寄与するためには司書教諭として何をすればよいだろうか。司書教諭にとって必要な知識や技能を、講義や演習をとおして学ぶ。

**キーワード：** 情報活用能力 情報活用スキル 学習指導要領 課題設定 情報収集 情報の整理・分析 情報のまとめと表現 探究的な学習 総合的な学習の時間 総合的な探究の時間 レファレンス 学校図書館メディア

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**・学習指導における学校図書館の役割を理解する。  
・情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解する。  
・学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解する。

**評価方法：**レポート

**評価割合：**15

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**・学習指導、情報活用能力の育成における学校図書館の役割を理解し、具体的に計画することができる。

・学校図書館を活用する際に、学校司書・司書教諭の役割を理解し、計画することができる

**評価方法：**レポート

**評価割合：**15

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発表、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合：**70

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が発表やレポート等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0**

**▼その他**

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序等を変える事がある。

各回の講義構成は、前半は理論、後半は演習とする予定である。

- 第1回 第1章:現代の学校教育と学校図書館
- 第2回 第2章:教育課程の編成と学校図書館
- 第3回 第3章:学習指導要領と学校図書館
- 第4回 第4章:学校図書館における情報活用能力の育成
- 第5回 第5章:情報活用能力の育成と評価(1)課題の設定
- 第6回 第6章:情報活用能力の育成と評価(2)情報の収集
- 第7回 第7章:情報活用能力の育成と評価(3)整理・分析
- 第8回 第8章:情報活用能力の育成と評価(4)まとめと表現
- 第9回 第9章:情報サービスと学校図書館
- 第10回 第10章:発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択
- 第11回 第11章:学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備
- 第12回 第12章:教科等の学習指導の実際と学校図書館
- 第13回 第13章:総合的な学習・探究の時間と学校図書館
- 第14回 第14章:特別な教育的ニーズと学校図書館
- 第15回 第15章:司書教諭の役割と学習指導と学校図書館

**使用テキスト：** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館』 悠光堂 2020年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

参考資料として下記を紹介する。

- ・鎌田和宏『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』少年写真新聞社、2016年
- ・塩谷京子『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55―単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房 2019年
- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』悠光堂 2021
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019
- ・雑誌「学校図書館」や「図書館雑誌」等で事例報告などを読んでおいてください。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

科目コード : 13533

科目ナンバリング : PE30C23K

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 学習指導と学校図書館 b(School Library Learning Guidance b)

担当者 : 勝山 万里子

### 基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 木曜3限

履修可能学科・専攻 : Pe

関連資格 : 司書教

AL要素 :

03 実技 体験

07 発表

10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要 :** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本科目は、司書教諭科目の一つであり、学校図書館の3つの機能である「読書センター」「学習センター」「情報センター」のうちの「学習センター」「情報センター」としての機能の活用について学ぶ科目である。学校図書館は、「学習センター」として児童生徒に必要な情報や資料を提供し児童生徒の学びを広げ深め、「情報センター」として児童生徒の情報活用能力を育むことが求められている。新学習指導要領が全面実施され、校種を超えて探究的な学習に取り組むようになった。学校図書館が探究的な学習を支え、教育課程の展開に寄与するためには司書教諭として何をすればよいだろうか。司書教諭にとって必要な知識や技能を、講義や演習をとおして学ぶ。

**キーワード :** 情報活用能力 情報活用スキル 学習指導要領 課題設定 情報収集 情報の整理・分析 情報のまとめと表現 探究的な学習 総合的な学習の時間 総合的な探究の時間 レファレンス 学校図書館メディア

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** ・学習指導における学校図書館の役割を理解する。  
・情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解する。  
・学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解する。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 15

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** ・学習指導、情報活用能力の育成における学校図書館の役割を理解し、具体的に計画することができる。  
・学校図書館を活用する際に、学校司書・司書教諭の役割を理解し、計画することができる

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 15

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発表、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

評価割合: 70

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が発表やレポート等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0

#### ▼その他

特になし

評価割合: 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序等を変える事がある。  
各回の講義構成は、前半は理論、後半は演習とする予定である。

- 第1回 第1章:現代の学校教育と学校図書館
- 第2回 第2章:教育課程の編成と学校図書館
- 第3回 第3章:学習指導要領と学校図書館
- 第4回 第4章:学校図書館における情報活用能力の育成
- 第5回 第5章:情報活用能力の育成と評価(1)課題の設定
- 第6回 第6章:情報活用能力の育成と評価(2)情報の収集
- 第7回 第7章:情報活用能力の育成と評価(3)整理・分析
- 第8回 第8章:情報活用能力の育成と評価(4)まとめと表現
- 第9回 第9章:情報サービスと学校図書館
- 第10回 第10章:発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択
- 第11回 第11章:学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備
- 第12回 第12章:教科等の学習指導の実際と学校図書館
- 第13回 第13章:総合的な学習・探究の時間と学校図書館
- 第14回 第14章:特別な教育的ニーズと学校図書館
- 第15回 第15章:司書教諭の役割と学習指導と学校図書館

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館』 悠光堂 2020年

#### 予習・復習のポイントと 参考文献・資料等:

参考資料として下記を紹介する。

- ・鎌田和宏『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』少年写真新聞社、2016年
- ・塩谷京子『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55一単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房 2019年
- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』悠光堂 2021
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019
- ・雑誌「学校図書館」や「図書館雑誌」等で実例報告などを読んでおいてください。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード:** 13534      **科目ナンバリング:** PE30C24K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 読書と豊かな人間性 a(Human Enrichment through Reading a)

**担当者:** 勝山 万里子

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 木曜4限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 司書教

**AL要素:**

- 03 実技 体験
- 04 資料紹介実習
- 07 発表
  
- 11 討論
  
- 14 輪読活動
  
- 16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうち1科目で、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と読書方法の理解を図ることをねらいとした科目である。

司書教諭は、学校が組織的に読書指導に取り組むための中心的存在であり、日常的な読書支援や読書の習慣形成、発達段階における読書指導などが求められる。そのため、本科目では読書の意義及び今日的課題、及び発達段階における読書の指導方法について学ぶ。また、実務経験を生かし、一人一人が本に関する知識を広げ、本を紹介するスキルを身に付けるため、グループ討議や発表、レポート提出も活発に行う。

**キーワード:** 学校図書館の役割 読書センター 読書教育 読書の意義 学習指導要領 司書教諭 学校司書 読書調査 読書環境 読書の技法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校図書館における、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解できる。

**評価方法:**

**評価割合:** 3030

レポート

課題提出

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館にける児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解し、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察し、実現出来る

**評価方法:** 課題発表

**評価割合:** 30

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 10

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートや発表等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。講義構成は前半に理論、後半に演習を行う予定である。

#### 第1回 ガイダンス

第1章:読書の意義と目的

#### 第2回 第2章:読書教育の系譜

第3章:読書指導と学校図書館

#### 第3回 第4章:子どもの読書環境

第5章:発達段階に応じた読書指導

#### 第4回 第6章:子どもの本の種類と提供

#### 第5回 第7章:読書環境の整備

#### 第6回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読み聞かせ(予定)

#### 第7回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ビブリオバトル(予定)

#### 第8回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読書会、アニメーション(予定)

#### 第9回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ブックトーク(予定)

#### 第10回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:リテラチャーサークル(予定)

#### 第11回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:点検読書、その他(予定)

#### 第12回 第9章:各教科等での読書指導

#### 第13回 第10章:読書活動の実際(1)

第11章:読書活動の実際(2)

#### 第14回 第12章:読書活動の推進と司書教諭・学校司書

第13章:個に応じた読書指導

#### 第15回 第14章:地域社会との連携

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』 悠光堂 2021年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料は適宜授業内で紹介する。

ビブリオバトル、ブックトークなどの発表や課題のために、児童や YA 向けの本(絵本や児童

文学を含める)に対する調査が必要になる。大学図書館、公共図書館の児童コーナーやYAコーナー、書店に行く機会を作ること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード:13534**      **科目ナンバリング:PE30C24K**      **主な使用言語:日本語**

**授業名(英文): 読書と豊かな人間性 b(Human Enrichment through Reading b)**

**担当者: 勝山 万里子**

#### 基本情報

**年次:3**

**単位数:2**

**授業形式:講義**

**曜時:木曜5限**

**履修可能学科・専攻: Pe**

**関連資格: 司書教**

**AL要素:**

- 03 実技 体験
- 04 資料紹介実習
- 07 発表
  
- 11 討論
  
- 14 輪読活動
  
- 16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうち1科目で、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と読書方法の理解を図ることをねらいとした科目である。

司書教諭は、学校が組織的に読書指導に取り組むための中心的存在であり、日常的な読書支援や読書の習慣形成、発達段階における読書指導などが求められる。そのため、本科目では読書の意義及び今日的課題、及び発達段階における読書の指導方法について学ぶ。また、実務経験を生かし、一人一人が本に関する知識を広げ、本を紹介するスキルを身に付けるため、グループ討議や発表、レポート提出も活発に行う。

**キーワード:** 学校図書館の役割 読書センター 読書教育 読書の意義 学習指導要領 司書教諭 学校司書 読書調査 読書環境 読書の技法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校図書館における、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解できる。

**評価方法:**

**評価割合: 3030**

レポート

## 課題提出

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館にける児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解し、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察し、実現出来る

**評価方法:** 課題発表

**評価割合:** 30

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 10

### ▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートや発表等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。講義構成は前半に理論、後半に演習を行う予定である。.

#### 第1回 ガイダンス

第1章:読書の意義と目的

#### 第2回 第2章:読書教育の系譜

第3章:読書指導と学校図書館

#### 第3回 第4章:子どもの読書環境

第5章:発達段階に応じた読書指導

#### 第4回 第6章:子どもの本の種類と提供

#### 第5回 第7章:読書環境の整備

#### 第6回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読み聞かせ(予定)

#### 第7回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ビブリオバトル(予定)

#### 第8回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読書会、アニメーション(予定)

#### 第9回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ブックトーク(予定)

#### 第10回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:リテラチャーサークル(予定)

#### 第11回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:点検読書、その他(予定)

#### 第12回 第9章:各教科等での読書指導

#### 第13回 第10章:読書活動の実際(1)

第11章:読書活動の実際(2)

#### 第14回 第12章:読書活動の推進と司書教諭・学校司書

第13章:個に応じた読書指導

#### 第15回 第14章:地域社会との連携

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』 悠光堂 2021年



**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 参考資料は適宜授業内で紹介する。

ビブリオバトル、ブックトークなどの発表や課題のために、児童や YA 向けの本(絵本や児童文学を含める)に対する調査が必要になる。大学図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作ること。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード：13535**      **科目ナンバリング：PE30C25K**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：情報メディアの活用 a(School Library Information Technology a)**

**担当者：村野井 均**

#### 基本情報

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：月曜5限**

**履修可能学科・専攻：Pe**

**関連資格：司書教**

**AL要素：07:発表, 11:討論, 13:説明実習**

**授業の概要：** オンライン授業・自宅学習教材の制作は教師の基礎能力となった。メディアは、児童・生徒がどの程度理解しているか理解した上で使用しなければならない。児童・生徒が思わぬところで映像を間違ふ姿を紹介する。

オンライン授業では、教師は画面に映し出される存在になる。教師が実物(立体)を見せようとしても、画面上では平面にしか見えない。児童・生徒には何が見えるのか注意しなければならない。注意点について述べる。

映像制作の実践も増えている。取り組みやすい実践であり、地域との協力は学校への信頼向上に有効であることを紹介する。

さまざまなメディアを使ってみて、取捨選択できる基礎力を身につけてることで、将来、学校の情報化に貢献できる教師になってほしい。

**キーワード：** 絵本の理解、アニメの理解、テレビの中の時制表現、オンライン授業の注意点、自宅学習教材作り、子どもの番組制作、教材ソフト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 幼児・児童・生徒のメディア理解力を把握できる。  
映像制作と地域の協力について理解する。  
教材メディアを使う利点と配慮すべき点を理解する。

**評価方法：** 小テスト、感想文、期末試験

**評価割合：50%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 映像の提示でも、教材ソフトの利用でも、映像制作でも、相手にわかるように文字と映像を工夫

できるようになる。

**評価方法:** 提出作品ならびに期末試験

**評価割合:** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業作りが、番組作りに近い。教師は表に出ず、児童・生徒が調べてまとめたものを前に出て発表し、討論する形が求められているためである。教師は表には出ないが、計画し、誘導をしている。テレビのディレクターに近い存在になっているのである。テレビなどの番組をよく見て、作り方や構成、カメラ割などに注意すると授業に生かせるので、積極的に見てほしい。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

オンライン授業や自宅学習用の動画では、自分がカメラに映る存在になる。みなさんはコロナの流行のもとで、オンライン授業を体験していると思うが、児童・生徒の立場で改善すべき点をしっかり覚えてほしい。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 ガイダンス 情報メディアの活用とは
  - 第2回 情報メディアセンターとしての図書館
  - 第3回 就学前児のメディア理解  
絵本から文字へ 読み聞かせの実際
  - 第4回 映像メディアの発展と明暗
  - 第5回 児童・生徒の情報理解能力 ①  
アニメ「サザエさん」のストーリー理解
  - 第6回 児童・生徒の情報理解能力 ②  
時制表現「さわやか3組」から「ドラゴンボール」へ
  - 第7回 オンライン授業の注意点 ①  
音量、音圧、光、背景などの注意、音と映像の組み合わせ
  - 第8回 オンライン授業の注意点 ②  
2次元と3次元の並立 目の前の実物も画面上では2次元になる
  - 第9回 CMの理解とストーリー理解
  - 第10回 学校における指示は明示から暗示へ
  - 第11回 暗示の効果(実習)
  - 第12回 児童・生徒の映像作品作りと放送  
学校と放送局が協力した「発信マイスクール」(NHK福井)の実践
  - 第13回 児童生徒の制作した作品鑑賞
  - 第14回 放送による学校や子どもの信頼感向上
  - 第15回 ネットに上げる権利と注意点  
定期試験(小テスト、感想文、作品各1回、計30点。本試験70点)

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** シラバスを見て、授業に出る絵本、テレビ番組は授業前に見ておくこと。授業後に、児童向け番組を見て、児童・生徒にはどこが難しいか考えること。また、教材ソフトはすべてを授業時間内に扱えないので、授業後に基本的な操作を行い、どこがどのように便利か確認すること(90分)。

参考文献は、以下である。

『子どもはテレビをどう見るか』、村野井均、勁草書房、2500円

『もっかい読んで！ 絵本をおもしろがる子どもの心理』、田代康子、ひとなる書房、2200円

「幼児向け番組におけるテレビを3次元に見る手がかりの分析」、村野井均、藤井とし子、茨城大学教育実践研究 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター 編 (35) 279 - 287 2016年11月、[https://researchmap.jp/yae3125fuk/published\\_papers](https://researchmap.jp/yae3125fuk/published_papers)

「高学年児童の時制理解と映像の手がかりに関する研究 -「ドラゴンボール」における時制表現の変化-」、村野井均 小林祐紀、茨城大学教育実践研究 (39) 199 - 207 2020年10月 21日 <https://researchmap.jp/yae3125fuk>

水戸市総合教育研究所. (2021). 6年理科『吸った空気の行方』、「配信動画一覧」、<http://www.magokoro.ed.jp/viewer/info.html?id=189>, (参照2022-2-15)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：**13535      **科目ナンバリング：**PE30C25K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**情報メディアの活用 b (School Library Information Technology b)

**担当者：**村野井 均

#### 基本情報

**年次：**3

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**月曜4限

**履修可能学科・専攻：** Pe

**関連資格：**司書教

**AL要素：**07:発表, 11:討論, 13:説明実習

**授業の概要：** オンライン授業・自宅学習教材の制作は教師の基礎能力となった。メディアは、児童・生徒がどの程度理解しているか理解した上で使用しなければならない。児童・生徒が思わぬところで映像を間違え姿を紹介する。

オンライン授業では、教師は画面に映し出される存在になる。教師が実物(立体)を見せようとしても、画面上では平面にしか見えない。児童・生徒には何が見えるのか注意しなければならない。注意点について述べる。

映像制作の実践も増えている。取り組みやすい実践であり、地域との協力は学校への信頼向上に有効であることを紹介する。

さまざまなメディアを使ってみて、取捨選択できる基礎力を身につけてることで、将来、学校の情報化に貢献できる教師になってほしい。

**キーワード：** 絵本の理解、アニメの理解、テレビの中の時制表現、オンライン授業の注意点、自宅学習教材作り、子どもの番組制作、教材ソフト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 幼児・児童・生徒のメディア理解力を把握できる。  
映像制作と地域の協力について理解する。  
教材メディアを使う利点と配慮すべき点を理解する。

**評価方法：** 小テスト、感想文、期末試験

**評価割合：**50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 映像の提示でも、教材ソフトの利用でも、映像制作でも、相手にわかるように文字と映像を工夫

できるようになる。

**評価方法:** 提出作品ならびに期末試験

**評価割合:** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業作りが、番組作りに近い。教師は表に出ず、児童・生徒が調べてまとめたものを前に出て発表し、討論する形が求められているためである。教師は表には出ないが、計画し、誘導をしている。テレビのディレクターに近い存在になっているのである。テレビなどの番組をよく見て、作り方や構成、カメラ割などに注意すると授業に生かせるので、積極的に見てほしい。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

オンライン授業や自宅学習用の動画では、自分がカメラに映る存在になる。みなさんはコロナの流行のもとで、オンライン授業を体験していると思うが、児童・生徒の立場で改善すべき点をしっかり覚えてほしい。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 ガイダンス 情報メディアの活用とは
  - 第2回 情報メディアセンターとしての図書館
  - 第3回 就学前児のメディア理解  
絵本から文字へ 読み聞かせの実際
  - 第4回 映像メディアの発展と明暗
  - 第5回 児童・生徒の情報理解能力 ①  
アニメ「サザエさん」のストーリー理解
  - 第6回 児童・生徒の情報理解能力 ②  
時制表現「さわやか3組」から「ドラゴンボール」へ
  - 第7回 オンライン授業の注意点 ①  
音量、音圧、光、背景などの注意、音と映像の組み合わせ
  - 第8回 オンライン授業の注意点 ②  
2次元と3次元の並立 目の前の実物も画面上では2次元になる
  - 第9回 CMの理解とストーリー理解
  - 第10回 学校における指示は明示から暗示へ
  - 第11回 暗示の効果(実習)
  - 第12回 児童・生徒の映像作品作りと放送  
学校と放送局が協力した「発信マイスクール」(NHK福井)の実践
  - 第13回 児童生徒の制作した作品鑑賞
  - 第14回 放送による学校や子どもの信頼感向上
  - 第15回 ネットに上げる権利と注意点  
定期試験(小テスト、感想文、作品各1回、計30点。本試験70点)

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** シラバスを見て、授業に出る絵本、テレビ番組は授業前に見ておくこと。授業後に、児童向け番組を見て、児童・生徒にはどこが難しいか考えること。また、教材ソフトはすべてを授業時間内に扱えないので、授業後に基本的な操作を行い、どこがどのように便利か確認すること(90分)。

参考文献は、以下である。

『子どもはテレビをどう見るか』、村野井均、勁草書房、2500円

『もっかい読んで！ 絵本をおもしろがる子どもの心理』、田代康子、ひとなる書房、2200円

「幼児向け番組におけるテレビを3次元に見る手がかりの分析」、村野井均、藤井とし子、茨城大学教育実践研究 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター 編 (35) 279 - 287

2016年11月、[https://researchmap.jp/yae3125fuk/published\\_papers](https://researchmap.jp/yae3125fuk/published_papers)

「高学年児童の時制理解と映像の手がかりに関する研究 -「ドラゴンボール」における時制表現の変化-」、村野井均 小林祐紀、茨城大学教育実践研究 (39) 199 - 207 2020年10月21日 <https://researchmap.jp/yae3125fuk>

水戸市総合教育研究所. (2021). 6年理科『吸った空気の行方』、「配信動画一覧」、<http://www.magokoro.ed.jp/viewer/info.html?id=189>, (参照2022-2-15)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

科目コード：13536      科目ナンバリング：PE11A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽A a (Music A a)

担当者：佐藤 希久雄

#### 基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe C W F M

関連資格：教職

AL要素：02 模擬実践

03 実験・実技・体験

07 発表

17 発問と回答

**授業の概要：** 歌うことを中心に授業を行う。その中で発声法、読譜法、音階の仕組みなどについて講義する。取り上げる楽曲は、小学校の歌唱共通教材、小学生向けの簡易な合唱曲など。

**キーワード：** 合唱 発声法 読譜 移動ド唱法 音名 唱歌

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 読譜について、ト音譜表およびヘ音譜表における英語音名、移動ド唱法による階名が理解でき、およそ80%の正確さで即答できる。

授業で扱った小学校共通教材(音楽 I では13曲程度)をおよそ80%の正確さで暗唱できる。

小学校学習指導要領にある音符、記号のすべてを理解し、およそ80%の正確さで筆記できる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 読み取った楽譜から自分の声で音程やリズムを正確に表現できる。

曲想に相応しい声で歌うことができる。

**評価方法：** 実技試験

**評価割合：** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によってその成果がとくに実技試験において大きく追

加されたと認められる場合、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし著しく公正性に欠ける言動や、実技試験において演奏者に対して著しく配慮に欠ける発言等があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

- 授業計画：**
1. ガイダンス
  2. 英語音名のシステムについて
  3. 移動ド唱法の理解(ハ長調)
  4. 共通教材および新曲によるハ長調の階名唱
  5. 移動ド唱法の理解(ト長調)
  6. 共通教材および新曲によるト長調の階名唱
  7. 移動ド唱法の理解(ヘ長調)
  8. 共通教材および新曲によるヘ長調の階名唱
  9. ハンドサインの活用
  10. 新曲視唱の訓練
  11. 簡易な合唱曲の練習(1)読譜
  12. 簡易な合唱曲の練習(2)パート練習
  13. 簡易な合唱曲の練習(3)表現の工夫
  14. 簡易な合唱曲の完成と発表
  15. 新曲および歌唱曲の実技試験
- 定期試験

**使用テキスト：** 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 音楽に関し理解したことを表現に生かすには十分な反復練習が必要である。実際に声を出して歌唱の練習を行ってほしい。オフィスアワーを使い個人指導に応ずる。

**障がいのある履修者への対応：** できる限り配慮する。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに音楽研究室にて対応する。

**留意事項：** 特になし。

---

**科目コード：13536**      **科目ナンバリング：PE11A01E**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：音楽A b(Music A b)**

**担当者：佐藤 希久雄**

**基本情報**

**年次：1**

**単位数：1**

**授業形式：演習**

**曜時：水曜2限**

**履修可能学科・専攻：E Pe C W F M**

**関連資格：**教職

**AL要素：**02 模擬実践  
03 実験・実技・体験  
07 発表  
17 発問と回答

**授業の概要：**歌うことを中心に授業を行う。その中で発声法、読譜法、音階の仕組みなどについて講義する。取り上げる楽曲は、小学校の歌唱共通教材、小学生向けの簡易な合唱曲など。

**キーワード：**合唱 発声法 読譜 移動ド唱法 音名 唱歌

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：**読譜について、ト音譜表およびヘ音譜表における英語音名、移動ド唱法による階名が理解でき、およそ80%の正確さで即答できる。  
授業で扱った小学校共通教材(音楽Ⅰでは13曲程度)をおよそ80%の正確さで暗唱できる。  
小学校学習指導要領にある音符、記号のすべてを理解し、およそ80%の正確さで筆記できる。

**評価方法：**学期末筆記試験

**評価割合：**60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**読み取った楽譜から自分の声で音程やリズムを正確に表現できる。  
曲想に相応しい声で歌うことができる。

**評価方法：**実技試験

**評価割合：**40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によってその成果がとくに実技試験において大きく追加されたと認められる場合、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

##### ▼ 実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

**評価割合：**0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし著しく公正性に欠ける言動や、実技試験において演奏者に対して著しく配慮に欠ける発言等があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：**0%

##### ▼ その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

- 授業計画：**
1. ガイダンス
  2. 英語音名のシステムについて
  3. 移動ド唱法の理解(ハ長調)
  4. 共通教材および新曲によるハ長調の階名唱
  5. 移動ド唱法の理解(ト長調)
  6. 共通教材および新曲によるト長調の階名唱
  7. 移動ド唱法の理解(ヘ長調)
  8. 共通教材および新曲によるヘ長調の階名唱
  9. ハンドサインの活用
  10. 新曲視唱の訓練
  11. 簡易な合唱曲の練習(1)読譜
  12. 簡易な合唱曲の練習(2)パート練習

13. 簡易な合唱曲の練習(3)表現の工夫
14. 簡易な合唱曲の完成と発表
15. 新曲および歌唱曲の実技試験  
定期試験

**使用テキスト:** 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 音楽に関し理解したことを表現に生かすには十分な反復練習が必要である。実際に声を出して歌唱の練習を行ってほしい。オフィスアワーを使い個人指導に応ずる。

**障がいのある履修者への対応:** できる限り配慮する。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに音楽研究室にて対応する。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13537      **科目ナンバリング:** PE12A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 音楽D a (Music D a)

**担当者:** 佐藤 希久雄

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 1

**授業形式:** 演習

**曜時:** 月曜3限

**履修可能学科・専攻:** E Pe C W F M

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 02 模擬実践

03 実験・実技・体験

07 発表

17 発問と回答

**授業の概要:** 実技を通し、簡単な和声の理論や発声法、合唱指導法を学ぶ。  
小学校各学年の音楽教材を念頭に合奏活動を行う。  
箏などの日本の伝統的な楽器に触れるとともに、音階論など日本の伝統音楽の特徴について学ぶ。  
諸外国の音楽の鑑賞指導法について学ぶ。

**キーワード:** 移動ト唱法 和声法 器楽合奏 ペンタトニック 民族音楽

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 和声について理解し、主要三和音および属七について楽譜から読み取ることができる。  
箏や打楽器など学習指導要領に示された様々な楽器の扱いに習熟できている。  
解説された日本や諸外国の伝統的な音楽の特徴について理解できている。

**評価方法:** 学期末筆記試験

**評価割合:** 60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 楽譜から自分の声やいろいろな楽器を使って音程やリズムを正確に表現できる。  
曲想に相応しい音楽表現ができる。

**評価方法:** 実技試験

**評価割合:** 40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によってその成果がとくに実技試験において大きく追加されたと認められる場合、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。



評価割合：0%

▼実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし著しく公正性に欠ける言動や、実技試験において演奏者に対して著しく配慮に欠ける発言等があった場合、注意や減点の対象となり得る。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. ガイダンス
  2. 讃美歌を用いた合唱練習と読譜法の学習
  3. 讃美歌を用いた合唱練習と和声法の学習
  4. 児童向け合唱教材を用いた合唱指導法の学習
  5. 様々な打楽器の奏法について
  6. 様々な打楽器を用いた児童向け楽曲の練習
  7. 様々な旋律楽器を用いた児童向け楽曲の練習
  8. 箏の奏法について(1) 調弦法
  9. 箏の奏法について(2) 簡単な楽曲
  10. 日本の伝統音楽について(1) わらべうた
  11. 日本の伝統音楽について(2) 音階論
  12. 日本の伝統音楽について(3) 民謡を歌ってみる
  13. 世界の民族音楽(1)
  14. 世界の民族音楽(2)
  15. 実技試験

使用テキスト： 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 音楽に関し理解したことを表現に生かすには十分な反復練習が必要である。実際に声を出して歌唱の練習を行ってほしい。オフィスアワーを使い個人指導に依る。

障がいのある履修者への対応： できる限り配慮する。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに音楽研究室にて対応する。

留意事項： 特になし。

---

---

科目コード：13537      科目ナンバリング：PE12A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽D b(Music D b)

担当者：佐藤 希久雄

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe C W F M

関連資格：教職

AL要素：02 模擬実践

03 実験・実技・体験

07 発表

17 発問と回答

**授業の概要：** 実技を通し、簡単な和声の理論や発声法、合唱指導法を学ぶ。  
小学校各学年の音楽教材を念頭に合奏活動を行う。  
箏などの日本の伝統的な楽器に触れるとともに、音階論など日本の伝統音楽の特徴について学ぶ。  
諸外国の音楽の鑑賞指導法について学ぶ。

**キーワード：** 移動ド唱法 和声法 器楽合奏 ペンタトニック 民族音楽

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 和声について理解し、主要三和音および属七について楽譜から読み取ることができる。  
箏や打楽器など学習指導要領に示された様々な楽器の扱いに習熟できている。  
解説された日本や諸外国の伝統的な音楽の特徴について理解できている。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 楽譜から自分の声やいろいろな楽器を使って音程やリズムを正確に表現できる。  
曲想に相応しい音楽表現ができる。

**評価方法：** 実技試験

**評価割合：** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によってその成果がとくに実技試験において大きく追加されたと認められる場合、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし著しく公正性に欠ける言動や、実技試験において演奏者に対して著しく配慮に欠ける発言等があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：**

1. ガイダンス
2. 讃美歌を用いた合唱練習と読譜法の学習
3. 讃美歌を用いた合唱練習と和声法の学習
4. 児童向け合唱教材を用いた合唱指導法の学習
5. 様々な打楽器の奏法について
6. 様々な打楽器を用いた児童向け楽曲の練習
7. 様々な旋律楽器を用いた児童向け楽曲の練習
8. 箏の奏法について(1) 調弦法
9. 箏の奏法について(2) 簡単な楽曲
10. 日本の伝統音楽について(1) わらべうた
11. 日本の伝統音楽について(2) 音階論
12. 日本の伝統音楽について(3) 民謡を歌ってみる
13. 世界の民族音楽(1)
14. 世界の民族音楽(2)
15. 実技試験

**使用テキスト:** 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 音楽に関し理解したことを表現に生かすには十分な反復練習が必要である。実際に声を出して歌唱の練習を行ってほしい。オフィスアワーを使い個人指導に応ずる。

**障がいのある履修者への対応:** できる限り配慮する。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに音楽研究室にて対応する。

**留意事項:** 特になし。

---

---

**科目コード:** 13538      **科目ナンバリング:** PE11A02E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 美術A a(Fine Arts A a)

**担当者:** 小林 信悟

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 1

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜2限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:**

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

#### 授業の概要:

モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが取り組みます。これは、時間の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

#### キーワード:

造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる

**評価方法:**

**評価割合:** 80%

単元毎の課題(プリント、作品)

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:**

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合:** 20%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

#### 授業計画：

第1回：①班分け ②班別撮影(作品展開素材作り) ③道具の仕立て：鉛筆削り(制作目的に

合わせた道具の加工)、④作品制作過程について

第2回：①紙について(紙の構造) ②鉛筆削り(刃物の取り扱い)③クロッキー(手を主題に。通年適宜)

第3回：①鉛筆削り(左右対称の削り) ②作品の見どころ(幾何形体を題材とした作品)

第4回：キャラクターの描写(手本について。ミッキーマウス)

第5回：キャラクターの展開(子どもとの接点：①描画の相違 ②相違への命名)

第6回：①8B～HBの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(動植物を題材とした作品) ③鉛筆削り(初期の削り)

第7回：①F～8Hの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(構想・表現力を題材とした

作品) ③鉛筆削り(中期の削り)

第8回：デッサン(友の後頭、友の後姿)

第9回：①デッサンの推定・類推(友の後頭・後姿)③モノクローム絵画(制作の進め方)

第10回：①鉛筆削り(終期の削り・仕上げ)②作品の見どころ(複雑系を有する作品)

第11回：18階調の制作(調整と仕上げ)

第12回：鋳物：型作り(①身近な鋳物 ②型作りの用具・材料・手順・注意点について)

第13回：鋳物：型作り(成否の確認と再制作)

第14回：前期提出8作品の最終仕上げ1/2(1.道具の仕立て：鉛筆削り、2.キャラクターの描写・展

開、3.クロッキー、4.作品のみどころ)

第15回：①前期提出8作品の最終仕上げ1/2(5.18階調濃淡、6.友の後頭・後姿、7.鋳型、8.鋳型

の制作過程) ②夏休みの宿題について ③課題提出について

使用テキスト：・関連プリント配布

・関連映像上映

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)

・スマートフォンによる検索画像

・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム

- ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 ブティック社
- ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
- ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
- ・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:**

可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項:**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

科目コード:13538

科目ナンバリング:PE11A02E

主な使用言語: **日本語**

授業名(英文): 美術A b(Fine Arts A b)

担当者: 小林 信悟

**基本情報**

年次:1

単位数:1

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格: 教職

AL要素:

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

**授業の概要:**

モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが取り組みます。これは、時間の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

**キーワード:** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

**学位授与方針との関係**

▼ 知識・技能

到達目標:

造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

評価方法:

評価割合: 80%

単元毎の課題(プリント、作品)

### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

評価方法: 単元毎の課題(プリント、作品)

評価割合: 20%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる

評価割合: 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる

評価割合: 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

### ▼その他

特になし

評価割合: 特になし

### 授業計画:

第1回:①班分け ②班別撮影(作品展開素材作り) ③道具の仕立て:鉛筆削り(制作目的に

合わせた道具の加工)、④作品制作過程について

第2回:①紙について(紙の構造) ②鉛筆削り(刃物の取り扱い)③クロッキー(手を主題に。通年適宜)

第3回:①鉛筆削り(左右対称の削り) ②作品の見どころ(幾何形体を題材とした作品)

第4回:キャラクターの描写(手本について。ミッキーマウス)

第5回:キャラクターの展開(子どもとの接点:①描画の相違 ②相違への命名)

第6回:①8B~HBの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(動植物を題材とした作品) ③鉛筆削り(初期の削り)

第7回:①F~8Hの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(構想・表現力を題材とした

作品) ③鉛筆削り(中期の削り)

第8回:デッサン(友の後頭、友の後姿)

第9回:①デッサンの推定・類推(友の後頭・後姿)③モノクローム絵画(制作の進め方)

第10回:①鉛筆削り(終期の削り・仕上げ)②作品の見どころ(複雑系を有する作品)

第11回:18階調の制作(調整と仕上げ)

第12回:鋳物:型作り(①身近な鋳物 ②型作りの用具・材料・手順・注意点について)

第13回:鋳物:型作り(成否の確認と再制作)

第14回:前期提出8作品の最終仕上げ1/2(1.道具の仕立て:鉛筆削り、2.キャラクターの描写・展

開、3.クロッキー、4.作品のみどころ)

第15回:①前期提出8作品の最終仕上げ1/2(5.18階調濃淡、6.友の後頭・後姿、7.鋳型、8.鋳型)

の制作過程) ②夏休みの宿題について ③課題提出について

**使用テキスト:** ・関連プリント配布  
・関連映像上映

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)  
・スマートホンによる検索画像  
・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム  
・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 プティック社  
・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社  
・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社  
・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:**

可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項:** ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。  
・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。  
・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。  
・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

---

**科目コード:** 13538      **科目ナンバリング:** PE11A02E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 美術A c(Fine Arts A c)

**担当者:** 小林 信悟

**基本情報**

**年次:** 1

**単位数:** 1

**授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜5限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職

**AL要素:**

03.実験・実技・体験  
07.発表  
08.協同学修  
10.資料調査課題  
15.レポート指導

**授業の概要:** モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが取り組みます。これは、時間の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

**キーワード:** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

**評価方法:** **評価割合: 80%**

単元毎の課題(プリント、作品)

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:** **評価割合: 20%**

単元毎の課題(プリント、作品)

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合: 0%**

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合: 0%**

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

### ▼その他

特になし

**評価割合: 特になし**

### 授業計画:

第1回:①班分け ②班別撮影(作品展開素材作り) ③道具の仕立て:鉛筆削り(制作目的に

合わせた道具の加工)、④作品制作過程について

第2回:①紙について(紙の構造) ②鉛筆削り(刃物の取り扱い)③クロッキー(手を主題に。通年適宜)

第3回:①鉛筆削り(左右対称の削り) ②作品の見どころ(幾何形体を題材とした作品)

第4回:キャラクターの描写(手本について。ミッキーマウス)

第5回:キャラクターの展開(子どもとの接点:①描画の相違 ②相違への命名

第6回:①8B~HBの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(動植物を題材とした作品) ③鉛筆削り(初期の削り)

第7回:①F~8Hの9段階で濃淡の階調の制作 ②作品の見どころ(構想・表現力を題材とした

作品) ③鉛筆削り(中期の削り)

第8回:デッサン(友の後頭、友の後姿)

第9回:①デッサンの推定・類推(友の後頭・後姿)③モノクローム絵画(制作の進め方)

第10回:①鉛筆削り(終期の削り・仕上げ)②作品の見どころ(複雑系を有する作品)

第11回:18階調の制作(調整と仕上げ)



- 第12回: 鋳物:型作り(①身近な鋳物 ②型作りの用具・材料・手順・注意点について)  
 第13回: 鋳物:型作り(成否の確認と再制作)  
 第14回: 前期提出8作品の最終仕上げ1/2(1.道具の仕立て:鉛筆削り、2.キャラクターの描写・展  
 開、3.クッキー、4.作品のみどころ  
 第15回: ①前期提出8作品の最終仕上げ1/2(5.18階調濃淡、6.友の後頭・後姿、7.鋳型、8.  
 鋳型  
 の制作過程) ②夏休みの宿題について ③課題提出について

**使用テキスト:** ・関連プリント配布  
 ・関連映像上映

**予習・復習のポイントと  
 参考文献・資料等:**

- 事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。  
 紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)
- ・スマートフォンによる検索画像
  - ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
  - ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 プティック社
  - ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
  - ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.  
 水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
  - ・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項:**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性がります。

**科目コード:** 13539      **科目ナンバリング:** PE12A02E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 美術B a(Fine Arts B a)

**担当者:** 小林 信悟

**基本情報**

**年次:** 1      **単位数:** 1      **授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜2限      **履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:** 教職      **AL要素:** 03.実験・実技・体験  
 07.発表  
 08.協同学修  
 10.資料調査課題  
 15.レポート指導

**授業の概要:** 授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業  
 モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに  
 造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出  
 であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実  
 現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが取り組みます。これは、時間  
 の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を

目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

**キーワード:**

造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標:**

授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法:**

**評価割合: 80%**

単元毎の課題(プリント、作品)

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合: 20%**

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合: 特になし**

**授業計画:** 第1回: 構図の研究: 力点をおく構図の考案(題材: 写真撮影による学園探索。季節と天候を

加味)

第2回: 鋳物の台座の意匠(下処理・図柄転写・彫刻刀による外周彫り・1/5)

第3回: 鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による直線彫り・2/5)

第4回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による弧彫り・3/5) ②モノクローム絵画(図柄と

余白 ③湯入れ(進捗学生)

第5回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による細部彫り・4/5) ②湯入れ(前回以外学生)

③モノクローム絵画(構想性)

第6回: ①粘土による造形遊び:(触覚による造形、対面及びクラス全員による形の交流)

第7回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による図柄の際の仕上げ・5/5) ②モノクローム絵

画(充実度)③作品の見どころ(見ごたえのある作品の総集編)④湯入れ(前2回以外の学生)

第8回:①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き(進捗学生) ②湯入れ(前3回以外の学生))

第9回:①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き(前回以外学生) ②鋳物の指の戸外設置(環境との調和)

第10回:モノクローム絵画(濃淡の配分)

第11回:鋳物の指の戸外設置(環境との対比及び光)

第12回:①鋳物の指を使った顔の制作(落ち葉や枝との調和及び対比、日光を加味)

②冬休みの宿題について

第13回:モノクローム絵画(形の際への配慮)

第14回:モノクローム絵画(丁寧な仕上げへ)

第15回:①.後期提出7作品の仕上げ(1.マンホール探索、2.構図の研究:力点をおく構図、3.鋳物・

鋳物の指の制作過程、4.モノクローム絵画、5.鋳物の指の戸外設置、6.鋳物の指を使った顔の

制作、7.粘土による造形遊び ②課題提出について

**使用テキスト:** ・関連プリント配布  
・関連映像上映

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:**

事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)

・スマートフォンによる検索画像

・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム

・『風景写真2006,7-8月』石川薫 2006 プティック社

・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』今泉吉典 1987 平凡社

・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.

水生無脊椎動物』荒俣宏 1997 平凡社

・『見たことないもの作ろう!』西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項:**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

科目コード:13539

科目ナンバリング:PE12A02E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):美術B b(Fine Arts B b)

担当者:小林 信悟

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻:Pe

関連資格:教職

AL要素:03.実験・実技・体験  
07.発表  
08.協同学修  
10.資料調査課題

**授業の概要:**

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが行います。これは、時間の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

**キーワード:** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

**学位授与方針との関係****▼知識・技能**

**到達目標:** 授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法:**

**評価割合: 80%**

単元毎の課題(プリント、作品)

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:**

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合: 20%**

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合: 特になし**

**授業計画:**

第1回: 構図の研究: 力点をおく構図の考案(題材: 写真撮影による学園探索。季節と天候を加味)

- 第2回: 鋳物の台座の意匠(下処理・図柄転写・彫刻刀による外周彫り・1/5)  
 第3回: 鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による直線彫り・2/5)  
 第4回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による弧彫り・3/5) ②モノクローム絵画(図柄と  
 余白 ③湯入れ(進捗学生)  
 第5回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による細部彫り・4/5) ②湯入れ(前回以外学生)  
 ③モノクローム絵画(構想性)  
 第6回: ①粘土による造形遊び:(触覚による造形、対面及びクラス全員による形の交流)  
 第7回: ①鋳物の台座の意匠の彫刻(彫刻刀による図柄の際の仕上げ・5/5) ②モノクローム絵  
 画(充実度) ③作品の見どころ(見ごたえのある作品の総集編) ④湯入れ(前2回以外  
 の学生)  
 第8回: ①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き(進捗学生) ②湯入れ(前3回以外の学生)  
 第9回: ①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き(前回以外学生) ②鋳物の指の戸外設置(環境と  
 の調和)  
 第10回: モノクローム絵画(濃淡の配分)  
 第11回: 鋳物の指の戸外設置(環境との対比及び光)  
 第12回: ①鋳物の指を使った顔の制作(落ち葉や枝との調和及び対比、日光を加味)  
 ②冬休みの宿題について  
 第13回: モノクローム絵画(形の際への配慮)  
 第14回: モノクローム絵画(丁寧な仕上げへ)  
 第15回: ①.後期提出7作品の仕上げ(1.マンホール探索、2.構図の研究:力点をおく構図、3.  
 鋳物・  
 鋳物の指の制作過程、4.モノクローム絵画、5.鋳物の指の戸外設置、6.鋳物の指を使っ  
 た顔の  
 制作、7.粘土による造形遊び ②課題提出について

**使用テキスト:** ・関連プリント配布  
 ・関連映像上映

**予習・復習のポイントと  
 参考文献・資料等:**

- 事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。  
 紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)  
 ・スマートホンによる検索画像  
 ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム  
 ・『風景写真2006,7-8月』石川薫 2006 プティック社  
 ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』今泉吉典 1987 平凡社  
 ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類  
 別巻2.  
 水生無脊椎動物』荒俣宏 1997 平凡社  
 ・『見たことないもの作ろう!』西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある  
 履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

- 留意事項:** ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因と  
 します。  
 ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々に  
 または複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。  
 ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めま  
 す。  
 ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

科目コード: 13539

科目ナンバリング: PE12A02E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 美術B c(Fine Arts B c)

担当者：小林 信悟

## 基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

## 授業の概要：

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業モノクロームによる表現は、廉価で簡易で一見貧相にみえます。しかし、その簡潔性ゆえに造形要素を把握し易く概念の直截的表現が導かれます。また作者の赤裸々な軌跡の表出であり、美術に於ける入り口の機能も果たしています。題材を見つめ、考え、構想を練り、実現のために線描や濃淡つけ、予測と結果との試行錯誤を自らが取り組みます。これは、時間の積み重ねをも作品に封印しています。単色の制約の中で、制作意図と造形要素の両立を目指し、そして、どれだけ題材と関わり合いを持てるかを目標とします。ひいては、構想、制作を重ねる中で、何気ない「もの」の中にも不思議な思いやおもしろい観点を抱くように願っています。

キーワード：造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、表現力

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：**授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法：**単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合：80%**

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法：**

単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合：20%**

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回：構図の研究：力点をおく構図の考案（題材：写真撮影による学園探索。季節と天候を加味）
- 第2回：鋳物の台座の意匠（下処理・図柄転写・彫刻刀による外周彫り・1/5）
- 第3回：鋳物の台座の意匠の彫刻（彫刻刀による直線彫り・2/5）
- 第4回：①鋳物の台座の意匠の彫刻（彫刻刀による弧彫り・3/5）②モノクローム絵画（図柄と余白 ③湯入れ（進捗学生）
- 第5回：①鋳物の台座の意匠の彫刻（彫刻刀による細部彫り・4/5）②湯入れ（前回以外学生）
- ③モノクローム絵画（構想性）
- 第6回：①粘土による造形遊び：（触覚による造形、対面及びクラス全員による形の交流）
- 第7回：①鋳物の台座の意匠の彫刻（彫刻刀による図柄の際の仕上げ・5/5）②モノクローム絵画（充実度）③作品の見どころ（見ごたえのある作品の総集編）④湯入れ（前2回以外の学生）
- 第8回：①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き（進捗学生）②湯入れ（前3回以外の学生）
- 第9回：①鋳物の割り出し・バリ取り・磨き（前回以外学生）②鋳物の指の戸外設置（環境との調和）
- 第10回：モノクローム絵画（濃淡の配分）
- 第11回：鋳物の指の戸外設置（環境との対比及び光）
- 第12回：①鋳物の指を使った顔の制作（落ち葉や枝との調和及び対比、日光を加味）
- ②冬休みの宿題について
- 第13回：モノクローム絵画（形の際への配慮）
- 第14回：モノクローム絵画（丁寧な仕上げへ）
- 第15回：①後期提出7作品の仕上げ（1.マンホール探索、2.構図の研究：力点をおく構図、3.鋳物・鋳物の指の制作過程、4.モノクローム絵画、5.鋳物の指の戸外設置、6.鋳物の指を使った顔の制作、7.粘土による造形遊び ②課題提出について

使用テキスト： ・関連プリント配布  
・関連映像上映

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：

- 事前準備学習 素材収集（日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。）
- ・スマートホンによる検索画像
  - ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
  - ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 プティック社
  - ・『イラスト・アニマル：動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
  - ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
  - ・『見たことないもの作ろう！』 西村陽平 1988 偕成社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：

オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項：**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

---

科目コード：13540      科目ナンバリング：PE21A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：労作体験I a(Labor Experience I a)

担当者：穂積 訓、西川 綾子

**基本情報**

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

**キーワード：**園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

**学位授与方針との関係****▼知識・技能**

**到達目標：**授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

**評価方法：**課題等の提出物

**評価割合：**60%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：**授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

**評価方法：**課題等の提出物

**評価割合：**40%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断



力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 はじめに：ハーブ類の種まきと株分け(西川)
  - 2 生活と植物：身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
  - 3 植物の栽培(春)1：ハーブの移植(西川)
  - 4 植物の栽培(春)2：トウモロコシの栽培(穂積)
  - 5 植物の栽培(春)3：ミントの挿し木と観察(西川)
  - 6 植物の栽培(春)4：サトイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
  - 7 植物の栽培(春)5：ハーブの鉢上げ(西川)
  - 8 植物の栽培(春)6：畑の整備(穂積)
  - 9 植物の栽培(夏)1：ハーブガーデンを作る(西川)
  - 10 自然の観察：動物の行動(穂積)
  - 11 植物の収穫(夏)2：プランターと畑に植える(西川)
  - 12 植物の収穫(夏)3：ジャガイモの収穫(穂積)
  - 13 植物の収穫(夏)4：収穫方法、花束作り(西川)
  - 14 植物の収穫(夏)5：トウモロコシの収穫(穂積)
  - 15 まとめ：ガーデンの手入れ(西川)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため、授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。授業担当者(穂積)もしくは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： ・天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

---

科目コード：13540

科目ナンバリング：PE21A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 労作体験I b(Labor Experience I b)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：教職

AL要素：03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード：園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法：課題等の提出物

評価割合：60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法：課題等の提出物

評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1 はじめに：ハーブ類の種まきと株分け(西川)

- 2 生活と植物:身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
- 3 植物の栽培(春)1:ハーブの移植(西川)
- 4 植物の栽培(春)2:トウモロコシの栽培(穂積)
- 5 植物の栽培(春)3:ミントの挿し木と観察(西川)
- 6 植物の栽培(春)4:サトイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
- 7 植物の栽培(春)5:ハーブの鉢上げ(西川)
- 8 植物の栽培(春)6:畑の整備(穂積)
- 9 植物の栽培(夏)1:ハーブガーデンを作る(西川)
- 10 自然の観察:動物の行動(穂積)
- 11 植物の収穫(夏)2:プランターと畑に植える(西川)
- 12 植物の収穫(夏)3:ジャガイモの収穫(穂積)
- 13 植物の収穫(夏)4:収穫方法、花束作り(西川)
- 14 植物の収穫(夏)5:トウモロコシの収穫(穂積)
- 15 まとめ:ガーデンの手入れ(西川)

**使用テキスト:** 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため、授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。授業担当者(穂積)もしくは学務部に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

**留意事項:** ・天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード:13540

科目ナンバリング:PE21A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 労作体験I c(Labor Experience I c)

担当者: 穂積 訓、西川 綾子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:教職

AL要素: 03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方

法についても考察します。

**キーワード：**園芸・農業体験，幼児・児童と自然，生活におけるハーブ，植物の観察と活用

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：**授業における解説や体験活動を通して，植物の栽培や自然体験，環境理解に必要な知識・技能を習得することができる。

**評価方法：**レポート等の提出物  
学期末試験

**評価割合：**60%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**授業で扱う内容について，自らの知見や経験をもとに考察し，自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

**評価方法：**レポート等の提出物

**評価割合：**40%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし，野外における積極的な活動の成果が提出物に見られるときには，思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし，ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は，上記の「思考力，判断力，表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし，授業中の発言やレポートの記述等において，人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は，減点や厳重注意，懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

**評価割合：**0%

#### ▼ その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

- 授業計画：**
- 1 はじめに：身近な自然の観察(穂積)
  - 2 生活と植物：秋の種まき(薬膳)(西川)
  - 3 植物の栽培(秋)1：カブの栽培(穂積)
  - 4 植物の栽培(秋)2：挿し木(トロピカルハーブ)(西川)
  - 5 植物の栽培(秋)3：ラッカセイの収穫(穂積)
  - 6 植物の栽培(秋)4：移植，鉢上げ(江戸時代のハーブ1)(西川)
  - 7 秋の栽培：サトイモの収穫(穂積)
  - 8 秋の栽培：収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2)(西川)
  - 9 植物の観察1：樹木検索とドングリ(穂積)
  - 10 植物の栽培(冬)1：収穫(カレーのスパイス)(西川)
  - 11 植物の活用1：紙作り(穂積)
  - 12 植物の栽培(冬)2：霜よけ、冬の準備(西川)
  - 13 植物の観察2：樹木検索と翼果(穂積)
  - 14 植物の活用2：種の選別、ハーブティー(西川)
  - 15 まとめ(穂積)

**使用テキスト：** 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため，授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

**留意事項:** ・天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

---

科目コード:13541      科目ナンバリング:PE22A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 労作体験II a(Labor Experience II a)

担当者: 穂積 訓、西川 綾子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格: 教職

AL要素: 03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして春から初夏にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

**キーワード:** 園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業における解説や体験活動を通して、自然体験に必要な知識・技能を習得することができる。

**評価方法:** 課題等の提出物

**評価割合:** 60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

**評価方法:** 課題等の提出物

**評価割合:** 40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断

力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 はじめに：ハーブ類の種まきと株分け(西川)
  - 2 生活と植物：身近な自然の観察とジャガイモの植え付け(穂積)
  - 3 植物の栽培(春)1：ハーブの移植(西川)
  - 4 植物の栽培(春)2：トウモロコシの栽培(穂積)
  - 5 植物の栽培(春)3：ミントの挿し木と観察(西川)
  - 6 植物の栽培(春)4：サトイモ・ラッカセイの栽培(穂積)
  - 7 植物の栽培(春)5：ハーブの鉢上げ(西川)
  - 8 植物の栽培(春)6：畑の整備(穂積)
  - 9 植物の栽培(夏)1：ハーブガーデンを作る(西川)
  - 10 自然の観察：動物の行動(穂積)
  - 11 植物の収穫(夏)2：プランターと畑に植える(西川)
  - 12 植物の収穫(夏)3：ジャガイモの収穫(穂積)
  - 13 植物の収穫(夏)4：収穫方法、花束作り(西川)
  - 14 植物の収穫(夏)5：トウモロコシの収穫(穂積)
  - 15 まとめ：ガーデンの手入れ(西川)

使用テキスト： 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため、授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。授業担当者(穂積)もしくは学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

留意事項： 天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

---

科目コード：13541

科目ナンバリング：PE22A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 労作体験II b(Labor Experience II b)

担当者： 穂積 訓、西川 綾子

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルIII】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルII】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることが出来る教材の開発や指導の方法についても考察します。

キーワード：園芸・農業体験、幼児・児童と自然、生活におけるハーブ、植物の観察と活用

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：授業における解説や体験活動を通して、植物の栽培や自然体験、環境理解に必要な知識・技能を習得することができる。

評価方法：レポート等の提出物  
学期末試験

評価割合：60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

評価方法：レポート等の提出物

評価割合：40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、野外における積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 1 はじめに:身近な自然の観察(穂積)
  - 2 生活と植物:秋の種まき(薬膳)(西川)
  - 3 植物の栽培(秋)1:カブの栽培(穂積)
  - 4 植物の栽培(秋)2:挿し木(トロピカルハーブ)(西川)
  - 5 植物の栽培(秋)3:ラッカセイの収穫(穂積)
  - 6 植物の栽培(秋)4:移植,鉢上げ(江戸時代のハーブ1)(西川)
  - 7 秋の栽培:サトイモの収穫(穂積)
  - 8 秋の栽培:収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2)(西川)
  - 9 植物の観察1:樹木検索とドングリ(穂積)
  - 10 植物の栽培(冬)1:収穫(カレーのスパイス)(西川)
  - 11 植物の活用1:紙作り(穂積)
  - 12 植物の栽培(冬)2:霜よけ、冬の準備(西川)
  - 13 植物の観察2:樹木検索と翼果(穂積)
  - 14 植物の活用2:種の選別、ハーブティー(西川)
  - 15 まとめ(穂積)

**使用テキスト：** 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため、授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

**留意事項：** ・天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

科目コード:13541      科目ナンバリング:PE22A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 労作体験Ⅱ c(Labor Experience II c)

担当者: 穂積 訓、西川 綾子

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格: 教職

AL要素: 03.実験・実技・体験  
08.協同学習  
09.実地調査  
10.資料調査課題

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型、【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】課題研究型・面接授業

子どもたちにとって自然は身近な環境であり、かつ未知の存在です。子どもたちは自然との触れ合いを通して自然への好奇心を高め、探究心を持って試行錯誤しながら生きた知識や経験を身につけます。

一方、人と自然との関わりが減少したといわれる昨今、子どもたちの好奇心や探究心を引き出すためには、教員自身が自然を観察し、触れ、考えるなど、実際に自然を体験することが重要です。

自然とは非常に幅広い意味を持ちますが、ここでは身近な植物とその環境、および生活との関わりに焦点をあてて授業を行います。授業では、実務経験を活かして秋から冬にかけての作物やハーブの栽培や収穫、身近な動物の観察、自然の特徴を利用した物作りなど、自然を教材とした労作体験を展開することを予定しています。自然との触れ合い、環境について



て考える活動を通して、ものの性質や命の尊さを感じることができる教材の開発や指導の方法についても考察します。

**キーワード：** 園芸・農業体験，幼児・児童と自然，生活におけるハーブ，植物の観察と活用

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業における解説や体験活動を通して、植物の栽培や自然体験，環境理解に必要な知識・技能を習得することができる。

**評価方法：** レポート等の提出物  
学期末試験

**評価割合：** 60%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱う内容について、自らの知見や経験をもとに考察し、自らの意見を具体的かつ簡潔に表現できる。

**評価方法：** レポート等の提出物

**評価割合：** 40%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、野外における積極的な活動の成果が提出物に見られるときには、思考力・判断力・表現力の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

- 授業計画：**
- 1 はじめに：身近な自然の観察(穂積)
  - 2 生活と植物：秋の種まき(薬膳) (西川)
  - 3 植物の栽培(秋)1：カブの栽培(穂積)
  - 4 植物の栽培(秋)2：挿し木(トロピカルハーブ) (西川)
  - 5 植物の栽培(秋)3：ラッカセイの収穫(穂積)
  - 6 植物の栽培(秋)4：移植，鉢上げ(江戸時代のハーブ1) (西川)
  - 7 秋の栽培：サトイモの収穫(穂積)
  - 8 秋の栽培：収穫と花束作り(江戸時代のハーブ2) (西川)
  - 9 植物の観察1：樹木検索とドングリ(穂積)
  - 10 植物の栽培(冬)1：収穫(カレーのスパイス) (西川)
  - 11 植物の活用1：紙作り(穂積)
  - 12 植物の栽培(冬)2：霜よけ、冬の準備(西川)
  - 13 植物の観察2：樹木検索と翼果(穂積)
  - 14 植物の活用2：種の選別、ハーブティー(西川)
  - 15 まとめ(穂積)

**使用テキスト：** 薬草ガイドブック(日本植物園協会)を使用する予定です。詳細は授業時に説明します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業内容は天候や季節の変化によって変更されることがある。そのため、授業後に関連事項を調べるなどの自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します。曜日・時間等は初回にお知らせします。

**留意事項：** ・天候や生物の成長などは毎年異なります。自然の変化に合わせて授業の順番を入れ替えて行います。そのため、晴れた日は畑など屋外に出ることを念頭に、適切な服装や靴、髪型で授業に臨んで下さい。

---

科目コード：13542      科目ナンバリング：PE31A01J      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童体育A 3a(Elementary Physical Education A 3a)

担当者：高橋 和将

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：03 実験・実技・体験

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 小学校体育科で取り上げられる運動のうち、特に体づくり運動領域・器械運動領域・陸上運動領域の実践を通して、小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード：** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる

**評価方法：** コメントペーパー  
期末レポート

**評価割合：100%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合：** 「知識・技能」とあわせて評価する

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合：0%**

## ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. オリエンテーション
  2. 教材研究：体づくり運動
  3. 教材研究：器械運動・マット運動(1)
  4. 教材研究：器械運動・マット運動(2)
  5. 教材研究：器械運動・マット運動(3)
  6. 教材研究：器械運動・マット運動(4)
  7. 教材研究：器械運動・鉄棒運動(1)
  8. 教材研究：器械運動・鉄棒運動(2)
  9. 教材研究：器械運動・鉄棒運動(3)
  10. 教材研究：器械運動・跳び箱運動(1)
  11. 教材研究：器械運動・跳び箱運動(2)
  12. 教材研究：器械運動・跳び箱運動(3)
  13. 教材研究：器械運動・跳び箱運動(4)
  14. 教材研究：陸上運動・短距離走
  15. 教材研究：陸上運動・リレー

使用テキスト： 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 事前に配布した資料に目を通し，運動学習のイメージを持つこと。  
配布資料・実践に加え，インターネットなどで資料を収集し，教材の工夫の仕方を検討すること。

### 【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店

障がいのある  
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード：13542      科目ナンバリング：PE31A01J      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童体育A 3b(Elementary Physical Education A 3b)

担当者： 高橋 和将

### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：03 実験・実技・体験

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 小学校体育科で取り上げられる運動のうち，特に体づくり運動領域・器械運動領域・陸上運動領域の実践を通して，小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

キーワード： 運動指導，運動教材，運動学習支援

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** 1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる

**評価方法:** コメントペーパー  
期末レポート

**評価割合:** 100%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法:** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合:** 「知識・技能」とあわせて評価する

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション
  2. 教材研究: 体づくり運動
  3. 教材研究: 器械運動・マット運動(1)
  4. 教材研究: 器械運動・マット運動(2)
  5. 教材研究: 器械運動・マット運動(3)
  6. 教材研究: 器械運動・マット運動(4)
  7. 教材研究: 器械運動・鉄棒運動(1)
  8. 教材研究: 器械運動・鉄棒運動(2)
  9. 教材研究: 器械運動・鉄棒運動(3)
  10. 教材研究: 器械運動・跳び箱運動(1)
  11. 教材研究: 器械運動・跳び箱運動(2)
  12. 教材研究: 器械運動・跳び箱運動(3)
  13. 教材研究: 器械運動・跳び箱運動(4)
  14. 教材研究: 陸上運動・短距離走
  15. 教材研究: 陸上運動・リレー

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説 体育編, 文部科学省, 東洋館出版社

**予習・復習のポイントと** 事前に配布した資料に目を通し, 運動学習のイメージを持つこと。

**参考文献・資料等:** 配布資料・実践に加え, インターネットなどで資料を収集し, 教材の工夫の仕方を検討すること。

#### 【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本, 白旗和也, 東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門, 岩田靖ほか編著, 大修館書店

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード:13542      科目ナンバリング:PE31A01J      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童体育A 1a(Elementary Physical Education A 1a)

担当者: 高橋 和将、斉藤 まゆみ、樫本 昇三、川合 真与

#### 基本情報

年次:カリキュラム	単位数:1	授業形式:実技
曜時:前期(集中講義)、後期(水曜2限)		履修可能学科・専攻: E Pe C W F M
関連資格: 教職 社教		AL要素: 03 実験・実技・体験 08 協同学修 11 討論 16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 小学校体育科で取り上げられる運動のうち、特に体づくり運動領域・器械運動領域・水泳運動領域の実践を通して、小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード:** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。
  2. 学習指導要領に書かれている器械運動の「基本的な技」ができる。
  3. 水泳の基本的な技能を身に付けている。

**評価方法:** 実技試験      **評価割合:** 70%  
授業記録・コメントペーパー

##### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる。
  2. 安全に運動を実施するための配慮・判断ができる

**評価方法:** 授業記録・コメントペーパー      **評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。また、実技授業であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合は減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 9月集中(担当:高橋・椿本・齊藤・川合)

1. 教材研究:水泳運動(1)水慣れ・安全確認・安全確保
2. 教材研究:水泳運動(2)エレメンタリーストローク(クロールなど)
3. 教材研究:水泳運動(3)エレメンタリーストローク(平泳ぎなど)
4. 教材研究:水泳運動(4)グループ別練習
5. 教材研究:水泳運動(5)水の抵抗と効率的な泳ぎ方
6. 教材研究:水泳運動(6)泳法の評価方法
7. 教材研究:水泳運動(7)泳力の評価方法
8. 教材研究:水泳運動(8)まとめ

後期水曜2限(担当:高橋)

9. 教材研究:体づくり運動
10. 教材研究:器械運動・マット運動(1)接点技
11. 教材研究:器械運動・マット運動(2)ほん転技・倒立系
12. 教材研究:器械運動・鉄棒運動(1)前方回転系
13. 教材研究:器械運動・鉄棒運動(2)後方回転系
14. 教材研究:器械運動・跳び箱運動(1)切り返し系
15. 教材研究:器械運動・跳び箱運動(2)回転系

使用テキスト： 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 実技の習得に十分な時間を充てること。  
事前に配布した資料に目を通し，運動学習のイメージを持つこと。  
配布資料・実践に加え，インターネットなどで資料を収集し，教材の工夫の仕方を検討すること。

【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店  
学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」文部科学省

障がいのある  
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 運動に適した服装で授業に参加すること  
水泳用品については、別途連絡します。

第1～8回は集中授業として、かみね市民プールで行います。

---

科目コード：13542

科目ナンバリング：PE31A01J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童体育A 1b(Elementary Physical Education A 1b)

担当者： 高橋 和将、齊藤 まゆみ、椿本 昇三、川合 真与

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実技

曜時：前期(集中講義)、後期(水曜2限)

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素： 03 実験・実技・体験

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 小学校体育科で取り上げられる運動のうち、特に体づくり運動領域・器械運動領域・水泳運動領域の実践を通して、小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード:** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。
  2. 学習指導要領に書かれている器械運動の「基本的な技」ができる。
  3. 水泳の基本的な技能を身に付けている。

**評価方法:** 実技試験  
授業記録・コメントペーパー

**評価割合:** 70%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる。
  2. 安全に運動を実施するための配慮・判断ができる

**評価方法:** 授業記録・コメントペーパー

**評価割合:** 30%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。また、実技授業であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合は減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 9月集中(担当:高橋・椿本・齊藤・川合)

1. 教材研究:水泳運動(1)水慣れ・安全確認・安全確保
2. 教材研究:水泳運動(2)エレメンタリーストローク(クロールなど)
3. 教材研究:水泳運動(3)エレメンタリーストローク(平泳ぎなど)
4. 教材研究:水泳運動(4)グループ別練習
5. 教材研究:水泳運動(5)水の抵抗と効率的な泳ぎ方
6. 教材研究:水泳運動(6)泳法の評価方法
7. 教材研究:水泳運動(7)泳力の評価方法
8. 教材研究:水泳運動(8)まとめ

後期水曜2限(担当:高橋)

9. 教材研究:体づくり運動
10. 教材研究:器械運動・マット運動(1)接点技
11. 教材研究:器械運動・マット運動(2)ほん転技・倒立系
12. 教材研究:器械運動・鉄棒運動(1)前方回転系
13. 教材研究:器械運動・鉄棒運動(2)後方回転系
14. 教材研究:器械運動・跳び箱運動(1)切り返し系
15. 教材研究:器械運動・跳び箱運動(2)回転系

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 実技の習得に十分な時間を充てること。  
事前に配布した資料に目を通し，運動学習のイメージを持つこと。  
配布資料・実践に加え，インターネットなどで資料を収集し，教材の工夫の仕方を検討すること。

**【参考資料】**

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店  
学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」文部科学省

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので，まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します。

**留意事項：** 運動に適した服装で授業に参加すること  
水泳用品については，別途連絡します。

第1～8回は集中授業として，かみね市民プールで行います。

---

**科目コード：13543**      **科目ナンバリング：PE32A01J**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：児童体育B 3a(Elementary Physical Education B 3a)**

**担当者：高橋 和将**

**基本情報**

**年次：カリキュラム**

**単位数：1**

**授業形式：実技**

**曜時：月曜3限**

**履修可能学科・専攻：E Pe C W F M**

**関連資格：教職 社教**

**AL要素：03 実験・実技・体験**

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 小学校体育科で取り上げられる運動のうち，特に陸上運動領域・ゲーム／ボール運動領域・表現運動領域の実践を通して，小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード：** 運動指導，運動教材，運動学習支援

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

- 到達目標：** 1. 授業で取り上げた内容について，要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう，運動教材に工夫を加えることができる

**評価方法：** コメントペーパー  
期末レポート

**評価割合：100%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート



の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 教材研究：陸上運動・ハードル走
  2. 教材研究：陸上運動・幅跳び・高跳び
  3. 教材研究：ボール運動・ゴール型(1)
  4. 教材研究：ボール運動・ゴール型(2)
  5. 教材研究：ボール運動・ゴール型(3)
  6. 教材研究：ボール運動・ゴール型(4)
  7. 教材研究：ボール運動・ゴール型(5)
  8. 教材研究：ボール運動・ゴール型(6)
  9. 教材研究：ボール運動・ネット型(1)
  10. 教材研究：ボール運動・ネット型(2)
  11. 教材研究：ボール運動・ネット型(3)
  12. 教材研究：ボール運動・ネット型(4)
  13. 教材研究：ボール運動・ベースボール型(1)
  14. 教材研究：ボール運動・ベースボール型(2)
  15. 教材研究：表現運動

使用テキスト： 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

予習・復習のポイントと 事前に配布した資料に目を通し，運動学習のイメージを持つこと。

参考文献・資料等： 配布資料・実践に加え，インターネットなどで資料を収集し，教材の工夫の仕方を検討すること。

#### 【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード：13543

科目ナンバリング：PE32A01J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童体育B 3b(Elementary Physical Education B 3b)

担当者： 高橋 和将

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：03 実験・実技・体験  
08 協同学修  
11 討論  
16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 小学校体育科で取り上げられる運動のうち、特に陸上運動領域・ゲーム／ボール運動領域・表現運動領域の実践を通して、小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

キーワード： 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標： 1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる

評価方法： コメントペーパー  
期末レポート

評価割合：100%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 1. 教材研究:陸上運動・ハードル走  
2. 教材研究:陸上運動・幅跳び・高跳び  
3. 教材研究:ボール運動・ゴール型(1)  
4. 教材研究:ボール運動・ゴール型(2)  
5. 教材研究:ボール運動・ゴール型(3)  
6. 教材研究:ボール運動・ゴール型(4)  
7. 教材研究:ボール運動・ゴール型(5)  
8. 教材研究:ボール運動・ゴール型(6)  
9. 教材研究:ボール運動・ネット型(1)  
10. 教材研究:ボール運動・ネット型(2)  
11. 教材研究:ボール運動・ネット型(3)  
12. 教材研究:ボール運動・ネット型(4)  
13. 教材研究:ボール運動・ベースボール型(1)  
14. 教材研究:ボール運動・ベースボール型(2)  
15. 教材研究:表現運動

**使用テキスト:** 小学校学習指導要領解説 体育編, 文部科学省, 東洋館出版社

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前に配布した資料に目を通し, 運動学習のイメージを持つこと。  
配布資料・実践に加え, インターネットなどで資料を収集し, 教材の工夫の仕方を検討すること。

**【参考資料】**

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本, 白旗和也, 東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門, 岩田靖ほか編著, 大修館書店

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので, まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード:13543      科目ナンバリング:PE32A01J      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童体育B 2a(Elementary Physical Education B 2a)

担当者: 高橋 和将

**基本情報**

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:実技

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職 社教

AL要素: 03 実験・実技・体験

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 小学校体育科で取り上げられる運動のうち, 特に陸上運動領域・ゲーム/ボール運動領域・表現運動領域の実践を通して, 小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード:** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標:** 1. 授業で取り上げた内容について, 要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう, 運動教材に工夫を加えることができる

**評価方法:** コメントペーパー  
期末レポート

**評価割合:**100%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:**「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法:**「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合:**「知識・技能」とあわせて評価する

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:**0%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:**0%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 教材研究：陸上運動・ハードル走
  2. 教材研究：陸上運動・幅跳び・高跳び
  3. 教材研究：ボール運動・ゴール型(1)
  4. 教材研究：ボール運動・ゴール型(2)
  5. 教材研究：ボール運動・ゴール型(3)
  6. 教材研究：ボール運動・ゴール型(4)
  7. 教材研究：ボール運動・ゴール型(5)
  8. 教材研究：ボール運動・ゴール型(6)
  9. 教材研究：ボール運動・ネット型(1)
  10. 教材研究：ボール運動・ネット型(2)
  11. 教材研究：ボール運動・ネット型(3)
  12. 教材研究：ボール運動・ネット型(4)
  13. 教材研究：ボール運動・ベースボール型(1)
  14. 教材研究：ボール運動・ベースボール型(2)
  15. 教材研究：表現運動

使用テキスト： 小学校学習指導要領解説 体育編，文部科学省，東洋館出版社

予習・復習のポイントと 事前に配布した資料に目を通し，運動学習のイメージを持つこと。

参考文献・資料等： 配布資料・実践に加え，インターネットなどで資料を収集し，教材の工夫の仕方を検討すること。

#### 【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本，白旗和也，東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門，岩田靖ほか編著，大修館書店

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード：13543      科目ナンバリング：PE32A01J      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童体育B 2b(Elementary Physical Education B 2b)

担当者： 高橋 和将

#### 基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：実技

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：03 実験・実技・体験

08 協同学修

11 討論

16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 小学校体育科で取り上げられる運動のうち、特に陸上運動領域・ゲーム／ボール運動領域・

表現運動領域の実践を通して、小学校体育科の教授法・教材づくりについて学びます。

**キーワード：** 運動指導, 運動教材, 運動学習支援

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

- 到達目標：** 1. 授業で取り上げた内容について、要点を理解している。  
2. 学習者の実態に応じた指導を行えるよう、運動教材に工夫を加えることができる

**評価方法：** コメントペーパー  
期末レポート

**評価割合：** 100%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価方法：** 「知識・技能」とあわせて評価する

**評価割合：** 「知識・技能」とあわせて評価する

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. 教材研究:陸上運動・ハードル走
  2. 教材研究:陸上運動・幅跳び・高跳び
  3. 教材研究:ボール運動・ゴール型(1)
  4. 教材研究:ボール運動・ゴール型(2)
  5. 教材研究:ボール運動・ゴール型(3)
  6. 教材研究:ボール運動・ゴール型(4)
  7. 教材研究:ボール運動・ゴール型(5)
  8. 教材研究:ボール運動・ゴール型(6)
  9. 教材研究:ボール運動・ネット型(1)
  10. 教材研究:ボール運動・ネット型(2)
  11. 教材研究:ボール運動・ネット型(3)
  12. 教材研究:ボール運動・ネット型(4)
  13. 教材研究:ボール運動・ベースボール型(1)
  14. 教材研究:ボール運動・ベースボール型(2)
  15. 教材研究:表現運動

**使用テキスト：** 小学校学習指導要領解説 体育編, 文部科学省, 東洋館出版社

**予習・復習のポイントと** 事前に配布した資料に目を通し, 運動学習のイメージを持つこと。

**参考文献・資料等：** 配布資料・実践に加え, インターネットなどで資料を収集し, 教材の工夫の仕方を検討すること。

【参考資料】

小学校これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本, 白旗和也, 東洋館出版社  
初等体育授業づくり入門, 岩田靖ほか編著, 大修館書店

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 運動に適した服装で授業に参加すること

---

科目コード: 13544      科目ナンバリング: PE31A02E      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 児童教育演習I a(Pupil Education Seminar I a)

担当者: 天野 秀哉

**基本情報**

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 03 実験・実技・体験  
10 資料調査課題

**授業の概要:** 【特例期間中の授業形態】

第1回より遠隔授業(同時双方向型)で行う。教員より指示があった場合は、その会を課題研究型にて行う。

多種多様な運動種目をツールとした、体育の指導方法の模索と指導現場での有効な手段や方法を、体育科学の基礎分野から理解を深める。

**キーワード:** 体育科学、体力、運動能力、研究法、指導現場への応用

**学位授与方針との関係**

▼ 知識・技能

**到達目標:** 1. 体育科学の基礎や体育科教育を中心とした分野において、基礎的な知識を修得すること。  
2. 計測や実験などを通じ、運動を科学的に捉える基礎的な方法について理解すること。

**評価方法:** 各授業時レポート

**評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 運動を「できるようになる」・「方法を学ぶ」・「観察力をつける」・「指導法を学ぶ」という点を重視し、最終的には、実践と研究、発表をするための基礎的な思考力、判断力、表現力を獲得することを目指す。

**評価方法:** 各授業時レポート

**評価割合:** 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や授業レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. ガイダンス
  2. 体育科学入門・健康体力学入門／形態計測法①
  3. 体育科学入門・健康体力学入門／形態計測法②
  4. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法①
  5. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法②
  6. 体育科学入門・健康体力学入門／体力運動能力測定法③
  7. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き①
  8. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き②
  9. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き③
  10. 体育科学入門・健康体力学入門／運動力学・運動と体の働き④
  11. 体育科学入門・健康体力学入門／スポーツ運動学①
  12. 体育科学入門・健康体力学入門／スポーツ運動学②
  13. 体育科学入門・体育スポーツ教育入門／体育科教育学①
  14. 体育科学入門・体育スポーツ教育入門／体育科教育学②
  15. 演習の総まとめ

使用テキスト： 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 福永哲夫、山本正嘉編著 市村出版  
授業に関連する資料は配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。また、実験を伴う授業の際は、事前に実験手順などの内容理解をしておくことが望ましい。

参考資料

「設計のための人体計測マニュアル」通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所編  
人間生活工学研究センター

「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良・藤井範久著 朝倉書店

「マイネル・スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 大修館書店

「新版 体育科教育学入門」高橋健夫編著 大修館書店

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します

留意事項： 実験、計測などを行う際は、運動に適した服装で参加すること

---

科目コード：13544

科目ナンバリング：PE31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習I b(Pupil Education Seminar I b)

担当者：池内 耕作

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07.発表、10.資料調査課題、12.課題討議法、17.発問と回答

授業の概要： 教育のあり方をめぐって、社会を二分する議論となっている(そして未決着の)命題が多々あ

ります。この演習ではそのような命題の本質を知るため、課題討議法(ディベート)により各論者の主張と対立を体験していきます。

**キーワード:** 教育問題、教育の課題

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で取り上げられた論争の内容を整理・把握・再調査し、自身の知識として内実化することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート) **評価割合: 20%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 教育に関わる様々な命題について、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート) **評価割合: 20%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度を身につけ、討議に積極的かつ建設的に貢献することができる。

【評価方法】各回における討議への関わり方について、担当者の観察により評価する。

**評価割合: 30%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、学外ボランティアなどの成果が他の評価項目において認められる場合、当該評価項目において加点することがある。

**評価割合: 0%**

#### ▼ 公正性

盗作や剽窃等の著作権侵害行為、人権侵害、差別発言、ハラスメント等にあたる行為を熟知し、他者との関わりや発表・記述等においてそうした行為を回避し、常に公正性を担保することができる。

**評価割合: 30%**

#### ▼ その他

特になし。

**評価割合: 特になし。**

**授業計画:** ※テーマは発表担当者が独自に設定します。以下はその一例です。

【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である

【第02回】体罰を公認するべきだ

【第03回】ホーム・スクリーニングを認めよ

【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない

【第05回】青年に兵役義務を課すべきである

【第06回】学校間競争・教師間競争が教育の底上げにつながる

【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ

【第08回】小学校にパソコン教育はいらない

【第09回】英国型アカウントビリティ政策を導入せよ

【第10回】問題教員はすぐにやめさせる

【第11回】できるが先、わかるは後

【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ

【第13回】しつけは家でやれ

【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ

【第15回】支援ではなく指導せよ

【第16回以降】自由選択課題



**使用テキスト:** 授業に必要な資料はすべて印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 次週のテーマについて可能な限り予習しておくことが望ましい。  
また各回のテーマについては事後に復習し、その理解を深めるとともに自身の主張の根拠を固めること。  
予習に際し、〈知識〉については文部科学省をはじめとする各公的機関のWEB上の統計データや答申、報告書、各マスメディアの記事等を熟読する習慣を身につけること。また〈思考力〉については、関連分野において著名な専門家の手による著書を熟読し、特に各著者の「考察の仕方(考え方)」を数多く知る努力をすること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

---

科目コード:13544      科目ナンバリング:PE31A02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習I c(Pupil Education Seminar I c)

担当者: 江尻 桂子

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07. 発表  
08. 共同学習  
09. 資料調査課題  
11. 討論  
14. 輪読活動  
15. レポート指導  
16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。ゼミでは、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

**キーワード:** 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える:心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

**評価方法:** 発表(論文紹介)、レポート

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行なったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

**評価方法:**

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用(引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む)を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回. この授業の到達目標と概略
  - 第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス
  - 第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)
  - 第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)
  - 第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(3)
  - 第6回. 論文発表(1)
  - 第7回. 論文発表(2)
  - 第8回. 論文発表(3)
  - 第9回. 論文発表(4)
  - 第10回. 論文発表(5)
  - 第11回. 論文発表(6)
  - 第12回. 論文発表(7)
  - 第13回. 論文発表(8)
  - 第14回. 論文発表を振り返って
  - 第15回. 演習の総まとめ

**使用テキスト：** 授業に関連する資料は、全て配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきましょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。  
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年  
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

**留意事項：** 心理学や、子ども、家族、障害児等に関する授業を履修しておく、あるいは、同時に履修することが望ましいです。

科目コード : 13544

科目ナンバリング : PE31A02E

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 児童教育演習I d (Pupil Education Seminar I d)

担当者 : 小幡 幸和

### 基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : Pe

関連資格 :

AL要素 : 07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

**授業の概要 :** ・ディスカッションのスキルを学んだ後に、教育に関する時事問題について新聞記事・書籍を読みながらディスカッションします。各授業回ごとに、あらかじめ読んできた担当箇所について2名に発表してもらいます。  
・後半では、初等教育全般に関する小論文を一人一人が執筆した上で授業内で発表し、相互評価する時を持ちます。  
・外部講師から特定の教育に関する話を聞くとき、または実際の教育現場において観察を通して学ぶときを持ちます(状況により変更の場合があります)。

**キーワード :** 児童教育の現状と課題、ディスカッション、小論文

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 教育を取り巻く現代の諸問題について様々な背景・考え方があることを理解し、教育現場で取り得る複数の方法を知識として身につけている。

**評価方法 :** 各授業回の発表、討論、小論文(またはレポート) **評価割合 : 50%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 教育に関する論考を批判的に読み、問題点を整理できるとともに、教育における課題について思考し、論理的かつ決められた様式のもとに自らの所見を表現することができる。

**評価方法 :** 各授業回の発表、討論、小論文(またはレポート) **評価割合 : 50%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合 : 0%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合 : 0%**

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、レポート等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

**評価割合 : 0%**

## ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第01回 オリエンテーション(各自の問題意識の確認)  
第02回 ディスカッション・スキルの基礎  
第03回 ディスカッション・スキルの応用  
第04回 教育時事問題の概要  
第05回 教育時事問題についてのディスカッション(1)  
第06回 教育時事問題についてのディスカッション(2)  
第07回 教育時事問題についてのディスカッション(3)  
第08回 教育時事問題についてのディスカッション(4)  
第09回 教育時事問題についてのディスカッション(5)  
第10回 教育時事問題：まとめ  
第11回 外部講師等からの学び  
第12回 小論文発表(1)  
第13回 小論文発表(2)  
第14回 小論文発表(3)  
第15回 小論文発表(4)

**使用テキスト：** 授業に必要な資料は電子(PDF)または紙媒体で配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・教育時事問題についてディスカッションする前には、発表するしないにかかわらずそのテーマについて学び、分からない用語等を調べる。(90分)
- ・授業後、ディスカッションの内容について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)
- ・小論文発表の前は、テーマについて良く調べた上で構成をよく考えて記す。(90分)
- ・以下の参考文献の他、教育に関する新聞記事、本、雑誌等を日頃から読んで置くことが望ましい。

### 【参考文献】

- ・西口利文編『グループディスカッション：心理学から考える活性化の方法』金子書房、2020年。
- ・中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門』ナカニシヤ出版、2018年。
- ・金子一彦編著『マップ&シートで速攻理解！最新の教育改革2022-2023』教育開発研究所、2022年。
- ・教育の未来を研究する会『最新教育動向2023』明治図書出版、2022年。
- ・その他、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・状況により授業計画の順を多少変更する場合があります。
- ・デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード：13544

科目ナンバリング：PE31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習I e(Pupil Education Seminar I e)

担当者：小林 信悟

### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験  
07.発表  
08.協同学修

**授業の概要:**

図工・美術は、題材や素材、材料に触れ、手の延長線上としての道具と自らの内面の働きかけで成立するものと考えます。内容は、平面的なものから立体的もの、加えて動くものまで、技法を要するものから素朴であるが発想の豊かなものまで、時に、戸外での制作もできたら加え、全体として制作活動を基本に進めていきます。制作の内容は、小学校の図画工作の中で展開出来るものを中心に構成していきます。学生が、ゆったりと自らの制作過程と美的に遊戯する空間を共有する中で、ゼミが互いの感性に触れる場となればと思っています。

造形活動を補完する「ことば」からのアプローチは、(1)課題の意図(各課題のおもしろさと困難さ)。(2)「how to」の構造理解・段階分け・誘導性・力点の置き方。(3)成功と失敗の要素。(4)失敗を基点とした活動の可能性。(5)規範の再考。

方法 ・課題の各段階での意見交換・発表

・教材化(意欲ある学生は、課題を記録しまとめ、冊子に)

「人の違いが視点の違い→作品の違い」を通奏低音とし、ゼミが各自のこれからの時の中で「自然な自分らしさ」を育む一助になればと希望します。

**キーワード:**

造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、教材化、表現力

**学位授与方針との関係****▼知識・技能**

**到達目標:** 授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合: 80%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:**

**評価割合: 20%**

単元毎の課題(プリント、作品)

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合: 0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

**▼その他**

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- ・自己紹介
    1. ①ことばによる紹介(生活体験から抽出)1.前半
    2. ことばによる紹介(生活体験から抽出)2.後半
    3. 粘土による立体で紹介1.前半
    4. 粘土による立体で紹介2.後半
    5. まとめ、発表
  - ・部位からの似顔絵(特徴をつかむ)1
    6. 似顔絵1(男性丸顔)
    7. 似顔絵2(女性面長)
    8. 推定、再構成
  - ・蠟を素材とした制作
    9. 型：紙類(円錐：形状・色彩)
    10. 型：卵(色彩層)
    11. 型：卵(中空最軽量)
    12. 型：卵(中空最軽量：計測)
    13. 型：卵(水の混濁)
  - ・食材を素材とした彫刻制作
    14. : アイスクリーム
  - ・前期課題のまとめ
    15. 前期課題・作品写真でのふり返り

- 使用テキスト：
- ・関連プリント配布
  - ・関連映像上映

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：

- 事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)
- ・スマートフォンによる検索画像
  - ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
  - ・『風景写真2006,7-8月』石川薫 2006 プティック社
  - ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』今泉吉典 1987 平凡社
  - ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』荒俣宏 1997 平凡社
  - ・『見たことないもの作ろう!』西村陽平 1988 偕成社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：

オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

留意事項：

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

---

科目コード：13544

科目ナンバリング：PE31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習I f(Pupil Education Seminar I f)

担当者：齋藤 遼太郎

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

**曜時：水曜4限**

**履修可能学科・専攻：Pe**

**関連資格：**

**AL要素：**03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
13. 役割演技と疑似体験  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 発達障害の支援について、障害種の説明や発達段階との関連について取り上げる。最後の3回は、具体的な発達障害児の事例を基にしたケース検討を行う。また、学期の最後には、学期を通したレポートを提出する。  
授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。

**キーワード：** 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

**評価方法：** レポート

**評価割合：30%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：70%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：**

- 1 オリエンテーション
- 2 発達障害支援と特別支援教育・保育
- 3 発達障害の理解と支援(1) 学習障害(LD)
- 4 発達障害の理解と支援(2) 注意欠陥・多動性障害(ADHD)





### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて評価することがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、レポート課題における不正行為や授業中における人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象とする。

評価割合：0%

### ▼その他

特記事項なし

評価割合：特記事項なし

**授業計画：** 受講生との話し合いにより内容が変更になることがあります  
(前期は模擬授業と研究協議を取り入れる可能性もあります)

第1回:オリエンテーション

第2回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第3回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第4回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第5回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第6回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第7回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第8回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第9回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第10回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第11回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第12回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第13回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第14回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第15回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

**使用テキスト：** 必要な資料を授業中に配布します。また、参考図書については授業中に適宜紹介します。

**予習・復習のポイントと** 各回で予習や復習の方法が異なるので授業中に指示します

**参考文献・資料等：**

**障がいのある** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください  
**履修者への対応：**

**授業時間外の連絡手段：** 研究室に置いて対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** 特記事項なし

---

科目コード：13544

科目ナンバリング：PE31A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習I h(Pupil Education Seminar I h)

担当者：佐藤 希久雄

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験  
07 発表  
08 協同学修  
11 討論

**授業の概要：** 1冊の絵本を取り上げ、場面に相応しい挿入歌を創作し、協同でひとつの作品として演じてみる。その中で作詞や作曲の技術を学ぶ。  
また「演習Ⅱ」において完成させる音楽劇の題材選びと脚本づくりに入る。

**キーワード：** 音楽劇 作曲 脚本 ミュージカル 舞台美術 学校演劇

**学位授与方針との関係**

▼知識・技能

**到達目標：** 学校演劇を念頭に置いた音楽劇の創作法を理解する。  
脚本の作り方、歌詞の作り方、作曲法等を学び、実際の創作に活かすことができる。  
台詞や歌の発声や所作を含め、舞台の演出法について学び実際の創作に活かすことができる。

**評価方法：** 授業中に行う創作活動の成果によって評価される。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 作られた音楽劇作品を演ずる中で様々な演技上の工夫を凝らしながら表現することができる。

**評価方法：** 授業中に行う上演に向けた制作活動の過程において評価される。 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中で獲得される創作法の知識を生かしながら、創作活動は主体的に行われなければならない。その態度は提出された作品から評価される。

**評価割合：20%**

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし学校演劇等、授業内容に関わるボランティア活動を行った場合、レポートの提出によって評価に加えられる。

**評価割合：0%**

▼公正性

音楽劇の創作・上演は常に協同作業で行われる。他を励まし作業を前進させるような言動は評価され、作業への関与が足りなかったり、他の意気を沈滞させるような言動があれば負の評価となる。

**評価割合：10%**

▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

**授業計画：**

1. ガイダンスと自己紹介
2. 絵本からの歌作り(1)朗読と場面割り
3. 絵本からの歌作り(2)場面への作詞
4. 絵本からの歌作り(3)作詞の検討
5. 絵本からの歌作り(4)作曲法の基礎
6. 絵本からの歌作り(5)曲作りの実践

7. 絵本からの歌作り(6)完成した歌の発表と相互評価
8. 絵本からの歌作り(7)演出の工夫
9. 絵本からの歌作り(8)上演(ビデオによる記録)
10. 絵本からの歌作り(9)記録再生による振り返り
11. 音楽劇の題材選び
12. 音楽劇の作成計画
13. 音楽劇の台本づくり(1)配役、プロットの構成
14. 音楽劇の台本づくり(2)台本の作成
15. 音楽劇の台本づくり(3)台本の錬成

**使用テキスト:** 使用しない。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 創作活動に活かすために、学んだことを繰り返し振り返る必要がある。また演劇を始め様々な表現芸術に触れることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに音楽研究室で対応する。

**留意事項:** 特になし。

科目コード:13544      科目ナンバリング:PE31A02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習I(Pupil Education Seminar I I)

担当者: 高橋 和将

#### 基本情報

年次:3	単位数:2	授業形式:演習
曜時:火曜3限	履修可能学科・専攻: Pe	
関連資格:	AL要素: 07 発表 11 討論	

**授業の概要:** 運動・スポーツ・健康に係る事柄について、各自の興味・関心に基づくテーマを設定し、グループでのディスカッションによって知見を深める。

**キーワード:** 研究法, 抄録, 指導現場への応用

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

- 到達目標:** 1. 複数の資料を用いて、論理的に自らの考えをまとめ、発表することができる。
2. 内容を理解するために必要な知識を身に付けている。

**評価方法:** 発表資料      **評価割合:** 100%

プレゼン

##### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 「知識・技能」と合わせて評価する
- 評価方法:** 「知識・技能」と合わせて評価する      **評価割合:** 「知識・技能」と合わせて評価する

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や発表資料の記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. オリエンテーション
  2. 各自のテーマ設定と資料収集(1)
  3. 各自のテーマ設定と資料収集(2)
  4. 研究計画・実験計画の立て方(1)
  5. 研究計画・実験計画の立て方(2)
  6. 研究計画の立案
  7. 中間報告会
  8. 調査・実験の実施(1)
  9. 調査・実験の実施(2)
  10. 調査・実験の実施(3)
  11. 調査・実験の実施(4)
  12. 発表準備
  13. 発表とディスカッション(1)
  14. 発表とディスカッション(2)
  15. 演習Iのまとめ・演習IIに向けた課題設定

使用テキスト： 適宜, 資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表資料の作成にあたっては、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します

留意事項： 特になし

---

科目コード：13544      科目ナンバリング：PE31A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童教育演習I o (Pupil Education Seminar I o)

担当者： 中島 美那子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 01. 実地訓練  
07. 発表  
08. 共同学修  
11. 討論

**授業の概要：** 本授業は、教育者・保育者にとって必要となる柔軟な思考を養うために、子どもを取り巻くさまざまな問題について、調査・発表・討論を行います。前期は受講者全員で共通のテーマに基づいて考えを深め、後期には受講者一人ひとりが関心のある個別のテーマに取り組みます。

また、地域の親子教室や子育て支援事業への積極的参加により、実践的能力も養います。

**キーワード：** 子育て支援、発達支援、特別支援教育、保護者支援、地域連携、チーム保育・学校

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. 子どもを取り巻く社会問題について自ら調査・分析するなかで知見を深める。  
2. 実際に地域の子育て支援に触れ、その現状と課題について理解を深める。

**評価方法：** レポート、発表、討論内容

**評価割合：** 40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

**評価方法：** レポート、発表、討論内容

**評価割合：** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

1. 地域子育て支援等の研修で出会う乳幼児や保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。  
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

**評価割合：** 20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや発表、討論での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 前期

- 【第1回】 オリエンテーション、前期テーマの選択
- 【第2回】 資料作成や発表の仕方についての説明
- 【第3回】 作成した資料をもとに発表、討論(1)
- 【第4回】 作成した資料をもとに発表、討論(2)
- 【第5回】 作成した資料をもとに発表、討論(3)
- 【第6回】 作成した資料をもとに発表、討論(4)
- 【第7回】 作成した資料をもとに発表、討論(5)
- 【第8回】 進路、自らのキャリア形成について考える
- 【第9回】 ゲストティーチャーから保育を学ぶ
- 【第10回】 ゲストティーチャーから親子教室について学ぶ
- 【第11回】 地域の親子教室参加の計画(1)
- 【第12回】 地域の親子教室参加の計画(2)
- 【第13回】 地域の親子教室での実践活動(1)

- 【第14回】地域の親子教室での実践活動(2)  
【第15回】これまでのまとめと後期の授業について

**使用テキスト：** 授業内で指示します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 事前学修として、子どもを取り巻く社会的課題や子どもの発達、保護者の心理やその対応等についての新聞記事や書籍に触れておくことをお勧めします。  
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行ってください。  
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項：** 特になし。

---

**科目コード：**13544      **科目ナンバリング：**PE31A02E      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：** 児童教育演習I q (Pupil Education Seminar I q)

**担当者：** 藤原 善美

**基本情報**

**年次：**3

**単位数：**2

**授業形式：**演習

**曜時：**火曜3限

**履修可能学科・専攻：** Pe

**関連資格：**

**AL要素：** 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、発問と回答、発表、資料調査課題、レポート指導

**授業の概要：**

近年、学校臨床における適切な働きかけに関する議論が盛んに行われています。本演習では、教育心理学や臨床心理学、学校カウンセリングに関わる課題を扱い、新しい知見が蓄積されつつある様々な問題を多角的にとりあげます。教育における心理学的知見の重要性を理解し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、適切な対処方法について心理学的に考察を試みます。主に、事例研究やグループ学習を通して考え、心理学研究の方法について知り、最終的に個人で研究発表をすることによって、自分の考えを深める機会を提供します。

**キーワード：** 教育心理学、臨床心理学

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法：** レジюме、レポート

**評価割合：** 10%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法：** 発表、討論、レジюме、レポート

**評価割合：** 80%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら調べた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合：0%

### ▼公正性

レポートやレジュメを作成するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合：10%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)

【第2回】心理学研究法(1)講義

【第3回】心理学研究法(2)事例研究

【第4回】心理学研究法(3)グループ学習

【第5回】学校臨床のテーマ1(1)講義

【第6回】学校臨床のテーマ1(2)事例研究

【第7回】学校臨床のテーマ1(3)グループ学習

【第8回】学校臨床のテーマ2(1)講義

【第9回】学校臨床のテーマ2(2)事例研究

【第10回】学校臨床のテーマ2(3)グループ学習

【第11回】個人研究発表の準備1

【第12回】個人研究発表の準備2

【第13回】総復習(1)個人研究発表

【第14回】総復習(2)個人研究発表

【第15回】総復習(3)個人研究発表

【第16回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)

【第17回】学校臨床のテーマ3(1)講義

【第18回】学校臨床のテーマ3(2)事例研究

【第19回】学校臨床のテーマ3(3)グループ学習

【第20回】学校臨床のテーマ4(1)講義

【第21回】学校臨床のテーマ4(2)事例研究

【第22回】学校臨床のテーマ4(3)グループ学習

【第23回】学校臨床のテーマ5(1)講義

【第24回】学校臨床のテーマ5(2)事例研究

【第25回】学校臨床のテーマ5(3)グループ学習

【第26回】個人研究発表の準備1

【第27回】個人研究発表の準備2

【第28回】総復習(1)個人研究発表

【第29回】総復習(2)個人研究発表

【第30回】総復習(3)個人研究発表

使用テキスト： 必要な資料は、授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には当該テーマについて調べてまとめる。授業後、当該テーマを復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

都筑 学(2006)『心理学論文の書き方:おいしい論文のレシピ』有斐閣

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編(2001)『心理学研究法入門』東京大学出版会

高野陽太郎・岡 隆 編(2004)『心理学研究法:心を見つめる科学のまなざし』有斐閣

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがりますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード：13544      科目ナンバリング：PE31A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習I r(Pupil Education Seminar I r)

担当者：穂積 訓

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験  
07.発表  
08.協同学修  
14.輪読活動

**授業の概要：** 自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような自然体験や身近な素材を活用した実験活動に取り組みます。ゼミでは、実務経験を活かして自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの基本的な知識や関わり方について、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して習得します。また、調査した事象の教材化や成果の発表を通して表現力の向上を図ります。

**キーワード：** 理科, 環境, 栽培, 生物, 科学体験

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 身近な自然環境について学び、児童・生徒が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材についての基礎知識や扱い方に習熟する。

**評価方法：** レポート  
調査発表

**評価割合：70%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 身の回りの自然における「なぜ」について、現象を科学的に考え表現することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：30%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な取り組みが自身の課題についての探求と気づきに深みを与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

**評価割合：0%**

##### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**



- 授業計画：**
- 1 オリエンテーション
  - 2 自然と環境について1
  - 3 自然と環境について2
  - 4 環境測定の方法1
  - 5 環境測定の方法2
  - 6 環境測定の方法3
  - 7 環境測定の方法4
  - 8 環境評価の方法1
  - 9 環境評価の方法2
  - 10 環境評価の方法3
  - 11 植物の調査1
  - 12 植物の調査2
  - 13 植物の調査3
  - 14 動物の調査1
  - 15 動物の調査2

**使用テキスト：** 授業で使用する資料は全て印刷して配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 必要に応じて参考資料を配付します。関連する資料等は検索して閲覧すること。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。授業担当者、または学務部まで連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日時間等の詳細は、最初の授業でお知らせします。

**留意事項：** 特になし。

---

**科目コード：**13544      **科目ナンバリング：**PE31A02E      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**児童教育演習I s (Pupil Education Seminar I s)

**担当者：**三橋 翔太

#### 基本情報

**年次：**3

**単位数：**2

**授業形式：**演習

**曜時：**水曜4限

**履修可能学科・専攻：**Pe

**関連資格：**

**AL要素：**02. 模擬実践  
03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
11. 討論

**授業の概要：** 特別支援教育や発達障害と関連して、基礎的な障害児心理学に関する研究方法を学生同士を相手にして実施する。各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。また、文献や資料の基本的な収集方法、資料の読み方についても講義する。

**キーワード：** 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

**評価方法：** 討論内容, 発表内容

**評価割合：**80%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

**評価方法:** 討論内容, 発表内容

**評価割合:** 20%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 1 はじめに
  - 2 心理学の基礎的事柄(1)
  - 3 心理学の基礎的事柄(2)
  - 4 心理学研究の方法(1)
  - 5 心理学研究の方法(2)
  - 6 心理検査の実践(1) ウェクスラー式知能検査 言語理解
  - 7 心理検査の実践(2) ウェクスラー式知能検査 知覚推理
  - 8 心理検査の実践(3) ウェクスラー式知能検査 ワーキングメモリ
  - 9 心理検査の実践(4) ウェクスラー式知能検査 処理速度
  - 10 文献検討(1) 知的障害
  - 11 文献検討(2) 学習障害
  - 12 文献検討(3) 注意欠如多動性障害
  - 13 文献検討(4) 自閉スペクトラム症
  - 14 文献検討(5) 発達性協調運動障害
  - 15 まとめ

**使用テキスト:** 特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。参考文献: 奥住秀之「どうして?教えて!発達障害の理解」ISBN-10: 4881341553

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13544

**科目ナンバリング:** PE31A02E

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習I t(Pupil Education Seminar I t)

**担当者:** 柳橋 晃

**基本情報**

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07. 発表

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

**授業の概要：** 教育に関する事柄を、広い視野と多様な観点から考察するための視点を身に付けるられるように演習を行います。この演習では、教育に関する様々なテーマの中から、各々の受講生が興味関心のあるテーマを選定し、そのテーマについて発表します。そして、受講生同士でのディスカッションを行っていきます。

**キーワード：** 教育哲学、哲学、教師、子供、学力、いじめ、不登校、道徳教育、教師の資質・能力、体罰、話し方の技術、外国語教育、学び合い活動、特別支援学校教諭の専門性、マーチング活動、LGBT、自己肯定感、児童理解、コミュニケーション能力

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについて、教科書的な知識を理解した上で、その正負の両面から客観的に考察することができる。

**評価方法：** ・発表資料

**評価割合：** 40%

・最終レポート

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについての自分なりの考えを、論理的かつ分かりやすい正確な日本語を使用して、レポートで表現することができる。

・他者の意見を承り、それらの意見と比較しながら、自分の意見を述べる(話す・書く)ことができる。

**評価方法：** ・発表資料

**評価割合：** 40%

・最終レポート

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度と習慣を身につけ、ディスカッションに積極的参加し、建設的な発言を行えているか(発言内容)を主たる評価対象とする。

また、授業内で他者の学習に良好な影響を与える発言ができているかも評価対象とする。

**評価割合：** 20%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	各自のテーマ選定の相談
	第3回	個人発表①
	第4回	個人発表②
	第5回	個人発表③
	第6回	個人発表④
	第7回	レポート相互添削①
	第8回	レポート相互添削②
	第9回	グループディスカッション①
	第10回	グループディスカッション②
	第11回	レポート相互添削③
	第12回	レポート相互添削④
	第13回	グループディスカッション③
	第14回	グループディスカッション④
	第15回	クラスディスカッション

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習：発表者は、必要な資料を読解し、レジュメを作成する。他の受講者は、その授業回で扱われるテーマについて情報収集するなどして知見を深めておく。  
復習：授業内の関連事項について自主学修を通じて知見を深める。発表者は、ディスカッションを振り返りつつ、自身の主張の根拠を説得力のあるものとしてゆく。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

**留意事項：** デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13544      科目ナンバリング：PE31A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ij(Pupil Education Seminar Ij)

担当者：信太 進

#### 基本情報

年次：3	単位数：2	授業形式：演習
曜時：水曜4限		履修可能学科・専攻：Pe
関連資格：		AL要素：03. 実験・実技・体験 07. 発表 10. 資料調査課題

**授業の概要：** 子どもにとって、望ましい玩具とは何か、また子どもがいる日常生活で使う用具はどのようなものが適切なのか考える。授業の前半は、各自のテーマと具体的な制作計画を立て、練習制作として工芸やハンドクラフトの実技練習をもとに、デザイン方法や材料の加工技術を学ぶ。後半では課題制作として、課題作品を制作し発表する。

**キーワード：** 美術研究、造形、表現、玩具、遊具、家具

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** これまで培ってきた美術や造形表現の知識や技能を生かし、課題テーマに沿って考察を深め、課題作品としてまとめることができる。

**評価方法：** 課題作品の内容      **評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子どもにとって望ましい玩具や、子どもがいる生活のなかで使う用具をについて考え、作品に表現することができる。

**評価方法:** 課題作品の内容

**評価割合:** 40%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 10%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品・レポート等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品・レポート等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 課題のテーマと計画1
3. 課題のテーマと計画2
4. 練習制作1
5. 練習制作2
6. 練習制作3
7. 練習制作4
8. 発表1
9. 課題制作1
10. 課題制作2
11. 課題制作3
12. 課題制作4
13. 課題制作5
14. 課題制作6
15. 発表2、まとめ

**使用テキスト:** 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

**予習・復習のポイント** 予習・復習のポイント

**参考文献・資料等:** ・授業前には、その回のテーマについて調べる。  
・授業後には、その回の活動の記録をとる。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。  
・可能ならデバイスを持参してください。

---

科目コード: 13545

科目ナンバリング: PE32A02E

主な使用言語: 日本語

---

授業名(英文): 児童教育演習II a(Pupil Education Seminar II a)

担当者: 天野 秀哉

### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07 発表

10 資料調査課題

**授業の概要:** 【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型オンライン授業  
多種多様な運動種目をツールとした、体育の指導方法の模索と指導現場での有効な手段や方法を、体育科学の基礎分野から理解を深める。  
各自の興味・関心に応じて論文を選択し、抄録を作成したうえで発表・討論を行う。発表内容についての質疑・討論を重ねることで、より多くの知識の修得を目指す。

**キーワード:** 体育科学、体力、運動能力、研究法、抄録、指導現場への応用

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 1. 体育科学の基礎や体育科教育を中心とした分野において、基礎的な知識を修得すること。  
2. 論文の内容を理解するために必要な知識を身に付けている。

**評価方法:** 発表資料  
プレゼン  
授業レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 運動を「できるようになる」「方法を学ぶ」「観察力をつける」「指導法を学ぶ」という点を重視し、最終的には、実践と研究、発表をするための基礎的な思考力、判断力、表現力を獲得することを目指す。  
適切な表現で論文をまとめ、資料を作成することができる。

**評価方法:** 発表資料  
プレゼン  
授業レポート

**評価割合:** 60%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や授業レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画：**
1. オリエンテーション
  2. 文献検索の方法
  3. 論文の読み方・まとめ方
  4. 論文抄読(1)
  5. 論文抄読(2)
  6. 論文抄読(3)
  7. 論文抄読(4)
  8. 論文抄読(5)
  9. 論文抄読(6)
  10. 論文抄読(7)
  11. 論文抄読(8)
  12. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(1)
  13. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(2)
  14. 先行研究のまとめと課題研究テーマの発表(3)
  15. まとめ

**使用テキスト：** 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 福永哲夫、山本正嘉編著 市村出版  
版  
授業に関連する資料は配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。また、実験を伴う授業の際は、事前に実験手順などの内容理解しておくことが望ましい。

参考資料

「設計のための人体計測マニュアル」通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所編  
人間生活工学研究センター

「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良・藤井範久著 朝倉書店

「マイネル・スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 大修館書店

「新版 体育科教育学入門」高橋健夫編著 大修館書店

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します

**留意事項：** 特になし

---

科目コード：13545

科目ナンバリング：PE32A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習II b(Pupil Education Seminar II b)

担当者：池内 耕作

**基本情報**

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07.発表、10.資料調査課題、12.課題討議法、17.発問と回答

**授業の概要：** 教育のあり方をめぐって、社会を二分する議論となっている(そして未決着の)命題が多々あります。この演習ではそのような命題の本質を知るため、課題討議法(ディベート)により各論者の主張と対立を体験していきます。

**キーワード：** 教育問題、教育の課題

**学位授与方針との関係**

▼知識・技能

**到達目標：** 授業で取り上げられた論争の内容を整理・把握・再調査し、自身の知識として内実化することが

できる。

**評価方法：**発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合：**20%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**教育に関わる様々な命題について、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

**評価方法：**発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合：**20%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度を身につけ、討議に積極的かつ建設的に貢献することができる。

【評価方法】各回における討議への関わり方について、担当者の観察により評価する。

**評価割合：**30%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、学外ボランティアなどの成果が他の評価項目において認められる場合、当該評価項目において加点することができる。

**評価割合：**0%

#### ▼公正性

盗作や剽窃等の著作権侵害行為、人権侵害、差別発言、ハラスメント等にあたる行為を熟知し、他者との関わりや発表・記述等においてそうした行為を回避し、常に公正性を担保することができる。

**評価割合：**30%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

**授業計画：** ※テーマは発表担当者が独自に設定します。以下はその一例です。

【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である

【第02回】体罰を公認するべきだ

【第03回】ホーム・スクーリングを認めよ

【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない

【第05回】青年に兵役義務を課すべきである

【第06回】学校間競争・教師間競争が教育の底上げにつながる

【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ

【第08回】小学校にパソコン教育はいらない

【第09回】英国型アカウンタビリティ政策を導入せよ

【第10回】問題教員はすぐにやめさせる

【第11回】できるが先、わかるは後

【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ

【第13回】しつけは家でやれ

【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ

【第15回】支援ではなく指導せよ

【第16回以降】自由選択課題

**使用テキスト：** 授業に必要な資料はすべて印刷・配付する。

**予習・復習のポイントと** 次週のテーマについて可能な限り予習しておくことが望ましい。

**参考文献・資料等：** また各回のテーマについては事後に復習し、その理解を深めるとともに自身の主張の根拠を固めること。

予習に際し、＜知識＞については文部科学省をはじめとする各公的機関のWEB上の統計データや答申、報告書、各マスメディアの記事等を熟読する習慣を身につけること。また＜思考力＞については、関連分野において著名な専門家の手による著書を熟読し、特に各著



者の「考察の仕方(考え方)」を数多く知る努力をすること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

---

科目コード:13545      科目ナンバリング:PE32A02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習II c(Pupil Education Seminar II c)

担当者: 江尻 桂子

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07. 発表  
08. 共同学習  
09.資料調査課題  
11.討論  
14.輪読活動  
15.レポート指導  
16.振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 現代の子どもたちはさまざまな問題を抱えています。また、子どもたちの育つ家庭や教育現場にも、さまざまな問題があります。このゼミでは、こうした問題について、心理学的な観点から探究します。その際、「子どもを理解する」ということをゼミの共通テーマとしながらも、皆さんのひとりひとりの問題意識を大切にします。ゼミでは、各自テーマを決めて、それについて調べ、考察したことを発表します。そして皆でディスカッションしながら考察を深めます。個別指導や、就職・進学に向けての相談も随時行っています。担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

**キーワード:** 子ども 家族 乳幼児 児童 青年 高齢者 障害児者 心理 発達心理学 教育心理学 家族心理学 社会福祉 児童福祉

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 「現代の子ども・家族をとりまく問題を考える:心理・教育・福祉からのアプローチ」というテーマのもと、各自が興味のあるテーマを定め、それについて文献や調査研究をおこない、レポートを作成・発表する。これらを通して上記のテーマについて深く理解し、考察することができる。

**評価方法:** 発表(論文紹介)、レポート

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 様々な研究を知る中で、あるいは各々の調査研究を進める中で、簡潔にデータを示したり、分析したり、考察を行ったりすることができる。また、これらを論理的かつ簡潔な文章で表現することができる。自分自身の意見や考察を論理的に述べることができる。

**評価方法:**

**評価割合:** 30%

授業への参加・コメント(発言)、他者の発表へのコメントシート

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身で研究テーマを選び、それについて資料を収集したり、そのまとめを行ったり(レジュメの作成)、作成したレジュメに基づき発表を行ったりなどの準備を求めます。また、自分自身の発表に対する他の受講生からの質問やコメントに対して回答を行うことを期待します。さらに、他の受講生らの発表内容に

対して意見を述べたり、それに対するコメントを準備してくることを期待します。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回. この授業の到達目標と概略  
第2回. 学術論文の検索の方法・図書館ガイダンス  
第3回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(1)  
第4回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(2)  
第5回. 学術論文のまとめ方・発表方法の説明(3)  
第6回. 論文発表(1)  
第7回. 論文発表(2)  
第8回. 論文発表(3)  
第9回. 論文発表(4)  
第10回. 論文発表(5)  
第11回. 論文発表(6)  
第12回. 論文発表(7)  
第13回. 論文発表(8)  
第14回. 論文発表を振り返って  
第15回. 演習の総まとめ

**使用テキスト：** 授業に関連する資料は、全て配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 日頃から新聞や書籍を通して、「子ども」や「家族」の問題や話題に触れるようにしておきましょう。論文のまとめ方や、レポートの書き方については以下の参考文献を推奨します。  
田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房 2010年  
山田 剛史・林 創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 2011年

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

**留意事項：** 心理学や、子ども、家族、障害児等に関する授業を履修しておく、あるいは、同時に履修することが望ましいです。

---

科目コード：13545      科目ナンバリング：PE32A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習II d (Pupil Education Seminar II d)

担当者：小幡 幸和

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 07. 発表  
08. 協同学修  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
14. 輪読活動  
15. レポート指導

**授業の概要：**・前半は、教育の特定テーマに関する専門書を輪読します(テーマについてはゼミ内で検討します)。各授業回ごとに、あらかじめ読んできた担当箇所について2名に発表してもらいます。  
・後半は、各自が関心を持っている教育の今日的課題についてグループ単位で調べた結果を発表すると共にレポートにまとめてもらいます。(例えば教育におけるコロナ禍の影響、現代の児童が抱える諸問題、子どもへの言葉かけ、ICT教育の可能性と課題、非認知能力、働き方改革、オルタナティブ教育、外国にルーツを持つ子どもの支援、様々な差別と多文化共生教育の課題、等)  
・外部講師から特定の教育に関する話を聞くと、または実際の教育現場において観察を通して学ぶときを持ちます(状況により変更の場合があります)。

**キーワード：** 児童教育の今日的課題、教育学全般、教育現場

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 児童教育を取り巻く現代の諸問題について様々な背景・考え方が理解し、教育現場で取り得る複数の方法を知識として身につけている。

**評価方法：** 各授業回の発表、討論、レポート **評価割合：50%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 教育の今日的課題を考え、問題点を整理できるとともに、論理的かつ決められた様式のもとに自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 各授業回の発表、討論、レポート **評価割合：50%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、レポート等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第01回 オリエンテーション(各自の問題意識の確認)  
第02回 テキスト輪読(1)  
第03回 テキスト輪読(2)

- 第04回 テキスト輪読(3)
- 第05回 テキスト輪読(4)
- 第06回 テキスト輪読(5)
- 第07回 外部講師等との学び
- 第08回 グループ発表の方法、レポートの書き方
- 第09回 グループ発表準備(1)
- 第10回 グループ発表準備(2)
- 第11回 グループ発表準備(3)
- 第12回 グループ発表準備(4)
- 第13回 グループ発表(1)
- 第14回 グループ発表(2)
- 第15回 グループ発表(3)

**使用テキスト:** ・輪読のテキストは授業の中で指示します。  
 ・その他、授業に必要な資料は印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・テキスト輪読の授業前には、発表するしないにかかわらずそのテキスト該当箇所を読み、分からない用語等を調べる。発表の前は、テーマについて良く調べた上で発表方法についてもより効果的な方法を準備する。(90分)。  
 ・授業後、テキストの内容や他者の発表内容について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。  
 ・以下の参考文献の他、教育に関する新聞記事、本、雑誌等を日頃から読んで置くことが望ましい。

**【参考文献】**

- ・大出敦編著『プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術』慶應義塾大学出版会、2020年。
- ・松本茂『大学生のための読む、書く、プレゼン、ディベートの方法』第二版、玉川大学出版部、2015年。
- ・小塩真司『非認知能力:概念・測定と教育の可能性』北大路書房、2021年。
- ・名嶋義直『10代からの批判的思考:社会を変える9つのヒント』明石書店、2020年。
- ・佐藤郡衛『他文化社会に生きる子どもの教育:外国人の子ども、海外で学ぶ子どもの現状と課題』明石書店、2019年。
- ・その他、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** ・状況により授業計画の順を多少変更する場合があります。  
 ・デバイスの持参を推奨します。

**科目コード:** 13545      **科目ナンバリング:** PE32A02E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習II e(Pupil Education Seminar II e)

**担当者:** 小林 信悟

**基本情報**

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 水曜4限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:**

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

**授業の概要:**

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業

図工・美術は、題材や素材、材料に触れ、手の延長線上としての道具と自らの内面の働きかけで成立するものと考えます。内容は、平面的なものから立体的もの、加えて動くものまで、技法を要するものから素朴であるが発想の豊かなものまで、時に、戸外での制作もできたら加え、全体として制作活動を基本に進めていきます。制作の内容は、小学校の図画工作の中で展開出来るものを中心に構成していきます。学生が、ゆったりと自らの制作過程と美的に遊戯する空間を共有する中で、ゼミが互いの感性に触れる場となればと思っています。

造形活動を補完する「ことば」からのアプローチは、(1)課題の意図(各課題のおもしろさと困難さ)。(2)「how to」の構造理解・段階分け・誘導性・力点の置き方。(3)成功と失敗の要素。(4)失敗を基点とした活動の可能性。(5)規範の再考。

方法 ・課題の各段階での意見交換・発表

・教材化(意欲ある学生は、課題を記録しまとめ、冊子に)

「人の違いが視点の違い→作品の違い」を通奏低音とし、ゼミが各自のこれからの時の中で「自然な自分らしさ」を育む一助になればと希望します。

**キーワード：** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、教材化、表現力

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標：**

授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法：** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合：80%**

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標：**

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法：**

**評価割合：20%**

単元毎の課題(プリント、作品)

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

**▼ 公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

**▼ その他**

特になし

**評価割合：**特になし

**授業計画：**

- ・教育実習を形で表現
  - 1.粘土による立体制作
  - 2.まとめ、発表(前半)
  - 3.まとめ、発表(後半)
- ・石膏による注型成形1
  - 4.雌型：砂浜・砂、人工物・自然物
  - 5.採掘・彩色、雄型の探索
  - 6.まとめ、発表
- ・石膏による注型成形2
  - 7.雌型：風船→「恐竜の卵」
  - 8.大小の変化
  - 9.彩色の変化
- ・凹凸転写(反転形):教室内のものを中心に
  - 10.転写・推定(推定度合い低～)
  - 11.転写・推定(推定度合い～高)
  - 12..まとめ(推定度合い低～高と反転形の関係)
- ・部位からの似顔絵(特徴をつかむ)2
  - 13.似顔絵3(男性面長)
  - 14.似顔絵4(女性丸顔)
- ・全体のまとめ
  - 15.通期提出物・作品写真でのふり返り

**使用テキスト：** ・関連プリント配布  
 ・関連映像上映

**予習・復習のポイントと  
 参考文献・資料等：**

事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)

- ・スマートホンによる検索画像
- ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
- ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 プティック社
- ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
- ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
- ・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：**

オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項：**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性がります。

科目コード：13545

科目ナンバリング：PE32A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習II f(Pupil Education Seminar II f)

担当者：齋藤 遼太郎

**基本情報**

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

**曜時：水曜4限**

**履修可能学科・専攻： Pe**

**関連資格：**

**AL要素：** 03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
13. 役割演技と疑似体験  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 特別支援学校の制度システムについて取り上げる。最後の3回は、学習指導案作成の実践をする。また、学期の最後には、学期を通したレポートを提出する。  
授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。

**キーワード：** 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

**評価方法：** レポート

**評価割合：30%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：70%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：**

- 1 オリエンテーション
- 2 日本における学校教育システムと特別支援学校
- 3 特別支援学校とそれ以外の学校の共通点と差異
- 4 特別支援学校の目的、対象、学部
- 5 特別支援学校学習指導要領

- 6 特別支援学校のセンター的機能
- 7 特別支援学校における個別の教育支援計画と個別の指導計画
- 8 特別支援学校における交流及び共同学習
- 9 特別支援学校の授業(1) 各教科等(自立活動を除く)
- 10 特別支援学校の授業(2) 自立活動
- 11 特別支援学校の授業(3) 各教科等を合わせた指導
- 12 特別支援学校学習指導案の作成(1) 日常生活の指導
- 13 特別支援学校学習指導案の作成(2) 生活単元学習
- 14 特別支援学校学習指導案の作成(3) 作業学習
- 15 まとめ

**使用テキスト:** 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてくること。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

科目コード:13545      科目ナンバリング:PE32A02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習II g(Pupil Education Seminar II g)

担当者: 佐々木 隆宏

#### 基本情報

年次:3      単位数:2      授業形式:演習

曜時:水曜4限      履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:      AL要素: 8. 協働学習

**授業の概要:** クラウド型学習支援システムを利活用した算数科の授業について知り、自ら授業デザインしてもらうことを通して、これからの算数教育の在り方について研究します。

**キーワード:** 算数教育、ロイロノート、クラウド型学習支援システム、インストラクショナル・デザイン

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 算数教育の目的、目標、方法を理解し、その実現に向けた知識と技術を身につけている。

**評価方法:** ・模擬授業      **評価割合:** 60%  
・課題

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 算数教育の方法を考え、試行錯誤するだけでなく、自らの考えを他人に説明することができる。

**評価方法:** ・発表      **評価割合:** 30%  
・レポート

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数进行评估する。また、課題やレポート内容に数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合:** 10%

##### ▼実践的ボランティア



直接的な評価対象としない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて評価することがある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象としない。ただし、レポート課題における不正行為や授業中における人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特記事項なし

**評価割合：特記事項なし**

**授業計画：** 受講生との話し合いにより内容が変更になることがあります  
(前期は模擬授業と研究協議を取り入れる可能性もあります)

第1回:オリエンテーション

第2回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第3回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第4回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第5回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第6回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第7回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第8回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第9回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第10回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

第11回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

第12回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

第13回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

第14回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

第15回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操

作

**使用テキスト：** 必要な資料を授業中に配布します。また、参考図書については授業中に適宜紹介します。

**予習・復習のポイントと** 各回で予習や復習の方法が異なるので授業中に指示します

**参考文献・資料等：**

**障がいのある** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください

**履修者への対応：**

**授業時間外の連絡手段：** 研究室に置いて対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項：** 特記事項なし

---

**科目コード：13545**

**科目ナンバリング：PE32A02E**

**主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：児童教育演習II h(Pupil Education Seminar II h)**

**担当者：佐藤 希久雄**

**基本情報**

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：演習**

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 03 実験・実技・体験  
07 発表  
08 協同学修  
11 討論

**授業の概要：**「演習Ⅰ」から引き続き、既成の物語などから題材を得てオリジナルの音楽劇を創作し、上演する。  
その中で、脚本の構成や作曲法、歌唱法等を深め、上演に向けての「段取り」等、学校演劇に必要な事柄について学ぶ。

**キーワード：** 音楽劇 作曲 脚本 ミュージカル 舞台美術 学校演劇

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 学校演劇を念頭に置いた音楽劇の創作法を理解する。  
脚本の作り方、歌詞の作り方、作曲法等を学び、実際の創作に活かすことができる。  
台詞や歌の発声や所作を含め、舞台の演出法について学び実際の創作に活かすことができる。

**評価方法：** 授業中に行う創作活動の成果によって評価される。 **評価割合：40%**

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 作られた音楽劇作品を演ずる中で様々な演技上の工夫を凝らしながら表現することができる。

**評価方法：** 授業中に行う上演に向けた制作活動の過程において評価される。 **評価割合：30%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業の中で獲得される創作法の知識を生かしながら、創作活動は主体的に行われなければならない。その態度は提出された作品から評価される。

**評価割合：20%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし学校演劇等、授業内容に関わるボランティア活動を行った場合、レポートの提出によって評価に加えられる。

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

音楽劇の創作・上演は常に協同作業で行われる。他を励まし作業を前進させるような言動は評価され、作業への関与が足りなかったり、他の意気を沈滞させるような言動があれば負の評価となる。

**評価割合：10%**

#### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

**授業計画：**

1. 音楽劇の台本読み合わせ
2. 音楽劇の挿入歌の作詞
3. 挿入歌の詞の相互検討
4. 音楽劇の挿入歌の作曲
5. 挿入歌の曲の相互検討
6. 舞台美術の案作り



の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や発表資料の記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 文献検索の方法
  2. 論文の読み方・まとめ方
  3. 論文抄読(1)
  4. データの収集法
  5. 論文抄読(2)
  6. データの分析法
  7. 論文抄読(3)
  8. 中間報告会
  9. 論文抄読(4)
  10. データの解釈と考察(1)
  11. データの解釈と考察(2)
  12. データの解釈と考察(3)
  13. データのまとめ方とプレゼン方法(1)
  14. データのまとめ方とプレゼン方法(2)
  15. まとめ

使用テキスト： 適宜, 資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

#### 【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します

留意事項： 特になし

---

科目コード：13545

科目ナンバリング：PE32A02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ⅱ o (Pupil Education Seminar II o)

担当者：中島 美那子

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：01.実地訓練

07.発表  
08共同学修  
11.討論  
15レポート指導  
17発問と回答

**授業の概要:** 本授業は、教育者・保育者にとって必要となる視野の拡大、柔軟な思考を養うために、子どもを取り巻くさまざまな問題について、調査・発表・討論を行います。前期は受講者全員で共通のテーマに基づいて考えを深め、後期には受講者一人ひとりが関心のある個別のテーマに取り組みます。  
また、地域の親子教室や子育て支援事業への積極的参加により、実践的能力も養います。

**キーワード:** 子育て支援、発達支援、特別支援教育、保護者支援、地域連携、チーム保育・学校

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 1. 子どもを取り巻く社会問題について自ら調査・分析するなかで知見を深める。  
2. 実際に地域の子育て支援に触れ、その現状と課題について理解を深める。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

1. 地域子育て支援等の研修で出会う乳幼児や障害のある子ども、その保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。  
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

**評価割合:** 20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや発表、討論での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:** 【第1回】 それぞれのテーマ選択について  
【第2回】 資料作成の方法  
【第3回】 作成した資料をもとに発表、討論(1)  
【第4回】 作成した資料をもとに発表、討論(2)  
【第5回】 作成した資料をもとに発表、討論(3)  
【第6回】 作成した資料をもとに発表、討論(4)  
【第7回】 作成した資料をもとに発表、討論(5)  
【第8回】 子育て支援について学ぶ  
【第9回】 子育て支援実践活動(1) 学外授業  
【第10回】 子育て支援実践活動(2) 学外授業

- 【第11回】子育て支援実践活動(3) 学外授業
- 【第12回】4年生との交流授業(1) 研究論文発表会
- 【第13回】4年生との交流授業(2) 進路、就職活動について
- 【第14回】調査・研究の方法について
- 【第15回】これまでのまとめと次年度の授業について

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前学修として、子どもを取り巻く社会課題や子どもの発達、保護者の心理やその対応等について知見を深めておくこと。  
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行うこと。  
また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行うこと。  
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。

**留意事項:** 特になし。

科目コード:13545      科目ナンバリング:PE32A02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習II q(Pupil Education Seminar II q)

担当者: 藤原 善美

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、発問と回答、発表、資料調査課題、レポート指導

#### 授業の概要:

近年、学校臨床における適切な働きかけに関する議論が盛んに行われています。本演習では、教育心理学や臨床心理学、学校カウンセリングに関わる課題を扱い、新しい知見が蓄積されつつある様々な問題を多角的にとりあげます。教育における心理学的知見の重要性を理解し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、適切な対処方法について心理学的に考察を試みます。主に、事例研究やグループ学習を通して考え、心理学研究の方法について知り、最終的に個人で研究発表をすることによって、自分の考えを深める機会を提供します。

**キーワード:** 教育心理学、臨床心理学

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レジュメ、レポート

**評価割合:** 10%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** 発表、討論、レジュメ、レポート

**評価割合:** 80%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら調べた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合：0%

#### ▼公正性

レポートやレジュメを作成するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合：10%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)

【第2回】心理学研究法(1)講義

【第3回】心理学研究法(2)事例研究

【第4回】心理学研究法(3)グループ学習

【第5回】学校臨床のテーマ1(1)講義

【第6回】学校臨床のテーマ1(2)事例研究

【第7回】学校臨床のテーマ1(3)グループ学習

【第8回】学校臨床のテーマ2(1)講義

【第9回】学校臨床のテーマ2(2)事例研究

【第10回】学校臨床のテーマ2(3)グループ学習

【第11回】個人研究発表の準備1

【第12回】個人研究発表の準備2

【第13回】総復習(1)個人研究発表

【第14回】総復習(2)個人研究発表

【第15回】総復習(3)個人研究発表

【第16回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)

【第17回】学校臨床のテーマ3(1)講義

【第18回】学校臨床のテーマ3(2)事例研究

【第19回】学校臨床のテーマ3(3)グループ学習

【第20回】学校臨床のテーマ4(1)講義

【第21回】学校臨床のテーマ4(2)事例研究

【第22回】学校臨床のテーマ4(3)グループ学習

【第23回】学校臨床のテーマ5(1)講義

【第24回】学校臨床のテーマ5(2)事例研究

【第25回】学校臨床のテーマ5(3)グループ学習

【第26回】個人研究発表の準備1

【第27回】個人研究発表の準備2

【第28回】総復習(1)個人研究発表

【第29回】総復習(2)個人研究発表

【第30回】総復習(3)個人研究発表

使用テキスト： 必要な資料は、授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 授業前には当該テーマについて調べてまとめる。授業後、当該テーマを復習し、関連書籍  
参考文献・資料等： などを調べる。

参考書

都筑 学(2006)『心理学論文の書き方:おいしい論文のレシピ』有斐閣

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編(2001)『心理学研究法入門』東京大学出版会

高野陽太郎・岡 隆 編(2004)『心理学研究法:心を見つめる科学のまなざし』有斐閣

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。  
履修者への対応:

**授業時間外の連絡手段：** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード：13545      科目ナンバリング：PE32A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習II r(Pupil Education Seminar II r)

担当者：穂積 訓

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03.実験・実技・体験  
07.発表  
08.協同学修  
14.輪読活動

**授業の概要：** 自然や環境に関する事象からテーマを選び、小学校や幼児教育の現場で教材として活用できるような自然体験や身近な素材を活用した実験活動に取り組みます。ゼミでは、実務経験を活かして自然を調べるための方法や態度、身の回りの動植物などの基本的な知識や関わり方について、論文の講読や野外・実験室での調査活動を通して習得します。また、調査した事象の教材化や成果の発表を通して表現力の向上を図ります。

**キーワード：** 理科、環境、栽培、生物、科学体験

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 身近な自然環境について学び、児童・生徒が「ものの性質」や「生物」、「環境」に興味を持ち、生命の尊さを感じられるような教材についての基礎知識や扱い方に習熟する。

**評価方法：** レポート  
調査発表

**評価割合：** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 身の回りの自然における「なぜ」について、現象を科学的に考え表現することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、積極的な取り組みが自身の課題についての探求と気づきに深みを与える場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ただしボランティアの実践に基づく知見等がレポート等に深く反映される場合は、上記の「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意、懲戒処分の対象となることがあるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし。



評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 身近な自然の調査1
  - 2 身近な自然の調査2
  - 3 身近な自然の調査3
  - 4 課題準備
  - 5 課題調査A1
  - 6 課題調査A2
  - 7 課題調査A3
  - 8 課題報告A1
  - 9 課題報告A2
  - 10 課題報告A3
  - 11 課題調査B1
  - 12 課題調査B2
  - 13 課題調査B3
  - 14 課題報告B1
  - 15 課題報告B2

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷して配布します。

予習・復習のポイントと 必要に応じて参考資料を配付します。関連する資料等は検索して閲覧すること。  
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。授業担当者、または学務部まで連絡して下さい。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日時間等の詳細は、最初の授業でお知らせします。

留意事項： 特になし。

---

---

科目コード：13545      科目ナンバリング：PE32A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童教育演習II s (Pupil Education Seminar II s)

担当者： 三橋 翔太

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 02. 模擬実践  
03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
11. 討論

授業の概要： 特別支援教育や発達障害と関連して、基礎的な障害児心理学に関する研究方法を学生同士を相手にして実施する。各自の興味や関心に沿った発表を順番に行う。また、文献や資料の基本的な収集方法、資料の読み方についても講義する。

キーワード： 特別支援教育, 障害児心理学, 心理学研究

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標： 特別支援教育や発達障害と関連して、自らの興味や関心のあるテーマについての理解を深める。

評価方法： 討論内容, 発表内容

評価割合：80%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 心理学研究における基礎的方法論についての理解を深める。

**評価方法:** 討論内容, 発表内容

**評価割合:** 20%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が発表に反映されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接の評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表内容の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 1 はじめに
  - 2 文献検討(1) 発達障害の感覚・知覚
  - 3 文献検討(2) 発達障害の認知
  - 4 文献検討(3) 発達障害の社会性
  - 5 文献検討(4) 発達障害の実行機能
  - 6 心理学研究の基礎的事柄 記述統計
  - 7 心理学研究の基礎的事柄 平均値の比較
  - 8 心理学研究の基礎的事柄 相関
  - 9 心理学研究の基礎的事柄 統計手法のまとめ
  - 10 心理学実験作成(1) 感覚・知覚
  - 11 心理学実験作成(2) 認知
  - 12 心理学実験作成(3) 社会性
  - 13 心理学実験作成(4) 発達障害へ利用
  - 15 まとめ

**使用テキスト:** 特になし。授業内で適宜配布する授業者が独自に作成した資料を使用して進める。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習については、随時配布する障害児心理学に関する文献の該当箇所の印刷したものを配布するので、目を通しておくこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。参考文献: 奥住秀之「どうして?教えて!発達障害の理解」ISBN-10: 4881341553

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13545

**科目ナンバリング:** PE32A02E

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習II t(Pupil Education Seminar II t)

**担当者:** 柳橋 晃

**基本情報**

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07. 発表

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

**授業の概要：** 教育に関する事柄を、広い視野と多様な観点から考察するための視点を身に付けるられるように演習を行います。この演習では、教育に関する様々なテーマの中から、各々の受講生が興味関心のあるテーマを選定し、そのテーマについて発表します。そして、受講生同士でのディスカッションを行っていきます。

**キーワード：** 教育哲学、哲学、教師、子供、学力、いじめ、不登校、道徳教育、教師の資質・能力、体罰、話し方の技術、外国語教育、学び合い活動、特別支援学校教諭の専門性、マーチング活動、LGBT、自己肯定感、児童理解、コミュニケーション能力

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについて、教科書的な知識を理解した上で、その正負の両面から客観的に考察することができる。

**評価方法：** ・発表資料

**評価割合：** 40%

・最終レポート

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・自ら、及び、他の受講生が選定したテーマについての自分なりの考えを、論理的かつ分かりやすい正確な日本語を使用して、レポートで表現することができる。

・他者の意見を承り、それらの意見と比較しながら、自分の意見を述べる(話す・書く)ことができる。

**評価方法：** ・発表資料

**評価割合：** 40%

・最終レポート

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度と習慣を身につけ、ディスカッションに積極的参加し、建設的な発言を行えているか(発言内容)を主たる評価対象とする。

また、授業内で他者の学習に良好な影響を与える発言ができているかも評価対象とする。

**評価割合：** 20%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表資料等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	各自のテーマ選定の相談
	第3回	個人発表①
	第4回	個人発表②
	第5回	個人発表③
	第6回	個人発表④
	第7回	レポート相互添削①
	第8回	レポート相互添削②
	第9回	グループディスカッション①
	第10回	グループディスカッション②
	第11回	レポート相互添削③
	第12回	レポート相互添削④
	第13回	グループディスカッション③
	第14回	グループディスカッション④
	第15回	クラスディスカッション

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習：発表者は、必要な資料を読解し、レジュメを作成する。他の受講者は、その授業回で扱われるテーマについて情報収集するなどして知見を深めておく。  
復習：授業内の関連事項について自主学修を通じて知見を深める。発表者は、ディスカッションを振り返りつつ、自身の主張の根拠を説得力のあるものとしてゆく。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

**留意事項：** デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13545      科目ナンバリング：PE32A02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習II j (Pupil Education Seminar II j)

担当者：信太 進

#### 基本情報

年次：3	単位数：2	授業形式：演習
曜時：水曜4限		履修可能学科・専攻：Pe
関連資格：		AL要素：03. 実験・実技・体験 07. 発表 10. 資料調査課題

**授業の概要：** 前期の演習 I をもとに、子どもにとって望ましい玩具とは何か、また子どもがいる日常生活で使う用具はどのようなものが適切なのか考えを深める。授業の前半は、各自のテーマと具体的な制作計画を立て、練習制作としてデザイン方法や材料の加工技術を学ぶ。後半では研究制作として、研究作品を制作し発表する。

**キーワード：** 美術研究、造形、表現、玩具、遊具、家具

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** これまで培ってきた美術や造形表現の知識や技能を生かし、研究テーマに沿って考察を深め、研究作品としてまとめることができる。

**評価方法：** 研究作品の内容      **評価割合：** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子どもにとって望ましい玩具や、子どもがいる生活のなかで使う用具をについて考え、作品に表現することができる。

**評価方法:** 研究作品の内容

**評価割合:** 40%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 10%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品・レポート等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品・レポート等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 研究のテーマと計画1
3. 研究のテーマと計画2
4. 練習制作1
5. 練習制作2
6. 練習制作3
7. 練習制作4
8. 発表1
9. 研究制作1
10. 研究制作2
11. 研究制作3
12. 研究制作4
13. 研究制作5
14. 研究制作6
15. 発表2、まとめ

**使用テキスト:** 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

**予習・復習のポイント** 予習・復習のポイント

**参考文献・資料等:** ・授業前には、その回のテーマについて調べる。  
・授業後には、その回の活動の記録をとる。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。  
・可能ならデバイスを持参してください。

---

科目コード: 13546

科目ナンバリング: PE41A01E

主な使用言語: 日本語

---

授業名(英文): 児童教育演習III a(Pupil Education Seminar III a)

担当者: 天野 秀哉

### 基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 03 実験・実技・体験  
07 発表  
10 資料調査課題  
11 討論  
15 レポート指導

**授業の概要:** 児童教育演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人もしくはグループで調査・研究に取り組む。

**キーワード:** 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 1. 先行研究の理解、レビューができている  
2. 適切な研究計画が立案できる

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 100%

プレゼンテーション

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価方法:** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価割合:** 「知識・技能」と合わせて評価する

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 1. オリエンテーション  
2. 文献研究の進め方(1)  
3. 文献研究の進め方(2)  
4. 文献研究の進め方(3)

5. 文献研究の進め方(4)
6. 先行研究の報告および討論(1)
7. 先行研究の報告および討論(2)
8. 先行研究の報告および討論(3)
9. 先行研究の報告および討論(4)
10. 先行研究の報告および討論(5)
11. 研究計画と実験計画の立て方(1)
12. 研究計画と実験計画の立て方(2)
13. 研究計画と実験計画の立て方(3)
14. 研究計画と実験計画の立て方(4)
15. 前期のまとめと後期への課題について

**使用テキスト:** 適宜資料を配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

**【参考資料】**

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 13546

**科目ナンバリング:** PE41A01E

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習III b(Pupil Education Seminar III b)

**担当者:** 池内 耕作

**基本情報**

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜3限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 07.発表、10.資料調査課題、12.課題討議法、17.発問と回答

**授業の概要:** 教育のあり方をめぐって、社会を二分する議論となっている(そして未決着の)命題が多々あります。この演習ではそのような命題の本質を知るため、課題討議法(ディベート)により各論者の主張と対立を体験していきます。

**キーワード:** 教育問題、教育の課題

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標:** 授業で取り上げられた論争の内容を整理・把握・再調査し、自身の知識として内実化することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合:** 20%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 教育に関わる様々な命題について、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合:** 20%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度を身につけ、討議に積極的かつ建設的に貢献することができる。

【評価方法】各回における討議への関わり方について、担当者の観察により評価する。

評価割合：30%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、学外ボランティアなどの成果が他の評価項目において認められる場合、当該評価項目において加点することができる。

評価割合：0%

### ▼公正性

盗作や剽窃等の著作権侵害行為、人権侵害、差別発言、ハラスメント等にあたる行為を熟知し、他者との関わりや発表・記述等においてそうした行為を回避し、常に公正性を担保することができる。

評価割合：30%

### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： ※テーマは発表担当者が独自に設定します。以下はその一例です。

- 【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である
- 【第02回】体罰を公認すべきだ
- 【第03回】ホーム・スクーリングを認めよ
- 【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない
- 【第05回】青年に兵役義務を課すべきである
- 【第06回】学校間競争・教師間競争が教育の底上げにつながる
- 【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ
- 【第08回】小学校にパソコン教育はいらない
- 【第09回】英国型アカウンタビリティ政策を導入せよ
- 【第10回】問題教員はすぐにやめさせる
- 【第11回】できるが先、わかるは後
- 【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ
- 【第13回】しつけは家でやれ
- 【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ
- 【第15回】支援ではなく指導せよ
- 【第16回以降】自由選択課題

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次週のテーマについて可能な限り予習しておくことが望ましい。  
また各回のテーマについては事後に復習し、その理解を深めるとともに自身の主張の根拠を固めること。  
予習に際し、<知識>については文部科学省をはじめとする各公的機関のWEB上の統計データや答申、報告書、各マスメディアの記事等を熟読する習慣を身につけること。また<思考力>については、関連分野において著名な専門家の手による著書を熟読し、特に各著者の「考察の仕方(考え方)」を数多く知る努力をすること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：13546

科目ナンバリング：PE41A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ⅲ d(Pupil Education Seminar Ⅲ d)

---



担当者：小幡 幸和

## 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

11. 討論

14. 輪読活動

15. レポート指導

**授業の概要：**・ディスカッションのスキルを学んだ後に、教育に関する時事問題について新聞記事・書籍を読みながらディスカッションします。各授業回ごとに、あらかじめ読んできた担当箇所について2名に発表してもらいます。  
・後半では、初等教育全般に関する小論文を一人一人が執筆した上で授業内で発表し、相互評価する時を持ちます。  
・外部講師から特定の教育に関する話を聞くと、または実際の教育現場において観察を通して学ぶときを持ちます(状況により変更の場合があります)。

**キーワード：** 児童教育の現状と課題、ディスカッション、小論文

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 教育を取り巻く現代の諸問題について様々な背景・考え方が理解し、教育現場で取り得る複数の方法を知識として身につけている。

**評価方法：** 各授業回の発表、討論、小論文(またはレポート) **評価割合：50%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 教育に関する論考を批判的に読み、問題点を整理できるとともに、教育における課題について思考し、論理的かつ決められた様式のもとに自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 各授業回の発表、討論、小論文(またはレポート) **評価割合：50%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、レポート等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、嚴重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

- 授業計画：** 第01回 オリエンテーション(各自の問題意識の確認)  
 第02回 ディスカッション・スキルの基礎  
 第03回 ディスカッション・スキルの応用  
 第04回 教育時事問題の概要  
 第05回 教育時事問題についてのディスカッション(1)  
 第06回 教育時事問題についてのディスカッション(2)  
 第07回 教育時事問題についてのディスカッション(3)  
 第08回 教育時事問題についてのディスカッション(4)  
 第09回 教育時事問題についてのディスカッション(5)  
 第10回 教育時事問題:まとめ  
 第11回 外部講師等からの学び  
 第12回 小論文発表(1)  
 第13回 小論文発表(2)  
 第14回 小論文発表(3)  
 第15回 小論文発表(4)

**使用テキスト：** 授業に必要な資料は電子(PDF)または紙媒体で配布します。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- ・教育時事問題についてディスカッションする前には、発表するしないにかかわらずそのテーマについて学び、分からない用語等を調べる。(90分)
  - ・授業後、ディスカッションの内容について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)
  - ・小論文発表の前は、テーマについて良く調べた上で構成をよく考えて記す。(90分)
  - ・以下の参考文献の他、教育に関する新聞記事、本、雑誌等を日頃から読んで置くことが望ましい。

**【参考文献】**

- ・西口利文編『グループディスカッション:心理学から考える活性化の方法』金子書房、2020年。
- ・中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門』ナカニシヤ出版、2018年。
- ・金子一彦編著『マップ&シートで速攻理解！最新の教育改革2022-2023』教育開発研究所、2022年。
- ・教育の未来を研究する会『最新教育動向2023』明治図書出版、2022年。
- ・その他、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** ・状況により授業計画の順を多少変更する場合があります。  
 ・デバイスの持参を推奨します。

**科目コード：**13546      **科目ナンバリング：**PE41A01E      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：** 児童教育演習III e (Pupil Education Seminar III e)

**担当者：** 小林 信悟

**基本情報**

**年次：**4

**単位数：**2

**授業形式：**演習

**曜時：**火曜3限

**履修可能学科・専攻：** Pe

**関連資格：**

**AL要素：**

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

## 授業の概要:

図工・美術は、題材や素材、材料に触れ、手の延長線上としての道具と自らの内面の働きかけで成立するものと考えます。内容は、平面的なものから立体的もの、加えて動くものまで、技法を要するものから素朴であるが発想の豊かなものまで、時に、戸外での制作もできたら加え、全体として制作活動を基本に進めていきます。制作の内容は、小学校の図画工作の中で展開出来るものを中心に構成していきます。学生が、ゆったりと自らの制作過程と美的に遊戯する空間を共有する中で、ゼミが互いの感性に触れる場となればと思っています。

造形活動を補完する「ことば」からのアプローチは、(1)課題の意図(各課題のおもしろさと困難さ)。(2)「how to」の構造理解・段階分け・誘導性・力点の置き方。(3)成功と失敗の要素。(4)失敗を基点とした活動の可能性。(5)規範の再考。

方法 ・課題の各段階での意見交換・発表

・教材化(意欲ある学生は、課題を記録しまとめ、冊子に)

「人の違いが視点の違い→作品の違い」を通奏低音とし、ゼミが各自のこれからの時の中で「自然な自分らしさ」を育む一助になればと希望します

**キーワード:** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、教材化、表現力

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合: 80%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

**評価方法:** 単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合: 20%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

### ▼ その他

特になし

**評価割合: 特になし**

## 授業計画:

・銅版画1

- 1.裏面保護シート、研磨
- 2.プレートマーク作り
- 3.図柄考案(植物)

- 4.図柄考案(動物)
- 5.防蝕膜塗布
- 6.燻し
- ・銅版画2
  - 7.図案転写(練習)
  - 8.図案転写(本番)
- 9.描画1(外側植物)
- 10.描画2(内側植物)
- 11.描画3(中心植物)
- 12.描画4(外側動物)
- ・石膏による注型成形1
  - 13.雌型 :氷→「臓器」
  - 14.大小、彩色の変化
- ・前期課題のまとめ
  - 15.前期課題・作品写真でのふり返り

**使用テキスト:** ・関連プリント配布  
・関連映像上映

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:**

事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)

- ・スマートホンによる検索画像
- ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
- ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 ブティック社
- ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
- ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
- ・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします。

**留意事項:**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性があります。

**科目コード:** 13546

**科目ナンバリング:** PE41A01E

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習III f(Pupil Education Seminar III f)

**担当者:** 齋藤 遼太郎

**基本情報**

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜3限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 07. 発表  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 発達障害の理解と支援について取り上げる。授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。ただし、授業計画に取り上げているテーマは一例であるため、履修者のニーズにより、そのテーマは変更される場合がある。

**キーワード：** 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 30%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

**評価方法：** プレゼンテーション

**評価割合：** 70%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回 オリエンテーション  
第2回 発達障害の理解と実践 テーマ決め(履修者のニーズに応じてテーマの変更あり)  
第3回～第4回 発達障害の理解と支援 学習障害(LD)  
第5回～第6回 発達障害の理解と支援 注意欠陥・多動性障害(ADHD)  
第7回～第8回 発達障害の理解と支援 自閉症スペクトラム障害(ASD)  
第9回～第10回 発達障害の理解と支援 発達性協調運動障害(DCD)  
第11回～第12回 発達障害の理解と支援 多様な学びの場  
第13回～第14回 発達障害の理解と支援 発達と障害支援  
第15回 まとめ

**使用テキスト：** 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてもらうこと。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13546      科目ナンバリング:PE41A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習III g (Pupil Education Seminar III g)

担当者: 佐々木 隆宏

#### 基本情報

年次:4      単位数:2      授業形式:演習

曜時:火曜3限      履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:      AL要素: 8. 協働学習

**授業の概要:** クラウド型学習支援システムを活用した算数科の授業について知り、自ら授業デザインしてもらうことを通して、これからの算数教育の在り方について研究します。

**キーワード:** 算数教育、ロイノート、クラウド型学習支援システム、インストラクショナル・デザイン

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 算数教育の目的、目標、方法を理解し、その実現に向けた知識と技術を身につけている。

**評価方法:** ・模擬授業      **評価割合:** 60%  
・課題

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 算数教育の方法を考え、試行錯誤するだけでなく、自らの考えを他人に説明することができる。

**評価方法:** ・発表      **評価割合:** 30%  
・レポート

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業中における発言の内容と回数の評価する。また、課題やレポート内容に数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合:** 10%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて評価することがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、レポート課題における不正行為や授業中における人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特記事項なし

**評価割合:** 特記事項なし

**授業計画:** 受講生との話し合いにより内容が変更になることがあります  
(前期は模擬授業と研究協議を取り入れる可能性もあります)

第1回:オリエンテーション

第2回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第3回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第4回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第5回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第6回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第7回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第8回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第9回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第10回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第11回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第12回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第13回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第14回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
第15回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

**使用テキスト:** 必要な資料を授業中に配布します。また、参考図書については授業中に適宜紹介します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各回で予習や復習の方法が異なるので授業中に指示します

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください

**授業時間外の連絡手段:** 研究室に置いて対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項:** 特記事項なし

---

科目コード:13546      科目ナンバリング:PE41A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習III h(Pupil Education Seminar III h)

担当者: 佐藤 希久雄

#### 基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 03 実験・実技・体験  
07 発表  
08 協同学修  
11 討論

**授業の概要:** 1冊の絵本を取り上げ、場面に相応しい挿入歌を創作し、協同でひとつの作品として演じてみる。その中で作詞や曲の技術を学ぶ。  
また「演習IV」において完成させる音楽劇の題材選びと脚本づくりに入る。

**キーワード:** 音楽劇 作曲 脚本 ミュージカル 舞台美術 学校演劇

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校演劇を念頭に置いた音楽劇の創作法を理解する。

脚本の作り方、歌詞の作り方、作曲法等を学び、実際の創作に活かすことができる。  
台詞や歌の発声や所作を含め、舞台の演出法について学び実際の創作に活かすことができる。

**評価方法：**授業中に行う創作活動の成果によって評価される。  
**評価割合：**40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**作られた音楽劇作品を演ずる中で様々な演技上の工夫を凝らしながら表現することができる。

**評価方法：**授業中に行う上演に向けた制作活動の過程において評価される。  
**評価割合：**30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中で獲得される創作法の知識を生かしながら、創作活動は主体的に行われなければならない。その態度は提出された作品から評価される。

**評価割合：**20%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし学校演劇等、授業内容に関わるボランティア活動を行った場合、レポートの提出によって評価に加えられる。

**評価割合：**0%

#### ▼公正性

音楽劇の創作・上演は常に協同作業で行われる。他を励まし作業を前進させるような言動は評価され、作業への関与が足りなかったり、他の意気を沈滞させるような言動があれば負の評価となる。

**評価割合：**10%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

- 授業計画：**
1. ガイダンスと自己紹介
  2. 絵本からの歌作り(1)朗読と場面割り
  3. 絵本からの歌作り(2)場面への作詞
  4. 絵本からの歌作り(3)作詞の検討
  5. 絵本からの歌作り(4)作曲法の基礎
  6. 絵本からの歌作り(5)曲作りの実践
  7. 絵本からの歌作り(6)完成した歌の発表と相互評価
  8. 絵本からの歌作り(7)演出の工夫
  9. 絵本からの歌作り(8)上演(ビデオによる記録)
  10. 絵本からの歌作り(9)記録再生による振り返り
  11. 音楽劇の題材選び
  12. 音楽劇の作成計画
  13. 音楽劇の台本づくり(1)配役、プロットの構成
  14. 音楽劇の台本づくり(2)台本の作成
  15. 音楽劇の台本づくり(3)台本の錬成

**使用テキスト：** 使用しない。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 創作活動に活かすために、学んだことを繰り返し振り返る必要がある。また演劇を始め様々な表現芸術に触れることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに音楽研究室で対応する。



留意事項：特になし。

---

科目コード：13546      科目ナンバリング：PE41A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ⅲ I(Pupil Education Seminar Ⅲ I)

担当者：高橋 和将

#### 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験  
07 発表  
10 資料調査課題  
11 討論  
15 レポート指導

**授業の概要：** 演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、グループで調査・研究に取り組む。

**キーワード：** 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. 先行研究の理解、レビューができている  
2. 適切な研究計画が立案できる

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 100%

プレゼンテーション

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価方法：** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価割合：** 「知識・技能」と合わせて評価する

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. オリエンテーション
  2. 各自のテーマ設定と資料収集(1)
  3. 各自のテーマ設定と資料収集(2)
  4. 研究計画・実験計画の立案(1)
  5. 研究計画・実験計画の立案(2)
  6. 先行研究の報告および討論(1)
  7. 中間報告会
  8. 調査・研究の実施(1)
  9. 調査・研究の実施(2)
  10. 調査・研究の実施(3)
  11. 調査・研究の実施(4)
  12. 発表準備
  13. 発表とディスカッション(1)
  14. 発表とディスカッション(2)
  15. 演習Ⅲのまとめと演習Ⅳに向けた課題設定

**使用テキスト：** 適宜資料を配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

**【参考資料】**

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに対応します。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：**13546      **科目ナンバリング：**PE41A01E      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**児童教育演習Ⅲ o (Pupil Education Seminar III o)

**担当者：**中島 美那子

**基本情報**

**年次：**4

**単位数：**2

**授業形式：**演習

**曜時：**火曜2限

**履修可能学科・専攻：**Pe

**関連資格：**

**AL要素：**01.実地訓練  
04.課題解決  
07.発表  
08.共同学修  
11.討論  
15.レポート指導  
17.発問と回答

**授業の概要：** 本授業は、受講者それぞれが調査・研究を進めているものを発表し、その内容について全員で議論する。

各自、議論の中で抽出された課題について更なる探究を進め、再び発表を通して皆で共有する。最終的には、各自が論文形式で執筆し、ゼミ内の論文集を作成する。

また、学外研修として、地域の子育て支援の現場や母子保健関連機関(保健センターなど)に赴き、実践からの学びも深める。

**キーワード：** 発達支援、子育て支援、特別支援教育、学校臨床、地域連携、チーム保育・学校

**学位授与方針との関係**

## ▼ 知識・技能

**到達目標:** 1. 児童教育演習I・IIで自ら興味を持ち探究したテーマについて、さらに調査し、分析するなかで知見を深める。  
2. 現代の学校臨床とその課題について説明することができる。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

## ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容 **評価割合:** 40%

## ▼ 学修に主体的に取り組む態度

1. 研修で出会う乳幼児や障害のある子ども、その保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。  
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

**評価割合:** 20%

## ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 0%

## ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

## ▼ その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 【第1回】 オリエンテーション
  - 【第2回】 研究の進め方(1) 論文とは
  - 【第3回】 研究の進め方(2) 論文講読を通して論文の構成について学ぶ
  - 【第4回】 研究の進め方(3) 論文講読を通して資料収集の方法、資料の読み方を学ぶ
  - 【第5回】 研究の進め方(4) 具体的内容について
  - 【第6回】 就職活動について
  - 【第7回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(1)
  - 【第8回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(2)
  - 【第9回】 作成したアウトライン、資料をもとに発表、討論(3)
  - 【第10回】 親子教室参加の計画(1)
  - 【第11回】 親子教室参加の計画(2)
  - 【第12回】 親子教室での実践活動(1) 学外授業
  - 【第13回】 親子教室での実践活動(2) 学外授業
  - 【第14回】 母子保健事業を通じた実践活動(1) 学外授業
  - 【第15回】 これまでのまとめと後期の授業について

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前学修として、地域母子保健のあり方、子どもの発達支援、保護者の心理やその対応等について知見を深めておくこと。  
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行うこと。  
また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行うこと。  
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。

**留意事項:** 特になし。

---

科目コード:13546      科目ナンバリング:PE41A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習III q (Pupil Education Seminar III q)

担当者: 藤原 善美

#### 基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、発問と回答、発表、資料調査課題、レポート指導

#### 授業の概要:

近年、学校臨床における適切な働きかけに関する議論が盛んに行われています。本演習では、教育心理学や臨床心理学、学校カウンセリングに関わる課題を扱い、新しい知見が蓄積されつつある様々な問題を多角的にとりあげます。教育における心理学的知見の重要性を理解し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、適切な対処方法について心理学的に考察を試みます。主に、事例研究やグループ学習を通して考え、心理学研究の方法について知り、最終的に個人で研究発表をすることによって、自分の考えを深める機会を提供します。

**キーワード:** 教育心理学、臨床心理学

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レジюме、レポート

**評価割合:** 10%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** 発表、討論、レジюме、レポート

**評価割合:** 80%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら調べた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

レポートやレジюмеを作成するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

**評価割合:** 10%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第1回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)  
【第2回】心理学研究法(1)講義  
【第3回】心理学研究法(2)事例研究  
【第4回】心理学研究法(3)グループ学習  
【第5回】学校臨床のテーマ1(1)講義  
【第6回】学校臨床のテーマ1(2)事例研究  
【第7回】学校臨床のテーマ1(3)グループ学習  
【第8回】学校臨床のテーマ2(1)講義  
【第9回】学校臨床のテーマ2(2)事例研究  
【第10回】学校臨床のテーマ2(3)グループ学習  
【第11回】個人研究発表の準備1  
【第12回】個人研究発表の準備2  
【第13回】総復習(1)個人研究発表  
【第14回】総復習(2)個人研究発表  
【第15回】総復習(3)個人研究発表

使用テキスト：必要な資料は、授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業前には当該テーマについて調べてまとめる。授業後、当該テーマを復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
都筑 学(2006)『心理学論文の書き方:おいしい論文のレシピ』有斐閣  
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編(2001)『心理学研究法入門』東京大学出版会  
高野陽太郎・岡 隆 編(2004)『心理学研究法:心を見つめる科学のまなざし』有斐閣

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

留意事項：今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード：13547      科目ナンバリング：PE42A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習IV a(Pupil Education Seminar IV a)

担当者：天野 秀哉

#### 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験  
07 発表  
10 資料調査課題  
11 討論  
15 レポート指導

授業の概要：【授業形態ガイドラインレベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型オンライン授業  
児童教育演習I・II・IIIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人もしくはグループで調査・研究に取り組む。

キーワード：研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

#### 学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標:** 1. データを適切に分析・理解し、論理的な考察ができる  
2. 研究内容を理解しやすいプレゼンテーションができる

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 100%

プレゼンテーション

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価方法:** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価割合:** 「知識・技能」と合わせて評価する

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
1. 研究計画の確認
  2. 研究の実施:データ収集(1)
  3. 研究の実施:データ収集(2)
  4. 研究の実施:データ収集(3)
  5. 研究の実施:データ分析(1)
  6. 研究の実施:データ分析(2)
  7. 研究の実施:データ分析(3)
  8. 中間報告会
  9. 研究の実施:データの解釈と考察(1)
  10. 研究の実施:データの解釈と考察(2)
  11. 研究の実施:データの解釈と考察(3)
  12. 研究の実施:まとめ
  13. プレゼン資料の作成(1)
  14. プレゼン資料の作成(2)
  15. 研究発表・総括

**使用テキスト:** 適宜資料を配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

#### 【参考資料】

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード:13547      科目ナンバリング:PE42A01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習IV b(Pupil Education Seminar IV b)

担当者: 池内 耕作

#### 基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

AL要素: 07.発表、10.資料調査課題、12.課題討議法、17.発問と回答

**授業の概要:** 教育のあり方をめぐって、社会を二分する議論となっている(そして未決着の)命題が多々あります。この演習ではそのような命題の本質を知るため、課題討議法(ディベート)により各論者の主張と対立を体験していきます。

**キーワード:** 教育問題、教育の課題

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で取り上げられた論争の内容を整理・把握・再調査し、自身の知識として内実化することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合:** 20%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 教育に関わる様々な命題について、確かな資料と根拠に基づいて自身の見解を明確に主張することができる。

**評価方法:** 発表内容、毎時の討論内容、  
学期末試験(課題提出レポート)

**評価割合:** 20%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

各回のテーマについて事前に予習し、事後に復習しようとする態度を身につけ、討議に積極的かつ建設的に貢献することができる。

**【評価方法】**各回における討議への関わり方について、担当者の観察により評価する。

**評価割合:** 30%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、学外ボランティアなどの成果が他の評価項目において認められる場合、当該評価項目において加点することがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

盗作や剽窃等の著作権侵害行為、人権侵害、差別発言、ハラスメント等にあたる行為を熟知し、他者との関わりや発表・記述等においてそうした行為を回避し、常に公正性を担保することができる。

**評価割合:** 30%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： ※テーマは発表担当者が独自に設定します。以下はその一例です。

- 【第01回】当事者が「いじめ」と言ったら「いじめ」である
- 【第02回】体罰を公認すべきだ
- 【第03回】ホーム・スクーリングを認めよ
- 【第04回】「国を愛する心」を法律で謳うべきではない
- 【第05回】青年に兵役義務を課すべきである
- 【第06回】学校間競争・教師間競争が教育の底上げにつながる
- 【第07回】少年犯罪者の実名を報道せよ
- 【第08回】小学校にパソコン教育はいらない
- 【第09回】英国型アカウンタビリティ政策を導入せよ
- 【第10回】問題教員はすぐにやめさせる
- 【第11回】できるが先、わかるは後
- 【第12回】学校評議員に児童・生徒代表を入れよ
- 【第13回】しつけは家でやれ
- 【第14回】教科書・黒板をデジタル化せよ
- 【第15回】支援ではなく指導せよ
- 【第16回以降】自由選択課題

使用テキスト： 授業に必要な資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次週のテーマについて可能な限り予習しておくことが望ましい。  
また各回のテーマについては事後に復習し、その理解を深めるとともに自身の主張の根拠を固めること。  
予習に際し、<知識>については文部科学省をはじめとする各公的機関のWEB上の統計データや答申、報告書、各マスメディアの記事等を熟読する習慣を身につけること。また<思考力>については、関連分野において著名な専門家の手による著書を熟読し、特に各著者の「考察の仕方(考え方)」を数多く知る努力をすること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：13547      科目ナンバリング：PE42A01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 児童教育演習IV d(Pupil Education Seminar IV d)

担当者： 小幡 幸和

#### 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：

AL要素： 07. 発表  
08. 協同学修  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
14. 輪読活動  
15. レポート指導

授業の概要： ・前半は、教育の特定テーマに関する専門書を輪読します(テーマについてはゼミ内で検討します)。各授業回ごとに、あらかじめ読んできた担当箇所について2名に発表してもらいます。  
・後半は、各自が関心を持っている教育の今日的課題についてグループ単位で調べた結果を発表すると共にレポートにまとめてもらいます。(例えば教育におけるコロナ禍の影響、現代の児童が抱える諸問題、子どもへの言葉がけ、ICT教育の可能性と課題、非認知能力、働



き方改革、オルタナティブ教育、外国にルーツを持つ子どもの支援、様々な差別と多文化共生教育の課題、等)

・外部講師から特定の教育に関する話を聞くとき、または実際の教育現場において観察を通して学ぶときを持ちます(状況により変更の場合があります)。

**キーワード:** 児童教育の今日的課題、教育学全般、教育現場

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 児童教育を取り巻く現代の諸問題について様々な背景・考え方が理解し、教育現場で取り得る複数の方法を知識として身につけている。

**評価方法:** 各授業回の発表、討論、レポート

**評価割合:** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 教育の今日的課題を考え、問題点を整理できるとともに、論理的かつ決められた様式のもとに自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 各授業回の発表、討論、レポート

**評価割合:** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が発表やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、レポート等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、嚴重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第01回 オリエンテーション(各自の問題意識の確認)

第02回 テキスト輪読(1)

第03回 テキスト輪読(2)

第04回 テキスト輪読(3)

第05回 テキスト輪読(4)

第06回 テキスト輪読(5)

第07回 外部講師等との学び

第08回 グループ発表の方法、レポートの書き方

第09回 グループ発表準備(1)

第10回 グループ発表準備(2)

第11回 グループ発表準備(3)

第12回 グループ発表準備(4)

第13回 グループ発表(1)

第14回 グループ発表(2)

第15回 グループ発表(3)

**使用テキスト:** ・輪読のテキストは授業の中で指示します。

・その他、授業に必要な資料は印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・テキスト輪読の授業前には、発表するしないにかかわらずそのテキスト該当箇所を読み、分からない用語等を調べる。発表の前は、テーマについて良く調べた上で発表方法についてもより効果的な方法を準備する。(90分)。
- ・授業後、テキストの内容や他者の発表内容について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
- ・以下の参考文献の他、教育に関する新聞記事、本、雑誌等を日頃から読んで置くことが望ましい。

**【参考文献】**

- ・大出敦編著『プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術』慶應義塾大学出版会、2020年。
- ・松本茂『大学生のための読む、書く、プレゼン、ディベートの方法』第二版、玉川大学出版部、2015年。
- ・小塩真司『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』北大路書房、2021年。
- ・名嶋義直『10代からの批判的思考：社会を変える9つのヒント』明石書店、2020年。
- ・佐藤郡衛『他文化社会に生きる子どもの教育：外国人の子ども、海外で学ぶ子どもの現状と課題』明石書店、2019年。
- ・その他、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** ・状況により授業計画の順を多少変更する場合があります。  
・デバイスの持参を推奨します。

科目コード：13547

科目ナンバリング：PE42A01E

主な使用言語：|日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ⅳ e(Pupil Education Seminar IV e)

担当者：小林 信悟

**基本情報**

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：

- 03.実験・実技・体験
- 07.発表
- 08.協同学修
- 10.資料調査課題
- 15.レポート指導

**授業の概要：**

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】課題研究型・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業  
図工・美術は、題材や素材、材料に触れ、手の延長線上としての道具と自らの内面の働きかけで成立するものと考えます。内容は、平面的なものから立体的もの、加えて動くものまで、技法を要するものから素朴であるが発想の豊かなものまで、時に、戸外での制作もできたら加え、全体として制作活動を基本に進めていきます。制作の内容は、小学校の図画工作の中で展開出来るものを中心に構成していきます。学生が、ゆったりと自らの制作過程と美的に遊戯する空間を共有する中で、ゼミが互いの感性に触れる場となればと思っています。造形活動を補完する「ことば」からのアプローチは、(1)課題の意図(各課題のおもしろさと困難さ)。(2)「how to」の構造理解・段階分け・誘導性・力点の置き方。(3)成功と失敗の要素。(4)失敗を基点とした活動の可能性。(5)規範の再考。

方法 ・課題の各段階での意見交換・発表

・教材化(意欲ある学生は、課題を記録しまとめ、冊子に)

「人の違いが視点の違い→作品の違い」を通奏低音とし、ゼミが各自のこれからの時の中で

「自然な自分らしさ」を育む一助になればと希望します。

**キーワード：** 造形要素、創意工夫、題材、構想、制作意図、教材化、表現力

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

##### 到達目標：

授業で解説・指導を受けた参考作品の造形要素・制作意図・表現力について、概ね80%各自の記述や作品に反映することができる。

##### 評価方法：

**評価割合：80%**

単元毎の課題(プリント、作品)

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

##### 到達目標：

授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察・制作し、各自の記述や作品を一層深化・表現することができる。

##### 評価方法：単元毎の課題(プリント、作品)

**評価割合：20%**

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見や経験に追加された成果等が、各自の記述や作品の深化により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、グループでの訪問取材の調査・発表の内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：0%**

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述、板書・発表、制作において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

#### 授業計画： ・銅版画3

- 1.描画5(内側動物)
  - 2.描画6(中心動物)
  - 3.描画7(植物・余白)
  - 4.描画8(動物・余白)
- ・自然と人為
- 5.風神山(落ち葉)
  - 6.風神山(小枝)
- ・銅版画4
- 7.描画、腐食・描画1(植物)
  - 8.描画、腐食・描画2(動物)
- ・銅版画5
- 9.描画、腐食2(30分)
  - 10.描画、腐食3(50分)
- ・銅版画6

- 11.大判刷り1(大学保管用)
- 12.大判刷り2(前半)
- 13.大判刷り3(中間)
- 14.大判刷り4(後半)
- ・全体のまとめ
- 15.卒業記念品:銅版画大判裏面メッセージ記入を通しての

**使用テキスト:**

- ・関連プリント配布
- ・関連映像上映

**予習・復習のポイントと**

**参考文献・資料等:**

- 事前準備学習 素材収集(日常生活のあらゆる中で、目に留まったものを携帯に記録する。紙媒体のものは、スクラップブックに収めておく。)
- ・スマートホンによる検索画像
  - ・各自感銘する小説、映画、写真、自然、人工物、マンガ、ゲーム
  - ・『風景写真2006,7-8月』 石川薫 2006 プティック社
  - ・『イラスト・アニマル:動物細密・生態画集』 今泉吉典 1987 平凡社
  - ・『世界大博物図巻 1.虫類 2.魚類 3.両性・爬虫類 4.鳥類 5.哺乳類 別巻1.絶滅・希少鳥類 別巻2.水生無脊椎動物』 荒俣宏 1997 平凡社
  - ・『見たことないもの作ろう!』 西村陽平 1988 偕成社

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等について授業内でお知らせします

**留意事項:**

- ・適宜行う課題の提出物とレポート及び授業内での取り組みを基準とし、欠席・遅刻・早退を減点要因とします。
- ・全体や個々の進行具合、課題に対する個々の興味の度合い、課題の工程を考慮し、学生個々別々にまたは複数の課題を同時進行的にも行う。遅滞学生には補習も行う。
- ・班単位での制作台・道具の使用、材料の配分、活動があります。班員相互の協力、助け合いを求めます。
- ・戸外での活動も伴いますので天候によって課題の前後関係に変動の可能性がります。

科目コード:13547

科目ナンバリング:PE42A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 児童教育演習IV f(Pupil Education Seminar IV f)

担当者: 齋藤 遼太郎

**基本情報**

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格:

- AL要素:** 07. 発表  
10. 資料調査課題  
11. 討論  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 特別支援学校の教育について取り上げる。授業の流れとしては、前半は、担当学生がテーマに沿った発表を、パワーポイント等を用いて行う。後半は、発表内容を踏まえた学生同士による質疑応答や意見交換、教員による解説を行う。ただし、授業計画に取り上げているテーマは一例であるため、履修者のニーズにより、そのテーマは変更される場合がある。

**キーワード:** 特別な支援を必要とする子ども、発達障害児、特別支援教育、インクルージョン、特別支援学校、障害体験

**学位授与方針との関係**

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容について概ね80%説明することができる。また、学習指導案作成の技能を身に付ける。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 発達障害の支援や特別支援教育の制度システム等全般的な内容の到達点や課題について、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を適切な資料を基にして整理し、発表することができる。

**評価方法:** プレゼンテーション

**評価割合:** 70%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が、毎回の授業での発表及び質疑応答において見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表及び質疑応答において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 オリエンテーション  
第2回 特別支援学校の教育 テーマ決め(履修者のニーズに応じてテーマの変更あり)  
第3回～第4回 特別支援学校の教育 キャリア教育  
第5回～第6回 特別支援学校の教育 福祉との連携  
第7回～第8回 特別支援学校の教育 保幼小連携  
第9回～第10回 特別支援学校の教育 個別の教育支援計画と個別の指導計画  
第11回～第12回 特別支援学校の教育 センターの機能  
第13回～第14回 特別支援学校の教育 交流及び共同学習  
第15回 まとめ

**使用テキスト:** 特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 発表担当の学生は、個別に発表内容についてパワーポイント等を用いて整理してくること。また、それ以外の学生についても、各自各回のテーマについて事前に予習をしてくること。参考文献は、必要に応じて授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

科目コード: 13547

科目ナンバリング: PE42A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 児童教育演習IV g (Pupil Education Seminar IV g)

---

**担当者：** 佐々木 隆宏

**基本情報**

**年次：** 4

**単位数：** 2

**授業形式：** 演習

**曜時：** 火曜3限

**履修可能学科・専攻：** Pe

**関連資格：**

**AL要素：** 8. 協働学習

**授業の概要：** クラウド型学習支援システムを活用した算数科の授業について知り、自ら授業デザインしてもらったことを通して、これからの算数教育の在り方について研究します。

**キーワード：** 算数教育、ロイノート、クラウド型学習支援システム、インストラクショナル・デザイン

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標：** 算数教育の目的、目標、方法を理解し、その実現に向けた知識と技術を身につけている。

**評価方法：** ・模擬授業  
・課題

**評価割合：** 60%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 算数教育の方法を考え、試行錯誤するだけでなく、自らの考えを他人に説明することができる。

**評価方法：** ・発表  
・レポート

**評価割合：** 30%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

授業中における発言の内容と回数の評価する。また、課題やレポート内容に数学的な工夫をしようとしたことが認められた場合にも、内容に応じて評価をする。

**評価割合：** 10%

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて評価することがある。

**評価割合：** 0%

**▼ 公正性**

直接的な評価対象としない。ただし、レポート課題における不正行為や授業中における人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動や行動は注意や減点の対象とする。

**評価割合：** 0%

**▼ その他**

特記事項なし

**評価割合：** 特記事項なし

**授業計画：** 受講生との話し合いにより内容が変更になることがあります  
(前期は模擬授業と研究協議を取り入れる可能性もあります)

第1回:オリエンテーション

第2回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第3回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第4回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第5回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第6回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第7回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第8回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

第9回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

- 第10回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
 第11回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
 第12回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
 第13回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
 第14回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作  
 第15回:テキストの内容を分担して発表する & クラウド型学習支援システムの基本的な操作

**使用テキスト:** 必要な資料を授業中に配布します。また、参考図書については授業中に適宜紹介します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各回で予習や復習の方法が異なるので授業中に指示します

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので学務部へ相談してください

**授業時間外の連絡手段:** 研究室に置いて対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。

**留意事項:** 特記事項なし

**科目コード:** 13547      **科目ナンバリング:** PE42A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習IV h(Pupil Education Seminar IV h)

**担当者:** 佐藤 希久雄

#### 基本情報

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜3限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 03 実験・実技・体験  
 07 発表  
 08 協同学修  
 11 討論

**授業の概要:** 「演習Ⅲ」から引き続き、既成の物語などから題材を得てオリジナルの音楽劇を創作し、上演する。

その中で、脚本の構成や作曲法、歌唱法等を深め、上演に向けての「段取り」等、学校演劇に必要な事柄について学ぶ。

**キーワード:** 音楽劇 作曲 脚本 ミュージカル 舞台美術 学校演劇

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校演劇を念頭に置いた音楽劇の創作法を理解する。

脚本の作り方、歌詞の作り方、作曲法等を学び、実際の創作に活かすことができる。

台詞や歌の発声や所作を含め、舞台の演出法について学び実際の創作に活かすことができる。

**評価方法:** 授業中に行う創作活動の成果によって評価される。

**評価割合:** 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**作られた音楽劇作品を演ずる中で様々な演技上の工夫を凝らしながら表現することができる。

**評価方法：**授業中に行う上演に向けた制作活動の過程において評価される。 **評価割合：30%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中で獲得される創作法の知識を生かしながら、創作活動は主体的に行われなければならない。その態度は提出された作品から評価される。

**評価割合：20%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし学校演劇等、授業内容に関わるボランティア活動を行った場合、レポートの提出によって評価に加えられる。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

音楽劇の創作・上演は常に協同作業で行われる。他を励まし作業を前進させるような言動は評価され、作業への関与が足りなかったり、他の意気を沈潜させるような言動があれば負の評価となる。

**評価割合：10%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

- 授業計画：**
1. 音楽劇の台本読み合わせ
  2. 音楽劇の挿入歌の作詞
  3. 挿入歌の詞の相互検討
  4. 音楽劇の挿入歌の作曲
  5. 挿入歌の曲の相互検討
  6. 舞台美術の案作り
  7. 舞台美術の作製
  8. 音楽劇の音楽げいこ
  9. 音楽げいこの錬成
  10. 音楽劇の立ちげいこ
  11. 立ちげいこ演出の検討
  12. 立ちげいこの錬成
  13. 立ちげいこの完成
  14. 音楽劇の発表
  15. 音楽劇創作の振り返り

**使用テキスト：** 使用しない。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 創作活動に活かすために、学んだことを繰り返し振り返る必要がある。また演劇を始め様々な表現芸術に触れることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応する。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに音楽研究室で対応する。

**留意事項：** 特になし。

---

科目コード：13547

科目ナンバリング：PE42A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：児童教育演習Ⅳ I(Pupil Education Seminar IV I)

担当者：高橋 和将

---



## 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：

AL要素：03 実験・実技・体験  
07 発表  
10 資料調査課題  
11 討論  
15 レポート指導

**授業の概要：** 演習I・IIで得た知識および個々の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、個人で調査・研究に取り組む。

**キーワード：** 研究計画, 論理的思考, 指導現場への還元

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 1. データを適切に分析・理解し、論理的な考察ができる  
2. 研究内容を理解しやすいプレゼンテーションができる

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 100%

プレゼンテーション

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価方法：** 「知識・技能」と合わせて評価する

**評価割合：** 「知識・技能」と合わせて評価する

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が課題レポートの記述内容や課題発表プレゼンテーションにより認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題レポートの記述内容や発表内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

1. 課題の設定
2. 研究計画の立案
3. 研究の実施：データ収集(1)
4. 研究の実施：データ収集(2)
5. 研究の実施：データ分析(1)
6. 研究の実施：データ分析(2)
7. 研究の実施：データ分析(3)

8. 中間報告会
9. 研究の実施:データの解釈と考察(1)
10. 研究の実施:データの解釈と考察(2)
11. 研究の実施:データの解釈と考察(3)
12. 研究の実施:まとめ
13. プレゼン資料の作成(1)
14. プレゼン資料の作成(2)
15. 研究発表・総括

**使用テキスト:** 適宜資料を配布する

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 抄読発表資料の作成にあたっては、論文の主題を的確にまとめることを意識し、図表・参考文献リストを過不足なく添付すること。

**【参考資料】**

体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編著, 市村出版

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに対応します。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 13547      **科目ナンバリング:** PE42A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 児童教育演習IV o (Pupil Education Seminar IV o)

**担当者:** 中島 美那子

**基本情報**

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜2限

**履修可能学科・専攻:** Pe

**関連資格:**

**AL要素:** 01.実地訓練  
04.課題解決  
07.発表  
08.共同学修  
11.討論  
15.レポート指導  
17.発問と回答

**授業の概要:** 本授業は、受講者それぞれが調査・研究を進めているものを発表し、その内容について全員で議論する。

各自、議論の中で抽出された課題について更なる探究を進め、再び発表を通して皆で共有する。最終的には、各自が論文形式で執筆し、ゼミ内の論文集を作成する。

また、学外研修として、地域の子育て支援の現場や母子保健関連機関(保健センターなど)に赴き、実践からの学びも深める。

**キーワード:** 発達支援、子育て支援、特別支援教育、学校臨床、地域連携、チーム保育・教育

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

- 到達目標:**
1. 児童教育演習I・IIおよびIIIで自ら興味を持ち探究したテーマについて、さらに調査し、分析するなかで知見を深める。
  2. 現代の学校臨床とその課題について説明することができる。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容

**評価割合:** 40%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 子どもを取り巻く社会の問題について、保育・幼児教育および学校教育の現場で何ができるのかについて考え、表現することができる。

**評価方法:** レポート、発表、討論内容

**評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

1. 研修で出会う乳幼児や障害のある子ども、その保護者に対して積極的、主体的にかかわることができる。
2. 子育て支援事業の企画・運営に主体的に取り組むことができる。

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外のボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや発表、討論の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、研修先での子どもの人権を侵害するような態度・発言、およびレポートや最終発表での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 【第1回】 それぞれの進捗状況の報告
  - 【第2回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(1)
  - 【第3回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(2)
  - 【第4回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(3)
  - 【第5回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(4)
  - 【第6回】 子育て支援実践活動(1) 学外授業
  - 【第7回】 子育て支援実践活動(2) 学外授業
  - 【第8回】 母子保健事業を通した実践活動(1) 学外授業
  - 【第9回】 母子保健事業を通した実践活動(2) 学外授業
  - 【第10回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(5)
  - 【第11回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(6)
  - 【第12回】 自らの調査・研究から作成した資料をもとに発表、討論(7)
  - 【第13回】 3年生との交流授業(1) 研究論文発表会
  - 【第14回】 3年生との交流授業(2) 就職活動について
  - 【第15回】 2年間のふり返り

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は、印刷したものを配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前学修として、地域母子保健のあり方、子どもの発達支援、保護者の心理やその対応等について知見を深めておくこと。  
事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確かなものとするための振り返りを行うこと。  
また、学外研修後は、自己のかかわりや学生同士の連携(チームワーク)等について振り返りを行うこと。  
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは授業担当者に相談すること。事前の相談も受け付ける。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応する。

**留意事項:** 特になし。

科目コード : 13547      科目ナンバリング : PE42A01E      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 児童教育演習IV q (Pupil Education Seminar IV q)

担当者 : 藤原 善美

#### 基本情報

年次 : 4

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : Pe

関連資格 :

AL要素 : 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、発問と回答、発表、資料調査課題、レポート指導

#### 授業の概要 :

近年、学校臨床における適切な働きかけに関する議論が盛んに行われています。本演習では、教育心理学や臨床心理学、学校カウンセリングに関わる課題を扱い、新しい知見が蓄積されつつある様々な問題を多角的にとりあげます。教育における心理学的知見の重要性を理解し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、適切な対処方法について心理学的に考察を試みます。主に、事例研究やグループ学習を通して考え、心理学研究の方法について知り、最終的に個人で研究発表をすることによって、自分の考えを深める機会を提供します。

キーワード : 教育心理学、臨床心理学

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

評価方法 : レジюме、レポート

評価割合 : 10%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

評価方法 : 発表、討論、レジюме、レポート

評価割合 : 80%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

評価割合 : 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自ら調べた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合 : 0%

##### ▼ 公正性

レポートやレジюмеを作成するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合 : 10%

##### ▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

#### 授業計画 :

【第1回】オリエンテーション(本演習の目的・概要・構成など)

【第2回】学校臨床のテーマ3 (1)講義

【第3回】学校臨床のテーマ3 (2)事例研究

【第4回】学校臨床のテーマ3 (3)グループ学習

- 【第5回】学校臨床のテーマ4 (1)講義
- 【第6回】学校臨床のテーマ4 (2)事例研究
- 【第7回】学校臨床のテーマ4(3)グループ学習
- 【第8回】学校臨床のテーマ5(1)講義
- 【第9回】学校臨床のテーマ5 (2)事例研究
- 【第10回】学校臨床のテーマ5 (3)グループ学習
- 【第11回】個人研究発表の準備1
- 【第12回】個人研究発表の準備2
- 【第13回】総復習(1)個人研究発表
- 【第14回】総復習(2)個人研究発表
- 【第15回】総復習(3)個人研究発表

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて調べてまとめる。授業後、当該テーマを復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

都筑 学(2006)『心理学論文の書き方:おいしい論文のレシピ』有斐閣

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編(2001)『心理学研究法入門』東京大学出版会

高野陽太郎・岡 隆 編(2004)『心理学研究法:心を見つめる科学のまなざし』有斐閣

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

科目コード:13548

科目ナンバリング:PE21C01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽B 1a(Music B 1a)

担当者:鈴木 範之

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素:02. 模擬実践

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要:** 小学校音楽科および幼児教育に必要なピアノ弾き歌いの基礎を学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材等を扱います。

**キーワード:** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法:** 課題実施状況

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法:** 実技テスト

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

評価割合：10%

#### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

評価割合：10%

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. かえるのうた・むすんでひらいて
3. 手をたたきましよう・大きなりの木の下で
4. かたつむり(第1学年)・こいのぼり
5. ブンブンブン・きらきら星
6. たなばたさま・まつぼっくり
7. うみ(第1学年)
8. 中間発表
9. 夕やけこやけ(第2学年)
10. 春がきた(第2学年)
11. 春の小川(第3学年)
12. ふじ山(第3学年)
13. もみじ(第4学年)
14. ふるさと(第6学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト：** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちんと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単

に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

---

科目コード:13548      科目ナンバリング:PE21C01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽B 1b(Music B 1b)

担当者:藤岡 由記

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素:02. 模擬実践

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要:** 小学校音楽科および幼児教育に必要なピアノ弾き歌いの基礎を学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材等を扱います。

**キーワード:** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法:** 課題の実施状況

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法:** 成果発表

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合:** 10%

##### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合:** 10%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。

第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。

課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。

第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。

第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. かえるのうた・むすんでひらいて
3. 手をたたきましょう・大きなりの木の下で
4. かたつむり(第1学年)・こいのぼり
5. ブンブンブン・きらきら星
6. たなばたさま・まつぼっくり
7. うみ(第1学年)
8. 中間発表
9. タやけこやけ(第2学年)
10. 春がきた(第2学年)
11. 春の小川(第3学年)
12. ふじ山(第3学年)
13. もみじ(第4学年)
14. ふるさと(第6学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト:** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。  
ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項:** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

科目コード:13548      科目ナンバリング:PE21C01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 音楽B 1c(Music B 1c)

担当者: 藤岡 由記

#### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素: 02. 模擬実践

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要:** 小学校音楽科および幼児教育に必要なピアノ弾き歌いの基礎を学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材等を扱います。

**キーワード:** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法



## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法:** 課題の実施状況

**評価割合:** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法:** 成果発表

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合:** 10%

### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合:** 10%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. かえるのうた・むすんでひらいて
3. 手をたたきましょう・大きなりの木の下で
4. かたつむり(第1学年)・こいのぼり
5. ブンブンブン・きらきら星
6. たなばたさま・まつぼっくり
7. うみ(第1学年)
8. 中間発表
9. タヤけこやけ(第2学年)
10. 春がきた(第2学年)
11. 春の小川(第3学年)
12. ふじ山(第3学年)
13. もみじ(第4学年)
14. ふるさと(第6学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト:** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちん  
と準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。  
ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単  
に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが  
歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

**科目コード：13548**      **科目ナンバリング：PE21C01E**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：音楽B 1d(Music B 1d)**

**担当者：藤岡 由記**

#### 基本情報

**年次：カリキュラム**

**単位数：1**

**授業形式：演習**

**曜時：火曜2限**

**履修可能学科・専攻：E Pe C W F M**

**関連資格：教職**

**AL要素：02. 模擬実践**

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要：** 小学校音楽科および幼児教育に必要なピアノ弾き歌いの基礎を学びます。ピアノの基礎的  
な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでな  
く、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌  
唱教材等を扱います。

**キーワード：** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法：** 課題の実施状況

**評価割合：50%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法：** 成果発表

**評価割合：30%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、  
その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合：10%**

##### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に  
助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合：10%**

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言

動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. かえるのうた・むすんでひらいて
3. 手をたたきましょう・大きなくりの木の下で
4. かたつむり(第1学年)・こいのぼり
5. ブンブンブン・きらきら星
6. たなばたさま・まつぼっくり
7. うみ(第1学年)
8. 中間発表
9. 夕やけこやけ(第2学年)
10. 春がきた(第2学年)
11. 春の小川(第3学年)
12. ふじ山(第3学年)
13. もみじ(第4学年)
14. ふるさと(第6学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト：** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちん  
と準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。  
た  
だし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単  
に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが  
歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

科目コード：13548

科目ナンバリング：PE21C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽B 1e(Music B 1e)

担当者：藤岡 由記

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職

AL要素：02. 模擬実践  
03. 実験・実技・体験  
07. 発表

**授業の概要：** 小学校音楽科および幼児教育に必要なピアノ弾き歌いの基礎を学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材等を扱います。

**キーワード：** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法：** 課題の実施状況

**評価割合：** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法：** 成果発表

**評価割合：** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合：** 10%

##### ▼ 実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合：** 10%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. かえるのうた・むすんでひらいて
3. 手をたたきましょう・大きなくりの木の下で
4. かたつむり(第1学年)・こいのぼり
5. ブンブンブン・きらきら星
6. たなばたさま・まつぼっくり
7. うみ(第1学年)
8. 中間発表
9. 夕やけこやけ(第2学年)

10. 春がきた(第2学年)
11. 春の小川(第3学年)
12. ふじ山(第3学年)
13. もみじ(第4学年)
14. ふるさと(第6学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト:** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちんと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
 ・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
 ・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項:** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

科目コード:13549      科目ナンバリング:PE22C01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽C a(Music C a)

担当者: 藤岡 由記

#### 基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素: 02. 模擬実践  
 03. 実験・実技・体験  
 07. 発表

**授業の概要:** 音楽Bの内容をさらに発展させ、小学校音楽科および幼児教育で必要なピアノ弾き歌いを学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材、合唱曲等を扱います。

**キーワード:** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法:** 課題の実施状況

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法:** 成果発表

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、

その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合：10%**

#### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合：10%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
「音楽B」未修課題および推薦課題も可。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. チューリップ・ちょうちょう
3. とけいのうた・山の音楽家
4. たなばたさま・ありさんのおはなし
5. やきいもグーチーパー・雪
6. お正月・豆まき
7. ふしぎなポケット・小犬のマーチ
8. 中間発表
9. 世界中のこどもたちが
10. さんぽ
11. にじ
12. 日のまる(第1学年)・ひらいたひらいた(第1学年)
13. かくれんぼ(第2学年)・虫のこえ(第2学年)
14. うさぎ(第3学年)・茶つみ(第3学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト：** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ち  
・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちんと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。  
た  
・だし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

科目コード：13549      科目ナンバリング：PE22C01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：音楽C b(Music C b)

担当者：藤岡 由記

#### 基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe C W F M

関連資格：教職

AL要素：02. 模擬実践

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要：** 音楽Bの内容をさらに発展させ、小学校音楽科および幼児教育で必要なピアノ弾き歌いを学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学び、技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材、合唱曲等を扱います。

**キーワード：** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法：** 課題の実施状況

**評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法：** 成果発表

**評価割合：** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から15曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合：** 10%

##### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合：** 10%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題曲リスト(別途配布予定)の中から15曲程度の学習を目指す。  
「音楽B」未修課題および推薦課題も可。

第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

(以下の計画は標準的な目安)

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. チューリップ・ちょうちょう
3. とけいのうた・山の音楽家
4. たなばたさま・ありさんのおはなし
5. やきいもグーチーパー・雪
6. お正月・豆まき
7. ふしぎなポケット・小犬のマーチ
8. 中間発表
9. 世界中のこどもたちが
10. さんぽ
11. にじ
12. 日のまる(第1学年)・ひらいたひらいた(第1学年)
13. かくれんぼ(第2学年)・虫のこえ(第2学年)
14. うさぎ(第3学年)・茶つみ(第3学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト:** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちんと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項:** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

科目コード:13549      科目ナンバリング:PE22C01E      主な使用言語:日本語

授業名(英文):音楽C c(Music C c)

担当者:鈴木 範之

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素: 02. 模擬実践

03. 実験・実技・体験

07. 発表

**授業の概要:** 音楽Bの内容をさらに発展させ、小学校音楽科および幼児教育で必要なピアノ弾き歌いを学びます。ピアノの基礎的な奏法、楽譜の読み方、コードを活用した伴奏法および弾き歌いを学びます。技術習得だけでなく、実際の授業や活動に必要なスキルを身に付けます。教材は子どもの歌、小学校共通歌唱教材等を扱います。

**キーワード:** ピアノ 弾き歌い 子どもの歌 小学校共通歌唱教材 コードネーム 伴奏法



## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 子どもの歌および小学校共通歌唱教材をピアノで弾き歌いすることができる。

**評価方法:** 課題実施状況

**評価割合:** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** クラスを聴衆として、小学校共通歌唱教材から1曲を弾き歌いできる。

**評価方法:** 実技テスト

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題の中から14曲程度のレパートリーをもつことを目標とする。それらは授業時間外での時間に予習をし、その成果を積極的に示すことで評価する。

**評価割合:** 10%

### ▼実践的ボランティア

ピアノは経験の差によってどうしても進度に差がつきやすい。そのため経験者が未経験者に対し積極的に助言や学習のサポートをすることについては一定の評価をする。

**評価割合:** 10%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、著しく公平性に欠ける言動や演奏等に対して著しく配慮に欠ける言動があった場合、注意や減点の対象となり得る。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回は授業の進め方および楽譜の読み方、ピアノの練習方法等について解説する。  
第2～7回および第9～14回は各自の進度に合わせて課題を進める。  
課題の中から15曲程度の学習を目指す。(以下の計画は標準的な目安)  
「音楽B」未修課題および推薦課題も可。  
第8回は中間発表として任意の1曲を弾き歌いする。  
第15回は成果発表として小学校共通歌唱教材の中から任意の1曲を弾き歌いする。

1. ガイダンス／楽譜の読み方
2. チューリップ・ちょうちょう
3. とけいのうた・山の音楽家
4. たなばたさま・ありさんのおはなし
5. やきいもグーチーパー・雪
6. お正月・豆まき
7. ふしぎなポケット・小犬のマーチ
8. 中間発表
9. 世界中のこどもたちが
10. さんぽ
11. にじ
12. 日のまる(第1学年)・ひらいたひらいた(第1学年)
13. かくれんぼ(第2学年)・虫のこえ(第2学年)
14. うさぎ(第3学年)・茶つみ(第3学年)
15. 成果発表および授業の総まとめ

**使用テキスト:** 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』(教育芸術社、2018) ISBN(13) 9784877888220  
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』(音楽之友社、2020) ISBN(13) 9784276821026

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**  
・ピアノ弾き歌いは予習(事前練習)が欠かせない。与えられた課題については翌週までにきちんと準備するとともに、先を見通した練習計画を立てること。(90分)  
・もし楽譜(テキスト)が自身の実力に見合わない場合には他の市販楽譜を使用しても良い。ただし、担当教員と相談の上で慎重に決めること。  
・参考資料等は、都度配付する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日の授業時間の前後に対応します。詳細は授業の初回でお知らせします。

**留意事項：** ピアノ学習には練習の積み重ねが大切ですので、毎日少しでもピアノに触れる習慣をつけましょう。単に弾き歌いができるようにするだけでなく、歌詞の意味について事前に調べ、意味の伝え方や子どもが歌を歌えるようにするための援助方法も併せて考えながら授業に臨んでください。

---

**科目コード：13550**      **科目ナンバリング：PE21C02E**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：美術III(Fine Arts III)**

**担当者：信太 進**

#### 基本情報

**年次：2**

**単位数：1**

**授業形式：演習**

**曜時：水曜2限**

**履修可能学科・専攻：Pe**

**関連資格：教職**

**AL要素：** 03. 実験・実技・体験  
07. 発表  
08. 協同学修

#### 授業の概要：

授業の課題では、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。また、児童教育や幼児教育の現場で役立つ手法も取り入れ、幅広い視点で表現できるようにしています。単に、美術を楽しんだり創作体験をしたりするだけではなく、この授業を通して、美術表現の技能と、それを教育活動に生かす力を高めます。

**キーワード：** 造形、表現、図画工作、教材研究

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 児童教育や幼児教育における美術や造形表現の基本的な知識・技能について、十分に内容を理解し修得することができる。

**評価方法：** 課題作品の内容

**評価割合：50%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 作る力と描く力、構成し表現する力を高め、基礎的な造形力を伸ばすことができる。

**評価方法：** 課題作品の内容

**評価割合：50%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品等に人権侵害・差別的発言など著しく公正性を

欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 オリエンテーション
  - 2 平面デザイン1(計画)
  - 3 平面デザイン2(材料)
  - 4 平面デザイン3(構成)
  - 5 平面デザイン4(まとめ)
  - 6 立体デザイン1(計画)
  - 7 立体デザイン2(材料)
  - 8 立体デザイン3(構成1)
  - 9 立体デザイン4(構成2)
  - 10 立体デザイン5(まとめ)
  - 11 インスタレーション1(計画)
  - 12 インスタレーション2(材料と準備)
  - 13 インスタレーション3(制作1)
  - 14 インスタレーション4(制作と発表準備)
  - 15 インスタレーション5(発表)

使用テキスト： 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

予習・復習のポイントと

- 参考文献・資料等：
- ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
  - ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

- 留意事項：
- ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。
  - ・可能ならデバイスを持参してください。

---

科目コード：13551      科目ナンバリング：PE22C02E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美術IV(Fine Arts IV)

担当者：信太 進

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：03. 実験・実技・体験

07. 発表

08. 協同学修

授業の概要： 授業の課題では、シンプルかつ変化に富んだ表現ができるようにしました。また、児童教育や幼児教育の現場で役立つ内容も取り入れ、幅広い視点で表現できるようにしています。単に、美術を楽しんだり創作体験をしたりするだけではなく、この授業を通して、美術表現の技能と教育活動に生かす力を高めます。

キーワード：造形、表現、美術教育

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 児童教育や幼児教育における美術や造形表現の基本的な知識・技能について、十分に内容を理解し修得することができる。

**評価方法:** 課題作品の内容

**評価割合:** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 作る力と描く力、構成し表現する力を高め、基礎的な造形力を伸ばすことができる。また、造形表現の指導案を立案する発想力を伸ばすことができる。

**評価方法:** 課題作品の内容

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が作品等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や作品等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 1 オリエンテーション
  - 2 フロッタージュとバチック1(計画)
  - 3 フロッタージュとバチック2(素材制作)
  - 4 フロッタージュとバチック3(構成)
  - 5 フロッタージュとバチック4(まとめ)
  - 6 絵本とイラストレーション1(計画)
  - 7 絵本とイラストレーション2(下絵)
  - 8 絵本とイラストレーション3(着色1)
  - 9 絵本とイラストレーション4(着色2)
  - 10 絵本とイラストレーション5(仕上げ)
  - 11 折り紙1
  - 12 折り紙2
  - 13 切り紙1
  - 14 切り紙2
  - 15 まとめ

**使用テキスト:** 特に指定しません。必要な資料は、授業の中で配布します。

**予習・復習のポイントと** 予習・復習のポイント

**参考文献・資料等:**

- ・授業前には、その回のテーマについて調べる。
- ・授業後には、その回の活動を記録する。

参考文献・資料

特に指定はしません。必要な資料は、授業の中で指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** ・スケッチブック(A4サイズ)、作品制作に適した服装やエプロンなどを用意してください。  
・可能ならデバイスを持参してください。  
・本授業は、保育士資格関連の科目のため、児童福祉法施行規則により50名以下とします。

---

科目コード:13552      科目ナンバリング:PE31C02K      主な使用言語:日本語  
授業名(英文):生徒・進路指導の理論と方法 a(Guidance Counseling Theory and Methods a)  
担当者: 藤原 善美

#### 基本情報

年次:3      単位数:2      授業形式:講義  
曜時:水曜1限      履修可能学科・専攻: E Pe Pc  
関連資格:教職      AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

#### 授業の概要:

学校では、実に多種多様な事柄が問題となり、テーマとなります。この授業では、生徒指導及び進路指導に関する主要テーマを取り上げながら、学校におけるカウンセリングを概観します。生徒の特性の把握と指導・援助の指針のあり方(具体的には、生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法)を捉えるための枠組みを提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、受講者とともに教師として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。個別およびグループでの演習を取り入れながら、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。

**キーワード:** カウンセリング・マインド、連携、心理テスト、虐待、キャリア教育

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レポート      **評価割合:** 30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** レポート      **評価割合:** 60%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

**評価割合:** 10%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 オリエンテーション

- 第2回 生徒指導の概念と構造
- 第3回 学校における生徒指導体制
- 第4回 生徒指導と学級経営
- 第5回 生徒指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個人指導と集団指導)
- 第6回 生徒指導における課題1(児童虐待、学業困難等)
- 第7回 生徒指導における課題2(体罰、特別支援教育、家庭環境等)
- 第8回 進路指導の基礎理論1(特性・因子論、発達理論)
- 第9回 進路指導の基礎理論2(意思決定理論、社会的認知理論)
- 第10回 進路指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個別指導と集団指導)
- 第11回 進路指導の課題(若年無業者、退学、離職、職場体験等)
- 第12回 進路指導の実際1(キャリア教育、キャリア・カウンセリング)
- 第13回 進路指導の実際2(キャリア・デザイン)
- 第14回 海外の生徒指導・進路指導(主に米英における生徒指導・進路指導の実践)
- 第15回 全体の総括

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

科目コード: 13552      科目ナンバリング: PE31C02K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 生徒・進路指導の理論と方法 b(Guidance Counseling Theory and Methods b)

担当者: 藤原 善美

#### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc

関連資格: 教職

AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

#### 授業の概要:

学校では、実に多種多様な事柄が問題となり、テーマとなります。この授業では、生徒指導及び進路指導に関する主要テーマを取り上げながら、学校におけるカウンセリングを概観します。生徒の特性の把握と指導・援助の指針のあり方(具体的には、生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法)を捉えるための枠組みを提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、受講者とともに教師として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。個別およびグループでの演習を取り入れながら、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。

**キーワード:** カウンセリング・マインド、連携、心理テスト、虐待、キャリア教育

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 60%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

**評価割合:** 10%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 生徒指導の概念と構造
  - 第3回 学校における生徒指導体制
  - 第4回 生徒指導と学級経営
  - 第5回 生徒指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個人指導と集団指導)
  - 第6回 生徒指導における課題1(児童虐待、学業困難等)
  - 第7回 生徒指導における課題2(体罰、特別支援教育、家庭環境等)
  - 第8回 進路指導の基礎理論1(特性・因子論、発達理論)
  - 第9回 進路指導の基礎理論2(意思決定理論、社会的認知理論)
  - 第10回 進路指導の技法(観察法、質問紙法、面接法、個別指導と集団指導)
  - 第11回 進路指導の課題(若年無業者、退学、離職、職場体験等)
  - 第12回 進路指導の実際1(キャリア教育、キャリア・カウンセリング)
  - 第13回 進路指導の実際2(キャリア・デザイン)
  - 第14回 海外の生徒指導・進路指導(主に米英における生徒指導・進路指導の実際)
  - 第15回 全体の総括

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。  
参考書  
小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等がありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

科目コード: 13553

科目ナンバリング: PE32C02K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 教育相談の基礎 a(Fundamentals of School Counseling a)

担当者: 藤原 善美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc

関連資格：教職

AL要素：実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

**授業の概要：** 学校では、実に多種多様な事柄が問題となり、テーマとなります。この授業では、教育相談に関する主要テーマを取り上げながら、学校におけるカウンセリング（教育相談活動を概観します。生徒の特性の把握と指導・援助の指針のあり方（具体的には、教育相談や生徒指導の理論及び方法）を捉えるための枠組みを提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、受講者とともに教師として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。個別およびグループでの演習を取り入れながら、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。

**キーワード：** カウンセリング・マインド、連携、心理療法、不登校、いじめ、非行

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 30%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 60%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

**評価割合：** 10%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育相談の内容と機能
- 第3回 教師に求められるカウンセリング・マインド(来談者中心療法に基づいて)
- 第4回 教育相談における校内での協力体制と他機関との連携
- 第5回 不応の理解と対応(不登校)
- 第6回 不応の理解と対応(いじめ)
- 第7回 不応の理解と対応(非行、校内暴力等)
- 第8回 不応の理解と対応(PTSD、自殺等)
- 第9回 精神障害の理解と対応
- 第10回 発達障害の理解と対応
- 第11回 カウンセリングのアプローチ1(行動療法・認知行動療法)
- 第12回 カウンセリングのアプローチ2(精神分析、交流分析)
- 第13回 カウンセリングのアプローチ3(構成的グループエンカウンター、短期療法)



第14回 ストレスマネジメント、ソーシャルスキル教育

第15回 前期の総まとめ

**使用テキスト:** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項:** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

---

科目コード:13553

科目ナンバリング:PE32C02K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育相談の基礎 b(Fundamentals of School Counseling b)

担当者:藤原 善美

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc

関連資格:教職

AL要素: 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

#### 授業の概要:

学校では、実に多種多様な事柄が問題となり、テーマとなります。この授業では、教育相談に関する主要テーマを取り上げながら、学校におけるカウンセリング(教育相談活動を概観します。生徒の特性の把握と指導・援助の指針のあり方(具体的には、教育相談や生徒指導の理論及び方法)を捉えるための枠組みを提供し、担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら、受講者とともに教師として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。個別およびグループでの演習を取り入れながら、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。

**キーワード:** カウンセリング・マインド、連携、心理療法、不登校、いじめ、非行

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について、説明することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 60%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合：10%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回 オリエンテーション  
第2回 教育相談の内容と機能  
第3回 教師に求められるカウンセリング・マインド(来談者中心療法に基づいて)  
第4回 教育相談における校内での協力体制と他機関との連携  
第5回 不適應の理解と対応(不登校)  
第6回 不適應の理解と対応(いじめ)  
第7回 不適應の理解と対応(非行、校内暴力等)  
第8回 不適應の理解と対応(PTSD、自殺等)  
第9回 精神障害の理解と対応  
第10回 発達障害の理解と対応  
第11回 カウンセリングのアプローチ1(行動療法・認知行動療法)  
第12回 カウンセリングのアプローチ2(精神分析、交流分析)  
第13回 カウンセリングのアプローチ3(構成的グループエンカウンター、短期療法)  
第14回 ストレスマネジメント、ソーシャルスキル教育  
第15回 前期の総まとめ

**使用テキスト：** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

---

---

科目コード：13554

科目ナンバリング：PE11C04K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：地域社会研究I(Local Area Studies I)

担当者：鈴木 克彦

### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：08.協同学習

09:実地調査

17:発問と回答

**授業の概要：** 私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市南部地域の観察や茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようにすることを目的とする。また、地域調査も実施する中で、小中学校における社会科教育及び総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。

**キーワード：** 地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科  
における地域教材開発

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で学んだ地域社会の自然や地形歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。

**評価方法：** レポート 学期末筆記試験など **評価割合：70%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べることができる。

**評価方法：** レポート 学期末筆記試験など **評価割合：30%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

**授業計画：** 第1回・オリエンテーション  
第2回：地域社会研究の意義と活用  
第3回：地域社会の学校教育への応用  
第4回：地域社会の社会教育への応用  
第5回：地域社会研究の意義と活用の振り返り及び地形図と地図記号  
第6回：地形図の読み方と利用—三角点と水準点、道標など—  
第7回：現地観察—大学、大甕駅周辺—  
第8回：地形の形成—河川地形、海岸地形—  
第9回：日立市の地形の特色—海岸段丘、日本最古の地層—  
第10回：地形図の読み方の振り返り及び地域調査と資料収集  
第11回：地域の史跡を調べる—日立市南部地区を例に—  
第12回：現地観察—日立市南部地区の史跡—  
第13回：地域の歴史を調べる—日立市を例に—  
第14回：地域の交通史を調べる—茨城県を例に—  
第15回：地域の近現代史を調べる—日立市を例に—  
学期末試験

**使用テキスト：** 講師が用意する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ふだんから、自分の住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業の様子などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。

**障がいのある履修者への対応：** できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 講師控室で対応します。曜日時間等については、初回時に連絡します。

**留意事項:** 授業時間内に本学周辺の地区を野外観察します。(前期2回、後期2回予定)その際は歩きやすい服装で対応願います。

---

科目コード:13555      科目ナンバリング:PE12C04K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 地域社会研究II(Local Area Studies II)

担当者: 鈴木 克彦

#### 基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:教職 社教

AL要素:08.協同学習

09:実地調査

17:発問と回答

**授業の概要:** 私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市南部地域の観察や茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中で、小中学校における社会科教育及び総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。

**キーワード:** 地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科における地域教材開発

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で学んだ地域社会の自然や地形歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。

**評価方法:** レポート 学期末筆記試験など

**評価割合:** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べることができる。

**評価方法:** レポート 学期末筆記試験など

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画：** 第1回：地域社会研究の各論1ー地域の活性化を目指す地域社会研究ー  
第2回：地域社会研究の各論2ーまちづくり論と社会参画ー  
第3回：地域社会研究の各論3ー地域コミュニティーー  
第4回：地域社会研究の各論4ー環境と防災、各論の振り返りー  
第5回：地域の文化財とその保護  
第6回：身近な地域の文化・民俗調査の方法  
第7回：「常陸風土記」にみる日立地方の姿  
第8回：泉が森付近の野外観察  
第9回：日立風流物やささらの歴史と現状  
第10回：身近な地域の社会基盤整備について  
第11回：現地観察ー森山浄水場見学ー  
第12回：日立市及び茨城県の産業構造の見方  
第13回：日立市及び茨城県の産業構造1ー農林水産業ー  
第14回：日立市及び茨城県の産業構造2ー鉱工業ー  
第15回：日立市及び茨城県の産業構造3ー商業、地域の産業構造の振り返りー  
学期末試験

**使用テキスト：** 講師が用意する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ふだんから、自分の住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業の様子などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。

**障がいのある履修者への対応：** できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 講師控室で対応します。曜日時間等については、初回時に連絡します。

**留意事項：** 授業時間内に本学周辺の地区を野外観察します。(前期2回、後期2回予定)その際は歩きやすい服装で対応願います。

---

科目コード：13556      科目ナンバリング：PE20C19E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：野外活動(Outdoor Activities)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 社教

AL要素：03 実験・実技・体験  
07 発表  
08 実地調査

**授業の概要：** 野外活動の理論学習と実技学習を通して、野外教育の領域や学問としての理解を深める。授業内にて、オリエンテーリング、ハイキング、デイキャンプ活動を体験し、実習の計画立案や運営に携わりながら、教員として必要となる基礎的な知識と技術、能力を身につける。

**キーワード：** 野外教育 体験学習 グループワーク コミュニケーションワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標：** ・野外活動に関わる内容の企画・運営に必要な知識を獲得し、教材としての理解を深める。  
・野外活動を通して、小学校を対象とした野外教育の考え方や教員として必要な知識と技術、能力を身につける。

**評価方法：** 授業内レポート

**評価割合：** 30%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業内で扱った、野外活動や野外教育についての知識を、実践場面(実習場面など)にて還元できる思考力を身に付ける。

**評価方法:** 実習報告書

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

オリエンテーリングやハイキング、デイキャンプといった実践授業において、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業内レポートにより認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

オリエンテーリングやハイキングといった実践授業において、安全管理活動を欠く行動が見られた場合は減点や厳重注意の対象とすることがある。

また、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

**評価割合:** 20%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
- 第1回:授業概要の説明(授業オリエンテーション)
  - 第2回:野外活動と野外教育 領域の定義とその理解
  - 第3回:現代社会と野外教育の関わり
  - 第4回:コミュニケーションワーク アイスブレイキングの実践
  - 第5回:グループワーク 役割分担と責任
  - 第6回:地図の読み方とコンパスワーク
  - 第7回:学内オリエンテーリングの実践①
  - 第8回:学内オリエンテーリングの実践②
  - 第9回:ハイキング体験準備 企画・運営・参加に必要なこと
  - 第10回~第14回:ハイキング体験(学外実習)
  - 第15回:ハイキング体験の反省と課題 報告書の作成
  - 第16回:キャンプ実践の方法と実際①
  - 第17回:キャンプ実践の方法と実際②
  - 第18回:キャンプ実践の方法と実際③
  - 第19回:デイキャンプの計画と準備物①
  - 第20回:デイキャンプの計画と準備物②
  - 第21回:団体装備品の準備と考え方
  - 第22回:実習録の計画
  - 第23回:実習録の中間発表
  - 第24回:実習録の作成
  - 第25回~第29回:デイキャンプ体験(学内実習)
  - 第30回:デイキャンプ体験の反省と課題 報告書の作成

※第7・8回は、学内にてオリエンテーリングを実施(集中授業)

※第10回~第14回は、学外(風神山・高鈴山)へのハイキングを実施(集中授業)

※第25回~第29回は、学内にてデイキャンプを実施(集中授業)

**使用テキスト:** 「野外活動 その考え方と実際」 日本野外教育研究会編 杏林書院

「自然体験活動の報告書・レポート・論文のまとめ方 学校教育の実践報告から大学生の卒業論文まで」日本野外教育研究会編 杏林書院

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 参考資料は、授業内で配布する。配布資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
教科書以外の野外活動に関する書籍を事前に探し、目を通しておくこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 学務部に連絡してください。

**留意事項：** 定員20名を限度とする。定員を超す場合は抽選とする。また、授業の特性上(学内・学外実習にてグループワークを行う都合上)、受講希望者が10名未満の場合は開講できないことがある。

第1回授業時に、詳細な授業概要の説明を行いますので、必ず説明を聞いてから履修をするかどうかを決めて下さい。

ハイキングを実施するにあたり、必要装備品(トレッキングシューズ・レインスーツ他)の購入が必要になります。

デイキャンプでは、食材などを購入する必要があります(参加費がかかります)。

---

**科目コード：**13557      **科目ナンバリング：**PE30C10K      **主な使用言語：**日本語  
**授業名(英文)：**知的障害児の心理・生理・病理(Psychology, Physiology and Pathology in Children with Disabilities)  
**担当者：**三橋 翔太

#### 基本情報

<b>年次：</b> 3	<b>単位数：</b> 2	<b>授業形式：</b> 講義
<b>曜時：</b> 木曜1限		<b>履修可能学科・専攻：</b> Pe
<b>関連資格：</b> 教職		<b>AL要素：</b> 03. 実験・実技・体験 04. 課題解決 16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 知的障害は特別支援教育の対象の中でも、最も数が多く代表的な障害である。本講義では、知的障害の定義や関連する障害について、心理・生理・病理学的観点から包括的に理解する。それとともに、知的障害児の心理機能やそれを評価するアセスメントについて学習する。後半には今までの理解を基に、知的障害児へのカリキュラムや教材に対して、具体的にどのような点に配慮すべきか、グループワークを通じた学習を行う。

**キーワード：** 特別支援教育, 知的障害児

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 知的障害のある子どもの特性を、心理・生理・病理学的観点から理解できる。

**評価方法：** 期末試験      **評価割合：** 80%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 理解した知識をどのように教育実践に応用していくのか考えることができる。

**評価方法：** コメントペーパー, 期末試験      **評価割合：** 15%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

知的障害児の特性に興味を持ち、主体的に学習する。また得られた知識をどのように教育及び支援に活用するか積極的に考える。

**評価割合：** 5%

##### ▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなど実際に知的障害児と関わる機会

を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 はじめに・オリエンテーション
  - 2 知的障害の定義(1)基礎的事項
  - 3 知的障害の定義(2)知的機能に関して
  - 4 知的障害の定義(3)適応機能に関して
  - 5 知的障害の分類 生理・病理学的原因の観点から
  - 6 知的障害と関係する障害の心理・生理・病理学的特徴(1)ダウン症候群
  - 7 知的障害と関係する障害の心理・生理・病理学的特徴(2)てんかん
  - 8 知的障害と関係する障害の心理・生理・病理学的特徴(3)自閉症
  - 9 知的障害と関係する障害の心理・生理・病理学的特徴(4)脳性マヒ
  - 10 知的機能のアセスメント(1)ビネー式知能検査, ウェクスラー式知能検査
  - 11 知的機能のアセスメント(2)その他の認知・神経心理学的検査と発達検査
  - 12 知的障害児の心理機能(1)記憶・学習、言語に関して
  - 13 知的障害児の心理機能(2)社会性・運動機能・実行機能に関して
  - 14 知的障害児への心理・生理・病理学的特徴を踏まえた教育実践(1)カリキュラム
  - 15 知的障害児への心理・生理・病理学的特徴を踏まえた教育実践(2)教材
  - 16 試験

使用テキスト： 文部科学省(平成29年4月公示)特別支援学校小学部・中学部学習指導要領  
([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afldfile/2019/02/04/1399950\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afldfile/2019/02/04/1399950_2.pdf))。また適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、初回に紹介する知的障害児・者に関する文献に目を通しておくことが望ましい。また使用テキストで示したものに関しては、必ず読むこと。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：13558

科目ナンバリング：PE30C16K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：感覚障害児教育論(Lectures on Education for Children with Sensory Disabilities)

担当者：田原 敬

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 感覚障害のうち、視覚障害及び聴覚障害のある児童生徒の特性や教育方法について、感



覚障害のない児童生徒や、他の障害のある児童生徒との比較も行いながら理解を深める。  
また、授業場面などの具体例も視聴しながら、感覚障害のある児童生徒の学習及び指導の  
在り方、学習を支援する教材教具等について考える。

**キーワード：** 視覚障害、点字、歩行訓練、弱視教育、聴覚障害、補聴機器、手話、言語指導

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 1) 感覚障害の病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解できる  
2) 観察や検査を通して幼児、児童又は生徒一人一人の障害特性と発達を把握することが理解できる  
3) 家庭や保健、医療、福祉及び労働機関との連携の重要性について理解できる

**評価方法：** 学期末レポート(80%)  
各回の感想(20%)

**評価割合：** 70%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 1) 感覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解できる  
2) 自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計ができる

**評価方法：** 学期末レポート(80%)  
各回の感想(20%)

**評価割合：** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為が見られた場合には、嚴重注意の対象とする。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見などが学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回:授業の概要説明  
第2回:特別支援教育の歴史と感覚障害児教育  
第3回:感覚障害と情報アクセシビリティの問題  
第4回:感覚障害と環境要因  
第5回:感覚障害児が学ぶ場  
第6回:視覚の生理・心理と病理  
第7回:視覚障害児の特徴と配慮事項  
第8回:視覚障害児の支援(自立活動を中心に)  
第9回:聴覚の生理・心理と病理

- 第10回:聴覚障害児の特徴と配慮事項
- 第11回:聴覚障害児の支援(自立活動を中心に)
- 第12回:視覚障害教育の実際(映像視聴&グループワーク)
- 第13回:聴覚障害教育の実際(映像視聴&グループワーク)
- 第14回:視覚障害教育・聴覚障害教育における課題(多職種連携を中心に)
- 第15回:まとめ

学期末レポート

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各回において事前に資料を提示するので、それらに目を通し、不明な部分を自分で調べることが授業外学修となる(90分程度)。参考書として以下を推薦する。  
 ・特別な支援を必要とする子どもの理解と教育 茨城大学教育学部障害児教育教室, 茨城大学教育学部附属特別支援学校 編 かもがわ出版 1, 800円

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部等に相談すること。

**授業時間外の連絡手段:** 初回時にメールアドレスを伝えるので、そこに連絡を行うこと。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 13559      **科目ナンバリング:** PE30C21K      **主な使用言語:** 日本語Ⅲ

**授業名(英文):** 総合的な学習の時間の教育法 a(Integrated Study Education Methods a)

**担当者:** 打越 正貴

**基本情報**

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜2限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 11.討論

**授業の概要:** 総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範囲な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、実践事例を通して指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

**キーワード:** 思考力、主体的・対話的で深い学び、探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習、自己の生き方

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

- 到達目標:** ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。
- ・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。

**評価方法:** ・課題レポート

**評価割合:** 50%

**▼思考力・判断力・表現力**

- 到達目標:** ・総合的な学習の時間の効果的な指導と評価の在り方について考察し、実践上の留意点を理解することができる。

**評価方法:** ・課題レポート

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回:シラバスを用いたガイダンス・授業の概要と視点(思考力の育成を中心に)  
第2回:総合的な学習の時間の成立と現状・1(経験主義的な学習指導要領)  
第3回:総合的な学習の時間の成立と現状・2(系統主義的な学習指導要領)  
第4回:総合的な学習の時間の意義と原理・1(総合的な学習の時間が求めるもの)  
第5回:総合的な学習の時間の意義と原理・2(学習指導要領の改訂による授業改善)  
第6回:総合的な学習の時間における課題と解決方法  
第7回:総合的な学習の時間における指導方法(対話的な授業を中心として)  
第8回:総合的な学習の時間における効果的な学習形態  
第9回:総合的な学習の時間の指導と評価  
第10回:総合的な学習の時間の指導計画  
第11回:総合的な学習の時間の指導計画作成・1(全体計画)  
第12回:総合的な学習の時間の指導計画作成・2(単元指導計画)  
第13回:総合的な学習の時間の授業の実際・1(「思考力」育成の実践事例)  
第14回:総合的な学習の時間の授業の実際・2(VTRの視聴)  
第15回:総合的な学習の時間の課題と展望(まとめ)

**使用テキスト：** ・打越正貴『主体的な学びを育む思考指導の理論と実践』(青簡社、2021年)  
ISBN:978-4-909181-29-9

・打越正貴、宮本浩紀『イメージからことばをひきだす「色と形」の授業づくりアイデア』(株式会社 ネットパブ・オーサーズプレス、2022年)ISBN:978-4-600-01106-2

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・前回及び今回の授業内容について、テキスト、レジユメなどで確認し、その回の授業テーマのわからない用語を調べる。  
・授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めるようにする。参考資料は、次の2点を推薦する。  
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東洋館出版、2018)。  
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東山書房、2018)。  
・授業外学習に要する時間は90分を目安とする。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 連絡は、IC-Mail を活用ください。

**留意事項：** ・授業において、課題レポートがあるので、期日厳守で必ず提出してください。

---

科目コード:13559      科目ナンバリング:PE30C21K      主な使用言語:日本語|||

授業名(英文): 総合的な学習の時間の教育法 b(Integrated Study Education Methods b)

担当者: 打越 正貴

#### 基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc

関連資格:教職

AL要素: 11.討論

**授業の概要:** 総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範囲な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、実践事例を通して指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

**キーワード:** 思考力、主体的・対話的で深い学び、探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習、自己の生き方

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。  
・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。

**評価方法:** ・課題レポート

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・総合的な学習の時間の効果的な指導と評価の在り方について考察し、実践上の留意点を理解することができる。

**評価方法:** ・課題レポート

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:** 第1回:シラバスを用いたガイダンス・授業の概要と視点(思考力の育成を中心に)

- 第2回:総合的な学習の時間の成立と現状・1(経験主義的な学習指導要領)
- 第3回:総合的な学習の時間の成立と現状・2(系統主義的な学習指導要領)
- 第4回:総合的な学習の時間の意義と原理・1(総合的な学習の時間が求めるもの)
- 第5回:総合的な学習の時間の意義と原理・2(学習指導要領の改訂による授業改善)
- 第6回:総合的な学習の時間における課題と解決方法
- 第7回:総合的な学習の時間における指導方法(対話的な授業を中心として)
- 第8回:総合的な学習の時間における効果的な学習形態
- 第9回:総合的な学習の時間の指導と評価
- 第10回:総合的な学習の時間の指導計画
- 第11回:総合的な学習の時間の指導計画作成・1(全体計画)
- 第12回:総合的な学習の時間の指導計画作成・2(単元指導計画)
- 第13回:総合的な学習の時間の授業の実際・1(「思考力」育成の実践事例)
- 第14回:総合的な学習の時間の授業の実際・2(VTRの視聴)
- 第15回:総合的な学習の時間の課題と展望(まとめ)

**使用テキスト:** ・打越正貴『主体的な学びを育む思考指導の理論と実践』(青簡社、2021年)  
ISBN:978-4-909181-29-9

・打越正貴、宮本浩紀『イメージからことばをひきだす「色と形」の授業づくりアイデア』(株式会社 ネットパブ・オーサーズプレス、2022年)ISBN:978-4-600-01106-2

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・前回及び今回の授業内容について、テキスト、レジュメなどで確認し、その回の授業テーマのわからない用語を調べる。  
・授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めるようにする。参考資料は、次の2点を推薦する。  
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東洋館出版、2018)。  
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東山書房、2018)。  
・授業外学習に要する時間は90分を目安とする。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 連絡は、IC-Mail を活用ください。

**留意事項:** ・授業において、課題レポートがあるので、期日厳守で必ず提出してください。

**科目コード:** 13560      **科目ナンバリング:** PE10C12E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 書写 a(Calligraphy a)

**担当者:** 津村 幸恵

**基本情報**

**年次:** カリキュラム      **単位数:** 1      **授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜4限      **履修可能学科・専攻:** E Pe

**関連資格:** 教職      **AL要素:** 03実技  
16提出課題と応答

**授業の概要:** 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容・その体系について、および小学校における書写の指導法・評価法について理解し、小学校において指導できる能力を身につけることが出来るよう、講義と演習を交えて指導していく。

**キーワード:** 小学校国語、書写、小学校学習指導要領、指導

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 授業で解説および実践した内容について、概ね80%の理解と定着が見られる。

**評価方法:** 授業ごとに提出する課題

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学修した内容に基づいて、自身の知見、発想を広め、方法を考察して書写の指導を行うことが出来る。

**評価方法:** (上記参照)

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について、授業前および授業中に理解と定着を深めるよう主体的に取り組み、授業後に適切な復習を行って定着させている。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中の発言や課題の記述等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や課題の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く内容が見られた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:小学校で学習する文字と書写指導の内容、平仮名と片仮名の書き方  
第2回:点画の名称、始筆・送筆・終筆、学年別漢字配当表について  
第3回:点画の書き方(接し方・方向・左右の払い)、毛筆の用具用材、板書の書き方  
第4回:点画の書き方(点・はね・曲がり・そり)、板書の書き方  
第5回:日常の書式と文字の配置、手書きの形と活字の形、板書の書き方  
第6回:漢字と仮名の調和、文字の配列と文字の大きさ・中心・外形、板書の書き方  
第7回:縦書きと横書き、筆順、板書の書き方  
第8回:書写の指導計画と評価および指導法の工夫と教材研究、文字文化

**使用テキスト:** テキストは用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前:毎回のテーマと主な内容の予告に従って、語句の意味や内容について調べるなどの準備をした上で授業に臨むこと。  
授業後:授業において配布された資料の内容を確認し保管すること。また、個別に指摘された事項について、知識や技能を身につけるように努めること。  
参考資料:小学校学習指導要領解説・国語編 文部科学省  
『きれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子著 ナツメ社 1836円

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 授業前後および授業がある曜日に教室等で対応します。

**留意事項:** 初回授業時にBまたは2Bの鉛筆を持ってくること。  
毎回、教材及び説明資料を配布する。配付資料を集めると小学校書写指導に関する教材とその指導法の基本資料集となるので、必ずきちんと保管すること。  
実技の際に使用する用具・用材は、授業時の予告に従って、各自で準備すること。

---

科目コード:13560

科目ナンバリング:PE10C12E

主な使用言語:日本語

---

授業名(英文): 書写 b(Calligraphy b)

担当者: 津村 幸恵

### 基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素:03実技

16提出課題と応答

**授業の概要:** 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容・その体系について、および小学校における書写の指導法・評価法について理解し、小学校において指導できる能力を身につけることが出来るよう、講義と演習を交えて指導していく。

**キーワード:** 小学校国語、書写、小学校学習指導要領、指導

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説および実践した内容について、概ね80%の理解と定着が見られる。

**評価方法:** 授業ごとに提出する課題

**評価割合:** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学修した内容に基づいて、自身の知見、発想を広め、方法を考察して書写の指導を行うことが出来る。

**評価方法:** (上記参照)

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について、授業前および授業中に理解と定着を深めるよう主体的に取り組み、授業後に適切な復習を行って定着させている。

**評価割合:** 10%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中の発言や課題の記述等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や課題の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く内容が見られた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:小学校で学習する文字と書写指導の内容、平仮名と片仮名の書き方  
第2回:点画の名称、始筆・送筆・終筆、学年別漢字配当表について  
第3回:点画の書き方(接し方・方向・左右の払い)、毛筆の用具用材、板書の書き方  
第4回:点画の書き方(点・はね・曲がり・そり)、板書の書き方  
第5回:日常の書式と文字の配置、手書きの形と活字の形、板書の書き方  
第6回:漢字と仮名の調和、文字の配列と文字の大きさ・中心・外形、板書の書き方  
第7回:縦書きと横書き、筆順、板書の書き方  
第8回:書写の指導計画と評価および指導法の工夫と教材研究、文字文化

**使用テキスト:** テキストは用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前:毎回のテーマと主な内容の予告に従って、語句の意味や内容について調べるなどの準備をした上で授業に臨むこと。

授業後:授業において配布された資料の内容を確認し保管すること。また、個別に指摘された事項について、知識や技能を身につけるように努めること。

参考資料:小学校学習指導要領解説・国語編 文部科学省

『きれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子著 ナツメ社 1836円

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 授業前後および授業がある曜日に教室等で対応します。

**留意事項:** 初回授業時にBまたは2Bの鉛筆を持ってくること。  
毎回、教材及び説明資料を配布する。配付資料を集めると小学校書写指導に関する教材とその指導法の基本資料集となるので、必ずきちんと保管すること。  
実技の際に使用する用具・用材は、授業時の予告に従って、各自で準備すること。

---

---

**科目コード:**13560      **科目ナンバリング:**PE10C12E      **主な使用言語:**日本語

**授業名(英文):**書写 c(Calligraphy c)

**担当者:**津村 幸恵

#### 基本情報

**年次:**カリキュラム

**単位数:**1

**授業形式:**演習

**曜時:**火曜3限

**履修可能学科・専攻:**E Pe

**関連資格:**教職

**AL要素:**03実技

16提出課題と応答

**授業の概要:** 小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容・その体系について、および小学校における書写の指導法・評価法について理解し、小学校において指導できる能力を身につけることが出来るよう、講義と演習を交えて指導していく。

**キーワード:** 小学校国語、書写、小学校学習指導要領、指導

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説および実践した内容について、概ね80%の理解と定着が見られる。

**評価方法:** 授業ごとに提出する課題

**評価割合:**60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学修した内容に基づいて、自身の知見、発想を広め、方法を考察して書写の指導を行うことが出来る。

**評価方法:**(上記参照)

**評価割合:**30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について、授業前および授業中に理解と定着を深めるよう主体的に取り組み、授業後に適切な復習を行って定着させている。

**評価割合:**10%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中の発言や課題の記述等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:**0%



### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や課題の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く内容が見られた場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回：小学校で学習する文字と書写指導の内容、平仮名と片仮名の書き方  
第2回：点画の名称、始筆・送筆・終筆、学年別漢字配当表について  
第3回：点画の書き方(接し方・方向・左右の払い)、毛筆の用具用材、板書の書き方  
第4回：点画の書き方(点・はね・曲がり・そり)、板書の書き方  
第5回：日常の書式と文字の配置、手書きの形と活字の形、板書の書き方  
第6回：漢字と仮名の調和、文字の配列と文字の大きさ・中心・外形、板書の書き方  
第7回：縦書きと横書き、筆順、板書の書き方  
第8回：書写の指導計画と評価および指導法の工夫と教材研究、文字文化

**使用テキスト：** テキストは用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前：毎回のテーマと主な内容の予告に従って、語句の意味や内容について調べるなどの準備をした上で授業に臨むこと。  
授業後：授業において配布された資料の内容を確認し保管すること。また、個別に指摘された事項について、知識や技能を身につけるように努めること。  
参考資料：小学校学習指導要領解説・国語編 文部科学省  
『きれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子著 ナツメ社 1836円

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 授業前後および授業がある曜日に教室等で対応します。

**留意事項：** 初回授業時にBまたは2Bの鉛筆を持ってくること。  
毎回、教材及び説明資料を配布する。配付資料を集めると小学校書写指導に関する教材とその指導法の基本資料集となるので、必ずきちんと保管すること。  
実技の際に使用する用具・用材は、授業時の予告に従って、各自で準備すること。

---

科目コード：13561

科目ナンバリング：PE20C23K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：外国語(英語)教育法 a(Foreign Language (English) Teaching Methods a)

担当者：高島 英幸

#### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe

関連資格：教職

AL要素：07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答

#### 授業の概要：

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割や多様な学習・指導環境について理解する。
2. 児童期の第二言語習得の習得・学習過程の特徴について理解する。

3. 実践に必要な基本的な英語表現や指導技術を身に付ける。
4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。

小学校英語教育Ⅰ・Ⅱとの違いは、小学校で外国語教育に関わる教員として、理論的な知識を身につけ、英語力を高めることに加え、より高い指導力を獲得することに重点が置かれることである。

#### キーワード:

小・中学校学習指導要領、外国語活動・外国語科の目標と内容、課題解決型の授業、「差」に気が付くことによる文法指導、タスク・プロジェクト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 小学校英語の経緯や目標、内容を知り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型の授業内容とその指導法がどのようなものであるかがわかる。

**評価方法:** 課題

**評価割合:** 30%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する。

**評価方法:**

**評価割合:** 40%

授業での活動の観察

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する

**評価割合:** 30%

##### ▼ 実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

**評価割合:** 0%

##### ▼ その他

オンラインの授業の場合、締め切り日までに「授業の振り返り・課題」の提出がない場合には、欠席扱いとなります。

**評価割合:** オンラインの授業の場合、締め

#### 授業計画:

第1回: イントロダクション: 小・中・高等学校の連携と小学校の役割について

第2回: 児童期の第二言語習得理論研究(インプット、インタラクション、アウトプットとフィードバック)

第3回: クラスルームイングリッシュと英語による授業の扱い(発問・インタラクション)

- 第4回:「違い」を用いた文法指導; 課題解決型の授業内容の重要性
- 第5回: 児童の発達段階に応じた, 英語学習への動機づけを維持させる指導の工夫
- 第6回: フォニックス(音と文字の結びつき)と文字学習に関わる教材開発例
- 第7回: グループによる教材開発 ①
- 第8回: グループによる教材開発 ②
- 第9回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)①
- 第10回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)②
- 第11回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)③
- 第12回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)④
- 第13回: 予備日
- 第14回: 総括
- 第15回: 定期試験(予定)

**使用テキスト:**

高島英幸(編著). 2020.『タスク・プロジェクト型の英語授業』大修館書店. (ISBN: 978-4-469-24641-4).

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

<参考文献>

- 高島英幸 編著(2014).『児童が創る 課題解決型の外国語活動と英語教育の実践 - プロジェクト型言語活動のすべて』高陵社書店.
- 東野裕子・高島英幸 (2011)プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決型授業と評価』高陵社書店.
- 東野裕子・高島英幸(2007)小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店.
- 文部科学省(2018).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』開隆堂.

**障がいのある履修者への対応:**

可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:**

hinomine@nifty.com まで、メールで連絡してください。

**留意事項:**

各時間、授業前に何をするのかを把握し、授業に意欲的に参加する。  
日頃より、記事やニュースを読んだり、聞いたりして、小学校英語や教育事情に関心をもつ。

科目コード:13561      科目ナンバリング:PE20C23K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 外国語(英語)教育法 b(Foreign Language (English) Teaching Methods b)

担当者: 高島 英幸

**基本情報**

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe

関連資格:教職

AL要素: 07)発表, 08)協同学修, 11)討論, 16)振り返りと応答

**授業の概要:**

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割や多様な学習・指導環境について理解する。

2. 児童期の第二言語習得の習得・学習過程の特徴について理解する。
3. 実践に必要な基本的な英語表現や指導技術を身に付ける。
4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。

小学校英語教育Ⅰ・Ⅱとの違いは、小学校で外国語教育に関わる教員として、理論的な知識を身につけ、英語力を高めることに加え、より高い指導力を獲得することに重点が置かれることである。

#### キーワード：

小・中学校学習指導要領、外国語活動・外国語科の目標と内容、課題解決型の授業、「差」に気が付くことによる文法指導、タスク・プロジェクト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：**小学校英語の経緯や目標、内容を知り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型の授業内容とその指導法がどのようなものであるかがわかる。

**評価方法：**課題

**評価割合：**30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する。

**評価方法：**

**評価割合：**40%

授業での活動の観察

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

各時間の活動に対する意欲や振り返りから、学修に対する意欲を評価する

**評価割合：**30%

##### ▼実践的ボランティア

記録に残す評価とはしないが、積極的に児童と関わったり、周囲と協力していくことは大切な視点であるため、積極的な姿や経験がある場合には、授業の中で賞賛したり、紹介したりする。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

記録に残す評価とはしないが、教育活動をしていく中で、人権意識や公正な態度が重要であることを常に意識できるように配慮する。

**評価割合：**0%

##### ▼その他

オンラインの授業の場合、締め切り日までに「授業の振り返り・課題」の提出がない場合には、欠席扱いとなります。

**評価割合：**<br>オンラインの授業の場合、締め

#### 授業計画：

第1回：イントロダクション：小・中・高等学校の連携と小学校の役割について

第2回：児童期の第二言語習得理論研究（インプット、インタラクション、アウトプットとフィード

バック)

第3回: クラスルームイングリッシュと英語による授業の扱い(発問・インタラクション)

第4回: 「違い」を用いた文法指導; 課題解決型の授業内容の重要性

第5回: 児童の発達段階に応じた, 英語学習への動機づけを維持させる指導の工夫

第6回: フォニックス(音と文字の結びつき)と文字学習に関わる教材開発例

第7回: グループによる教材開発 ①

第8回: グループによる教材開発 ②

第9回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)①

第10回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)②

第11回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)③

第12回: 開発した教材の発表(マイクロティーチング)④

第13回: 予備日

第14回: 総括

第15回: 定期試験(予定)

#### 使用テキスト:

高島英幸(編著). 2020. 『タスク・プロジェクト型の英語授業』 大修館書店. (ISBN: 978-4-469-24641-4).

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 時間に何を学ばなければならないかを明確にしておくこと。テキストの授業と関連するところを読んでおく。

#### <参考文献>

高島英幸 編著(2014). 『児童が創る 課題解決型の外国語活動と英語教育の実践 - プロジェクト型言語活動のすべて』 高陵社書店.

東野裕子・高島英幸 (2011) プロジェクト型外国語活動の展開 児童が主体となる課題解決型授業と評価』 高陵社書店.

東野裕子・高島英幸(2007) 小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』 高陵社書店.

文部科学省(2018). 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』 開隆堂.

#### 障がいのある履修者への対応:

可能な限り対応します。学務課に連絡してください。

#### 授業時間外の連絡手段:

hinomine@nifty.com まで、メールで連絡してください。

#### 留意事項:

各時間, 授業前に何をやるのかを把握し, 授業に意欲的に参加する。

日頃より, 記事やニュースを読んだり, 聞いたりして, 小学校英語や教育事情に関心をもつ。

科目コード: 13562

科目ナンバリング: PE10C13K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 特別支援教育(Special Needs Education)

担当者: 椎木 久夫

#### 基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe

関連資格: 教職

AL要素: 16振り返り用紙と応答

#### 授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別な支援を必要とする児童を取り上げ, これまでの実務経験から得た学びと知見を活かし各障害の特性や学習の過程と支援の方法について理解を進める。さらに, 「個別の指導計画」や「通級による指

導」,「特別支援教育コーディネーター」など小中学校における特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え,障害はないが特別な教育的ニーズのある児童の学習上・生活上の困難と支援について理解を深める。

**キーワード:** 特別支援教育・発達障害・個別の指導計画・個別の教育支援計画・特別支援教育コーディネーター・自閉症スペクトラム障害(ASD)

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 小学校における特別支援教育制度の基礎的事柄を理解することにより,個別の教育的ニーズに対応するための基本的知識を身につける。

**評価方法:** 提出レポート **評価割合:** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 通常の学級に在籍している発達障害等により特別の支援を必要とする児童の特性と基礎的支援方法について理解する。

**評価方法:** 提出レポート **評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的評価対象としない。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 【第1回】本講座の達成目標と授業概要 インクルーシブ教育の理念について  
【第2回】小学校における特別支援教育について～通級による指導及び自立活動  
【第3回】「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」作成及び評価の実際  
【第4回】特別支援コーディネーター及び関係機関・家庭との連携  
【第5回】注意欠如多動性障害(ADHD)のある児童の理解と支援  
【第6回】自閉症スペクトラム障害(ASD)のある児童の理解と支援(1)自閉症・広汎性発達障害  
【第7回】自閉症スペクトラム障害(ASD)のある児童の理解と支援(2)アスペルガー症候群  
【第8回】情緒障害や言語障害のある児童の理解と支援  
【第9回】限局性学習障害(LD)のある児童生徒の理解と支援  
【第10回】軽度知的障害のある児童の理解と支援  
【第11回】病弱児の理解と支援及び二次障害(心身症・不登校)を示した児童への対応  
【第12回】感覚障害(視覚障害・聴覚障害)のある児童の理解と支援  
【第13回】運動障害(肢体不自由・発達性強調運動障害)のある児童の理解と支援  
【第14回】母国語や貧困の問題に伴う特別な教育的ニーズのある児童への支援  
【第15回】まとめ  
定期試験

**使用テキスト:** 特に使用しない。関連する資料を印刷・配布する。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： ・次回授業に関する課題の事前調査レポート  
(参考資料)  
1 小学校学習指導要領(文部科学省 平成29年3月)  
2 湯浅恭正(編)「よくわかる特別支援教育」 ミネルバ書房

障がいのある  
履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： メール及び研究室において対応する。

留意事項： 特になし

---

科目コード：13563      科目ナンバリング：PE30C09E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 幼児理解(Understanding Preschoolers)

担当者： 菊地 知子

#### 基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻： Pe

関連資格：教職

AL要素： 11.討論

16. 振り返り用紙と回答

#### 授業の概要：

幼児の生活する姿から幼児の内的世界を理解し、幼児の持っている活動的、創造的な特性を生かし、幼児とともに歩むことが幼稚園教育では重要な事柄である。そのためには幼児理解が出発点となる。授業の前半では、幼児理解の基本についての考え方や基礎的態度を学ぶ。後半では、幼児理解の方法について具体的に学ぶ。事例の検討やロールプレイ体験を通して、実践的な力の習得を目指す。

キーワード： 幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標： 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。  
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合：60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法： 授業内課題・学期末レポート

評価割合：40%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から

得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回:オリエンテーション 現代社会における子育ての諸課題と幼稚園教育の役割  
第2回:幼稚園教育における幼児理解の意義と保育者の基本的姿勢  
第3回:幼児理解の意義と保育者の役割(1)未来につながる今を支える視点  
第4回:幼児理解の意義と保育者の役割(2)集団と個をどう捉えるか  
第5回:幼児理解の意義と保育者の役割(3)3歳児事例研究  
第6回:幼児理解の意義と保育者の役割(4)4歳児事例研究  
第7回:幼児理解の意義と保育者の役割(5)5歳児事例研究  
第8回:幼児理解と保育者の自己理解およびネットワーク

**使用テキスト：** どの子にも あ～楽しかった！の毎日を  
～発達の視点と保育の手立てをむすぶ～ ひとなる書房

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。  
・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)課題の提出を怠らないこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。

**授業時間外の連絡手段：** 出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

**留意事項：** なし

---

科目コード：13564      科目ナンバリング：PE30C10E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育相談(Educational Counseling)

担当者：中島 美那子

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：08.共同学修 11.討論  
16.振り返り用紙と応答  
17.発問と回答

**授業の概要：** 幼児期の発達に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義や理論、技法を含む)を習得します。そのため授業前半はおもに教育相談の意義、幼児期の発達の特徴、保護者の心理について学び、後半では不適応や問題行動に対する教育相談のあり方や保護者への教育相談、関係機関との連携について実践的に学びます。

**キーワード：** 教育相談、カウンセリング、保護者支援、多職種連携、虐待対応、マルトリートメント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標：** 1. 保育・教育施設における教育相談の意義について説明することができる。



2. 保育・教育施設における教育相談の課題について理解している。
3. 教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

**評価方法:** 振り返りシート、学期末筆記試験

**評価割合:** 40%

#### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 幼児期に起こる行動問題を理解し、その対応について考えることができる。
  2. 保護者や関係機関との連携について状況に応じた対応を示すことができる。
  3. 保護者に対する教育相談の実際について理解している。

**評価方法:** 振り返りシート、学期末筆記試験

**評価割合:** 60%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。しかし、主体的な取り組みによると思われる気づきや理解の深まりが振り返りシートや定期筆記試験の中に認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等がレポートや学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、レポートや学期末筆記試験で子どもの人権侵害や差別的発言等が見られた時には減点の対象とする。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 幼児期における教育相談の意義
  - 第2回 幼児期における教育相談の課題
  - 第3回 幼児期の発達をとらえる視点
  - 第4回 発達上の行動問題
  - 第5回 保護者への教育相談、機関との連携
  - 第6回 教育相談の技法
  - 第7回 園内体制と教育相談の目標・方針
  - 第8回 教育相談の実際
- 定期試験

**使用テキスト:** 授業で使用する資料は、印刷したものを配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前学修として、現代社会における子どもの育つ環境、子どもの特性、さらには子どもを取り巻く今日的課題について書籍やメディアなどを通して理解を深めておいてください。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは授業担当に相談してください。事前の相談も受け付けます。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。

**留意事項:** 特になし。

---

**科目コード:** 13565

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 保育内容総論(Fundamentals of Nursery Care)

**担当者:** 菊地 知子

---

## 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：Pe

関連資格：教職

AL要素：11.討論

16振り返り用紙と回答

授業の概要：〔特例中の授業形態〕課題研究型

幼稚園教育では、環境を通して行う教育の考え方や幼児理解に始まる保育の展開について理解を深めた上で、各領域のねらいや内容を理解し、子どもの具体的な姿から保育を構想することが大切です。保育内容の変遷を学び、子どもの発達に応じた保育を考え、保育者の専門性について省察していきます。

キーワード：幼稚園教育の基本、幼児理解と評価、遊びを通しての総合的な指導、記録の重要性、小学校教育への円滑な接続

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

到達目標：1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。  
2)保育記録や文献購読により事例検討と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

評価方法：授業内課題・学期末レポート

評価割合：60%

### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の認識、動き等を予想し、保育を構想し、情報機器及び教材を活用し、指導案を作成することができる。

評価方法：授業内課題・学期末レポート

評価割合：40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

しかし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、学期末試験の記述内容に認められた場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。しかし、ボランティアの活動等の実践から得られた知見が学期末試験の記述内容に表れている場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：幼児教育の基本と保育内容  
第2回：保育内容総論の基本  
第3回：子どもの育ちと保育内容のつながり  
第4回：遊びを通しての総合的な指導  
第5回：環境を生かした保育方法（保育室の環境構成、園庭の環境構成）

- 第6回:保育内容の変遷
- 第7回:乳児期(0, 1, 2歳児)の特性と保育内容:総合的なとらえ方
- 第8回:幼児期(3, 4, 5歳児)の特性と保育内容
- 第9回:子どもの育ちと学びの可視化
- 第10回:保育内容の多様性
- 第11回:障がいのある子どもの指導 インクルージョンの実現に向けて
- 第12回:多様な保育ニーズの取り組みと課題
- 第13回:世界の保育内容から学ぶ記録の重要性
- 第14回:世界の保育内容から学ぶ保育者の専門性
- 第15回:小学校教育との連携・接続

**使用テキスト:** 子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論 北大路書房

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・授業前には、その回のテーマを確認し、わからない用語は調べる。  
 ・授業後には、教科書について復習すると共に、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。(90分)課題の提出を怠らないこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。

**授業時間外の連絡手段:** 出校日の昼休みに対応します。初回の授業時に詳しく説明します。

**留意事項:** なし

**科目コード:** 13566      **科目ナンバリング:** PE20A01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育基礎演習B(Education Basic Seminar B)

**担当者:** 三橋 翔太

**基本情報**

<b>年次:</b> 2	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 演習
<b>曜時:</b> 金曜2限		<b>履修可能学科・専攻:</b> Pe
<b>関連資格:</b>		<b>AL要素:</b> 07 発表 08 協同学修 10 資料調査課題 11 討論 17 発問と回答

**授業の概要:** 児童教育に関係する研究領域に関して、その内容と方法をについて演習形式で学ぶことを目的とする。また全ての研究分野で必要となるライティングスキルについても演習形式で身に付ける。

**キーワード:** 研究内容・研究法・ライティングスキル

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** (1) 児童教育に関連する研究内容について説明することができる。  
 (2) 児童教育に関連する研究に関して、様々な方法があることを理解し、どのように用いるのか理解することができる。

**評価方法:** 毎時課題      **評価割合:** 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** (1) 学術的成果物をまとめ、それらを適切な文章で表現することができる。  
 (2) 学術的成果物の要点をまとめ、従来の知見を整理することができる。

**評価方法:** 最終レポート      **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、盗作・剽窃・カンニング等の不正行為、誹謗中傷や差別発言等の  
人権侵害、その他いじりしく公正性を欠く言動が認められた場合は、失格または減点の対象とする。(こ  
の授業の評価とは別に、学則に基づく懲戒処分の対象ともなりうるので注意すること)

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：イントロダクション  
第2回：児童教育に関連する研究内容・手法  
第3回：研究実践の紹介① ゼミでの活動の紹介を通して  
第4回：研究実践の紹介② ゼミでの活動の紹介を通して  
第5回：研究実践の紹介③ ゼミでの活動内容の紹介を通して  
第6回：研究実践の紹介④ ゼミでの活動の紹介を通して  
第7回：研究実践の紹介⑤ ゼミでの活動の紹介を通して  
第8回：研究実践の紹介⑥ ゼミでの活動の紹介を通して  
第9回：研究実践の紹介⑦ ゼミでの活動の紹介を通して  
第10回：研究実践の紹介⑧ ゼミでの活動の紹介を通して  
第11回：研究実践に向けて① ー文献の収集・論文の構成ー  
第12回：研究実践に向けて② ーテキストの読み方ー  
第13回：研究実践に向けて③ ーテキストのまとめ方ー  
第14回：先行研究をまとめてみる①  
第15回：先行研究をまとめてみる②

使用テキスト： 事前購入を要するテキストなし  
授業において随時指示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： (1)授業前には、その回のテーマに関わる未知の用語や概念を調べる。  
(2)授業後には、配付資料等に基づいて復習するとともに、関連事項について自己学修を通  
じ知見を深めることが望ましい。  
(3)予習・復習・自己学修において推奨する参考文献・資料等は授業中に提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学科のアドバイザー教員または学務部に相談して下  
さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：13567      科目ナンバリング：PE20C31E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 野外活動(Outdoor Activities)

担当者： 天野 秀哉

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

**関連資格：**教職 社教

**AL要素：**03 実験・実技・体験  
07 発表  
08 実地調査

**授業の概要：** 野外活動の理論学習と実技学習を通して、野外教育の領域や学問としての理解を深める。授業内にて、オリエンテーリングとハイキング活動を体験し、実習の計画立案や運営に携わりながら、教員として必要となる基礎的な知識と技術、能力を身につける。

**キーワード：** 野外教育 体験学習 グループワーク コミュニケーションワーク

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：**・野外活動に関わる内容の企画・運営に必要な知識を獲得し、教材としての理解を深める。  
・野外活動を通して、小学校を対象とした野外教育の考え方や教員として必要な知識と技術、能力を身につける。

**評価方法：** 授業内レポート

**評価割合：**30%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業内で扱った、野外活動や野外教育についての知識を、実践場面(実習場面など)にて還元できる思考力を身に付ける。

**評価方法：** 実習報告書

**評価割合：**30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

オリエンテーリングやハイキングといった実践授業において、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業内レポートにより認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**20%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

##### ▼ 公正性

オリエンテーリングやハイキングといった実践授業において、安全管理活動を欠く行動が見られた場合は減点や厳重注意の対象とすることがある。

また、授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

**評価割合：**20%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合：**特になし

**授業計画：** 第1回:授業概要の説明(授業オリエンテーション)  
第2回:野外活動と野外教育 領域の定義とその理解  
第3回:現代社会と野外教育の関わり  
第4回:コミュニケーションワーク アイスブレイキングの実践  
第5回:グループワーク 役割分担と責任  
第6回:地図の読み方とコンパスワーク  
第7回:学内オリエンテーリングの実践①  
第8回:学内オリエンテーリングの実践②  
第9回:ハイキング体験準備 企画・運営・参加に必要なこと

第10回～第14回:ハイキング体験(学外実習)  
第15回:反省と課題 報告書の作成 本授業のまとめ

※第7・8回は、学内にてオリエンテーリングを実施(集中授業)  
※第10回～第14回は、学外(風神山・高鈴山)へのハイキングを実施(集中授業)

**使用テキスト:** 「野外活動 その考え方と実際」 日本野外教育研究会編 杏林書院  
「自然体験活動の報告書・レポート・論文のまとめ方 学校教育の実践報告から大学生の卒業論文まで」日本野外教育研究会編 杏林書院

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料は、授業内で配布する。配布資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。  
教科書以外の野外活動に関する書籍を事前に探し、目を通しておくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部に連絡してください。

**留意事項:** 定員20名を限度とする。定員を超過場合は抽選とする。また、授業の特性上(学内・学外実習にてグループワークを行う都合上)、受講希望者が10名未満の場合は開講できないことがある。

第1回授業時に、詳細な授業概要の説明を行いますので、必ず説明を聞いてから履修をするかどうかを決めて下さい。

ハイキングを実施するにあたり、必要装備品(トレッキングシューズ・レインスーツ他)の購入が必要になります。